

目次

環境関連施策の実施状況	1
第1章 分野別施策の実施状況	
第1節 快適で良好な生活環境のまちづくり	2
第2節 市民がふれあう自然共生のまちづくり	9
第3節 資源を活かす循環のまちづくり	15
第4節 未来につなぐ低炭素のまちづくり	22
第2章 分野横断型施策の実施状況	
第1節 環境の保全・創造に向けた人づくり・地域づくり	27
第2節 環境の保全・創造に向けたしくみづくり	31
第3節 ふくおかから九州・アジアへ	36
第3章 計画の推進	38
その他	
1. 環境関連法令一覧等	40
2. 環境基準等	48
3. 環境関連発行物	67
4. 環境局の概要	70
5. 環境局事業年表	91
6. 用語集	139

**令和3年度版 ふくおかの環境
(資料編)**

環境関連施策の実施状況

第1項 黄砂・PM2.5などの大気汚染物質への対応

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
黄砂・PM2.5対策の推進	黄砂飛来・PM2.5予測情報の発信	黄砂及びPM2.5の予測に関する情報を市ホームページや防災メール等で発信するとともに「福岡市PM2.5・黄砂影響検討委員会」を活用して、予測情報の精度向上や市民にわかりやすい情報提供を目指して取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> 黄砂飛来の予測情報を防災メール等で提供：21回 PM2.5予測情報を防災メール等で提供：4回 	環境局	環境保全課
	PM2.5等の常時監視と情報の提供	大気汚染防止法に基づき大気の汚染状況を把握するために、市内に設置した自動測定機により24時間常時監視を行っています。また、収集したデータは関係機関に提供するとともに、市ホームページやオープンデータサイト、PM2.5ダイヤルなどの多様な媒体で情報提供しています。	<ul style="list-style-type: none"> 市内9か所(市役所、吉塚、長尾、香椎、元岡、千鳥橋、西新、大橋、石丸)にて、PM2.5の常時監視を実施、併せて、浮遊粒子状物質等の常時監視もを行い、大気汚染状況を把握 PM2.5ダイヤルにて情報提供を実施(R2年度着信件数：11,962件) 	環境局	環境保全課
	黄砂・PM2.5に関する正しい知識の普及・啓発	黄砂・PM2.5に関して、市政だよりや市ホームページへの情報掲載・出前講座等を活用して、正しい知識の普及・啓発を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 市政だよりや市ホームページによる情報提供を実施 「熱中症予防&福岡市の大気」パネル展を開催(R2.7.7～R2.7.13) 	環境局	環境保全課
黄砂・大気汚染物質予測、警報システムの運用	黄砂飛来・PM2.5予測情報の発信(再掲)	第1章第1節第1項に掲載	—	環境局	環境保全課
黄砂発生対策の研究	研究機関等との連携による新たな知見等の収集	大学や国・県の研究機関等との連携による、広域的・新たな環境問題に関する科学的知見の収集、現状把握の充実に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> 国立環境研究所及びその他の地方環境研究所との共同研究 光化学オキシダントおよびPM2.5汚染の地域的・気象的要因の解明 	環境局	環境科学課 環境保全課
大気汚染物質発生源対策の推進	研究機関等との連携による新たな知見等の収集(再掲)	第1章第1節第1項に掲載	—	環境局	環境科学課 環境保全課
	黄砂・PM2.5等の発生源対策を支援するための取組	黄砂・PM2.5等の常時監視や成分分析等のデータ解析を実施し、広域大気汚染の状況を把握します。	<ul style="list-style-type: none"> 大気環境測定局(微小粒子状物質)：9測定局 PM2.5成分分析を実施：160検体 	環境局	環境保全課 環境科学課
	黄砂・PM2.5等高濃度事例の解析	黄砂・PM2.5等の高濃度事例のデータ解析を行い、高濃度となった原因について推定します。	PM2.5高濃度事例についてデータ解析を実施	環境局	環境保全課 環境科学課
大気汚染に関する調査・研究	研究機関等との連携による新たな知見等の収集(再掲)	第1章第1節第1項に掲載	—	環境局	環境科学課 環境保全課
	黄砂・PM2.5等の発生源対策を支援するための取組(再掲)	第1章第1節第1項に掲載	—	環境局	環境科学課 環境保全課
	黄砂・PM2.5等高濃度事例の解析(再掲)	第1章第1節第1項に掲載	—	環境局	環境保全課 環境科学課

第2項 良好な生活環境の保全

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
大気汚染物質発生源対策の推進	工場・事業場の監視・指導(大気汚染防止法等)	「大気汚染防止法」、「ダイオキシン類対策特別措置法」、「福岡県公害防止等生活環境の保全に関する条例」に基づき、ばい煙発生施設等の届出審査・指導や既存施設に対する監視・指導を行っています。 また、ばい煙発生施設で使用する燃料については、福岡市における酸化物対策指導要綱に基づき、良質燃料(硫黄含有率:0.5W/V%以下)の使用を指導しています。	・大気汚染防止法 設置届出件数:17件 立入件数:6件 ・ダイオキシン類対策特別措置法 立入件数:3件 ・福岡県公害防止等生活環境の保全に関する条例 設置届出件数:1件	環境局	環境保全課
		市民からの苦情については、迅速な現地調査を行い、必要に応じて法や条例に基づく測定を行うなど適正な対応を行います。	・大気汚染に係る苦情:62件	環境局 各区	環境保全課 生活環境課
監視体制の拡充	大気の大気常時監視	大気汚染防止法に基づき大気の大気汚染状況を把握するために、市内に設置した大気環境測定局の自動測定機により24時間連続的に監視を行います。データは環境監視システムで収集管理し、関係機関に提供するとともに、環境局のホームページ等により市民へ情報提供しています。	・一般環境大気測定局:8局 ・自動車排出ガス測定局:8局 ・測定項目 二酸化硫黄:4測定局 窒素酸化物:16測定局 一酸化炭素:1測定局 光化学オキシダント:9測定局 浮遊粒子状物質:16測定局 微小粒子状物質:9測定局 炭化水素:4測定局 風向風速:9測定局 日射量・温湿度:1測定局	環境局	環境保全課
アスベスト対策	特定粉じん(アスベスト)の飛散防止	アスベスト排出作業を伴う解体工事等を行う場合は、大気汚染防止法により発注者に届出義務が課せられています。届出があった工事等については立入検査を行い、飛散防止に努めています。	・排出作業届出件数:134件 ・立入件数:99件 ・特定粉じん排出作業時の測定件数:65件 ・一般環境測定件数:5地域10地点	環境局	環境保全課
	「福岡市アスベスト対策推進プラン(第二次)」の推進	福岡市のアスベスト対策の基本方針となる「福岡市アスベスト対策推進プラン(第二次)」に基づき、関係局が連携して建築物のアスベスト除去推進、解体工事等からの飛散防止、情報の一元化、災害時のアスベスト飛散・ばく露防止などの施策を推進しています。	・福岡市環境保全プロジェクト推進本部アスベスト対策調整会議開催(7月) ・幹事会開催(6月、2月) ・プランの進捗状況公表(8月)	環境局 財政局 子ども未来局 保健福祉局 住宅都市局 教育委員会	環境保全課 産業廃棄物指導課 環境科学課 7セクタリメント推進課 技術監理課 総務企画課 生活衛生課 保健予防課 建築指導課 住宅建設課 施設課
有害大気汚染物質対策	有害大気汚染物質の調査	継続的に摂取される場合には人の健康を損なうおそれがある有害大気汚染物質の中で、健康リスクがある程度高いと考えられている優先取組物質の調査を行っています。	・優先取組物質22物質について、市内4地点で年12回測定を実施	環境局	環境保全課
悪臭対策	工場・事業場の監視・指導(悪臭防止法)	悪臭防止法に基づき、監視・指導を行っています。また、多様な悪臭苦情に対応するため「福岡市悪臭対策指導要綱」を策定し、嗅覚測定法により発生源を指導しています。	・立入事業場数:6事業場 ・延べ立入件数:8件 ・特定悪臭物質測定件数:2件	環境局	環境保全課
		市民からの苦情については、迅速な現地調査を行い、必要に応じて法や要綱に基づく測定を行うなど適正な対応を行います。	・苦情件数:78件	環境局 各区	環境保全課 生活環境課
騒音・振動対策	騒音・振動の監視	騒音規制法や振動規制法などに基づき自動車交通・航空機・新幹線・在来鉄道の騒音と振動の調査を行っています。 <計画目標等> 調査対象に定められた環境基準値や指針値等との比較を行い、環境基準等の達成状況を把握する。	①騒音調査 ・自動車騒音は51地点で測定を実施し、沿道住居等の騒音値を推計・評価 ・航空機騒音は7地点で測定を実施 ・鉄道騒音は新幹線鉄道騒音6地域11地点、在来鉄道騒音3地域で測定を実施 ②振動調査 ・道路交通振動について11地点で測定を実施 ・新幹線鉄道振動6地域6地点、在来鉄道振動3地域で測定を実施	環境局	環境保全課
	工場・事業場及び特定建設作業の監視・指導(騒音・振動規制法等)	「騒音規制法」、「振動規制法」、「福岡県公害防止等生活環境の保全に関する条例」に基づき、各種届出の受理審査、監視・指導を実施しています。	① 特定工場等 ・騒音規制法 立入件数:7件 改善指導件数:2件 ・振動規制法 立入件数:3件 改善指導件数:0件 ・県条例 立入件数:1件 改善指導件数:1件 ② 特定建設作業 ・騒音規制法 立入件数:43件 改善指導件数:24件 ・振動規制法 立入件数:12件 改善指導件数:8件	環境局 各区	環境保全課 生活環境課
	低騒音(排水性)舗装の実施	道路交通騒音の低減を図るために、幹線道路を中心に車道部に低騒音(排水性)舗装の整備などを行っています。	・低騒音(排水性)舗装:71,061㎡	道路下水道局	道路計画課

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度 実績	局・区	課
	航空機騒音の防止対策事業	航空機騒音により生じる障害防止・軽減のため、以下の事業を行っています。 *民家防音工事等の助成 *集会施設防音改善等の助成 *学校、共同利用施設等での騒音防止対策事業 *航空機騒音の調査 <計画目標等> 騒音対策等の環境対策事業を推進し、空港と周辺地域の調和ある発展をめざしたまちづくりを進める。	・民家防音工事 新設 : 1件 告示日後 : 1件 ・更新工事① : 28台 ・更新工事② (告示日後) : 6台 ・更新工事③ : 36台 ・更新工事④ (告示日後) : 2台 ・更新工事⑤ : 4台 ・集会施設空調機器機能回復工事等の助成 : 3館 ・騒音測定 : 6地点 (年1回)	港湾空港局	空港対策課
公共用水域の保全	公共用水域の常時監視	水質汚濁防止法に基づく公共用水域の水質や底質等の状況を把握するため、市内の河川と博多湾において調査を行います。 また、市内の主要な海水浴場の水質について調査を行います。 <計画目標等> 調査項目において環境基準値や指針値等との比較を行い、環境基準等の達成状況を把握する。	・市内21河川 (環境基準点19地点と補助地点12地点) 及び博多湾3海域 (環境基準点8地点と補助地点3地点) について生活環境項目、健康項目、要監視項目の調査を実施 ・河川と博多湾の底質についても調査を実施 ・海水浴場5ヶ所について遊泳期間前と遊泳期間中に調査を実施	環境局	環境保全課
	工場・事業場の監視・指導 (水質汚濁防止法等)	水質汚濁防止法等に基づき、特定事業場の排水規制を行うとともに、各種届出の受理審査、監視・指導を行っています。 市民からの苦情については、迅速な現地調査を行い、必要に応じて法や条例に基づく測定を行うなど適正な対応を行います。	・立入件数 文書等検査 : 20事業場 (21件) 水質検査 : 22事業場 (30検体)	環境局	環境保全課
	市街地、河川、海水域、海浜地等の清掃	道路や側溝、河川や海浜等の清掃を実施し、降雨時に河川や博多湾などの公共用水域に流入する汚濁量の低減を図るとともに、海浜地の保全に努めています。 道路では市内の主要幹線道路を中心に道路清掃車 (ロードスイーパー)・散水車・ダンプ車の3台1セットによる清掃を実施し、また、機械清掃が困難な繁華街や清掃工場周辺の道路では人力による清掃を実施しています。 河川では、本市中心部を流れる那珂川、御笠川、博多川の3河川で、毎月19日間清掃船による浮遊ごみ等の清掃を実施しています。 また、博多湾では、主に清掃船等により、海面や海底の清掃を実施しています。さらに、市内15の海浜地でも、ごみや海草を除去しています。 <計画目標等> 環境保全及び都市美化の観点から、道路や側溝、河川や海浜等の清掃を実施する。	・ロードスイーパー車などによる道路清掃 : 805トン ・河川における清掃船によるごみの回収量 : 60トン ・ロードスイーパー車などによる臨港道路や岸壁等の清掃 : 233トン ・清掃船等による博多湾の海面清掃 : 43トン (機械 : 40トン、人力 : 3トン) ・清掃船等による博多湾の海底清掃 : 1.9トン ・海浜地清掃 : 429トン	環境局 港湾空港局 各区	収集管理課 維持課 生活環境課
地下水の保全	地下水の保全	地下水の汚染状況の把握のため概況調査を行い、概況調査で汚染が判明した場合は周辺地区調査や継続監視調査を実施して詳細の把握や人為的汚染等の原因究明に努めます。 <計画目標等> 環境基準値との比較を行い、環境基準等の達成状況を把握する。	・概況調査 : 16地区 (16井戸) ・継続監視調査 : 14地区 (25井戸)	環境局	環境保全課
	工場・事業場の監視・指導 (水質汚濁防止法等) (再掲)	第1章第1節第2項に掲載	-	環境局	環境保全課
土壌汚染対策	土壌汚染対策	「土壌汚染対策法」に基づき、土壌の特定有害物質による汚染状況の把握及びその汚染による健康被害防止の措置等により、健康保護を目的とした土壌汚染対策を行っています。	・法に基づく届出等の受理及び審査、指導の実施 法4条届出 : 86件	環境局	環境保全課
	工場・事業場の監視・指導 (水質汚濁防止法等) (再掲)	第1章第1節第2項に掲載	-	環境局	環境保全課
有害化学物質に関する調査研究と情報提供の充実	ダイオキシン類等の有害化学物質の調査	一般環境中 (大気、公共用水域水質・底質、地下水、土壌) のダイオキシン類を「ダイオキシン類対策特別措置法」に基づき調査を行っています。 <計画目標等> 調査対象に定められた、環境基準値との比較を行い、環境基準等の達成状況を把握する。	調査実施地点数 ・大気 : 7地点 (年2回) ・公共用水域の水底質 : 14地点 (年1回) 博多湾 : 3地点、河川 : 11地点 ・地下水 : 4地点 (年1回) ・土壌 : 3地点 (年1回)	環境局	環境保全課
	有害大気汚染物質の調査 (再掲)	第1章第1節第2項に掲載	-	環境局	環境保全課
	化学物質についての正しい知識の普及・啓発	身の回りの化学物質について、正しい知識を身につけるための情報提供を実施しています。	・ホームページに掲載 ・出前講座 講座内容 : 暮らしと化学物質	環境局	環境保全課
	室内ホルムアルデヒド簡易測定器の貸し出し	「シックハウス症候群」の原因物質の1つであるホルムアルデヒドの簡易測定器を貸し出し、対策をアドバイスしています。	・貸し出し件数 : 9件/年	市民局	消費生活センター
PRTR(化学物質の排出移動量登録) 制度	PRTR制度	「PRTR法」に基づく対象事業者からの対象特定化学物質の排出量・移動量等の1年分の把握データの届出を受け、集計・公表を行うことで、特定化学物質の管理を行っています。	・届出数 : 201事業場	環境局	環境保全課
外来生物による被害の防止	自然環境調査	自然環境の保全を図るための基礎資料とともに、市民への啓発に資するため、自然環境の現状及び貴重種動植物や外来生物等の生息状況調査を実施しています。	・市域の昆虫及び外来生物の生息状況調査を実施 鳥類 : 239種確認、うち2種が特定外来生物 特定外来生物アライグマ : 38頭捕獲	環境局	環境調整課

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
健康・環境に係る危機管理	健康被害の原因究明及び拡大防止	食中毒・感染症など保健衛生や大気汚染・博多湾の水質など環境に関する試験検査・調査研究等を行い、健康・環境に係る危機管理等への機能を強化します。	① 試験・検査 <ul style="list-style-type: none"> ・水質に係る検査：396検体 ・大気に係る検査：348検体 ・食中毒・苦情検査：217検体 ・感染症法に基づく検査：48,635検体 ② 調査・研究 <ul style="list-style-type: none"> ・沿岸海域における新水質環境基準としての底層溶存酸素（貧酸素水塊）と気候変動の及ぼす影響把握に関する研究（共同研究） ・災害時等の緊急調査を想定したGC/MSによる化学物質の網羅的簡易迅速測定法の開発（共同研究） ・食品及びヒトから分離したCampylobacter jejuni/coliの疫学的解析 ・輸入食品中の指定外食品添加物一斉試験法の開発 ・健康危機管理のためのLC-Q/TOFMSを用いた植物性自然毒一斉分析法の開発 	環境局	環境科学課 保健科学課

第3項 気候変動への適応

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
浸水対策等の推進	公共下水道等の整備	生活系排水対策に、公共下水道・流域下水道及び農業・漁業集落排水処理施設の整備を推進しています。 ①下水道…人口普及率 99.7%を目標に下水道整備を推進 ②農業集落・漁業集落…生活環境改善、公共用水域汚濁防止のため、排水処理による環境整備を図っています。 <計画目標等> 下水道人口普及率：99.7% (福岡市下水道ビジョン2026における目標値)	①下水道 (R2年度末) ・下水道処理区域面積：17,164ha (約100ha増) ・下水道処理区域内人口：1,611,660人 (19,550人増) ・下水道人口普及率：99.7% ②農業集落・漁業集落 ・集落排水処理区域面積：104.6ha ・集落排水処理区域人口：3,298人 ・集落排水処理区域接続率：89.6% (R2年度末)	道路下水道局 農林水産局	下水道事業調整課 漁港課
	合流式下水道の改善	合流式下水道地域にて、雨の降り始めの汚濁負荷量が高い初期雨水を一時的に滞水池に貯留し、晴天時に処理場で処理することにより、公共用水域の水質保全を図っています。また、分流入による合流式下水道の改善の取組みは、博多駅周辺地区及び天神地区において、進めています。 <計画目標等> 公共用水域への汚濁負担削減	・浸透側溝による分流化事業の推進 R2年度事業実績：約2ha (R2年度末累計：約338ha)	道路下水道局	下水道事業調整課
	透水性舗装の実施	透水性舗装は降雨時の路面排水が速やかに水溜まりができず滑りにくくなることにより、歩行者が安全で快適な歩行空間を享受するのに有効だけでなく、表面排水の抑制や植生・地中生態の改善、地下水の涵養等の効果についても期待できることから、本市における歩道舗装は、原則として透水性のアスファルト舗装としています。	・透水性舗装：35,549㎡	道路下水道局	道路計画課
漏水対策の推進	五ヶ山ダム建設事業	異常漏水による影響を軽減することを目的に、漏水対策容量を持つ五ヶ山ダムの建設を推進しています。	・H28年度から開始していた試験湛水が完了し、諸手続きを経てR3年1月に供用開始。	水道局	計画課
森林病害虫等の被害対策の推進	松くい虫防除による住環境保全対策事業	海岸線一帯を中心とする防風林や都市緑地として貴重な松林を松くい虫による枯死から守るために、松くい虫防除等の徹底により枯死被害の沈静化を図り、住宅・農産物の保護や都市環境等市民の生活環境を保全します。	防除対策として、伐倒駆除・薬剤散布・樹幹注入を実施 ① 伐倒駆除：1,286本 (春期・秋期・冬期) 被害木を伐採し薬剤・破砕等処理を行うことにより、マツノガノミドリを駆除 ② 薬剤地上散布：98,38ha マツノガノミドリが羽化し飛立つ時期に、殺虫剤を散布することにより予防 ③ 樹幹注入：1,204本 樹幹に薬剤を注入し、マツノガノミドリの侵入を防ぎ枯死を予防	農林水産局	森林・林政課
ヒートアイランド対策の推進	ヒートアイランド対策	ヒートアイランド現象への対策として、緑化などの推進による地表面被覆の改善、省エネルギー対策の推進などによる人工排熱の低減を図るとともに啓発イベントに取り組んでいます。	・エリアマネジメント団体と協働で「打ち水」イベント ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止。	環境局	環境・エネルギー対策課
	緑のカーテンプロジェクト	夏の省エネ対策として「緑のカーテン」の取組みを普及・促進するため、広報・啓発を実施しています。	・市民に身近な各局及び区関連施設で実施 実施施設数：193施設 ・緑のカーテンコンテストを実施し、家庭・団体から「緑のカーテン」の取組み報告を募集し、優れた取組みについて表彰・紹介 応募件数：89件 ・初心者向け育て方の講座、緑のカーテンコンテスト受賞者による経験談を含めた緑のカーテン育て方講座 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止。	環境局	環境・エネルギー対策課
熱中症対策の推進	熱中症対策	市民へ注意喚起を促すため、防災メールやホームページを活用して暑さ指数の予測情報を提供します。また、その他啓発を実施することにより、熱中症の予防啓発に努めます。	・ホームページ「福岡市熱中症情報」に暑さ指数情報や熱中症による救急搬送者数を掲載 (R2.4.17～R2.10.30) ・防災メール・LINEによる暑さ指数情報を配信 (R2.4.24～R2.10.9) ・「熱中症予防」パネル展を開催 (R2.7.7～13 福岡市役所 1階多目的スペース) ・福岡市オリジナルの熱中症予防リーフレットやカード (温度計付) を作成し、情報プラザ等に配置 ・福岡市オリジナルの啓発のぼりを市庁舎、市関連施設及び運動施設等に設置：43施設 ・保健環境研究所にて暑さ指数を測定、来訪者向けに実測値に沿った具体的な予防行動を提示 ・出前講座「熱中症にご用心！」を実施：5回	環境局	環境保全課 環境科学課
	熱中症対策の推進	福岡市温暖化対策推進会議の下に福岡市熱中症対策部会を設置し、熱中症対策に関する庁内体制の強化を図るとともに、全庁を挙げて熱中症対策に取り組めます。	熱中症対策推進計画に基づき、高齢者・子ども・労働者・一般市民向けの施策を全庁を挙げて実施	環境局 市民局 こども未来局 保健福祉局 教育委員会 各区 消防局	環境保全課

第4項 歴史・景観を活かした美しいまちの実現

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
歴史的な文化を活かしたまちづくり	都市景観形成地区の指定	景観計画区域のうち、市を代表する地区や個性ある地区等、特に良好な景観の形成を図るべき地区を「都市景観形成地区」に指定し、指定された地区において定められた地区景観形成方針や同基準に沿って、地区の個性を活かした景観の保全・創出を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> 都市景観形成地区の指定 8地区指定 R1年度：1地区指定 景観協定の締結 3地区認可 H24年度：1地区認可 H30年度：1地区認可 R1年度：1地区認可 	住宅都市局	都市景観室
	歴史資源を活かした良好なまちなみ形成の推進	H28年3月に福岡市景観計画に御供所地区など5地区を「歴史・伝統ゾーン」に位置づけ、景観法に基づく建築等の行為の届出の機会を捉えた景観誘導を行っています。また、御供所地区都市景観形成地区においては、建物等の新築や増築等に係る修景整備に助成することにより、歴史資源と調和した良好なまちなみ形成の推進を図っています。	<ul style="list-style-type: none"> 「歴史・伝統ゾーン」における届出件数 H28年度：6件 H29年度：24件 H30年度：29件 R1年度：25件 R2年度：20件 民間建築物等修景助成事業 H28年度：1件 H29年度：1件 H30年度：1件 R1年度：実績なし R2年度：1件 	住宅都市局	都市景観室
	遺跡等の保存・整備	市内に所在する主要な遺跡等文化財の保存・整備を推進しています。 <計画目標等> 整備が必要な遺跡等について、順次整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 福岡城跡復元整備事業 鴻臚館整備・活用事業 	経済観光文化局	史跡整備活用課
	博物館	福岡市博物館は、郷土の歴史的特性を踏まえ、各時代の大陸との交流に焦点を絞り、福岡の歴史やくらしを展示することを基本テーマとしています。収蔵品は、古文書、絵画、工芸品といった歴史、美術、考古、民俗資料など福岡に関係の深いものを中心に収集しています。	<ul style="list-style-type: none"> R2年度観覧者数：129,151人 常設展：31,846人 特別展：97,305人 「PI X A Rのひみつ展」 「福岡市博物館開館30周年記念展 ぶくおかの名宝-城と人とまち-」 	経済観光文化局	博物館運営課
	埋蔵文化財センター	福岡市の埋蔵文化財の保存、修復、収蔵、展示を行い、あわせて一般市民を対象とした講座の開催や小中学校への出前授業などを通して、考古学に関する市民への学習機会の提供を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> 市民向け考古学講座：3回 出前授業：24校 	経済観光文化局	埋蔵文化財センター
	福岡市赤煉瓦文化館	国指定の重要文化財である「旧日本生命保険株式会社九州支店」は、平成6年2月に市民に親しまれる文化創造、交流の場としての利用を図るために「福岡市赤煉瓦文化館」として開館しました。2階に展示会や講演会などに利用できる有料会議室があり、広く市民に開放しています。 <計画目標等> 重要文化財である「福岡市赤煉瓦文化館」を保存し歴史的景観を維持するとともに、2階有料会議室を文化向上の場として広く市民に開放することで、市民の歴史・文化等への理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数：39,559人 耐震対策工事を実施中 	経済観光文化局	文化財活用課
	「博多町家」ふるさと館	明治・大正時代を中心に博多の暮らし、祭り、文化や歴史を紹介し、本市の観光の振興及び地域の活性化に寄与するために、平成7年に開館しました。1年を通して「山笠展」や「夏まつり」、「もちつき」、「ひな祭り」等の博多の季節行事を実施し、博多文化の伝承の場として運営しています。	<ul style="list-style-type: none"> 明治、大正期の博多町家や歴史的な資料の展示、暮らしの様子や祭り・伝統芸能・工芸の紹介を行った。また、地域のコミュニティを活性化するため、地元との事業を強化するなど、博多の魅力発信を強化できるように努めた。 <p>【R2年度実績】 観覧者数：34,206人</p>	経済観光文化局	まつり振興課
	はかた伝統工芸館	福岡市の代表的な伝統的工芸品である博多織、博多人形などの紹介、展示、販売及び情報提供を行う施設として、平成23年4月に開設した「はかた伝統工芸館」において、市民や外国人を含む観光客に向けて伝統工芸品のPRを行い、伝統工芸品の良さや素晴らしさを再認識していただくことで、伝統産業の継承及び振興を図るとともに、観光資源として有効活用を図り、地域の活性化に努めています。 ○所在地：早良区百道浜3-1-1 博物館2階（令和3年4月に博多区上川端町から移転） ○施設概要：常設展示スペース、企画展示スペース ○指定管理者による管理運営：ラプエフェム国際放送株式会社 <計画目標等> 【目標値】年間の目標来館者数：67,500人	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示室においては、歴史的な博多人形作家や博多織人間国宝の作品など優れた作品をはじめ、博多織タペストリー「博多献上物語」と博多人形「福の神」とのコラボレーションによるメイン展示を行うなど、博多織・博多人形などの伝統工芸品の魅力をPRした。企画展示室においては、各種団体等への貸出利用による企画展示会、指定管理者の自主企画による事業を行うとともに、はかた伝統工芸館PRのため、情報提供・情報発信に努めた。 <p>【R2年度実績】 来館者数：53,618人</p>	経済観光文化局	地域産業支援課
良好な公共施設整備	港湾地区における清掃	ふ頭清掃に関係のある行政機関、団体、企業・事業所で博多港ふ頭清掃会を組織し、臨港道路の清掃を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> 人手(人力)による清掃：57日(ごみ回収126.0m) 機械による清掃：(延べ) 525.394km(ごみ回収46.10t) 環境月間自主清掃 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、未実施。 	港湾空港局	維持課
	無電柱化	安全で快適な通行空間の確保、都市災害の防止、都市景観の向上等を目的として、道路のバリアフリー化などと合わせて無電柱化を進めています。 【目標値】 ・無電柱化計画に基づく整備延長 H27時点:142km→R2目標:152km	<ul style="list-style-type: none"> 無電柱化整備延長：150km 	道路下水道局	計画調整課

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度実績	局・区	課
モラル・マナーの向上	モラル・マナー向上市民啓発事業	身近なモラル・マナーを見つめ直す契機とするため、市民・ボランティア団体、事業者、行政が一体となって清掃活動、落書き消し、交通マナー啓発等を行うキャンペーンを実施し、総合的なモラル・マナーの向上を推進しています。 また、歩行喫煙防止に向けた取組みを実施しています。 <計画目標等> 市民・事業者・行政が一体となって、モラル・マナーの向上を目指す。	・モラル・マナー向上推進本部の運営 ・モラル・マナー向上市民運動2020の実施(清掃活動、街頭キャンペーンなど) ・ポスター・チラシ、FMラジオ等による広報啓発 ・モラル・マナー推進指導員による自転車安全利用迷惑駐車防止、歩行喫煙防止の指導・啓発の実施	市民局	防犯・交通安全課
	地域ぐるみ清掃推進事業	清掃月間に全地域において自治会・町内会等が実施する地域ぐるみ清掃に対して、ごみ袋を配布し、地域の環境美化活動を支援しています。	・参加町数：1,130町 ・参加人数：76,274人 ・ごみ処理実績量：978.7t	環境局	家庭ごみ減量推進課
	自転車放置防止条例の運用	道路に放置された自転車は、歩行者の安全な通行に支障をきたし、都市美観の低下など大きな社会問題となっていたことから昭和60年10月に施行した「福岡市自転車の放置防止に関する条例」に基づき、放置自転車を移動・保管しています。	・放置自転車撤去台数 H28年度：40,363台 H29年度：33,060台 H30年度：28,965台 R01年度：23,405台 R02年度：10,390台	道路下水道局	自転車課
	総合的な自転車対策の推進 〔放置自転車対策〕	放置自転車の撤去を行うとともに、自転車利用者に対する駐輪場への案内誘導や、駐輪場の利便性向上を図ることにより、放置自転車の解消を図っています。また、自転車利用のマナーの向上を図っています。 <計画目標等> 自転車放置率 H23年度：15% H28年度：10% H30年度：2.5% 以降、現状維持	・放置自転車の撤去を継続して実施 ・指導員による駐輪指導を継続して実施 ・放置自転車ZEROキャンペーン等の市民啓発を継続して実施 ・R2年度自転車放置率：1.6%	道路下水道局	自転車課
	総合的な自転車対策の推進 〔自転車駐車場の整備〕	放置自転車対策として鉄道駅を中心に駐輪場の整備を行い、放置自転車の削減を行うことにより、快適な歩行空間を確保するとともに都市景観の向上を図っています。	・鉄道駅等における市営駐輪場の整備 ・R2年度駐輪場新規整備台数：837台 ・R2年度末時点の収容台数：49,860台(官民共同駐輪場の収容台数：2,625台(R2年度末時点))	道路下水道局	自転車課
	空き缶等の散乱防止及びその再資源化の促進に関する条例の運用	環境と調和した地域社会の構築を目的に、空き缶等散乱防止、再資源化のための回収促進に、福岡都市圏内17市町が一体となり取り組んでいます。 ※平成5年10月1日に「福岡市空き缶等の散乱防止及びその再資源化の促進に関する条例」22市町村(当時)で一斉施行	・ボイ捨て防止及びごみ減量を呼びかけるPR看板の掲出	環境局	家庭ごみ減量推進課
	都市美化運動の推進	福岡市あき缶・びん対策協会負担金(協会：昭和61年1月29日設立) 空き缶・空きびん等食品容器の適正な回収及び再生利用の促進を図るとともに、環境保全活動の推進及び清掃モラルの高揚を図るため、飲料メーカー等の事業者、市民団体、行政により福岡市あき缶・びん対策協会を組織し、諸活動を行っています。	①清掃キャンペーン等に参加 ②下記事業の実施 ・空き缶等投げ捨て防止啓発活動(小・中学生ポスターコンクール、地下鉄駅構内等での優秀作品掲出) ・清掃活動支援事業(清掃用具等の貸出) ・市ホームページで協会の目的や活動について紹介	環境局	家庭ごみ減量推進課
	屋外広告物条例の運用及び路上違反広告物追放登録員活動の支援	地域特性に応じた良好な景観を形成し、公衆に対する危害を防止するため、「屋外広告物条例」等に基づいて、広告物(看板等)の掲出を許可する際に規格基準への適合を審査し、違反している広告物の除却を行っています。 また、生活道路にまで氾濫する路上違反広告物を、住民自らの手で除却できる「路上違反広告物追放登録員」の活動を支援しています。 <計画目標等> 良好な都市景観形成、路上違反広告物の追放	・福岡市屋外広告物条例に違反した路上の広告物を委託業務および路上違反広告物追放登録員により除却を行っている。 ・違反広告物除却枚数 H27年度：46,802枚 H28年度：32,630枚 H29年度：15,364枚 H30年度：11,039枚 R01年度：8,359枚 R02年度：8,987枚 ・路上違反広告物追放推進登録団体状況(R2年度未現在) 団体数：81団体 登録員数：1,605人	住宅都市局	都市景観室
	ピンクちらし等の根絶に関する条例の運用	ピンクちらし根絶のため、厳しい罰則等の規定を持つ「ピンクちらし等の根絶に関する条例」を運用しています。 <計画目標等> 青少年の健全な育成、市的美観風致の維持	・以前は、都心部に貼られているピンクちらし等を委託業務により早朝に除却を実施。除却枚数 H15年度：3,532,265枚 H20年度：85,589枚 H26年度：10,621枚 ・掲出件数の減少に伴い、委託業務による除却は、H27年度以降実施なし。	住宅都市局	都市景観室

第1項 生き物や自然環境の保全・再生と自然のネットワークの形成

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
博多湾の保全	博多湾環境保全対策の推進	水質の保全のみならず、博多湾の持つ豊かな自然環境の保全・再生および創造を推進することを目的とする「博多湾環境保全計画(第二次)」の着実な推進を図るため、「博多湾環境保全計画推進委員会」を設置し、計画の進行管理や施策の効果の評価、新たな対策の検討などを行っています。 また、貧酸素の発生状況調査や指標生物のモニタリング調査等を行っています。 ＜計画目標等＞ 博多湾の将来像“生きものが生まれ育つ博多湾”	・博多湾環境保全計画推進委員会(R2.8.4、R2.12.23) ・貧酸素発生状況調査(5～10月、計9回) ・生物指標モニタリング調査(底生生物、カブトガニ、藻場) ・干潟生物調査(市民参加型) ・河川ごみ分布状況等調査	環境局	環境調整課
	下水の高度処理導入	博多湾の水質保全のため、下水に含まれるリンを除去する高度処理を行っています。 また、更なる処理水質の向上のため、リンに加えて窒素も除去できる高度処理施設についても段階的に整備を進めています。	・全ての水処理センターでリン除去高度処理施設を整備完了(H5年度～11年度) ・和白水処理センター、東部水処理センター、西部水処理センターの各1系列で窒素・リン同時除去高度処理施設を導入 ・H26年3月に供用を開始した新西部水処理センターにおいても、窒素・リン同時除去高度処理施設を導入(R2年度末)	道路下水道局	下水道計画課
	浄化槽の適正管理の指導	浄化槽については、浄化槽法に基づき、保守点検及び清掃を行うこととされており、浄化槽の適正管理指導を行っています。	・設置届出数：432件 ・保守点検実施数：296件 ・保守点検実施率：68.5%	保健福祉局	生活衛生課
	合併処理浄化槽設置助成制度	公共下水道事業計画区域以外等においても、快適な生活環境を提供し、河川や博多湾の水質を保全する必要があるため、合併処理浄化槽の設置費用の一部を助成する制度をH25年度に創設し、水酸化を促進しています。	・助成件数：1件	道路下水道局	下水道事業調整課
	漁場環境保全のための藻場造成等の実施	近年、博多湾は都市化などによって、漁場環境が悪化しており、漁業並びに水産物の再生産機能に支障をきたしています。このため、海底ごみ回収や海底耕うんによる底質改善を行うなど漁場環境保全に努めています。	・博多湾内の海底ごみ回収282m3、海底耕うん25回を実施	農林水産局	水産振興課
	シーブルー事業の実施	エコパークゾーン水域における水底環境の改善を図り、多様な生物が生息する海域環境の創造を目的として、覆砂、作渚、アマモ場造成などの海域環境創造事業(シーブルー事業)を実施しています。	・アマモ場造成(和白海域)：260㎡	港湾空港局	みなと環境政策課
	海域でのアオサ回収	大量に打ち上がったアオサが堆積して腐敗すると悪臭の発生等が懸念されることから、打ち上がる前に海域での回収を行っています。	・能古海域：約3.1t回収(10月) ・和白海域：約2.4t回収(10月)	港湾空港局	みなと環境政策課
干潟の保全	生物多様性ふくおか戦略の推進	・里海保全再生事業 国際的に貴重な野鳥の飛来地であり、絶滅危惧種のカブトガニをはじめとする多様な生物の生息・生育場となっている今津干潟において、地域住民を主体とし、市民団体等と共働で里海保全活動を行っています。 ＜計画目標等＞ 100年後も豊かな自然と共生し、その恵みに支えられ、命をつなぐ未来都市を実現する。	・砂留め堤効果検証のためのモニタリング調査(8月) ・カブトガニ卵地幼生調査(8、9月) ・カブトガニ学習会(10月) ・干潟の生きもの観察会(10月)	環境局	環境調整課
	河川の緑化	都市環境に適合した河川の整備を進めるため、堤防敷等の植栽に取り組んでいます。 ＜計画目標等＞ 河川敷に余裕のあるところは積極的に緑化を行う。	・引き続き、必要に応じて、整備可能な箇所を検討する。(R2実績なし)	道路下水道局	河川計画課
	室見川水系一斉清掃	室見川水系(室見川・金屑川・油山川)の上流から下流まで行う清掃活動とおとして、住民の環境保全意識の向上に取り組んでいます。 ＜計画目標等＞ 室見川一斉清掃実施：参加予定人員5,000人	・実施日：R2.11.1～11.30 ・参加申込者数：2,852人	早良区 西区	生活環境課 生活環境課
みどりの保全・創出	河川環境整備	緑や水辺を生かし、市民が水に親しめる水辺環境をつくるため、河川環境整備を推進しています。 ＜計画目標等＞ 各河川の持つ環境や地域の特性に配慮し、河川環境整備を推進する。	・名柄川環境整備(護岸)	道路下水道局	河川計画課
	特別緑地保全地区、緑地保全林地区の指定等	「都市緑地法」に基づく特別緑地保全地区、及び「福岡市緑地保全と緑化推進に関する条例」に基づく緑地保全林地区を指定し、整備・補助等を行うことにより樹林地の保全を行い、良好な都市環境の確保を図っています。 ＜計画目標等＞ 「風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡」を目指して、緑化の推進と両輪で市内の緑の保全を図っていく。 ・R2年までに256ha	・緑地の保全(特別緑地保全地区、緑地保全林地区、市民緑地等の指定及びその助成、管理、工事) R2年度末：123.7ha	住宅都市局	みどり政策課
	生産緑地地区の指定等	・都市型農業の振興に資する農地で、緑地機能の補完等として良好な都市環境の形成に寄与し、一定の基準を満たす市街化区域内の農地を生産緑地地区として指定しています。	・生産緑地地区面積：約2.50ha(R2年度末)	農林水産局	政策企画課
優良農地の確保・保全等	「農業振興地域の整備に関する法律」に基づき、農業振興地域内で農用地区域を設定し、優良農地の保全と農業の健全な発展を図っています。 ＜計画目標等＞ 農用地区域内の農地面積 現状維持(2014年(H26年)の面積1,559haを維持)	・農用地区域内の農地面積：1,553ha(R2年度末)	農林水産局	政策企画課	

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度実績	局・区	課
	耕作放棄地再生事業	耕作放棄地を借り受けるなどして利用する農業者に対し、作物生産の再開に向けた作業等を支援し、耕作放棄地の解消に努めています。	・耕作放棄地面積：338ha (R2年11月末)	農林水産局	政策企画課
	保存樹の指定	「都市の美観風致を維持するための樹木の保存に関する法律」に基づき、基準を満たす樹木を保存樹に指定し、剪定・治療費の一部助成や、衰弱木の樹木医による診断等を行っています。 ＜計画目標等＞ 「風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡」を目指して、緑化の推進と両輪で市内の緑の保全を図っていく。	・樹木の保存(R3.3.31時点) 1,767本	住宅都市局	みどり活用課
市街地における緑や水の生態系ネットワークの形成	緑化推進事業（公共施設の緑化）	公共緑化：街路緑化、学校緑化、その他の公共緑化を継続して実施しており、平成14年度より公共施設緑化計画協議を実施し、市の施設については緑化水準を設け、施設を整備する際には、協議を行うこととしています。 ＜計画目標等＞ 市街地の緑化を推進し、都市景観の向上や都市環境の改善を図ることにより、快適な市民生活の場を創出します。	・公共緑化 街路緑化整備：3件 その他の公共緑化（公共施設緑化計画協議を実施）：2件	住宅都市局	みどり活用課
	身近な公園整備	住区・地区における身近な緑の拠点となる公園を整備しています。	・R2年度新設整備公園 街区公園：1か所	住宅都市局	みどり政策課
	アイランドシティはばたき公園整備	本公園は、エコパークゾーンにおける和白干潟や海城等と機能分担しながら、人と自然との共生を象徴する空間として整備を行います。 ＜計画目標等＞ 環境学習や市民活動が活発に行われ、人と自然が共に成長し続ける場として活用されることを実現する。	・雨水排水施設の整備等	港湾空港局	計画調整課
	エコパークゾーンの環境保全創造	和白干潟を含むアイランドシティ周辺海城、海岸域（約550ha）を自然と人の共生をめざすエコパークゾーンと位置づけ、自然環境の保全創造を図るとともに、地域の生活環境の向上に寄与するため、地域の特性や自然生態を活かした整備を実施しています。 また、市民等の多様な主体との共働による環境保全活動等に取り組んでいます。	・「博多湾NEXT会議」アマモ場づくり：1回実施（2月） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため市民参加による活動は中止。 ・「和白干潟保全のつどい」の運営等 定例会：6回 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため環境保全活動は中止。	港湾空港局	みたと環境政策課
自然環境調査	自然環境調査（再掲）	第1章第1節第2項に掲載	—	環境局	環境調整課
希少種の保全	天然記念物の保全	市内に点在する天然記念物の保全に努めています。 ＜計画目標等＞ 保全が必要な天然記念物について、順次調査・保護を行う。	・国指定の天然記念物2件、県指定の天然記念物3件、市指定の天然記念物4件の状況確認調査を行った。	経済観光文化局	文化財活用課
	ツシマヤマネコ保護増殖事業	福岡市動物園では、長崎県対馬だけに生息する絶滅危惧種ツシマヤマネコ(天然記念物、国内希少野生動物種)の種の保存(生息域外保全)に貢献するため、環境省の「ツシマヤマネコ保護増殖事業」に協力して、飼育下での繁殖事業を行っています。	・福岡市動物園、九十九島動物園等に繁殖可能な個体を集めて、繁殖に取り組んでいるが、R2年度は、繁殖しなかった。	住宅都市局	動物園
	傷病野生鳥獣の保護	福岡市動物園では、野生鳥獣保護のため、福岡県の委託を受けて動物園内に「傷病野生鳥獣医療所」を設置し、野生鳥獣の傷病の治療及び放鳥獣等を行います。	・動物保護件数：50件	住宅都市局	動物園
外来種による被害の未然防衛	自然環境調査（再掲）	第1章第1節第2項に掲載	—	環境局	環境調整課

第2項 自然からの恵みの持続的利用の促進

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
快適な都市環境の維持・向上の推進	アイランドシティ環境共生都市づくりの推進	平成21年12月策定の「アイランドシティ事業計画」で定められたコンセプトである「都市活力の向上に挑戦するグリーンアイランドの創造」に基づき、自然の風や太陽の光・熱などの自然エネルギーの活用や省CO2化の推進、また、住民等の環境への取組みの支援等を行い、本市を先導する環境共生都市づくりを推進します。	・「CO2ゼロ街区」のエネルギー使用に関する分析・検証等を実施 ・NPOや企業・地域が共働してコミュニティガーデンで行う環境教育や環境啓発活動を支援	港湾空港局	事業管理課
	アイランドシティの環境づくり【外周緑地】	周辺の豊かな自然と共生するとともに、市民が自然とふれあい、親しむことができるように、護岸整備や緑地整備をしています。 <計画目標等> 海と陸との連続的な景観形成に配慮しながら、人と自然が共生する良好な港湾環境が創造されている。	・外周緑地 整備済面積：約6.5ha (令和2年度末)	港湾空港局	計画調整課
	香椎パークボート緑地整備	スポーツ・レクリエーション施設や市民のふれあいの場となる公園や緑地について、民間活力も導入しながら整備を進めています。 対象面積：約44ha <計画目標等> 港湾及び背後地域の良好な環境の創出、港湾で働く人や市民のスポーツ・レクリエーション需要への対応及び本市の緑の都市づくりを推進するための緑地となっている。	・R2年度末までに約32haを供用中 ① みなと100年公園 ② 香椎浜公園(野球場) ③ さわかスポーツ広場(ラクビー場・トレーニングセンター) ④ 福岡フットボールセンター(サッカー場)	港湾空港局	港湾管理課
	エコパークゾーンの水域利用	エコパークゾーンの水域利用について、関係者とともに、住環境及び自然環境に配慮した自主ルールを策定し、実践活動を行っています。 <計画目標> ・エコパークゾーンを「動力船エリア」「非動力船エリア」「マリンスポーツ禁止エリア」に分ける。 ・関係者によるルールの策定と、市民啓発活動を通じて、適切な水域利用に努める。	・関係者からなる「エコパークゾーン水域利用連絡会議」で情報共有・調整を行い、自主ルールの実効性を高めるための活動を実施 ・その他、啓発看板の設置、ルールブックの配布、HP掲載を行った	港湾空港局	港湾管理課
	河川の緑化(再掲)	第1章第2節第1項に掲載	—	道路下水道局	河川計画課
生物多様性の恵みを活かした災害につよまらづくり	市営林造林保育事業	森林の水源かん養や保健休養、国土保全、環境保全等の多面的機能を高めるため、下刈や間伐等の保育を計画的に実施しています。	・保育(分収林等)：108.16ha	農林水産局	森林・林政課
	森林環境整備事業	平成20年4月に導入された「福岡県森林環境税」により長期間手入れがなされず荒廃したスギやヒノキの森林に対して間伐などを行い、公益的機能を十分に発揮できる健全な森林に再生して「環境の森林(もり)」として保全しています。	・間伐：43.48ha	農林水産局	森林・林政課
生物多様性の恵みを活かしたふれあいの機会の創出	生物多様性ふくおか戦略の推進	・ふくおかレンジャー 子ども向けの自然観察会等を開催するとともに生物多様性に関する取組みを企画・実施する意欲的な人材を育成します。 ・里海保全再生事業(第1章第2節第1項に掲載) ・森の恵み体験活動 森、川、海のつながりを重視し、生物多様性の保全や水源涵養、土砂災害の防止等の様々な役割を持つ森について関心を高めるため、森林の機能・特徴を学び、森の恵みを体験する活動等を実施しています。 <計画目標等> 100年後も豊かな自然と共生し、その恵みに支えられ、命をつなぐ未来都市を実現する。	・ふくおかレンジャー養成講座：10回(受講生累計：174人) ・森の恵み体験活動 ①体験活動：2回開催 ②クラブ体験会：4回開催 ③生きものと私たちのくらし展 展示団体数：19団体	環境局	環境調整課
	海の中道青少年海の家	海の中道海浜公園内で、宿泊棟・キャンプ場を有する青少年の野外活動拠点施設です。自然に直接触れ、「環境保全活動」「自然観察活動」「自然体験活動」「総合的環境学習」等で様々な活動プログラムを準備し、環境教育・学習を実施しています。	・環境保全活動(ビーチクリーンアップなど) ・自然観察活動(天体観察、動物ウォッチング、パークテラーリング、ウォークラリーなど) ・自然体験活動(塩作り、砂の造形、貝皿クラブ、貝殻アートなど) ・延利用者数：5,693人 (内訳) 自然教室など：2,929人 主催事業など：269人 青少年団体：1,911人 その他：584人	子ども未来局	子ども健全育成課
	背振少年自然の家	福岡市の南部に位置する脊振山系には豊かな自然が残され、様々な樹木が生育し、数多くの種類の動物や鳥が生息するなど、多様な生態系が形成されており、山頂付近では貴重なブナ林が観察できます。背振少年自然の家はこの脊振山の腹に位置しており、当施設での様々な活動を通して、自然とのふれあいの場を提供しています。	・自然観察活動(天体観察、トレジャーハンティング、自然体験ビンゴなど) ・自然体験活動(登山、キョーラク作り、木片ペイント、ウォークラリーなど) ・延利用者数：4,751人 (内訳) 自然教室など：2,081人 主催事業など：673人 青少年団体：1,221人 その他：776人	子ども未来局	子ども健全育成課

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度実績	局・区	課
	自然教室開催	原則として小学5年生及び中学1年生を対象に、背振少年自然の家及び海の中道青少年海の家等で、自然教室を実施しています。 <計画目標等> 自然に対する理解や畏敬の念を深めるとともに、規律ある態度や信頼関係を育てる。自然愛護の態度を育てる。	※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業中止。	教育委員会	小学校教育課 中学校教育課
	市民緑地の設置	民有地の良好な樹林地を市が土地所有者と土地の賃借契約を行い、遊歩道、ベンチ等を設置し、市民に公開しています。	・R2年度末の指定状況：1地区、2.8ha	住宅都市局	みどり政策課
	植物園	花や緑に関する相談や講座、観覧会や展示会の開催など都市緑化の普及啓発に関する様々な事業を行っています。	・緑の相談：4,192件 ・植物等観覧会：15回開催 ・園芸講座：48回実施 ・体験教室：12回開催 ・イベント：161回開催 ・展示会：41回開催 ・高校・大学生実習：新型コロナウイルス感染拡大で申出無	住宅都市局	植物園
	動物園の環境教育学習プログラム	動物の飼育体験やレクチャー、ガイドツアー等を通して、動物愛護や野生生物保護・地球環境保全への理解を深める学習プログラムを実施しています。 ・社会人講話(対象：中学生) ・小学生講話(対象：小学生) ・博物館実習(対象：大学生等) ・出前講座(対象：市民) ・サマースクール(対象：小学生) ・バックヤードツアー(対象：動物サポーター) ・大人のための飼育体験講座(対象：中学生以上) ・職場実習(対象：中学生) ・ZOOスポットガイド(対象：来園者[日曜日、祝日等]) ・バックヤードガイド(対象：来園者[日曜日、祝日等]) ・ふれあい教室(事前申込の来園者)	・社会人講話：2回 38人 ・小学生講話：1回 117人 ・博物館実習等：1回 2人 ・出前講座：1回 20人 ・サマースクール：中止 ・バックヤードツアー：1回 18人 ・大人のための飼育体験講座：中止 ・職場実習：中止 ・ZOOスポットガイド：100回 ・バックヤードガイド：5回 ・ふれあい教室：中止 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年度のサマースクール、大人のための飼育体験講座、ふれあい教室は中止。	住宅都市局	動物園
	動物情報館・子ども動物園	福岡市動物園では、動物情報館で野生生物保護・地球環境保全の啓発を目的とした展示やレクチャーを行っています。子ども動物園では、小動物とのふれあいを通して動物愛護や命について学ぶ「ふれあい広場」を整備し、保育園・幼稚園・小学校低学年の児童を対象に「ふれあい教室」を行っています。 また、環境技術のPRや夏の暑さ対策として、「子ども動物園」に太陽光発電を利用したミスト冷却設備、及び夏の日中舗装表面温度を10～15℃低減させることの出来る、遮熱性舗装を整備しています。	【継続】 ・子ども動物園においては、ふれあいができる人員を配置。(金曜日以外) ・太陽光発電ミスト冷却設備設置 ・遮熱性舗装整備 ・動物情報館「ZooLab」でのワークショップ等の開催 332回	住宅都市局	動物園
	も〜も〜らんど油山牧場	自然の中で乳牛や小動物たちと市民がふれあえる場として、平成8年7月から開設しており、搾乳体験などの家畜とのふれあい等を通して畜産業への理解を深めることができます。	・搾乳体験、乗馬体験、えさやり体験、手作り教室(バター、アイスクリーム、ウインナー等) ・イベント(牧場1日体験等) R2年度入場者数：約242,700人 (R1年度：約359,900人)	農林水産局	農業振興課
	油山市民の森	市民のリフレッシュのためのオアシスとして、利用されています。身近な自然とのふれあいを楽しむことができ、キャンプ場や手頃なハイキングコースとしても利用できます。 <計画目標等> 入場者数：18.3万人/年	・宿泊キャンプ ・日帰りキャンプ R2年度入山者数：約204,900人 (R1年度：約183,000人)	農林水産局	森林・林政課
	油山自然観察の森	市民の自然愛護に対する意識の高揚を図ることを目的として昭和63年4月にオープン。展示室や研修室、資料室など楽しく自然を学べる施設からなる自然観察センターを整備しており、各種講座やバードウォッチングなどの自然観察会を実施しています。 <計画目標等> 自然観察センター来館者数：1.84万人/年	・バードウォッチング ・自然発見ハイキング ・昆虫ウォッチング等 R2年度来館者数：約8,900人 (R1年度：約18,300人)	農林水産局	森林・林政課
	今津リフレッシュ農園	休憩ハウス付農園や集合農園を西区今津に開園しています。自然とのふれあいを求める都市住民のニーズに応え、作物栽培や収穫体験を通じ、農業への理解を深め、心身リフレッシュの場として提供しています。	・施設の安全な管理運営 施設の事業案内(PR)及び情報提供の充実 体験農園、収穫体験(じゃがいも・玉ねぎ掘り、ぶどう狩り他)、栽培・園芸講習会 年末感謝祭 R2年度入場者数：約39,900人 (R1年度：約51,600人)	農林水産局	農業振興課
	立花寺緑地リフレッシュ農園	余暇活用や健康増進、農業への理解を深めるため、市民に野菜・花などの栽培体験や公園としての憩いの場である農園を提供しています。	・施設の確かな管理運営 ・施設案内(PR)及び情報提供の充実 ・体験農園、栽培講習会・相談会、料理教室 年末感謝祭 R2年度入場者数：約60,900人 (R1年度：約79,900人)	農林水産局	農業振興課
	花畑園芸公園	四季を通してさまざまな花や果実を見ることができ、秋にはミカン狩りの体験や、年間を通して園芸についてのさまざまな知識が得られる「園芸講座」や「園芸相談」を実施し、気軽に憩える場として市民に利用されています。	・施設の確かな管理運営 ・果樹展示園の栽培管理 ・積極的な広報活動の展開 ・みかん狩り等、園芸講座、園芸相談 R2年度入場者数：約212,600人 (R1年度：約215,100人)	農林水産局	農業振興課

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度 実績	局・区	課
	立花山・三日月山ふれあいの森づくり事業	立花山・三日月山の更なる魅力を高めるため、ボランティア団体と共働して、登山ルートの維持管理や森林保全などを行うとともに、登山マップ・自然パンフレット・ホームページ等による広報活動などを行っています。 ＜計画目標等＞ ・登山ルートの安全確保 ・ボランティア活動人数増 ・積極的なPR活動	・ボランティア団体との共働による登山ルートの維持管理 ・ホームページや掲示板を活用したPR活動 ・登山マップ・自然パンフレットを配布 ・間伐材を活用した市民参加型のミニ松づくり 参加者数：40人 ・ボランティアメンバー登録者数：37人	東区	企画振興課
	室見川水系一斉清掃(再掲)	第1章第2節第1項に掲載	—	早良区 西区	生活環境課 生活環境課
	樋井川・油山の魅力発信	城南区の自然資源である樋井川・油山の魅力を広く市民に対して発信し、身近な自然の良さを知ってもらいます。 日本野鳥の会福岡支部と共催して、ハチクマ(鷹)の渡りに係る情報をホームページ等で広報します。 また、水と緑の楽校(代表：福岡大学伊豫岡助教)に企画編集を委託して樋井川で見られる動植物を紹介した「樋井川じゃぶじゃぶマップ」を作成しました。 ＜計画目標等＞ 豊かな自然環境が市街地に近いという特性を活かし、市民の自然環境保全意識の醸成に寄与する。	・油山の魅力や油山片江展望台でのハチクマ観察会の開催等について市政だよりや区HP等により情報発信。 ※R2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業中止 ・「樋井川じゃぶじゃぶマップ」の配布	城南区	企画共創課
	河川環境整備(再掲)	第1章第2節第1項に掲載	—	道路下水道局	河川計画課
	治水池環境整備	市街地に残された貴重なオープンスペースを活用し、身近にふれあえる水辺として治水池の環境整備を推進しています。 ＜計画目標等＞ 地域の特性を踏まえた水辺を整備し、うるおいのある快適なまちづくりを推進する。	・引き続き、必要に応じて、整備可能な箇所を検討する。(R2実績なし)	道路下水道局	河川計画課
	ため池の整備	自然共生型ため池については、地域に残された貴重な資源であり、自然を生かした身近な水辺空間として、市民の健康づくりや憩いの場として活用されるよう、地域との共働により清掃活動等を実施した。	・自然共生型ため池について、周辺の町内会、自治会等で構成された「ため池愛護会」と共働で、花壇の管理や清掃等を実施 実施回数：280回	農林水産局	農業施設課
	緑の活動支援事業	緑豊かな生活環境創出と地域コミュニティ形成のため、樹林地等の保全管理を行う「地域の森づくり」、地域の公共用地や空地で花壇づくり等を行う「地域の花づくり」を行う市民や団体等の自主的な活動を支援しています。	・街路花壇管理協定締結団体数：227団体 ・「地域の森づくり」活動助成団体数：20団体 ・「地域の花づくり」活動助成団体数：190団体	住宅都市局	一人一花推進課
	区の魅力づくり事業・中央区(花いっぱい運動)	地域コミュニティの向上や青少年の健全育成、違法駐輪・ゴミのポイ捨て防止などを目的として、住民、企業及び行政と一緒に花植えや、花の日常管理を行っています。	・民間企業・市民・行政が連携した植花活動：3回 ・13館の公民館で植花活動を実施：計3回 ・ホームページにてPR活動を実施	中央区	総務課
	区独自事業・南区(まちのよかとこ再発見事業)	南区の景観の特色であるため池や那珂川などの水辺、油山や鴻巣山の緑などの自然をさらに身近に感じられるよう、市民と共働で推進するものです。	南区の特徴・地域資源である「水辺」「緑」等の自然をまちづくりに活用し、下記事業を実施 ・小学生親子向けイベント「このす山で森のワークショップ」の実施 ※R2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業中止 ・南区カレンダーの作成	南区	企画振興課
生物多様性の恵みを活かした農水産物の積極的な活用	水産物のブランド推進事業	水産業生産者が、一次産品とその加工品、さらには付加されたサービスの企画・生産・加工・サービス提供を進め、販路拡大とブランド化をはかることで、生産者の所得向上と後継者の増大を目指す。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、海外PRを中止し、国内PRへ切り替え実施 ・アサリの完全養殖技術等を活用した養殖試験を実施 ・博多湾で養殖可能性のある他の二枚貝の調査・研究を実施	農林水産局	水産振興課
	お魚料理教室による魚食普及事業	食育を通じた魚食普及及び地元水産物の消費拡大を目的に、市内中学校で市漁協女性部を講師とした市内水産物を使用した調理実習を実施	R2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業中止	農林水産局	水産振興課
	市内産農水産物学校給食活用推進事業	定期的に開催するワーキンググループにおいて、出荷状況や献立、食材購入状況等に関する情報交換を行い、市内産農水産物の利用拡大に取り組みます。 また、市内の小学校において、生産者による学校菜園等での野菜づくり、土づくり等栽培指導を通して、児童と生産者の交流及び食育を推進します。	・学校給食における市内産農産物利用割合 野菜※：31.4% 米：9.1% ※小学校における主要14品目の重量ベースで平成30～令和2年度の平均値 ・学童菜園事業 市内5校で実施	農林水産局	農業振興課
	市内産農畜産物6次産業化・ブランド化推進事業	市内産農畜産物の6次産業化・ブランド化による、新商品の開発及び販路拡大への支援及び農山村地域の特産品開発支援	・新商品開発に取り組む事業者等の数：3事業者 ・開発・販売した加工品数：39品(R3年3月末)	農林水産局	農業振興課
生物多様性に支えられる文化の継承	生物多様性ふくおか戦略の推進(再掲)	第1章第2節第1項に掲載	—	環境局	環境調整課

第3項 生物多様性の認識の社会への浸透

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度 実績	局・区	課	
市民への生物多様性の認識の理解促進	生物多様性ふくおか戦略の推進(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	環境局	環境調整課	
	海の中道青少年海の家(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	子ども未来局	子ども健全育成課	
	自然教室開催(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	教育委員会	小学校教育課 中学校教育課	
	植物園(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	住宅都市局	植物園	
	動物園の環境教育学習プログラム(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	住宅都市局	動物園	
	動物情報館・子ども動物園(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	住宅都市局	動物園	
	も〜も〜らんど油山牧場(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	農業振興課	
	油山市民の森(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	森林・林政課	
	油山自然観察の森(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	森林・林政課	
	背振少年自然の家(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	子ども未来局	子ども健全育成課	
	今津リフレッシュ農園(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	農業振興課	
	立花寺緑地リフレッシュ農園(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	農業振興課	
	花畑園芸公園(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	農業振興課	
	立花山・三日月山ふれあいの森づくり事業(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	東区	企画振興課	
	室見川水系一斉清掃(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	早良区 西区	生活環境課 生活環境課	
	区の魅力づくり事業・中央区(花いっぱい運動)(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	中央区	総務課	
	区独自事業・南区(まちのよかとこ再発見事業)(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	南区	企画振興課	
	多様な主体参画の促進、支援	生物多様性ふくおか戦略の推進(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	環境局	環境調整課
	国内外の交流の推進、情報ネットワークの構築	生物多様性ふくおか戦略の推進(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	環境局	環境調整課
		博多湾NEXT会議	市民、市民団体、漁業関係者、企業、教育、行政など多様な主体からなる「博多湾NEXT会議」において、アマモ場づくりを中心に、イベントの実施、博多湾の魅力発信など、環境保全創造の取組みを進めています。	・アマモ場づくり：1回実施(2月) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため市民参加による活動は中止。 ・オンラインイベント：1回(YouTube Liveを活用し、博多湾の魅力発信を実施)	港湾空港局	みなと環境政策課
和白干潟保全のつどい		和白干潟を中心に活動する市民団体等と定期的に意見交換しながら、和白干潟の環境保全に向けた活動などの共働事業を企画・実施しています。	・定例会：6回 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため環境保全活動は中止。	港湾空港局	みなと環境政策課	
NPO等交流支援事業	環境保全活動を行うNPO団体や個人、事業者、学識者及び関心のある市民等の交流や連携を促進するため、「ふくおか環境連絡交流会」「ふくおか環境活動発表会」「トークカフェ」を実施しています。	・NPO等交流支援事業 ①ふくおか環境連絡交流会：1回 27人 ②ふくおか環境活動発表会：1回 50人 ③トークカフェ：3回 65人	環境局	環境科学課		

第1項 廃棄物の発生抑制・再利用・再生利用の推進

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度実績	局・区	課
様々な媒体等を活用した情報発信	3R推進事業	3R（スリーアール：リデュース、リユース、リサイクル）の内容を市民に周知し、日常生活の具体的な行動に結びつけていくための広報啓発を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・「プラスチックごみとフードロスを減らす為にまず、はじめたい10のアクションへらし10」と題して、特設ホームページの開設、SNSを活用した広報 ・プラスチックごみ削減アイデアコンテストの実施 ：アイデアの応募数：134件 ・フードドライブイベントの実施 ：回収した食品：1,701個（536kg） 	環境局	家庭ごみ減量推進課
	ごみ減量広報・啓発活動	市民へごみ減量・リサイクルの啓発を行うため、大都市減量化・資源化共同キャンペーンを実施するとともに、市外からの転入者向けに家庭ごみルールブック等を作成・配布するなど広報活動を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭ごみルールブック（日・英・中・韓4か国語）：95,000部 ・家庭ごみガイド：55,000部 ・引っ越しごみチラシ：17,000部 	環境局	家庭ごみ減量推進課
	事業系ごみ資源化情報発信事業	資源化に関する専用ホームページの活用により、排出事業者と資源物回収事業者が事業系ごみの資源化に関する互いの情報を共有し、回収へとつながっていく環境の整備を行っています。 また、飲食店や小売店などから排出される食品廃棄物の発生抑制（リデュース）を推進するため、「福岡エコ運動」を実施します。運動に賛同する飲食店等を福岡エコ運動協力店として登録し、市ホームページで紹介しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・優良事業者の紹介・メールマガジンを活用した情報発信等（H25年3月開設） ・メールマガジン登録件数：1,009件 ・福岡エコ運動協力店登録数：571店 	環境局	事業系ごみ減量推進課
環境教育・学習機会の提供	3Rステーション事業	西部3Rステーション（リサイクルプラザ）及び臨海3Rステーション（リサイクルプラザ）において、市民へのごみ減量・リサイクルの場の提供、情報提供、各種講座やイベントを開催するとともに、衣類や書籍等の不用品の引取・提供を実施します。 ＜計画目標等＞ 情報提供機能を強化するとともに、3Rを中心とした各種講座の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者総数：65,868人 ・講座等開催回数：1,103回 参加人数：5,330人 ・イベント開催回数：16回 参加人数：760人 ・不用品提供数：79,786件 	環境局	家庭ごみ減量推進課
	生ごみリサイクル促進事業	クリーンパーク・東部内及び立花寺1丁目種苗育成施設内菜園において、生ごみ堆肥の作り方や堆肥の使い方を学ぶ市民講座を行っています。 また、段ボールコンポストの使い方を学ぶ座学講座や、博多区の一部の校区において、段ボールコンポストを使った堆肥作りやコンポストを使った菜園講座を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ①菜園講座 ・実施回数：16回 ・参加人数：194人 ②段ボールコンポスト学習会 ・実施回数：4回 ・参加人数：69人 ③段ボールコンポスト学習会（博多区） ・実施回数：2回 ・参加人数：41名 	環境局	家庭ごみ減量推進課
ごみの分別等に関する啓発・指導	3R推進事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	家庭ごみ減量推進課
	区独自事業・城南区（雑がみリサイクル推進事業）	雑がみリサイクルについて市民認知度を向上させ、行動の定着を促すため、雑がみリサイクル啓発用マグネットシートを作成・配布するなど啓発活動を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・雑がみリサイクル啓発用マグネットシート：6,500枚 	城南区	生活環境課
地域における資源物回収の促進	地域集団回収等報奨制度	資源物の集団回収等実施団体に回収量等に応じた報奨金を交付し、回収活動の促進を図っています。 ①回収量に応じた報奨金（5円/kg） ②その他の報奨金 ・集団回収実施団体 回収実施月に対する報奨金（2,500円/月） ・紙リサイクルボックス管理団体 古紙保管庫の管理経費（年間） 民有地：5万円、公有地：3万円 ・校区紙リサイクルステーション管理団体 管理運営経費（1万円/月） 資源物回収促進経費（60円/年間・1世帯） ※12万円～42万円の範囲内 ＜計画目標等＞ 古紙が可燃ごみとして排出されないよう、集団回収や地域の回収拠点の利用を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域集団回収等回収実績 回収量：24,437t 【内訳】 地域集団回収：13,713t 紙リサイクルボックス：3,888t （327ヵ所） 校区紙リサイクルステーション：3,244t （97ヵ所） 区役所・市民センター：1,526t （9ヵ所） 民間協力店回収実績 空きびん・ペットボトルの回収：2,066t （62ヵ所） ※区役所・市民センターは年度、その他は暦年の実績 ※設置箇所数は、R3.3.31現在 ※地域集団回収等報奨制度参加団体：1,930団体 	環境局	家庭ごみ減量推進課

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度 実績	局・区	課
	拠点での資源物回収事業	<p>市民に身近な場所に資源物回収拠点を設置し、地域住民等の参加を得て、資源物回収を行っています。</p> <p>①紙リサイクルボックス 地域団体の要望に応じて設置 ・回収品目：古紙など ※地域集団回収等報奨制度による報奨金を交付</p> <p>②校区紙リサイクルステーション 校区団体の要望に応じて、小学校区に1か所 設置 ・開設時間：原則土・日曜日 9時～17時 ・回収品目：原則古紙と牛乳パック ※地域集団回収等報奨制度による報奨金を交付</p> <p>③区役所・市民センター等9か所 ・開設時間：毎日9時～17時（年末年始除く） ・回収品目：古紙・空き缶・空きびん・紙パック・ペットボトル・たい肥（H17年7月～） ・食品トレイ（H18年1月～） ・蛍光管（H18年1月～） ・乾電池（H27年4月～） ・水銀体温計、温度計、血圧計（H29年4月～） ・使用済食用油（H30年4月～） ・小型充電式電池（H31年4月～）</p> <p>④民間協力店 ・回収品目：空きびん・ペットボトル</p>	<p>【参考】 新聞社による新聞古紙回収：5,181 t</p>	環境局	家庭ごみ減量 推進課 収集管理課

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度 実績	局・区	課
有用金属のリサイクルによる資源確保	使用済小型電子機器回収事業	携帯電話などの使用済小型電子機器に含まれる金属を再資源化するため、回収ボックスの設置や粗大ごみからのピックアップ回収等を行っています。	・回収拠点数：64か所 ・回収量：131,641kg	環境局	家庭ごみ減量推進課
	蛍光灯等の拠点回収事業	一般家庭から出される蛍光灯・乾電池については、家電量販店やホームセンター等に設置する回収ボックスで拠点回収を行い、また、水銀体温計・温度計・血圧計については、市内の福岡市薬剤師会会員の薬局に設置する回収ボックスで拠点回収を行い、再資源化を行っています。	・回収拠点数：71か所 ・回収量：49,052kg (内訳) 蛍光灯：27,060kg 乾電池：21,839kg 水銀体温計等：153kg	環境局	家庭ごみ減量推進課
事業系食品廃棄物の資源化促進	事業系食品廃棄物3R推進事業	事業所から排出されるごみの中で、紙類に次いで多くの割合を占める食品廃棄物について、更なる減量・リサイクルを推進しています。	・排出事業者に対する食品廃棄物リサイクルの周知、広報 ・「共働事業提案制度」によるフードバンクを活用した食品ロス削減啓発事業の実施	環境局	事業系ごみ減量推進課
事業系古紙回収の推進	事業系古紙回収推進事業	中小事業者等を対象として、関係業界の協力のもとに構築した古紙回収システムにより、効率的・効果的な古紙回収を推進しています。	・システムによる古紙回収の実施 R2年度回収量：10,618 t ・排出事業者に対する本システムの周知、広報 ・特定事業用建築物(延床面積1,000㎡超の事業用建築物)の所有者等に対する啓発、指導	環境局	事業系ごみ減量推進課
	古紙分別等導入啓発事業	令和2年10月から事業系ごみを、従来の「燃えるごみ」、「燃えないごみ」の2分別に「古紙」を加えた3分別としたことに伴い、新たな分別方法について市内事業者へ効果的な周知啓発を行っています。	・市内全事業者へ古紙分別ガイドブックの送付 ・問い合わせ、補助金申請の窓口として事業系古紙分別サポートセンターの設置 ・新聞、CM、特設サイト等の各種媒体を利用した広報の実施 ・特定事業用建築物の所有者等への説明会 参加者：20回1,492名 ・出前講座：62回1,101名	環境局	事業系ごみ減量推進課
一般廃棄物排出事業者に対する減量化指導の徹底	事業所ごみ減量再資源化指導	事業所のごみ減量・再資源化を図るため、延床面積の合計が1,000㎡超の事業用建築物を特定事業用建築物と定め、その所有者等に、紙使用量抑制、古紙等資源物回収、再生品使用などにより、ごみ減量・リサイクルに努めるよう指導しています。	・事業所への立入指導等：延べ875件	環境局	事業系ごみ減量推進課
	資源物回収協定制度	優良な資源物回収事業者と協定を締結し、互いに連携を図ることにより資源物の再生利用を促進することを目的に「福岡市資源物回収協定制度」を実施しています。	・協定参加事業者の新規募集を実施 ・協定参加事業者数：23事業者	環境局	事業系ごみ減量推進課
ごみ減量・リサイクルの推進に向けた基金の活用	3Rステーション事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	家庭ごみ減量推進課
	地域集団回収等報奨制度(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	家庭ごみ減量推進課
	使用済小型電子機器回収事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	家庭ごみ減量推進課
	拠点での資源物回収事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	家庭ごみ減量推進課 収集管理課
	資源物持ち去り防止対策	家庭の不燃ごみからアルミ缶等の資源物を持ち去る行為を防止するため、パトロールの実施など資源物持ち去り防止対策を実施しています。	・夜間パトロール実施日数：264日	環境局	収集管理課
	事業所ごみ減量再資源化指導(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
	事業系ごみ減量再資源化情報発信事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
	資源物回収協定制度(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
	エコアクション21取得支援事業	市内事業者の①省エネ、②廃棄物の削減・リサイクル、③節水などの自主的な取組みを促進するために、環境省が推進している中小事業者等向け簡易版環境マネジメントシステム(EMS)である「エコアクション21(EA21)」の市内事業者への普及を図っています。	・EA21導入セミナーを実施 (市内事業者等を対象とした説明会) 参加数：7事業者	環境局	環境政策課
	事業系ごみ資源化技術実証研究等支援事業	事業系ごみの資源化を推進するため、事業系一般廃棄物の資源化等に関する技術等を研究しようとする事業者に対し、その研究費用の一部を補助します。	・補助件数：1件	環境局	事業系ごみ減量推進課
	事業系一般廃棄物資源化施設の整備支援	事業系一般廃棄物の資源化推進に寄与する施設及び設備を市内で整備するために要する費用について、その一部を補助します。	・補助件数：1件	環境局	事業系ごみ減量推進課
	古紙分別保管場所等整備支援	事業者が古紙の保管のためにごみ・資源物置場を整備・改修等する場合において、その整備に要する費用についてその一部を補助します。	・補助件数：57件	環境局	事業系ごみ減量推進課
	古紙分別収集車両購入支援	事業系一般廃棄物収集運搬許可業者が事業系一般廃棄物を収集・運搬するために必要な収集運搬車両を購入する場合に要する費用について、その一部を補助します。	・補助件数：9台	環境局	事業系ごみ減量推進課
	事業系ごみの資源化調査	事業系ごみの減量・リサイクルを推進するための基礎データの取得を目的とし、展開調査により、事業所のごみ排出状況を継続的に調査しています。	・期間：R2.11.5～R2.11.28のうち計16日間 調査検体数：100	環境局	事業系ごみ減量推進課

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度 実績	局・区	課
	工場での古紙類の回収	クリーンパークに搬入される段ボール等古紙類の回収を実施し、古紙回収業者に引き渡し、再資源化を図っています。	・回収実績：39.67 t	環境局	事業系ごみ減量推進課
	福岡市事業系ごみ資源化推進ファンド	事業系ごみの資源化に向けた事業者の取組みを支援することにより、循環資源の更なる利用を促進し、循環型社会の形成を進めるための事業を実施することを目的に、「福岡市事業系ごみ資源化推進ファンド」を設置しています。 また、事業系ごみの資源循環施策の推進にとって投資効果が高いと期待できる分野において、本ファンドを適正に活用していくために、「福岡市事業系ごみ資源化推進ファンド運営委員会」において、客観的な立場で、技術面、採算面、広域での循環資源の需給バランスの面などを踏まえ、ファンドの処分対象事業の選定や評価などを行います。	・福岡市事業系ごみ資源化推進ファンド運営委員会開催実績：3回	環境局	事業系ごみ減量推進課
	庁舎等ごみ減量	マイボトルの利用によるプラスチックごみの削減のため、庁舎等にマイボトル用「給水スポット」を設置します。	・設置箇所：6か所	環境局	事業系ごみ減量推進課
家庭ごみの有料制の継続	家庭ごみの有料制	ごみの排出者としての役割を明確にするとともに、負担の公平性を確保し、一人ひとりがごみ減量・リサイクルの行動を起こすきっかけをつくるために導入した家庭ごみの有料制を継続します。	継続	環境局	計画課
事業系ごみの処理手数料の徴収	事業系ごみの処理手数料	事業系ごみの処理手数料を徴収することにより、排出者の自己処理責任の明確化、負担の公平性の確保及びごみ減量・リサイクルへの誘導を図ります。	継続	環境局	計画課
各種リサイクル法の推進	魚滓の再資源化	水産バイオマスである魚滓を無公害に魚粉等への加工を民間事業者による処理に移行し、引き続き利活用に積極的に取り組み、市民生活の環境保全に努めています。 <計画目標> ・(民間事業者) 積替保管施設への魚滓搬入量：6,000 t	・(民間事業者) 積替保管施設魚滓搬入量：5,545 t	農林水産局	水産振興課
	福岡魚滓処理対策協議会	水産バイオマスの利活用を図るため、福岡市及び近隣18市町で協議会を設置し、魚滓の再資源化の推進を図っています。	・協議会実施状況 2回：第1回(R2.6.26) 第2回(R3.3.29)	農林水産局	水産振興課
	使用済み乗車券のリサイクル	地下鉄各駅のごみ減量化を図るため、使用済み乗車券を回収し、トイレトーパー等の原料として再利用しています。	・使用済み乗車券回収量：3.7 t	交通局	駅務サービス課
	学校給食残食のリサイクル	学校給食で発生する残食(調理くず、おかず等の食べ残し)の一部を回収し、飼料の原料として再生利用を行っています。また、つぎ残しの米飯については、豚の餌として全量利用されています。	・残食回収量：1,224t ・米飯回収量：361 t	教育委員会	給食運営課
	学校給食廃油のリサイクル	学校給食で使用した食用油を全量回収し、給食センターに設置しているリサイクルボイラーで燃料として使用するほか、建築用油脂等として売却しています。	・ボイラー投入量：43 t ・売払い量：43 t	教育委員会	給食運営課
	学校給食牛乳パックのリサイクル	児童生徒が洗浄、乾燥させた使用済みの学校給食用牛乳紙パックを回収し、再生紙の原料として再生利用しています。	・回収量：1.5 t ・参加校：小学校11校、特別支援学校1校	教育委員会	給食運営課

第2項 廃棄物の適正処理の推進

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
収集運搬の区分及び体制	家庭ごみの収集運搬	一般廃棄物の適正な処理のため、家庭から排出された可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、空きびん・ペットボトルを委託業者が収集しています。	・収集量 可燃ごみ：274,666 t 不燃ごみ：19,745 t 粗大ごみ：7,651 t 空きびん・ペットボトル：10,291 t	環境局	収集管理課
資源物の持ち去り防止対策	資源物持ち去り防止対策(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	収集管理課
ごみ処理施設の適切な維持・運転・整備とアセットマネジメントを活用した既存施設の効率的運用	アセットマネジメントの推進	市有施設を安全・安心に利用できるよう維持し、良質な公共サービスを持続的に提供していくため、「福岡市アセットマネジメント基本方針」に基づき、財政負担の軽減・平準化を図りつつ、施設の状況等に応じた適切な維持管理を推進します。	・平成29年度に「福岡市アセットマネジメント推進プラン」を策定し、計画的・予防的な改修・修繕等による施設の長寿命化を進め、財政負担の軽減・平準化を図りつつ、施設の状況等に応じた適切な維持管理を推進した。	財政局	アセットマネジメント推進課
	工場等整備事業	工場等の機能維持対策など、計画的な整備・更新を行い必要な処理能力の確保を図っていきます。	・臨海工場基幹的設備更新工事 ・東部資源化センタープラント設備更新工事など	環境局	工場整備課
	自己搬入ごみに対する搬入物検査実施及び不適物搬入への不利益処分	処理施設にごみを自己搬入する際の搬入物検査を、平成27年4月1日から実施しています。また、平成27年7月1日からは、自己搬入時の不適物搬入者に対して、期間を定めた受入拒否処分等を行っております。	・搬入物検査実績 検査台数：179,904台 自己搬入総数：250,548台 検査割合：71.8%	環境局	管理課
	びん・ペットボトルの再資源化	収集されたびん・ペットボトルは、びん・ペットボトル中継保管施設又は選別処理施設に搬入・選別後、再商品化事業者に引き渡されています。	・資源化量：7,311 t (内訳) びん：3,599 t ペットボトル：3,712 t	環境局	計画課 管理課
不燃性ごみの有価物回収	東部・西部資源化センターに搬入された不燃性ごみを破砕し、磁選機等により鉄、アルミを回収、再資源化しています。また、自転車についても再資源化しています。	・資源化量：9,975 t (内訳) 鉄：7,420 t アルミ：2,110 t 自転車：445 t	環境局	管理課	
埋立処分の体制	ごみ埋立場の整備・施設維持管理	ごみ埋立の進捗に合わせて、ごみ埋立場の整備を行うとともに、施設の修繕等維持管理を行っています。	・東部(伏谷)埋立場第5区画整備工事(その8) 西部(中田)埋立場第4区画組造成工事(その2)等 ・東部汚水処理場伏谷1系電気設備外更新工事 西部汚水処理場中田1系薬品注入設備更新工事(その2)等	環境局	施設課
広域連携	福岡都市圏南部環境事業組合	本市、春日市、大野城市、太宰府市及び那珂川市の5市で一部事務組合を設立し、共同で可燃ごみ処理施設の建設及び運営を行っています。	・H28.4月より清掃工場及び最終処分場(埋立場)の供用開始 ・焼却処理量：27,961 t ・灰埋立処分量：3,220 t	環境局	管理課
災害対策	災害廃棄物の収集・運搬に関する協定	災害に対し迅速かつ的確に対応し、被災した地域の生活環境が速やかに回復することを目的として、委託・許可業者と協定を結んでいます。	「災害時における災害廃棄物の収集・運搬に関する協定書」の内容を再検討	環境局	収集管理課
産業廃棄物対策	産業廃棄物排出事業者の監視・指導	市民が安心して生活していく上で、産業廃棄物の適正な処理は不可欠であることから、排出事業所等への立入検査を行い、適正処理を指導しています。	・立入り件数：413件 (内訳) 多量排出事業者：0件 建設工事現場等：64件 PCB保管事業場：22件 アスベスト関連工事現場：89件 病院・その他の有害廃棄物の排出事業場：0件 苦情等：11件 重点監視事業所等：227件	環境局	産業廃棄物指導課
	産業廃棄物処理業者の指導	市民が安心して生活していく上で、産業廃棄物の適正な処理は不可欠であること、また、不適正処理が発生した場合に周辺環境へ著しい影響を及ぼすおそれがあることから、産業廃棄物処理業者等への立入検査を行い、適正処理を指導しています。	・立入り件数：510件 (内訳) 処理業許可業者：445件 自動車リサイクル許可業者：65件	環境局	産業廃棄物指導課
	公共工事における産業廃棄物の有効利用の推進	公共工事における建設系廃棄物のリサイクル及び適正処理推進のため、庁内関係部局による情報交換、調査研究等を行っています。	・公共工事発注課向けの研修会を実施(1回) ・公共工事におけるコンクリート塊、アスファルト塊のリサイクル率：ほぼ100%	環境局	産業廃棄物指導課
	産業廃棄物に関する啓発	産業廃棄物に関する認識向上、減量化・有効利用及び適正処理推進のため、事業者及び処理業者を対象とした講習会及び説明会を実施するとともに、医療関係機関・土木建設業者等の各種団体からの要請により講師を派遣しています。	・説明会・講習会開催回数：0回 受講者数：0人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	環境局	産業廃棄物指導課
不法投棄対策	不法投棄対策	昼夜のパトロールやカメラによる監視、地域の不法投棄防止活動団体への支援など監視体制の強化を図るとともに、看板設置、市政だより、ポスター等による市民への啓発や警察等関係機関との連携を密にして不法投棄の防止、指導に努めています。 <計画目標等> R6年度不法投棄処理量：39 t (不法投棄処理量対前年度比5%削減)	・不法投棄処理量：21t(処理件数：326件)	環境局	産業廃棄物指導課

第3項 水資源の有効利用の促進

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
水の有効利用	①漏水防止調査 ②給水管の漏水対策 ③配水調整システムの整備	①漏水の早期発見、早期修理を行うため、計画的に漏水調査を行い、水の有効利用を図っています。 ②宅地内で発生した給水管漏水の応急修理を行うとともに、漏水した給水管やその他の老朽化した給水管の取替を実施しています。 ③配水調整システムの機能を維持するために、市内に設置している遠方監視制御装置を計画的に更新しています。	①調査延長 : 2,962km ②応急修理 : 1,284件 給水管取替 : 1,297件 ③更新箇所 : 15箇所	水道局	管修理課 節水推進課 水管理課
節水意識の高揚	「水をたいせつに」広報の推進	「限りある資源である水をたいせつに使う」心がけが市民(社会)全体に継承され続けるよう、「節水の日」キャンペーンや広報誌「みずだより」等各種印刷物を制作するほか、HPやツイッターによる広報活動を実施する。 <計画目標等> 節水意識 90%以上を維持 (福岡市水道長期ビジョン)	・「水をたいせつに」広報 「節水の日」キャンペーン 広報紙「みずだより」の発行 小学生社会科副読本「水とわたしたち」の発行 ※浄水場開放、水道PR展、絵画コンクール、水道施設見学会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・節水意識 91.2% (令和2年度市政アンケート調査)	水道局	総務課
都市の保水機能の強化	特別緑地保全地区、緑地保全林地区の指定等(再掲)	第1章第2節第1項に掲載	—	住宅都市局	みどり政策課
	生産緑地地区の指定等(再掲)	第1章第2節第1項に掲載	—	農林水産局	政策企画課
	優良農地の確保・保全等(再掲)	第1章第2節第1項に掲載	—	農林水産局	政策企画課
	耕作放棄地再生事業(再掲)	第1章第2節第1項に掲載	—	農林水産局	政策企画課
	保存樹の指定(再掲)	第1章第2節第1項に掲載	—	住宅都市局	みどり活用課
	緑化推進事業(公共施設の緑化)(再掲)	第1章第2節第1項に掲載	—	住宅都市局	みどり活用課
	市営林造林保育事業(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	森林・林政課
	森林環境整備事業(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	森林・林政課
	治水池環境整備(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	道路下水道局	河川計画課
	ため池の整備(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	農業施設課
雨水流出抑制施設助成制度	雨水の貯留・浸透施設を設置される方に助成金を交付し、浸水被害の軽減に対する市民意識の向上を図る。 ①雨水貯留タンクの助成 <助成上限額> ・タンク合計容量100ℓ～500ℓ未満 = 1万5千円まで ・タンク合計容量500ℓ以上= 3万円まで ②雨水浸透施設(浸透ます、浸透管)の助成 <助成上限額> (既存建築物) ・1敷地当たり合計10万円まで ・雨水浸透柵1基当たり2万円まで ・雨水浸透管1m当たり7千円まで (新築・増築建築物) ・1敷地当たり合計5万円まで ・雨水浸透柵1基当たり1万円まで ・雨水浸透管1m当たり4千円まで	①雨水貯留タンク: 50個 ②雨水浸透施設: なし	道路下水道局	下水道管理課	
下水処理水や雨水等の有効利用	広域循環型雑用水道(再生水利用下水道事業)(下水処理水の再利用)	中部水処理センター及び東部水処理センターの下水処理水の一部を再生処理し、主に水洗便所の洗浄用水として供給しています。 (供給開始 昭和55年6月) ①現在供給能力(R3.4.1現在) 中部: 日最大10,000㎥/日 東部: 日最大1,600㎥/日 ②供給区域(R3.4.1現在) 中部地区: 1,020ha (天神・渡辺通り地区、シサイトももち地区、博多駅周辺地区、都心ウオーターフロント地区、六本松地区) 東部地区: 465ha (香椎地区、アワードシティ地区) ③再生水用途: 大型建築物の水洗便所の洗浄用水、公園、街路等の樹木への散水	・供給施設: 486件(S55年度～) ・R2年度新規供給施設: 16件 ・日平均使用水量: 約4,185㎥/日	道路下水道局	施設管理課
	雨水の有効利用	循環型社会構築、自然の水循環回復による環境にやさしいまちづくりを目的に、雑用水補給水の一部として、市役所本庁舎、マリンメッセなど公共・民間施設で雨水の有効利用(貯留)を図っています。	・継続実施	総務企画局 水道局	水資源担当 節水推進課

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度 実績	局・区	課
	雨水の利用及び工場作業排水の再利用	橋本車両基地内に降った雨水を車体洗浄等の作業用水として利用するとともに、さらにその水を再処理して、橋本車両基地内及び橋本駅トイレの洗浄水として利用しています。	・水道水節減量：5,257m ³ /年	交通局	橋本車両工場
	個別循環型雑用水道利用	個別の建築物において発生した汚水・雑排水を処理し、水洗便所の洗浄用水として利用しています。	・導入施設件数：324施設(S54年度～) ・平均使用水量：約5,771m ³ /日	水道局	節水推進課
エネルギーの有効利用	小水力発電設備を活用した再生エネルギーの導入	水源から浄水場までの高低差を利用した小水力発電設備を設置しています。	・累計設置数：3施設 H23年度稼働：1施設 H26年度稼働：1施設 H29年度稼働：1施設 ・設備出力合計：222kW	水道局	技術管理課
	水素リーダー都市プロジェクト～下水バイオガス原料による水素創エネ技術の実証～	下水バイオガス前処理技術・水素製造技術・水素供給技術を組合せ、下水バイオガスから水素を効率的に製造するシステムを構築し、燃料電池自動車（FCV）に供給します。	・長期運転による設備の耐久性や維持管理費の低減に向けた自主研究を実施	経済観光文化局 道路下水道局	新産業振興課 下水道計画課
水源地域・流域との連携・協力	水源地域との交流	筑後川流域の日田市・朝倉市や吉野ヶ里町などの水源地域において、植樹・下草刈りなどの育林活動やダム見学等を通じた地元住民との交流事業に加え、本市の子どもたちが水の大切さを学ぶ体験学習などを実施し、市民と水源地域との相互理解・連携を深めています。	① 育林活動等交流事業 ※R2年度は、新型コロナウイルスの影響により中止。 ② 子ども体験学習（1事業） ※R2年度は、新型コロナウイルスの影響により中止。	水道局	流域連携課
国際協力の推進	国際貢献・国際協力の推進	海外からの研修生受け入れや職員の海外派遣により、福岡市の住み良いまちづくりを広く海外に紹介することで、国際貢献・国際協力を推進しています。また、これらの取組みにより、海外の諸都市との関係を構築し、官民連携によるビジネス展開を推進しています。	①国際視察・研修受入：76人(水資源のみ) ②プラットフォーム会員企業向けのセミナー・参加者交流会を実施 ③ヤンゴン市へ技術職員を長期派遣（平成28年度から継続）	総務企画局	アジア連携課 国際協力課
	水道整備に係る国際技術協力	独立行政法人国際協力機構（JICA）等を通じて、アジア地域などへの職員派遣や研修員受け入れにより、水道整備に係る技術協力を行っています。	① ミャンマー連邦共和国・ヤンゴン市への技術協力 ・JICA長期専門家派遣：1人 ・研修員受入：2人 ②フィジー共和国への技術協力 ・オンラインを活用した技術協力（WEB会議等）	水道局	経営企画課
	上下水道分野における国際貢献展開事業	アジアを中心としたJICA研修員の受け入れや発展途上国への技術協力、海外からの視察者受け入れ等	・視察・研修員受け入れ：1人 ・本市職員の海外派遣：0人 ・オンラインを活用した技術協力：20回（新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を踏まえ）	道路下水道局	下水道経営企画課

第1項 省エネルギーの促進

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
市民・事業者の省エネ行動の支援	福岡市地球温暖化対策市民協議会	地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、市民・事業者・行政が協力して、地球温暖化対策に向けた積極的な実践活動を推進することを目的に、さまざまな活動を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市地球温暖化対策市民協議会会員数：132団体（R3年3月末現在） 総会の開催（書面）（R2.6.2） 環境フェスティバルふくおか2020への出展 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止 協議会として下記の4事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ①住宅用エネルギーシステム導入促進事業 ②次世代自動車普及促進事業（電気自動車購入等助成）（次世代自動車展示・試乗会 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止） ③ECOチャレンジ応援事業（交通系ICカードポイント付与） ④地球温暖化対策シンポジウムの開催 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止 	環境局	環境・エネルギー対策課
	住宅用エネルギーシステムの導入促進	(福岡市地球温暖化対策市民協議会事業として実施) 住宅のリチウムイオン蓄電システム、家庭用燃料電池、太陽光発電システム、HEMS及びMEMSの設置者に対する補助を実施しています。	<ul style="list-style-type: none"> 住宅用エネルギーシステム設置助成導入が図られたシステム数：953基（内訳） <ul style="list-style-type: none"> リチウムイオン蓄電システム：229基 家庭用燃料電池：340基 太陽光発電システム：141基 HEMS：236基 V2Hシステム：7基 	環境局	環境・エネルギー対策課
	次世代自動車の普及促進	(福岡市地球温暖化対策市民協議会事業として実施) 次世代自動車の普及を図り、地球温暖化対策を促進することを目的に、電気自動車及びプラグインハイブリッド自動車の購入、充電設備の設置等の経費の一部を助成すると共に、次世代自動車に関する市民・事業者への啓発事業として「次世代自動車展示・試乗会」を開催しています。	<ul style="list-style-type: none"> 電気自動車等購入助成：96台（EV：64台、PHV：32台） 充電設備設置助成：4基（急速：3基、普通：1基） 次世代自動車展示・試乗会の実施 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止。 	環境局	環境・エネルギー対策課
	ECOチャレンジ応援事業（交通系ICカードポイント付与）	(福岡市地球温暖化対策市民協議会事業として実施) 電気・ガスの省エネや家庭用LED照明の購入、環境イベント参加等、環境保全に寄与する行動（エコアクション）の実施に対してポイントを付与します。ポイントは商品や交通系ICカードの乗車ポイント（1ポイント＝1円）に交換できます。	<ul style="list-style-type: none"> 付与ポイント数：1,574,600 「はやかけん」ポイント付与：96件 参加人数：1,358世帯 	環境局 交通局	環境・エネルギー対策課 営業課
	地球温暖化対策シンポジウムの開催	(福岡市地球温暖化対策市民協議会事業として実施) 市民や事業者が地球温暖化に関心を持ち、温暖化防止のために行動するきっかけづくりとして開催しています。	※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止。	環境局	環境・エネルギー対策課
	エコ・ウェイブ・ふくおか会議	市内の主要な事業所・団体で構成され、広く、他の業者や市民に行動の波を広げることを目的に、自ら温暖化防止の取組みを行っています。	<ul style="list-style-type: none"> 本会議（R2.5.19 書面開催） 構成団体：17団体（R3.3月末現在） 	環境局	環境・エネルギー対策課
	エコドライブの普及促進	市民・事業者に対して、エコドライブを普及促進するための啓発等を実施しています。	HPでの啓発	環境局	環境・エネルギー対策課
	防犯灯のLED化事業	<ul style="list-style-type: none"> 市内約44,000基（H23年4月時点）の町内会等が設置管理する防犯灯（主に蛍光灯）をLED化することにより、地球温暖化防止及び水銀等の有害廃棄物の低減に寄与します。 H23年度から取組みを開始し、新設及び建替で、LED防犯灯を設置する町内会等に補助金を交付し、整備を促進しています。 LED化完了時にはH22年度と比較して約60%の電力使用量削減となる見込みです。 	LED防犯灯への建替：433基（R2年度末累計 34,615基）	道路下水道局	道路維持課
温室効果ガス排出量の報告や削減目標設定を求める「地球温暖化対策計画書制度」等の導入検討	事業所省エネ計画書制度の運用	一定規模以上のエネルギーを使用する事業所に自主的・計画的な省エネを促すための事業所省エネ計画書制度の運用をしています。	参加事業所数：39事業所（新規参加5事業所）	環境局	環境・エネルギー対策課
	排出量取引等による仕組みづくり	排出量取引等によるカーボンオフセットに取り組む仕組みについて検討しています。	国の検討状況の情報収集	環境局	環境・エネルギー対策課

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
	森林によるカーボン・オフセット推進事業	オフセット・クレジット（J-VET）制度とは、間伐することで森林が吸収した二酸化炭素を、信頼性あるクレジットとして認証・登録して取引できる制度であり、この制度によって発行されたクレジットは、カーボン・オフセット等の自主的な取組として、企業のCSR活動やオフセット商品などへ活用可能なものです。当事業は、本市が実施した間伐による二酸化炭素吸収量を、オフセット・クレジット制度においてクレジットとして環境省の認証を受け、そのクレジットの取引を行うことにより得た収益を森林保育に環流して森林の整備保全を促進し、地球温暖化防止対策等の環境保全に資するものです。	・売却量：20t-CO ₂	農林水産局	森林・林政課
低炭素社会の構築に向けた情報提供等	地球温暖化問題に関する広報	地球温暖化問題を広く市民一人ひとりに周知するため、市の広報紙等を活用した広報活動を実施しています。 <計画目標等> 実効性の高い普及啓発事業を実施していく。	・市政日より 7/1号同時印刷物の全戸配布実施 ・市内各地域で出前講座「地球温暖化対策」実施：6回/年	環境局	環境・エネルギー対策課
	省エネサポート事業	二酸化炭素排出量が増加している業務部門の省エネ対策として、省エネ対策事例や国等の補助金等を、福岡市が主催する省エネ講習会などで事業者を紹介することで、事業所における省エネ対策を普及促進させるものです。	・省エネセミナー ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止代替として「いつでも見られる省エネセミナー」として省エネ啓発動画を市HP上で発信	環境局	環境・エネルギー対策課
森林の整備・保全と連携した地球温暖化対策	森林によるカーボン・オフセット推進事業（再）	第1章第4節第1項に掲載	—	農林水産局	森林・林政課
市有施設等における省エネの推進	地球温暖化防止に向けた省エネ対策（夏・冬）	エネルギー使用量が多くなる夏期（5/1～10/31）および冬期（12/1～3/31）に重点的な取組みを実施します。 <計画目標等> H25年度を基準年として、R4年度までにエネルギー消費量を8%削減	・夏期の省エネ対策（5/1～10/31） ・夏期の省エネ対策の取組強化（7/1～7/31） ・冬期の省エネ対策（12/1～3/31） ・冬期の省エネ対策の取組強化（12/1～12/31）	環境局	環境・エネルギー対策課
	チャリエコ（共用自転車）の貸出	本庁舎・北別館の職員を対象に自転車を貸し出し、庁用車、バス等から自転車への転換を図ります。尚、自転車は、放置自転車を再利用したものを利用します。 <計画目標等> 職員が外勤するとき、できるだけ徒歩や自転車を使用し、運輸（自動車）部門の二酸化炭素削減に努める。	・チャリエコ（共用自転車）11台 整備 ※使用実績：約1～10台/日	環境局	環境・エネルギー対策課
	福岡市市有建築物の環境配慮整備指針	市有建築物の整備を行う際の環境配慮に関する基本的な考え方などをまとめた「福岡市市有建築物の環境配慮整備指針」を定め、施設整備における省エネ等の環境配慮の推進を図っています。	・同整備指針に沿って設計・施工を実施例）高効率機器の導入、照明機器のLED化、太陽光発電設備の導入等	環境局	環境・エネルギー対策課
	リース方式による旧型蛍光灯のLED化	初期投資が不要になるなどのメリットがあるリース方式により、市有施設における消費電力の高い旧型蛍光灯をLED化します。	・H25年度からH27年度までのLED化本数：45,476本 ・R2年度：リース契約期間継続中	環境局	環境・エネルギー対策課
	市管理照明灯のLED化等省エネ事業	LED化事業 ・市内約35,000基（H24年4月時点）の市が管理する道路照明灯（主に水銀灯）をLED化することにより、地球温暖化防止及び水銀等の有害廃棄物の低減に寄与します。 ・平成24年度から本格的な取組みを開始し、新設及び建替並びに器具交換時にLED道路照明灯を採用しています。 ・LED化完了時には平成23年度と比較して約60%の電力使用量削減となる見込みです。	・道路照明灯LED化事業：739基 ・他事業によるLED化：20,232基 計 20,971基 (R2年度末累計 30,982基)※新設除く	道路下水道局	道路維持課
	ESCO事業	民間の技術力や資金、経営能力を活用して、庁舎等の老朽化した設備を更新するとともに、運転手法等の指導を受けて光熱水費低減及び省エネを図り、低減額の一部を業者へ報酬として支払うESCO事業を実施します。	・平成23年度に福岡市博物館、福岡サンパレスについて、ESCO事業者と契約を締結し、設備機器の改修工事を行い、平成24年度からESCO事業サービスを開始（博物館は令和元年度、サンパレスは令和2年度まで実施）	財政局	アセットマネジメント推進課
	事業所省エネ技術導入サポート事業(ソフトESCO事業)等の利用促進	庁舎等の現状設備での光熱水費低減及び省エネを図るため、民間事業者から運転手法等の指導を受けて光熱水費を低減し、低減額の一部を業者への報酬として支払う省エネルギー診断事業を実施しています。	・事業実施施設：3施設 ・光熱水費削減額 約53百万円 ・市の利益 約44百万円	財政局	アセットマネジメント推進課
エネルギーの効率が良くクリーンな次世代自動車の普及促進	建築物の省エネルギー計画	建築物のエネルギー消費性能の向上を図るため、建築物省エネ法(建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律)に基づき一定規模以上の建築物について、省エネ基準適合義務化に伴う適合性判定制度及び省エネ届出制度を実施しています。	・省エネ計画書の届出：498件 ・適合性判定：5件 (福岡市に提出されたものに限る)	住宅都市局	建築審査課
	低炭素建築物の認定	都市の健全な発展に寄与するために二酸化炭素の発生を抑制することを目的として、エコまち法(都市の低炭素化の促進に関する法律)に基づき建築物の新築等計画の認定を行い、低炭素建築物の普及促進を図ります。	・認定件数：76件	住宅都市局	建築審査課
	低公害車等の率先導入	本市庁用車における低公害車等の率先導入を実施しています。	・市が保有する一般公用車における低公害車及び環境配慮型自動車導入台数：合計627台 (導入率:96.8%)	環境局	環境・エネルギー対策課
	次世代自動車の普及促進(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局	環境・エネルギー対策課
	燃料電池自動車の普及促進	本市公用車として率先導入した燃料電池自動車のリースを継続します。	・本市公用車における燃料電池自動車導入台数：合計2台	経済観光文化局	新産業振興課

第2項 再生可能エネルギーやエネルギーマネジメントシステムなどの導入・活用

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
市有財産等を活用した再生可能エネルギーの率先導入	市有施設における再生可能エネルギー導入推進	エネルギーの有効活用のため、再生可能エネルギーの導入を推進しています。	①太陽光発電 メガソーラー 累計 6施設、発電出力 6,519kW その他 累計189施設、発電出力 2,577kW ②バイオマス発電 廃棄物発電 累計 4施設、発電出力 80,900kW その他 累計 2施設、発電出力 2,099kW ③小水力発電 累計 3施設、発電出力 222kW 累計204施設 発電出力 92,317kW	環境局	環境・エネルギー対策課
	メガソーラー発電の推進	再生可能エネルギーを活用したエネルギーの地産地消を進めるため、メガソーラーを整備しています。	①大原メガソーラー発電所(H24) 発電出力:1,000kW ②蒲田メガソーラー発電所(H25) 発電出力:1,000kW ③青果市場太陽光発電所(H27) 発電出力:1,000kW ④西部水処理センター太陽光発電所(H28) 発電出力:1,320kW ⑤新西部水処理センター太陽光発電所(H28) 発電出力:1,000kW ⑥蒲田第2メガソーラー発電所(R1) 発電出力:1,199kW 累計 6施設 発電出力6,519kW ※()は発電開始年度	環境局	環境・エネルギー対策課
	スマートハウスプロジェクトの推進	エネルギーマネジメントシステムを備えたスマートハウスを体感してもらうため、スマートハウス展示場を運営しています。	・R2年度来場者数 18人	環境局	環境・エネルギー対策課
市民や事業者による再生可能エネルギー等の導入促進	住宅用エネルギーシステムの導入促進(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局	環境・エネルギー対策課
福岡の特性を活かした新たな都市型再生可能エネルギー等の活用	市有施設屋根貸し太陽光発電事業	太陽光発電事業を行う事業者により市有施設の屋根の使用を許可し、再生可能エネルギーの導入を推進しています。	①学校施設 累計 6施設 ②体育施設 累計 4施設 ③交通施設 累計 2施設 累計 12施設	環境局	環境・エネルギー対策課
	ごみ焼却熱の有効利用	クリーンパークに発電設備を設け、ごみの焼却熱を利用し発電した電力を、所内や西市民プール等の周辺施設で利用し、余剰電力を電力会社へ送電しています。	・総発電電力量: 138,566MWh ・総売電電力量: 80,080MWh ※福岡市臨海工場と西部工場の合計値	環境局	工場整備課
	地下鉄車両減速時のエネルギー有効利用	地下鉄車両の減速時に、モーターを発電機として使用することで車両の運動エネルギーを電気エネルギーに変換(回生発電)して、他の電車の加速時や駅の設備に再利用しています。さらに、省エネ型の主回路制御(VVVF)を導入することで、回生率を向上させ、消費電力を削減しています。	・回生発電量: 14,990,316kWh/年	交通局	車両課
	農業用ため池貸し太陽光発電事業	太陽光発電事業を行う事業者により農業用ため池の堤体法面や水面の使用を許可し、太陽光発電に活用していただいています。	・農業用ため池1箇所(西区大字徳永 蓮花寺池)	農林水産局	農業施設課
避難所などにおける再生可能エネルギー等の導入促進	避難所などにおける再生可能エネルギー導入促進	避難所である市有施設に再生可能エネルギーの導入を推進しています。	①公民館施設 累計 49施設 ②学校施設 累計 92施設 累計141施設	環境局	環境・エネルギー対策課
住宅用エネルギーシステムの導入促進	住宅用エネルギーシステムの導入促進(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局	環境・エネルギー対策課

第3項 低炭素型の都市構造及び交通体系の構築

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
地域特性を活かしたスマートコミュニティの形成促進	アイランドシティ環境共生都市づくりの推進(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	港湾空港局	分譲推進課 事業管理課
地域冷暖房の普及促進	エネルギーの面的利用の促進	都市開発などの機会を捉え、都市計画制度を活用し面的な省エネ・省CO2を図るための検討を行っています。	・他都市の情報収集等 ・関連部署への情報提供等	環境局	環境・エネルギー対策課
公共交通幹線軸の強化	地下鉄七隈線延伸事業	地下鉄七隈線は、平成17年2月に橋本～天神南間を開業しましたが、都心部区間が未整備で残され、その機能を充分に果たすまでには至っていません。 全市的な交通課題や環境問題に対応するとともに、鉄道ネットワークの強化による利便性の向上を図るため、早期実現へ向けた取組みを進めています。	・土木本工工事や軌道工事、車両製作を引き続き進めるとともに、駅建築や設備に関する工事を順次契約、着手。	交通局	計画課
	鉄軌道系交通機関の整備	鉄軌道などの公共交通機関のネットワーク強化及び利用促進のため、地下鉄箱崎線(2号線)と西鉄貝塚線との直通運転化に向けた調査・検討を行っています。	・既存の施設をできる限り活用して初期投資費を抑えつつ、現状の利便性を損なわない事業スキーム案の事業性評価。	住宅都市局	交通計画課
公共交通の利便性向上と利用促進	ノーマイカーウィークデーの推進	自動車交通量の更なる抑制を図るため、祝・祭日を除く全ての平日を「ノーマイカーウィークデー」とし、市民・事業者に対して不要不急のマイカー運行の自粛や公共交通機関の利用等呼びかけています。	・HPでの啓発	環境局	環境・エネルギー対策課
	「SUBWAY DIET」事業	「駅まで歩く、駅から歩く。」をスローガンに、地下鉄利用による環境貢献や健康づくりなど、地下鉄を含むライフスタイルを提案するプロモーション活動を行っています。	・「SUBWAY DIET WALKING」の一環として沿線ウォーキングマップ「ちかまるマップ」の配布や「ちかまるWebマップ」の提供 ・民間企業等とのタイアップ	交通局	営業課
	地下鉄ICカード「はやかけん」サービス開始	平成25年3月23日より、交通系ICカードの全国相互利用サービスを開始しました。 (ICカード「はやかけん」交通系ICカード全国相互利用開始(Kitaca・PASMO・Suica・manaca・TOICA・PiTaPa(電子マネーを除く)・ICOCA・nimoca・SUGOCAとの10者間)) ICカードは、カードに入金すれば何度でも繰り返し利用でき、使い捨てではない環境にやさしい乗車券です。	・R2年度発行枚数：51,661枚 (ANAはやかけん含む/福祉ICカード・再発行分を除く)	交通局	営業課
	「はやかけん」を使ったパーク&ライド優待サービス	「はやかけん」の利用者を対象に、時間貸駐車場の駐車料金が「はやかけん」内に記録された【地下鉄利用(降車)の履歴に応じて自動で優待(割引)】されます。これは、マイカーから公共交通機関への乗り換えを誘導することにより、自動車の温暖化ガスの排出削減を目指すとともに、都心部の渋滞緩和を目指すものです。	・10駅13箇所(R3年3月末) 空港線：姪浜(3か所)、祇園・大濠公園・博多 箱崎線：千代県庁口・馬出九大病院前 七隈線：橋本・梅林・茶山・別府(2か所)	交通局	営業課
	「はやかけん」を使ったレール&カーシェアサービス	地下鉄をご利用された「はやかけん」を、駅近くの対象ステーションに配備されたカーシェアリング車両(タイムズカープラス)にかざすと、利用料金が優待される「はやかけん レール&カーシェア」サービスを平成27年5月から開始しました。 これは、パーク&ライド同様、マイカーから公共交通機関への乗り換えを誘導し、自動車の温暖化ガスの排出削減を目指すとともに、都心部の渋滞緩和を目指すものです。 また、福岡市内すべてのカーシェアが「はやかけん」でご利用できるサービスも行っていきます。	・5駅13箇所(R3年3月末) 空港線：姪浜(6か所) 箱崎線：馬出九大病院前(3か所)・箱崎九大前(2箇所) 七隈線：梅林駅・橋本駅	交通局	営業課
	商業施設等と連携したパーク&ライドの実施	都心部の交通混雑の緩和や公共交通の利用促進を目的として実施しているものです。	・イオンモール香椎浜等8施設で継続実施	住宅都市局	交通計画課
エリアマネジメント団体等との共働による公共交通の利便性向上や利用促進に向けた啓発活動	都心部の交通混雑の緩和や公共交通の利用促進を目的として、エリアマネジメント団体と共働で実施するものです。	・フリンジパーキング実証実験(都心部周辺駐車場でマイカーを受け止め、公共交通に乗り換えて都心部に行く取組み)を継続実施。	住宅都市局	都心交通課	
道路交通の円滑化	自動車専用道の整備、幹線道路の整備、ボトルネック箇所の改善(交差点改良やバス停カットの整備など)、連続立体交差事業の推進	都心部や活力創造拠点、市民生活の核となる広域拠点や地域拠点などの機能強化を支える道路整備を進めるとともに、交差点改良やバス停カットの整備などを行うことで、交通量の分散や環境負荷の低減を進めるものです。 【目標値】 都市計画道路の整備率 R2時点:84.7%→R6目標:86.1%	・都市交通の円滑化を図るとともに、都市の骨格形成や貴重な都市空間を創出するための都市計画道路の整備 ・都市計画道路整備 延長:4.3km 整備率:84.7%	道路下水道局	道路計画課

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度実績	局・区	課
自転車移動しやすい交通環境づくり	自転車活用の推進	環境負荷の低減や交通混雑の緩和などのメリットがある自転車利用について、自転車利用環境を向上させるとともに、自転車の適正な利用を促進するために「福岡市自転車活用推進計画」を策定し、日常利用だけでなく、シェアサイクルや観光、スポーツなど様々な分野でも自転車を活用し、自転車活用の施策を総合的に進めていくもの。	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年度自転車通行空間整備延長：約6.8km ・自転車の交通安全教室の開催回数 39回 ・自転車放置率 1.6% ・シェアサイクルのポート設置数 370か所 	道路下水道局	自転車課
	自転車通行環境の創出（自転車通行空間の整備）	自転車の利用促進のため、また、交通事故削減のために、都心部に向かう道路、及び最寄りの鉄道駅に向かう道路を中心に自転車通行空間の整備を進めています。 <計画目標等> 自転車通行空間の整備延長 R6年度：160km	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年度自転車通行空間整備延長：約6.8km（累計約122.7km） 	道路下水道局	自転車課
	人と自転車が共生できるまちづくり事業	健康的で、環境にもやさしい交通手段である自転車の利用を進めるとともに、迷惑な路上駐輪の解消、利用者のマナーの向上などに取り組み自転車と歩行者、地域住民が快適に共生できるまちづくりをめざします。 <計画目標等> [自転車放置率の目標値（中央区）] 2021年（R03）2.7% 2020年（R02）2.7% 2019年（H31）2.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・放置自転車の撤去強化・駐輪場の整備・改良 ・街頭指導員等による啓発活動・迷惑駐輪防止 ・適正利用推進 ・自転車放置率（中央区） 2.1% 	中央区 道路下水道局	地域整備課 自転車課
環境に配慮した自動車の普及促進	次世代自動車の普及促進（再掲）	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局	環境・エネルギー対策課

第1項 環境行動を担う人材の育成

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
環境教育・学習に携わる市職員・教員の育成	子ども向け環境情報ウェブサイト「エコッパと学ぼう!子ども環境局」の運用	環境に関する問題を楽しく学習できるように、小・中学生や学校の先生方を対象とした情報を提供しています。 http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyoku/kids/ (平成19年9月開設)	・小学校での取組み事例や、幼児の環境学習実践事例等の掲載による、子どもや指導者を対象とした環境学習の支援【アクセス件数】 R2年度: 3,709件(312件/月) 累計(H19年度~): 235,540件	環境局	環境政策課
地域におけるリーダーの育成	区独自事業・西区(環境をまもる人づくり地域づくり事業)	市民主体の環境活動を推進するため、西区地域環境サポーターを発掘・育成します。また、西区地域環境サポーターと共働して、環境のまち西区の実現をめざします。	①地域環境サポーター養成講座修了者: 11人(H16~R2年度で計288人が受講) ②地域環境サポーターによる活動 ・活動団体数: 6団体 ・実施回数: 65回 ・参加者数: 1,101人	西区	生活環境課
	区独自事業・南区(知って得する環境セミナー)	地域の役員の高齢化や関係の希薄化などにより、環境部門における活動の担い手不足が深刻化していることを背景に、一般市民を対象に幅広い環境問題について楽しく体験学習することで、地域環境活動を担う人材の発掘・育成を推進します。	・まだ食べられるのにすてられてしまう「食品ロス」をテーマに、外部講師を招き、エコ料理教室を計画していたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため未実施。	南区	生活環境課
	生物多様性ふくおか戦略の推進(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	環境局	環境調整課
学校における環境教育・学習	学校における環境教育の推進(特色ある教育推進事業)	小・中学校等において実施している「特色ある教育推進事業」の中で、環境教育をとりあげ、身近な自然の把握と保全活動、空き缶リサイクルなどのボランティア活動などに取り組んでいます。 <計画目標> ・環境教育を事業の計画に取り入れていない学校に対して、その取組を計画するよう、指導する。 ・環境を「特色ある教育」の事業計画としている学校に対して、その内容の充実を図るための啓発を行う。	・特色ある教育推進事業において、環境教育を取り上げて学習している学校 小中学校213校中、117校(54.9%)	教育委員会	小学校教育課 中学校教育課
	小学校における環境教育	今日的な教育の課題といわれるものに対して、教科等の特性に合わせた展開の中で、各局作成の副読本等を利用して環境教育を実施しています。 <計画目標等> 多くの学校が環境の大切さを学ぶ環境教育への取組を実践する。	・各学校の環境教育の際、各局作成の副読本を必要に応じて活用した。 ・「科学わくわく出前授業」の中で、理科や総合的な学習の時間に大学教授、気象台職員、九州電力等が、環境の大切さを伝える環境教育を実施。 出前授業実績: R1小学校40校、中学校2校 R2小学校0校、中学校0校 ※「科学わくわく出前授業」については、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。	教育委員会	小学校教育課 中学校教育課
	自然教室開催(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	教育委員会	小学校教育課 中学校教育課
	環境学習支援事業	小中学校等の環境学習に対する支援事業を実施しています。 <計画目標等> 小学4年生を対象とする環境学習の全校実施。環境委員会研修の実施増	・環境学習支援実施: 62校、5,919人	環境局	家庭ごみ減量推進課
あらゆる年代に対する環境教育・学習	環境わくわく出前授業	「環境教育・学習人材リスト」登録者を学校等へ派遣し、学校等における環境学習を支援・推進するもの。 また、教職員等の指導者向け講座を実施するもの。	環境わくわく出前授業(講師派遣事業)実施校数: 30校 環境わくわく出前授業(指導者向け講座)出前講座: 7回	環境局	環境政策課
	出前講座	地域・学校・企業等を対象に「ごみ・環境」をテーマとした出前講座を実施しています。	・テーマ: 17テーマ ・開催数: 94回 ・参加者: 延べ3193人	環境局	環境政策課
	子どもエコクラブ	幼児(3歳)から高校生を対象に地域や学校で環境保全について実践活動を行うグループの結成を呼びかけ、支援しています。 <計画目標等> 子どもの環境保全・活動に対する意識の向上	・登録クラブ数: 29クラブ ・会員数: 437人(サポーター含む)	環境局	環境調整課
	生物多様性ふくおか戦略の推進(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	環境局	環境調整課
	海の中道青少年海の家(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	子ども未来局	子ども健全育成課
	植物園(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	住宅都市局	植物園
	動物園の環境教育学習プログラム(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	住宅都市局	動物園
	動物情報館・子ども動物園(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	住宅都市局	動物園
	もへもへらんど油山牧場(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	農業振興課
	油山市民の森(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	森林・林政課
	油山自然観察の森(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	森林・林政課
	背振少年自然の家(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	子ども未来局	子ども健全育成課
	今津リフレッシュ農園(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	農業振興課
	立花寺緑地リフレッシュ農園(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	農業振興課
	花畑園芸公園(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	農林水産局	農業振興課

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度 実績	局・区	課
	生ごみリサイクル促進事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	家庭ごみ減量推進課
	区独自事業・南区(南区出前講座)	南区の自然や循環型社会の現状などを認識してもらうことにより、市民による自主的な環境活動の促進を図ります。	・ごみの分別とリサイクルをテーマとして、一般市民等を対象に3回実施 受講者：61人	南区	生活環境課
	区独自事業・南区(温暖化防止ワークショップ)	公民館等でエコバッグ使用や省エネでお得な生活スタイルを学ぶワークショップ(座学、体験学習等)を実施し、地域からの温暖化対策を進めるもの。	・食品ロスやリサイクル等をテーマに一般市民を対象に5回実施 受講者：113人	南区	生活環境課
	区独自事業・西区(西区「ごみとリサイクル」出前講座)	ごみ・リサイクルや環境美化活動をテーマに出前講座を実施しています。	・福岡市のごみ収集やリサイクル、不法投棄の現状などをテーマに実施。 3回実施 受講者：109人	西区	生活環境課 西部出張所
	保健環境学習室「まもるーむ福岡」	保健環境研究所1階に保健環境学習室「まもるーむ福岡」を設置し、科学実験や生きものの観察会など、楽しみながら環境について学ぶ講座等を開催しています。 【展示学習ゾーン】 ・くさき・みず・いきもの等コーナー(タッチパネル式クイズ、パネル展示) ・教材貸出(書籍等) ・活動展示コーナー(環境保全活動を行う団体・個人の取り組み等を紹介) 【体験学習ゾーン】 ・ミラクルラボ(実験教室) ・映像シアター「ガイア」(映像クイズ) ・カプトガニやヒナモロコ等水生生物の展示 【週末イベント】 各種専門家による講座、理科応援教室、ラボで体験、生きもの観察会等	・来館者数：4,794人 【個人・団体別】 個人：4,219人 団体：575人 【大人・子ども別】 大人：2,473人 子ども：2,321人 ・教材等貸出 620人・1620件 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4/4～5/17は臨時休館	環境局	環境科学課
NPO等交流支援事業(再掲)	第1章第2節第3項に掲載	—	環境局	環境科学課	
大学等との連携による環境人材の育成	区独自事業・城南区(福岡大学リサイクルマーケット)	福岡大学の卒業生や地域住民の不用になった家具や電化製品等を新入生に無償で提供するリサイクルマーケットを大学・市民団体・行政の共働で開催し、あわせてごみや資源物の出し方等の啓発を行っています。	※R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	城南区	生活環境課
環境活動を行う企業の育成	エコアクション21取得支援事業	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	環境政策課
	環境・エネルギー対応資金の融資(対象：市内で事業を営む中小企業者の方)	市民の暮らしの質の向上と持続可能な地域経済社会の構築を目的に中小企業者に対する融資を行っています。 ・環境・エネルギー対応資金 対象：新エネルギー又は省エネルギー設備、低公害車を導入する中小企業者や公害の防止に必要な施設の設置・改善を行う中小企業者	・R2年度末融資残高：1,238千円 ・R2年度新規融資：融資実績なし	経済観光文化局	経営支援課
	PRTR制度(再掲)	第1章第1節第2項に掲載	—	環境局	環境保全課
	公害防止総点検運動	公害防止法令の適用を受ける工場・事業場に対する施設総点検実施の要請、大規模工場・事業場の監視・指導を実施しています。大規模発生源をもつ工場・事業場には法律の規制基準よりも厳しい基準等を設定し、事業者これらの遵守を要請するため、公害防止協定を締結しています。	※R2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、未実施	環境局	環境保全課
	社会貢献優良企業(環境配慮型事業所)優遇制度	企業の社会や市・地域への貢献活動を評価し、当該社会貢献活動の促進を目的として、社会貢献度の高い(ISO14001またはエコアクション21(EA21)の認証を取得している)市内に本店のある地場企業に対して福岡市との契約において優先指名する等の優遇制度(社会貢献優良企業)を設けています。	・環境配慮型事業所の認定企業数：224社 「令和元・2・3年度福岡市・水道局・交通局競争入札有資格者名簿」に記載企業 ISO14001：108社(R1：96社、R2：12社) EA21：116社(R1：97社、R2：14社)	環境局	環境政策課
市内に居住する外国人等との共働による環境行動の推進	区独自事業・南区	近年、増加傾向にある外国人居住者(ベトナム人、ネパール人等)と周辺住民との間に生じているトラブルのうち、ごみ出しマナーについて、区内の日本語学校学生を対象とした出前講座を実施したり、母国語によるごみ出しルールのチラシの配布、地域の環境美化活動への参加の呼び掛けなど、地域の清潔で快適な住環境実現のため、外国人居住者と地域との交流を推進します。	・区内の日本語学校学生(ベトナム人、ネパール人等)を対象とした、ごみ出しルールの出前講座を計画していたが、R2年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、未実施。 代わりに、自校でごみ出しルールの説明会を予定していた日本語学校1校に対し、母国語によるごみ出しルールのチラシや啓発物を配布した。	南区	生活環境課

第2項 地域環境力の向上

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
環境に関する多様な人材の把握とそのネットワーク化	環境教育・学習人材リスト	学校、公民館等における市民の自主的な環境学習を支援するため、環境カウンセラー、環境に関する知識・経験を備えた方々の講師情報をとりまとめ、「環境教育・学習人材リスト」をホームページで公開しています。	・環境教育・学習人材リスト登録者数：70人	環境局	環境政策課
	あすみんホームページの運用	福岡市NP0・ボランティア交流センター「あすみん」ホームページで、NPOやボランティア団体の紹介などボランティアに関する情報や、団体が活用できる助成金に関する情報を提供しています。 https://www.fnvc.jp/	・内容を随時更新 アクセス件数：166,290件 (13,857件/月)	市民局	市民公益活動推進課(福岡市NP0・ボランティア交流センター)
	区独自事業・西区(環境をまもる人づくり地域づくり事業)(再掲)	第2章第1節第1項に掲載	—	西区	生活環境課
	区独自事業・南区(知って得する環境セミナー)(再掲)	第2章第1節第1項に掲載	—	南区	生活環境課
地域における環境活動の情報収集・整理	環境教育・学習人材リスト(再掲)	第2章第1節第2項に掲載	—	環境局	環境政策課
地域の環境保全活動への参加促進	緑の活動支援事業(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	住宅都市局	一人一花推進課
	立花山・三日月山ふれあいの森づくり事業(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	東区	企画振興課
	室見川水系一斉清掃(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	早良区 西区	生活環境課 生活環境課
	区の魅力づくり事業・中央区(花いっぱい運動)(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	中央区	総務課
	区独自事業・南区(まちのよかとこ再発見事業)(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	南区	企画振興課
	環境フェスティバルふくおか	環境に優しい行動の輪を広げていくための普及・啓発を目的とした楽しみながら学べる参加体験型のイベントを開催しています。 <計画目標等> 来場者数:延べ50,000人 市民のライフスタイルが環境に配慮したものとなることを目指す。	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止	環境局	環境政策課
活動のネットワークづくり	福岡市地球温暖化対策市民協議会(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局	環境・エネルギー対策課
	アイランドシティ環境共生都市づくりの推進(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	港湾空港局	分譲推進課 事業管理課
	博多湾NEXT会議(再掲)	第1章第2節第3項に掲載	—	港湾空港局	みなの環境政策課
	和白干潟保全のつどい(再掲)	第1章第2節第3項に掲載	—	港湾空港局	みなの環境政策課
環境市民ファンドなどを活用した自発的活動の支援	3Rステーション事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	家庭ごみ減量推進課
	地域集団回収等報奨制度(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	家庭ごみ減量推進課
	拠点での資源物回収事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	家庭ごみ減量推進課 収集管理課
	不法投棄対策(再掲)	第1章第3節第2項に掲載	—	環境局	産業廃棄物指導課
	福岡市地球温暖化対策市民協議会を通じた取組(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局	環境・エネルギー対策課
	ECOチャレンジ応援事業(交通系ICカードポイント付与)(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局 交通局	環境・エネルギー対策課 営業課
	住宅用エネルギーシステムの導入促進(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局	環境・エネルギー対策課
	電気自動車購入等助成(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局	環境・エネルギー対策課
	環境フェスティバルふくおか(再掲)	第2章第1節第2項に掲載	—	環境局	環境政策課
	エコ発する事業	市民団体やNPO法人などが自ら発意・企画し、主体的に行う環境活動への支援を行うとともに、団体間のネットワークづくりを進めています。 対象事業 ・ごみ減量・リサイクル ・環境学習・啓発 ・環境保全 ・環境美化 等	・補助件数：5件 ステップアップコース：4件 ピギナーコース：1件 U-30コース：0件	環境局	環境政策課
	エコルーム	環境保全活動を行う団体への支援の一つとして、クリーンパーク臨海に環境NPO等活動拠点支援施設「エコルーム」を設置し、活動拠点スペースとして提供しています。	・3団体が月2回程度利用	環境局	環境政策課
	地域における環境研究・技術力強化	環境新技術の研究開発支援 福岡水素エネルギー戦略会議への参画による水素利用技術の研究開発など、環境新技術の研究開発を支援します。	・福岡水素エネルギー戦略会議への参画 ・「グリーン水素」を活用した燃料電池電源車の給電実証等を実施	経済観光文化局	新産業振興課

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度 実績	局・区	課
ふくおかの環境技術・ノウハウの市民への浸透	環境局ホームページの運用	環境局ホームページ「福岡市の環境 学ぼう！つなごう！ふくおかの環境」で、環境に関する情報を収集・提供しています。 http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/	・内容を随時更新 アクセス件数：110,251件 (9188件/月) 累計(H16年度～)：4,606,761件	環境局	環境政策課
	下水道PR事業	・ほんプラザ2階(博多区祇園町向島ポンプ場)下水道PRコーナー 下水道・河川に関するパネル等を常設展示し、子どもから大人まで気軽に下水道の仕組みなどを知ることができます。 ・下水道フェア 夏休みの期間中に、キャナルシティ博多、ほんプラザにて下水道について理解や関心を深めていただくことを目的に開催しています。 (下水道授業ステージ、水質実験・微生物観察などの体験コーナー) ・夏休み下水道たんけん隊 日頃接する機会がない水処理センターで水処理の過程等を見学し、生活排水等がどのように処理されているかを確かめ、下水道の役割について認識を深めていただくことを目的に実施しています。	・下水道フェア、夏休み下水道たんけん隊 ※R2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	道路下水道局	下水道経営企画課

第1項 環境配慮のための手続きや規制等の整備・運用

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
環境影響評価の推進	福岡市環境影響評価制度	環境への影響が著しいものとなるおそれがある規模が大きい事業については、福岡市環境影響評価条例等の規定により環境影響評価の対象事業となるため、事業者自らが制度に基づき環境への影響を調査・予測・評価するとともに環境保全措置を検討することで環境に配慮されたものとなります。 <計画目標等> 福岡市環境影響評価条例の運用や、環境影響評価法及び福岡県環境影響評価条例への対応を適切に行い、事業がいずれの制度の対象となった場合も事業者が環境への配慮を十分に検討するように誘導する。	・事後調査 ①周船寺川都市基盤河川改修事業 ②福岡都市高速鉄道3号線(天神南～博多間) ③西鉄天神大牟田線雑餉隈駅周辺連続立体交差事業 ④九州大学箱崎キャンパス跡地等の基盤整備事業 ⑤福岡空港回航翼機能移設事業	環境局	環境調整課
	アイランドシティ整備事業環境監視(事後調査)	アイランドシティ整備事業について、環境影響評価実施要綱及び公有水面埋立法に基づき実施した環境影響評価に基づく環境監視(事後調査)を実施し、環境の保全に努めています。	・工事中の水質(濁り)について環境監視を実施した。 <結果> 特段の対策を必要とする変化はみられなかった。	港湾空港局	みなと環境政策課
福岡市環境配慮指針の適切な運用	福岡市環境配慮指針などの運用による各種開発事業に際しての環境への配慮の推進	「福岡市環境配慮指針」とは、公共の都市基盤整備事業や民間の開発事業の「構想」「計画」「実施」にあたり、環境に配慮すべき事項を具体的に示し、これらの事業が環境と調和のとれたまちづくりへと結びつくように誘導するための指針です。 以下の各種開発事業の許認可に際して、環境保全上の見地から意見を述べ、事業の環境への配慮を促進します。 ・都市計画法第29条の規定による開発行為許可 ・建築基準法第48条および第51条の規定による許可 ・福岡県環境保全に関する条例による許可等 ・砂利採取法および採石法による採取計画の認可 ・独立行政法人都市再生機構法第14条による協議 ・森林法第10条の2の規定による開発行為許可 ・福岡市土砂埋め立て等による災害発生の防止に関する条例第4条による埋立許可 ・大規模小売店舗立地法に基づく騒音審査 <計画目標等> 公共の都市基盤整備事業や民間の開発事業が環境と調和のとれたまちづくりへと結びつくように誘導する。	・都市計画法第29条の規定による開発行為許可：69件 ・建築基準法第48条および第51条の規定による許可：6件 ・福岡県環境保全に関する条例による許可等：0件 ・砂利採取法および採石法による採取計画の認可：2件 ・独立行政法人都市再生機構法第14条による協議：0件 ・森林法第10条の2の規定による開発行為許可：2件 ・福岡市土砂埋め立て等による災害発生の防止に関する条例第4条による埋立許可：3件 ・自然公園法及び福岡県自然公園条例に係る意見：5件 ※許認可申請に際しての相談件数のため、実際の許認可数とは異なる。 <その他> ・大規模小売店舗立地法に係る騒音審査：9件	環境局	環境調整課
	環境に影響を及ぼすおそれのある事業に係る環境への配慮の促進	市が環境に影響を及ぼすおそれがある事業を立案及び実施するにあたっては、環境関係法令や福岡市環境配慮指針などを周知して、環境への配慮を促進しています。 (根拠条例・規則等) ・福岡市環境基本条例第8条第2項 ・福岡市環境調整会議規則第2条 ・環境に影響を及ぼすおそれがある事業に係る環境への配慮に関する要綱 ・環境に影響を及ぼすおそれがある事業に係る環境への配慮に関する事務取扱要領	・環境に影響を及ぼすおそれのある事業に対する意見：6件	環境局	環境政策課
アイランドシティ環境配慮指針の適切な運用	アイランドシティ環境配慮指針	環境と共生した先進的なまちづくりを実現するため、緑化の推進や省エネルギー設備・新エネルギーシステムの導入など環境に配慮した施設整備を誘導するための指針として、平成15年11月に策定しました。 指針策定後の社会状況の変化などをふまえて、内容の見直しを行い、平成24年3月に指針の改定を行いました。 <計画目標等> 先進的な「環境共生都市」の実現に向けて、アイランドシティ内のすべての施設・空間を対象に、以下の5つの目標を掲げ、それぞれに対応した環境配慮対策の導入を誘導していく。 ・豊かな自然環境と共生するまちの創造 ・ストップ・ザ・温暖化のまちの創造 ・人と環境にやさしい交通を取り入れたまちの創造 ・水や資源を活かすまちの創造 ・地域で支える、持続可能なまちの創造	・開発事業者との協定締結：1件 ・施設整備計画書(環境配慮対策の実施状況記載)の届出受理：34件 ・環境配慮に関する開発事業者との協議、調整	環境局	環境調整課
特定施設などに対する排出規制の遵守	公害防止管理者制度	「特定工場における公害防止組織の整備に関する法律」に基づき公害防止統括者及び公害防止管理者等の選任等に関する届出の受理及び指導を行っています。	・特定工場数：34工場(R2年度末)	環境局	環境保全課
建築物総合環境性能評価制度(GASBEE制度)の運営	建築物環境配慮制度	建築物が環境に与える負荷を低減するため、新築等の際に建築主に「建築物環境配慮計画書」の届出を求めるものです。 また、市はホームページ等でその計画概要を公表します。 <制度開始> (H19.10.1)	・届出件数：37件	住宅都市局	建築審査課

第2項 市民・事業者の自主的な活動等に対する支援

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
各種基金(ファンド)の活用	福岡市事業系ごみ資源化推進ファンド(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
	3Rステーション事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	家庭ごみ減量推進課
	地域集団回収等報奨制度(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	家庭ごみ減量推進課
	拠点での資源物回収事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	家庭ごみ減量推進課
	不法投棄対策(再掲)	第1章第3節第2項に掲載	—	環境局	産業廃棄物指導課
	福岡市地球温暖化対策市民協議会を通じた取組(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局	環境・エネルギー対策課
	ECOチャレンジ応援事業(交通系ICカードポイント付与)(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局 交通局	環境・エネルギー対策課 営業課
	住宅用エネルギーシステムの導入促進(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局	環境・エネルギー対策課
	電気自動車購入等助成(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局	環境・エネルギー対策課
	生物多様性ふくおか戦略の推進(再掲)	第1章第2節第2項に掲載	—	環境局	環境調整課
	環境フェスティバルふくおか(再掲)	第2章第1節第2項に掲載	—	環境局	環境政策課
	エコ発する事業(再掲)	第2章第1節第2項に掲載	—	環境局	環境政策課
	NPO等交流支援事業(再掲)	第1章第2節第3項に掲載	—	環境局	環境科学課
	事業系ごみ減量再資源化指導(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
	事業系ごみ資源化情報発信事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
	資源物回収協定制度(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
	事業系古紙地域回収支援モデル事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
	事業系ごみ資源化技術実証研究等支援事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
	事業系一般廃棄物資源化施設の整備支援(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
	古紙分別保管場所等整備支援(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
	古紙分別回収車両購入支援(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
	事業系ごみの資源化調査(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
	工場での古紙類の回収(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
福岡市事業系ごみ資源化推進ファンド(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課	
庁舎等ごみ減量(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課	
水源かん養林などの管理・育成に対する支援	水源林ボランティアとの共働	水源林保全活動に必要な知識・技術などを修得した水源林ボランティア(市民ボランティア)と共働して、曲淵ダム・長谷ダムにおける水源林保全活動や水源林の大切さを市民にPRする広報活動、筑後川水源地域との交流活動などを行います。	・水源林ボランティアの水源林保全活動への支援 活動回数：33回 活動人数：延べ443人 ・水源林ボランティアへの研修等の実施 ※R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	水道局	流域連携課
表彰・助成	福岡市環境行動賞	地球温暖化防止やごみ減量・リサイクルなどに先進的・継続的に取り組み環境保全・創造に高い水準で貢献し、顕著な功労・功績のあった個人・団体・学校・事業者を表彰するとともに、それらの模範的な活動を広く市民に知らせていきます。※H19年度に「環境保全功労者表彰」「ごみ減量・再資源化優良事業者表彰」「環境美化・リサイクル推進功労者表彰」を統合。	・表彰式：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 表彰者：〔大賞〕1件 〔最優秀賞〕4件 〔優秀賞〕6件、〔特別賞〕1件 〔奨励賞〕表彰状12件、感謝状57件 ※表彰対象者の募集は令和元年度 ・募集期間：R1.9.2～R1.12.20 ・応募件数：90件	環境局	環境政策課
	エコ発する事業(再掲)	第2章第1節第2項に掲載	—	環境局	環境政策課
	河川愛護活動支援金	河川の清掃及び除草等河川環境の浄化並びに親水活動等の河川愛護活動を組織的に行う団体に対して支援金を交付しています。(S45年度～)	・活動団体数：9団体	道路下水道局	河川課
	治水池環境美化活動支援金	治水池環境の保全に協力し、治水池の清掃及び除草等の治水池の美化活動を行う団体に対して支援金を交付しています。(H18年度～)	・活動団体数：8団体	道路下水道局	河川課
福岡市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の推進	環境保全に向けた福岡市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の推進	平成28年度に策定した「福岡市地球温暖化対策実行計画」の事務事業編において、市役所自らの事務及び事業に関し、市民等に率先して温室効果ガスの排出削減等、環境負荷の低減を図ることを目的としたもの。 ＜計画目標等＞ 市役所業務全般におけるエネルギー消費量について、基準年度と比較して8%削減する。 目標年度：2022年度 基準年度：2013(H25)年度	・H28.12月に「福岡市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」を策定し、計画に基づき、自ら事業者として、温暖化対策に取り組んでいる。 ・市は脱炭素社会の実現をめざし、2040年度に向けてチャレンジすることをR2.2月に表明し、9月に計画改定に着手することを議会へ報告し、検討を進めた。	環境局	環境・エネルギー対策課
	地球温暖化防止に向けた省エネ対策(夏・冬)(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局	環境・エネルギー対策課

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度 実績	局・区	課
	チャリエコ(共用自転車)の貸出(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局	環境・エネルギー対策課
	福岡市市有建築物の環境配慮整備指針(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	環境局	環境・エネルギー対策課
	市庁舎におけるごみ減量・リサイクルの推進	事業者としての率先実行という観点から、市庁舎における古紙回収、大型シュレッダーを利用した機密書類の再資源化、空きびん・ペットボトルの回収を実施しています。 また、平成14年度からは、蛍光灯の回収を行っています。 ・古紙回収：新聞、段ボール等の回収、機密書類の再資源化 ・空きびん、ペットボトル回収 ・廃蛍光灯回収	・古紙回収量：1,723 t (機密書類処理量：457 t) ・空きびん回収量：6 t ・ペットボトル回収量：16 t ・廃蛍光灯・廃乾電池回収量：9 t	環境局	事業系ごみ減量推進課
	工場での古紙類の回収(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	事業系ごみ減量推進課
環境に配慮した契約	福岡市庁用自動車の低公害車の推進	庁用自動車を新規に導入又は更新する場合は、福岡市環境保全実行計画及び福岡市グリーン購入ガイドライン等に基づき、低公害車等を導入することとしています。	・R2年度購入台数：12台 全て低公害車等を購入	財政局	自動車管理事務所
	ESCO事業(再掲)	第1章第4節第1項に掲載	—	財政局	アセットマネジメント推進課
	福岡市電力の調達に係る環境配慮方針	福岡市が行う電力の調達契約の競争入札の実施に際し、環境に配慮した電力調達契約を締結するために必要な事項を定め、環境負荷の低減を図っています。 (根拠法令・計画等) ・国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律(環境配慮契約法) ・福岡市地球温暖化対策実行計画	・R2年度方針適用実績：19契約 本庁舎、清掃工場、水処理センター、浄水場等	環境局	環境・エネルギー対策課
環境経営システムの導入と実践	環境保全の取組み	水道局では、環境に配慮した事業運営をより確実に、また継続的に実施していくことを目的に、平成14年10月から平成26年5月まで国際規格であるISO14001の認証を受けて環境配慮活動を実施しました。認証返上後も、構築した環境マネジメントシステムを継続し活動を行っています。 <計画目標等> 主な目標 (1)事業活動における環境負荷軽減 (2)節水 (3)水源地域の森林保全 (4)事務所活動における省エネ・省資源	・浄水場の電気使用量削減や漏水防止事業などの節水施策の実施、水源かん養林の整備、庁舎電気使用量の削減などにより環境負荷軽減を図った。	水道局	総務課
	環境保全の取組み	道路下水道局西部水処理センターでは、平成12年度に環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、環境に配慮した管理運営を行っています。平成13年2月から平成27年2月までは、国際規格であるISO14001の認証を受けて環境配慮活動を実施し、EMSの改善と定着に効果がありました。 <計画目標等> 水処理センターではEMSにより、放流水質の安定管理、電力使用量削減に努めるなど、環境負荷の低減に向け、継続的に改善していく。	・EMSにより、放流水質の安定管理、電力使用量削減等によって、環境負荷の低減に努めた。	道路下水道局	施設管理課
	環境保全の取組み	環境局施設部では、平成11年3月に西部工場に環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、平成12年10月に国際規格であるISO14001の認証を取得しました。 その後、西部工場以外の施設(清掃工場、埋立場、汚水処理場、汚泥再生処理センター)においても、西部工場のノウハウを活かして、平成15年4月より施設部EMSを構築しました。 平成24年10月に西部工場のISO14001の認証を返上し、平成25年4月からは、施設部EMSと統合してISO14001に準拠したEMS活動を行ってきました。 令和2年度からは、更なる活動の充実、情報発信の強化を図るため、独自要綱に基づく環境活動に移行しました。	① 各施設で、過去の実績値を基に目標値を掲げ、各種取組みを実施 <取組み内容例> ・電力使用量の削減 ・上水使用量の削減 ・ごみ排出量の削減 ・ガス使用量の削減 ・薬品使用量の削減 ・環境美化活動 ② 活動状況等を取り纏めた「環境報告書」を作成し、HP等により公表	環境局	工場整備課
グリーン購入の推進	グリーン購入ガイドライン	再生品など環境に配慮された製品の普及を図るために、福岡市グリーン購入ガイドラインを策定し、環境に配慮された製品を全庁的に率先購入しています。 (根拠法令・計画等) ・国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法) ・福岡市地球温暖化対策実行計画	・「福岡市グリーン購入ガイドライン」改定 ・庁内におけるグリーン購入達成状況の調査実施 令和2年度達成率：99.80% ※令和元年度より達成状況の指標を「達成品目数」から「達成所属率」に変更	環境局	環境政策課
	グリーン購入ネットワークへの参加	グリーン購入を福岡県内・九州地域へ広く普及するための推進組織として、H19年2月に設立された「九州グリーン購入ネットワーク」に入会し、グリーン購入を含めた率先実行の推進を図っています。	・グリーン購入法基本方針説明会の開催等 ・会員数：80団体(2020年4月現在) 企業：55団体 行政：11団体 団体：14団体	環境局	環境政策課
融資制度による市内中小企業の省エネ・新エネ設備の導入支援	環境・エネルギー対応資金の融資(対象：市内で事業を営む中小企業者の方)(再掲)	第2章第1節第1項に掲載	—	経済観光文化局	経営支援課
PRTR制度の運用	PRTR制度(再掲)	第1章第1節第2項に掲載	—	環境局	環境保全課
公害防止協定等の締結による事業者の環境負荷低減促進	公害防止総点検運動(再掲)	第2章第1節第1項に掲載	—	環境局	環境保全課
事業者による環境経営システムの導入促進	エコアクション21取得支援事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	環境政策課

施策名	関連事業(取組)名	内 容	R2年度 実績	局・区	課
	社会貢献優良企業（環境配慮型事業所）優遇制度（再掲）	第2章第1節第1項に掲載	—	環境局	環境政策課

第3項 環境情報の継続的な収集・発信と共有

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
調査・研究等の推進	保健環境研究所における調査・研究の推進	市の試験・研究機関の機能強化・連携による効率的・効果的な調査・研究を推進します。	・河川底生動物(御笠川)に関する調査研究	環境局	環境科学課
	自然環境調査(再掲)	第1章第1節第2項に掲載	—	環境局	環境調整課
	廃棄物中間処理施設及び最終処分場における環境調査	廃棄物中間処理施設及び最終処分場について、環境関係法令に基づく試験検査及び施設の維持管理に必要な調査を行っています。 <計画目標等> 法令を遵守するとともに、環境に配慮し適正に維持管理した状態	・ごみ、灰、排ガス、排水、悪臭、騒音・振動、ダイオキシン類、埋立場発生ガス・浸出水等の環境調査を約2,100件実施	環境局	環境科学課
	廃棄物の排出状況及び再資源化調査	廃棄物のごみ組成及び発生量を経年的に調査し、ごみ減量や再資源化を推進する基礎資料を取得しています。 <計画目標等> 効果的・効率的なごみ減量・リサイクル方法の確立	・家庭系可燃及び不燃ごみの組成調査、資源化センター廃棄物等組成調査、空きびん・ペットボトルの排出状況調査、不燃ごみ中の適正処理困難物の排出状況調査、家庭系及び事業系ごみ中の未利用食品の排出状況調査、家庭系可燃ごみ袋中の雑がみ等排出状況調査などを約900件実施	環境局	環境科学課
	酸性雨に関する調査	本市における酸性雨の現状を把握し、将来にわたる酸性雨対策に資するため、都心部及び山間部において、毎週1回調査を実施しています。	・都心部(城南区島飼) ・山間部(早良区曲淵) ・調査頻度:毎週	環境局	環境保全課 環境科学課
	フロンに関する調査	CFC(クロロフルオロカーボン)やハロンなどは、地球規模でオゾン層の破壊や温室効果を引き起こす物質であり、福岡市における濃度状況を把握するため調査を実施しています。	・調査箇所 山間部、都心部、臨海部 ・調査頻度:年2回 ・調査項目 CFC(フロン11、フロン12、フロン113)の測定を実施	環境局	環境保全課 環境科学課
研究機関等との連携による新たな知見等の収集	研究機関等との連携による新たな知見等の収集	大学や国・県の研究機関などとの連携による、広域的・新たな環境問題に関する科学的知見の収集、現状把握の充実に努めます。	国立環境研究所及びその他の地方環境研究所との共同研究 ・沿岸海域における新水質環境基準としての底層溶存酸素(貧酸素水塊)と気候変動の及ぼす影響把握に関する研究 ・里海里湖流域圏が形成する生物生息環境と生態系サービスに関する検討 ・災害時等の緊急調査を想定したGC/MSによる化学物質の網羅的簡易迅速測定法の開発 ・光化学オキシダントおよびPM2.5汚染の地域的・気象的要因の解明	環境局	環境科学課 環境保全課
様々なメディアを活用した環境情報の発信・共有	環境局ホームページの運用(再掲)	第2章第1節第2項に掲載	—	環境局	環境政策課
	下水道PR事業(再掲)	第2章第1節第2項に掲載	—	道路下水道局	下水道経営企画課
環境教育・学習プログラムの充実	保健環境学習室「まもるーむ福岡」の運営(再掲)	第2章第1節第1項に掲載	—	環境局	環境科学課
	3Rステーション事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	家庭ごみ減量推進課
	生ごみリサイクル促進事業(再掲)	第1章第3節第1項に掲載	—	環境局	家庭ごみ減量推進課
ニーズに応じた情報の発信	環境局ホームページの運用(再掲)	第2章第1節第2項に掲載	—	環境局	環境政策課

第1項 近隣地域や九州・国内各地域との連携

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
福岡都市圏の市町との環境協力の推進	福岡都市圏環境行政推進協議会	福岡都市圏の環境行政をより効果的・効率的に推進していくため、福岡都市圏17市町一体の取組みとして行うべき事業に関し、施策の検討・推進を図っています。	・総会、幹事会、情報交換会の開催、エコバッグ等の啓発用品の共同購入を実施 総会：1回 (R2.5.20) 幹事会：1回 (R2.5.13) 情報交換会：1回 (R2.12.8)	環境局	環境政策課
	福岡都市圏南部環境事業組合(再掲)	第1章第3節第2項に掲載	—	環境局	管理課
水資源地域・流域との連携・協力	水源地域との交流	第1章第3節第3項に掲載	—	水道局	流域連携課
福北連携における環境連携の推進	福北連携事業(環境連携)	福岡市及び北九州市がこれまでに培ってきたネットワークを強化することにより、北部九州ひいては九州・西日本の発展に寄与していくことを目的に連携を推進しています。	—	環境局	環境政策課
四市連携における環境連携の推進	四市連携事業(環境連携)	九州新幹線全線開業を契機に九州の縦軸を形成する中核都市が一体となり九州の発展に寄与するため、連携協定を締結し、環境分野など様々な分野で交流連携を展開しています。	・連絡会議開催 (R1.8.9) ※令和2年度は中止	環境局	環境政策課

第2項 国際環境協力の推進

施策名	関連事業(取組)名	内容	R2年度実績	局・区	課
海外からの研修生等の受け入れ	アジア太平洋地域を対象とした研修生受入れの推進	福岡大学と連携して廃棄物埋立技術「福岡方式」について学ぶ研修生を受け入れ、期間が長い場合は「ふくおか環境財団」と協力して行っています。 <計画目標等> 廃棄物埋立技術「福岡方式」に関する現地技術者の技術力向上	・見学者：0カ国 0人 ・研修員：スーダン、ネパール、バブアニューギニア、ラオス 4カ国 4人（JICA課題別研修事業） ※オンラインにより実施	環境局	施設課 環境政策課
国際機関との連携による技術協力	アジア太平洋地域を対象とした専門家派遣の推進	アジア太平洋地域に専門家を派遣し、廃棄物埋立技術の指導を行っています。 <計画目標等> 「福岡方式」による埋立場の導入や維持管理手法の確立	・実績無し	環境局	施設課 環境政策課
	国際連合人間居住計画（国連ハビタット）との連携による技術移転	本市は福岡大学と共に国連ハビタットに協力しています。	・ミャンマー連邦共和国ヤンゴン市に職員を派遣し、「福岡方式」による埋立場整備に向けた技術協力や関係機関との協議等を実施 （派遣回数：0回）（TV会議：21回）	環境局	施設課 環境政策課
	「福岡方式」の普及を含めた環境分野の技術協力協定	本市と福岡大学は、中国清華大学と協力して、中国に廃棄物埋立技術「福岡方式」を適用し、中国の廃棄物処分場の改善並びに環境分野での実用研究等について協力を行っています。（3年毎の更新） （H15年11月協定締結） <計画目標等> 「福岡方式」の中国での適用性を検証する。	・H30年12月協定延長 （R3.12.31まで期間延長）	環境局	施設課 環境政策課
東アジア経済交流推進機構環境部会	日本・中国・韓国の11都市で構成する「東アジア経済交流推進機構」の専門部会として、主に環境関連団体や企業のビジネス交流の促進を目的としており、その他、広域的な環境問題についての情報交換などを行っています。 ○東アジア経済交流推進機構環境部会（H16年8月設立） ・会員11都市（日本主幹事都市：北九州市） 日本：福岡、北九州、下関、熊本 韓国：仁川、釜山、蔚山 中国：大連、天津、青島、烟台	・令和2年度は、中国・青島市において、第14回環境部会が開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響により翌年度に延期された。	環境局	環境政策課	
アジアの環境改善に向け市民・事業者・行政が連携した取組みの推進	ラブアース・クリーンアップ事業	九州・山口等において、市民・企業・行政が協力して行う、海岸・河川等の一斉清掃「ラブアース・クリーンアップ」を実施しています。	・令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一斉清掃イベントは中止とし、自主的な清掃に対する支援を実施。 ・自主的清掃への支援実績 参加団体：101団体 参加人数：7,695名 ・年間を通じた海洋ごみ問題の啓発（SNSキャンペーン、ラジオ放送、オンラインセミナー）を実施	環境局	家庭ごみ減量推進課

計画の推進

推進体制	内容	R2年度実績	局・区	課
福岡市環境審議会	環境基本法第44条の規定に基づき、環境の保全に関する基本的事項を調査審議する等のため、「福岡市環境審議会」を設置しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・総会：1回 (R2.11.2) ・循環型社会構築部会：2回 (R2.9.15、R3.3.29) ・地球温暖化対策部会：1回 (R3.2.9) 	環境局	環境政策課
福岡市環境調整会議	本市が環境に影響を及ぼすおそれがある事業を立案及び実施するにあたっての調整、その他環境への配慮の推進に関する総合的調整等を行うため、「福岡市環境調整会議」を設置しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市環境調整会議幹事会 (1回) (R3.6.3) 	環境局	環境政策課
福岡都市圏環境行政推進協議会	福岡都市圏の環境行政をより効果的・効率的に推進していくため、福岡都市圏17市町一体の取組みとして行うべき事業に関し、施策の検討・推進を図っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・総会、幹事会、情報交換会の開催、エコバッグ等の啓発用品の共同購入を実施 総会：1回 (R2.5.20) 幹事会：1回 (R2.5.13) 情報交換会：1回 (R2.12.8) 	環境局	環境政策課
福岡市環境教育・学習計画推進協議会	学識経験者、市民、市民団体、事業者、行政(教育委員会等)からなる「福岡市環境教育・学習計画推進協議会」を設置し、施策の実施状況の報告や情報・意見の交換を行うとともに、今後の環境教育・学習に関する施策の検討を行い、環境教育・学習計画を推進しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市環境教育・学習計画推進協議会 (R2.10.9) 	環境局	環境政策課
福岡市地球温暖化対策実行計画協議会	地球温暖化対策の推進に関する法律第21条の規定に基づく地方公共団体実行計画の策定に関する協議を行うため、「福岡市地球温暖化対策実行計画協議会」を設置しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市地球温暖化対策実行計画協議会 (R2.8.17、R2.12.25) 	環境局	環境・エネルギー対策課
福岡市温暖化対策推進会議	「脱炭素社会」の実現をめざし、本市における地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進するため、「福岡市温暖化対策推進会議」を設置しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市温暖化対策推進会議 (R2.5.27) ・脱炭素社会推進部会 (R2.9.30 書面開催、R2.12.18) ・適応推進部会 (R2.6.26) ・熱中症対策部会 (R2.11.30) 	環境局	環境・エネルギー対策課
福岡市地球温暖化対策市民協議会	地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、市民・事業者・行政が協力して、地球温暖化対策に向けた積極的な実践活動を推進することを目的に、さまざまな活動を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市地球温暖化対策市民協議会会員数：132団体 (R3年3月末現在) ・総会の開催(書面) (R2.6.2) ・環境フェスティバルふくおか2020への出展 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止 ・協議会として下記の5事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ①住宅用エネルギーシステム導入促進事業 ②次世代自動車の普及促進 (電気自動車購入等助成) (次世代自動車展示・試乗会 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止) ③ECOチャレンジ応援事業 (交通系ICカードポイント付与) ④地球温暖化対策シンポジウムの開催 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止 ⑤暮らし安心・適応リノベーション促進事業 (広報のみ継続) ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、パネル展の開催中止 	環境局	環境・エネルギー対策課
博多湾環境保全計画推進委員会	「博多湾環境保全計画(第二次)」の着実な推進を図るために「博多湾環境保全計画推進委員会」において、計画の進行管理、施策の効果の評価及び新たな対策の検討などを行っています。 ＜計画目標等＞ 博多湾の将来像 “生きものが生まれ育つ博多湾”	<ul style="list-style-type: none"> ・博多湾環境保全計画推進委員会 (R2.8.4、R2.12.23) 	環境局	環境調整課
循環のまち・ふくおか推進会議	市民、事業者、行政が一体となって循環型社会に向けた活動を推進するための具体的な行動を協議するとともに、情報や意見の交換を通じて全市的な実践活動の展開を図っています。 ＜計画目標等＞ 会議で情報・意見の交換を行い、地域でのごみ減量・リサイクルの実践活動に生かし、校区の特性に応じた活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・循環のまち・ふくおか推進会議 書面開催 (R3.3.5) ・区における循環型社会に向けた活動に関する連絡会議の開催 ・校区における循環型社会に向けた活動の推進 	環境局	家庭ごみ減量推進課

その他

1 環境関連法令一覽等

(1) 環境関連法令一覽

法令名		問い合わせ先				
法律	環境基本法	福岡市	環境局 環境政策部 環境政策課	733-5381		
	環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律 (平成24年10月1日完全施行)					
	グリーン購入法(国等による環境物品等の調達等の推進等に関する法律)					
	環境影響評価法		環境局 環境監理部 環境調整課	733-5389		
	生物多様性基本法	環境省	九州地方環境事務所 福岡事務所	437-8851		
	エコツアーリズム推進法					
	自然再生推進法					
	種の保存法(絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律)					
	生物多様性地域連携促進法(地域における多様な主体の連携による生物の多様性の保全のための活動の促進等に関する法律)					
	特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律					
	鳥獣保護管理法(鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律)	福岡県	環境部 自然環境課 (鳥獣保護、研究目的等の鳥獣捕獲許可)	643-3367		
			農林水産部 農山漁村振興課 (狩猟、有害鳥獣捕獲許可(県内))	643-3560		
		福岡市	農林水産局 総務農林部 森林・林政課 (有害鳥獣捕獲許可(市内))	711-4846		
	カルタヘナ法(遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律)	九州農政局	消費・安全部 安全管理課	096-211-9111		
	地球温暖化対策推進法(地球温暖化対策の推進に関する法律)	福岡市	環境局 環境政策部 環境・エネルギー対策課	711-4282		
	気候変動適応法					
	オゾン層保護法(特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律)	福岡県	環境部 環境保全課	643-3360		
	フロン排出抑制法(フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律)	九州経済産業局	資源エネルギー環境部 エネルギー対策課	482-5474		
	建築物省エネ法(建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律)	福岡市	住宅都市局 建築指導部 建築審査課	711-4583		
	エネルギー政策基本法	九州経済産業局	資源エネルギー環境部 エネルギー対策課	482-5475		
	電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法(FIT法)					
	エコまち法(都市の低炭素化の促進に関する法律)	福岡市	住宅都市局 建築指導部 建築審査課(低炭素建築物の認定に関することのみ)	711-4583		
	大気汚染防止法	福岡市	環境局 環境監理部 環境保全課	733-5386		
	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律					
	悪臭防止法					
	騒音規制法					
	振動規制法					
	水質汚濁防止法					
	下水道法				道路下水道局 下水道施設部 水質管理課	711-4512
	浄化槽法				保健福祉局 生活衛生部 生活衛生課	711-4273
	工業用水法	福岡県	県土整備部 水道整備室	643-3376		

法令名		問い合わせ先				
法律	建築物用地下水の採取の規制に関する法律	福岡市	環境局 環境監理部	733-5386		
	土壤汚染対策法		環境保全課			
	農用地の土壤の汚染防止等に関する法律	福岡県	環境部 環境保全課	643-3361		
	循環型社会形成推進基本法	福岡市	環境局 循環型社会推進部計画課	711-4308		
	廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)					
	資源の有効な利用の促進に関する法律					
	容器包装リサイクル法(容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律)					
	家電リサイクル法(特定家庭用機器再商品化法)					
	食品ロスの削減の推進に関する法律					
	プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律					
	建設リサイクル法(建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律)				住宅都市局 建築指導部 建築物安全推進課	711-4574
	食品リサイクル法(食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律)				環境局 循環型社会推進部 事業系ごみ減量推進課	711-4836
	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律				環境局 循環型社会推進部 家庭ごみ減量推進課	711-4039
	自動車リサイクル法(使用済自動車の再資源化等に関する法律)				環境局 循環型社会推進部 産業廃棄物指導課	711-4303
	産廃特措法(特定産業廃棄物に起因する支障の除去等に関する特別措置法)				環境局 環境監理部 環境保全課	733-5386
	P R T R法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)					
	ダイオキシン類対策特別措置法					
	毒物及び劇物取締法	保健福祉局 健康医療部 地域医療課	711-4264			
	労働安全衛生法	福岡労働局	労働基準監督署	福岡中央(東区以外) 福岡東(東区)	761-5605 661-3770	
	高圧ガス保安法	福岡県	商工部 工業保安課	643-3439		
	公害紛争処理法		環境部 自然環境課	643-3367		
	自然環境保全法					
	自然公園法					
	工場立地法	福岡市	経済観光文化局 総務・中小企業部 政策調整課	711-4326		
	都市緑地法(旧 都市緑地保全法)		住宅都市局 花とみどりのまち推進部 みどり政策課	711-4446		
	都市公園法		住宅都市局 花とみどりのまち推進部 みどり運営課	711-4407		
	屋外広告物法		住宅都市局地域まちづくり推進部	711-4395		
景観法	都市景観室		711-4589			
福岡県公害防止等生活環境の保全に関する条例	福岡市		環境局 環境監理部 環境保全課	733-5386		
水質汚濁防止法第三条第三項の規定に基づく排水基準を定める条例	福岡県	環境部 環境保全課	643-3361			
福岡県公害紛争処理条例		環境部 自然環境課	643-3367			
福岡県立自然公園条例						
福岡県環境保全に関する条例						
福岡県自然海浜保全地区条例						
福岡県環境影響評価条例				643-3368		
福岡県産業廃棄物処理施設の設置に係る紛争の予防及び調整に関する条例		環境部 廃棄物対策課	643-3363			
福岡県産業廃棄物の不適正処理の防止に関する条例						
福岡県ごみ散乱防止条例						
福岡県使用済自動車等の適正な保管の確保に関する条例						

法令名		問い合わせ先		
市条例	福岡市環境基本条例	福岡市	環境局 環境政策部 環境政策課	733-5381
	福岡市環境影響評価条例		環境局 環境監理部 環境調整課	733-5389
	福岡市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例		環境局 循環型社会推進部計画課	711-4308
	福岡市リサイクルプラザ条例		環境局 循環型社会推進部 家庭ごみ減量推進課	711-4039
	福岡市空き缶等の散乱防止及びその再資源化の促進に関する条例			
	福岡市節水推進条例		総務企画局 水資源対策担当	711-4972
	福岡市下水道条例		道路下水道局 下水道施設部 水質管理課	711-4512
	福岡市再生水利用下水道事業に関する条例		道路下水道局 下水道施設部 施設管理課	711-4516
	福岡市自転車等駐車場の附置及び建設奨励に関する条例		道路下水道局 管理部 駐車場施設課	711-4443
	福岡市緑地保全と緑化推進に関する条例		住宅都市局 花とみどりのまち推進部 みどり政策課	711-4446
	福岡市屋外広告物条例		住宅都市局地域まちづくり推進部 都市景観室	711-4395
	福岡市ピンクちらし等の根絶に関する条例			711-4589
	福岡市都市景観条例			
	人に優しく安全で快適なまち福岡をつくる条例		市民局 生活安全部 防犯・交通安全課	711-4061

(2) 福岡市環境基本条例等

●福岡市環境基本条例（平成8年9月26日条例第41号）

（目的）

第1条 この条例は、先人から受け継いだ福岡の豊かな環境をより良くしていくとともに、次の世代に確実に引き継ぐため、環境の保全及び創造に関する基本的事項を定めることにより、地域の自然的及び社会的条件に応じた施策を総合的かつ計画的に推進し、もって現在及び将来の市民が健康で文化的な生活を営むことができる環境にやさしい都市の実現を図ることを目的とする。

（基本原則）

第2条 環境の保全及び創造は、次に掲げる基本原則により行われなければならない。

- (1) すべての市民が健康で文化的な生活を営む上で必要な健全で恵み豊かな環境を確保し、これを将来の世代へ継承していくこと。
- (2) 人と自然との豊かなふれあいを保ち、生きものとの共生を確保すること。
- (3) 環境への負荷が少なく、持続的な発展が可能な循環を基調とする社会を構築すること。
- (4) 地球環境保全に関して、国際的な交流及び協力に努めること。
- (5) 市民、事業者及び市が、環境の保全及び創造に関し、それぞれの責務を自覚し、公平な役割分担の下に、自主的かつ積極的な取組を行うこと。

（市民の役割）

第3条 市民は、その日常生活において、資源及びエネルギーの節減その他の環境への負荷の低減に努めるものとする。

2 前項に定めるもののほか、市民は、自ら環境の保全及び創造に積極的に努めるとともに、市が実施する環境の保全及び創造に関する施策に協力するものとする。

（事業者の役割）

第4条 事業者は、その事業活動において、環境への負荷の少ない商品及びサービスの提供に努めるなど環境への負荷の低減に資するために必要な措置を講じるものとする。

2 前項に定めるもののほか、事業者は、自主的な環境の保全及び創造に関する方針の作成、体制の整備及び取組、これらの評価等からなる環境管理に積極的に努めるとともに、市が実施する環境の保全及び創造に関する施策に協力するものとする。

（市の役割）

第5条 市は、環境の保全及び創造に関する基本的事項を総合的な施策を策定し、及び実施するものとする。

2 市は、自らの施策を策定し、及び実施するに当たっては、率先して環境への負荷の低減に努めるものとする。

3 市は、環境に関する教育及び学習を振興し、並びに市民、事業者又はこれらの者が組織する民間団体（以下「市民等」という。）による環境の保全に関する自発的な活動を促進するため、環境の保全及び創造に関する情報の提供その他の必要な措置を講じるとともに、市民等との連携に努めるものとする。

（施策の基本方針）

第6条 前条第1項に規定する環境の保全及び創造に関する施策の策定及び実施は、第2条に規定する基本原則にのっとり、次に掲げる事項の確保を旨として、各種の施策相互の有機的な連携を図りつつ総合的かつ計画的に行われなければならない。

- (1) 人の健康を保護し、及び大気、水、土壌その他の環境の自然的構成要素を良好な状態に保持するよう努めるとともに、地域の自然的及び社会的な個性をいかした良好な都市空間並びに文化的及び歴史的な環境の保全、形成等を図ること。
- (2) 生物の多様性の確保、樹林地、農地、博多湾、水辺地等における多様な自然環境の保全及び市民が日常的に触れ合うことのできる身近な自然環境の維持、回復等に努め、自然と共生する都市の形成を図ること。
- (3) 資源及びエネルギーの節減及び有効利用、資源の循環的な利用等が徹底される都市の構築を図ること。
- (4) アジア太平洋地域の諸都市を始めとする海外の地域との協調の下に、地球環境保全に関する情報交換、技術交流等に努めること。

(環境基本計画)

第7条 市長は、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、環境の保全及び創造に関する基本的な計画（以下「環境基本計画」という。）を定めなければならない。

2 環境基本計画は、前条に規定する施策の基本方針に基づき、次に掲げる事項について定めるものとする。

(1) 環境の保全及び創造に関する目標

(2) 環境の保全及び創造に関する総合的かつ長期的施策の大綱

(3) 前2号に掲げるもののほか、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

3 市長は、環境基本計画を定めるに当たっては、あらかじめ、福岡市環境審議会条例（平成6年福岡市条例第22号）により設置された福岡市環境審議会の意見を聴かなければならない。

4 市長は、環境基本計画を策定したときは、速やかにこれを公表しなければならない。

5 前2項の規定は、環境基本計画の変更について準用する。

6 環境基本計画に基づく施策を推進するに当たって必要がある場合は、部門別の計画を定めることができる。

(環境への配慮の推進)

第8条 市は、事業者が環境に影響を及ぼすおそれがある事業を立案し、及び実施する場合は、当該事業者がその事業の立案及び実施に当たって、環境基本計画との整合を図り、及び環境に配慮することを推進するため、必要な措置を講じるものとする。

2 市長は、市が環境に影響を及ぼすおそれがある事業を立案し、及び実施するに当たっては、環境基本計画との整合を図るため、当該事業及び市が行う他の事業又は施策との調整に努めなければならない。

(市民等の参加及び協力の促進)

第9条 市は、環境の保全及び創造に関する施策が効果的に実施されるよう、市民等の参加及び協力を促すため、次に掲げる事項について必要な措置を講じるよう努めるものとする。

(1) 環境の状況その他の環境の保全及び創造に関する情報を市民等に適切に提供すること。

(2) 環境の保全及び創造に資する活動に市民等が参加できるようにその機会を設けること。

(3) 市民等の意見を市が行う環境の保全及び創造に関する施策に反映させること。

(4) 自らの行為による環境への負荷の低減その他の環境の保全及び創造に資する市民等の活動を誘導する必要があると認められるときは、助成その他の措置を行うこと。

(他の地方公共団体及び国との協力)

第10条 市は、環境の保全及び創造を図るための広域的な取組を必要とする施策について、他の地方公共団体及び国と協力して、その推進に努めるものとする。

(年次報告)

第11条 市長は、環境の保全及び創造に関する施策の総合的な推進に資するため、環境の状況並びに環境の保全及び創造に関する施策の実施状況を明らかにした年次報告書を作成し、公表するものとする。

(環境月間及び環境デー)

第12条 市民等に広く環境の保全及び創造についての関心と理解を深めるとともに、積極的に環境の保全及び創造に関する活動を行う意欲を高めるため、環境月間及び環境デーを設ける。

2 環境月間は6月とし、環境デーは毎月14日とする。

3 市は、環境月間及び環境デーの趣旨にふさわしい事業の実施に努めなければならない。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

●福岡市環境審議会条例（平成6年3月31日条例第22号）

（設置）

第1条 環境基本法（平成5年法律第91号）第44条の規定に基づき、環境の保全に関する基本的事項を調査審議する等のため、福岡市環境審議会（以下「審議会」という。）を置く。

（組織）

第2条 審議会は、30人以内の委員で組織する。

（平成9年 条例22・一部改正）

（委員）

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（会長）

第4条 審議会に会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（会議）

第5条 審議会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（専門部会）

第6条 審議会は、専門の事項を調査審議させるため、専門部会を置くことができる。

（庶務）

第7条 審議会の庶務は、環境局において処理する。

（委任）

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

（施行期日）

1 この条例は、平成6年8月1日から施行する。

（福岡市公害対策審議会条例の廃止）

2 福岡市公害対策審議会条例（昭和48年福岡市条例第20号）は、廃止する。

（委員の任期の特例）

3 平成9年4月1日から平成10年7月31日までに委嘱される委員の任期は、第3条第1項の規定にかかわらず、平成10年7月31日までとする。

（平成9年 条例22・追加）

附 則（平成9年3月31日条例第22号）

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

●福岡市環境審議会条例施行規則 (平成6年7月28日規則第94号)

(趣旨)

第1条 この規則は、福岡市環境審議会条例(平成6年福岡市条例第22号。以下「条例」という。)第8条の規定に基づき、福岡市環境審議会(以下「審議会」という。)の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(委員)

第2条 審議会の委員(以下「審議会委員」という。)は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 市議会議員
- (3) 関係行政機関の職員
- (4) 前各号に掲げる者のほか、市長が特に必要と認めるもの
(関係者等の出席)

第3条 会長は、諮問された事項について必要があると認めるときは、関係者等の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(専門部会)

第4条 条例第6条に定める専門部会(以下「部会」という。)は、会長が審議会委員のうちから指名する専門部会委員(以下「部会委員」という。)をもって組織する。

(専門部会長)

第5条 部会に部会長を置き、部会委員の互選によってこれを定める。

2 部会長は、部会の事務を掌理し、部会を代表して部会の審議結果を審議会に報告しなければならない。

3 部会長に事故があるとき、又は部会長が欠けたときは、部会長があらかじめ指名する部会委員がその職務を代理する。

(委任)

第6条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成6年8月1日から施行する。

(福岡市公害対策審議会条例施行規則の廃止)

2 福岡市公害対策審議会条例施行規則(昭和48年福岡市規則第27号)は、廃止する。

(3) 福岡市環境審議会委員名簿

令和3年5月現在

	氏名	役職等
1	阿部 真之助	市議会議員
2	石橋 勇志	九州大学大学院 農学研究院 准教授
3	猪野 猛	福岡商工会議所 事務局長
4	大森 一馬	市議会議員
5	押川 千恵	独立行政法人国立病院機構福岡病院 耳鼻咽喉科 科長
6	小野 仁	日本野鳥の会 福岡支部長
7	包清 博之	九州大学大学院 芸術工学研究院 教授
8	小出 秀雄	西南学院大学 経済学部 教授
9	下津浦 一博	九州経済産業局 資源エネルギー環境部 次長
10	白鳥 祐介	九州大学大学院 工学研究院 准教授
11	勢一 智子	西南学院大学 法学部 教授
12	平 由以子	特定非営利活動法人 循環生活研究所 理事
13	高木 勝利	市議会議員
14	田中 綾子	福岡大学 工学部 教授
15	田中 たかし	市議会議員
16	中山 裕文	九州大学大学院 工学研究院 准教授
17	萩島 理	九州大学大学院 総合理工学研究院 教授
18	原田 昌佳	九州大学大学院 農学研究院 准教授
19	久留 百合子	(株) ビスネット代表取締役／消費生活アドバイザー
20	藤本 一壽	九州大学 名誉教授
21	二渡 了	北九州市立大学 国際環境工学部 教授
22	堀内 徹夫	市議会議員
23	松野 隆	市議会議員
24	松藤 康司	福岡大学 名誉教授
25	松山 倫也	九州大学大学院 農学研究院 特任教授
26	馬奈木 俊介	九州大学大学院 工学研究院 教授
27	森 あやこ	市議会議員

2 環境基準等

環境基準は「環境基本法」に基づき、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として国が定めるもので、汚染が進行している地域にあっては汚染の浄化目標であり、非汚染地域にあっては汚染の未然防止の指針となる公害防止行政上の目標値である。

(1) 大気汚染に係る基準等

①大気汚染に係る環境基準

物質	二酸化硫黄	一酸化炭素	浮遊粒子状物質	光化学オキシダント	二酸化窒素
環境上の条件	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。	1時間値が0.06ppm以下であること。	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
測定方法	溶液導電率法又は紫外線蛍光法	非分散型赤外分析計を用いる方法	濾過捕集による重量濃度測定方法又はこの方法によって測定された重量濃度と直線的な関係を有する量が得られる光散乱法、圧電天びん法若しくはベータ線吸収法	中性ヨウ化カリウム溶液を用いる吸光光度法若しくは電量法、紫外線吸収法又はエチレンを用いる化学発光法	ザルツマン試薬を用いる吸光光度法又はオゾンを用いる化学発光法
達成期間	維持されまたは原則として5年以内において達成されるよう努めるものとする。	維持されまたは早期に達成されるよう努めるものとする。		0.06ppmを越える地域…0.06ppmが達成されるよう努めるものとし、原則として、7年以内とする。 0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内にある地域…原則として、ゾーン内において現状程度の水準を維持し、又はこれを大きく上回ることはならないよう努めるものとする。	
適用	<ul style="list-style-type: none"> 当該物質による大気汚染の状況を的確に把握することができると認められる場所において、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合における測定値によるものとする。 工業専用地域、車道その他一般公衆が通常生活していない地域または場所については適用しない。 				
告示	昭和48年5月16日 環境庁告示第35号	昭和48年5月8日 環境庁告示第25号			昭和53年7月11日 環境庁告示第38号
備考	<ul style="list-style-type: none"> 浮遊粒子状物質とは、大気中に浮遊する粒子状物質であって、その粒径が10μm以下のものをいう。 光化学オキシダントとは、オゾン、パーオキシアセチルナイトレートその他の光化学反応により生成される酸化性物質（中性ヨウ化カリウム溶液からヨウ素を遊離するものに限り、二酸化窒素を除く。）をいう。 				

②有害大気汚染物質（ベンゼン等）に係る環境基準

物質	ベンゼン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン
環境上の条件	1年平均値が0.003mg/m ³ 以下であること。	1年平均値が0.13mg/m ³ 以下であること。	1年平均値が0.2mg/m ³ 以下であること。	1年平均値が0.15mg/m ³ 以下であること。
測定方法	キャニスター若しくは捕集管により採取した試料をガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法又はこれと同等以上の性能を有すると認められる方法。			
達成期間	ベンゼン等による大気の汚染に係る環境基準は、継続的に摂取される場合には人の健康を損なうおそれがある物質に係るものであることにかんがみ、将来にわたって人の健康に係る被害が未然に防止されるようにすることを旨として、その維持又は早期達成に努めるものとする。			
適用	<ul style="list-style-type: none"> 当該物質による大気の汚染の状況を的確に把握することができる場所において、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合における測定値によるものとする。 工業専用地域、車道その他一般公衆が通常生活していない地域又は場所については、適用しない。 			
告示	平成9年2月4日 環境庁告示第4号	平成30年11月19日 環境省告示第100号	平成9年2月4日 環境庁告示第4号	平成13年4月20日 環境省告示第30号

③微小粒子状物質に係る環境基準

物質	微小粒子状物質
環境上の条件	1年平均値が15μg/m ³ 以下であり、かつ、1日平均値が35μg/m ³ 以下であること。
測定方法	微小粒子状物質による大気の汚染の状況を的確に把握することができる場所において、濾過捕集による質量濃度測定方法又はこの方法によって測定された質量濃度と等価な値が得られると認められる自動測定機による方法
達成期間	維持され又は早期達成に努めるものとする。
適用	<ul style="list-style-type: none"> 微小粒子状物質とは、大気中に浮遊する粒子状物質であって、粒径が2.5μmの粒子を50%の割合で分離できる分粒装置を用いて、より粒径の大きい粒子を除去した後に採取される粒子をいう。 工業専用地域、車道その他一般公衆が通常生活していない地域又は場所については、適用しない。
告示	平成21年9月9日環境省告示第33号

④大気汚染に係る指針

光化学オキシダントの生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針

光化学オキシダントの日最高1時間値0.06ppmに対応する午前6時から9時までの非メタン炭化水素の3時間平均値は、0.20ppmCから0.31ppmCの範囲にある。(昭和51年8月13日通知)

⑤環境中の有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値(指針値)

物質	アクリロニトリル	塩化ビニルモノマー	水銀	ニッケル化合物
環境上の条件	年平均値 2μg/m ³ 以下	年平均値 10μg/m ³ 以下	年平均値 0.04μg Hg /m ³ 以下	年平均値 0.025μg Ni /m ³ 以下
測定方法	有害大気汚染物質測定方法マニュアル(環境省)			
適用	②有害大気汚染物質(ベンゼン等)に係る環境基準と同じ			
通知	平成15年9月30日 環境省環境管理局长通知			

物質	クロロホルム	1, 2-ジクロロエタン	1, 3-ブタジエン	ヒ素及び無機ヒ素化合物
環境上の条件	年平均値 18 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下	年平均値 1.6 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下	年平均値 2.5 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下	年平均値 6ng-As/ m^3 以下
測定方法	有害大気汚染物質測定方法マニュアル（環境省）			
適用	②有害大気汚染物質（ベンゼン等）に係る環境基準と同じ			
通知	平成18年12月20日 環境省水・大気環境局長通知		平成22年10月15日 環境省水・大気環境局長通知	

物質	マンガン及び無機マンガン化合物
環境上の条件	年平均値 0.14 $\mu\text{g-Mn}/\text{m}^3$ 以下
測定方法	有害大気汚染物質測定方法マニュアル（環境省）
適用	②有害大気汚染物質（ベンゼン等）に係る環境基準と同じ
通知	平成26年5月1日 環境省水・大気環境局長通知

物質	塩化メチル	アセトアルデヒド
環境上の条件	年平均値 94 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下	年平均値 120 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下
測定方法	有害大気汚染物質測定方法マニュアル（環境省）	
適用	②有害大気汚染物質（ベンゼン等）に係る環境基準と同じ	
通知	令和2年8月20日 環境省水・大気環境局長通知	

この指針値は、有害性評価に係るデータの科学的信頼性に制約がある場合も含めて、環境中の有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るために設定されたものであり、環境基本法第16条に基づき定められる行政目標としての環境基準とは性格及び位置付けが異なり、現に行われている大気モニタリングの評価に当たっての指標や事業者による排出抑制努力の指標としての機能を果たすことが期待されます。

※ヒ素及び無機ヒ素化合物の指針値との比較評価に当たっては、全ヒ素の濃度測定値をもって代用して差し支えない。

※マンガン及び無機マンガン化合物の指針値との比較評価に当たっては、全マンガンの濃度測定値をもって代用して差し支えない。

(2) ダイオキシン類に係る基準等

①環境基準

ダイオキシン類対策特別措置法第七条の規定に基づくダイオキシン類による大気汚染、水質汚濁及び土壌汚染に係る環境上の条件につき人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準として定められたものです。

媒体	大 気	水質 (水底の底質を除く。)	水底の底質	土 壌
基準値	0.6pg-TEQ/m ³ 以下	1pg-TEQ/L以下	150pg-TEQ/g以下	1,000pg-TEQ/g以下
測定方法	ポリウレタンフォームを装着した採取筒をろ紙後段に取り付けたエアサンプラーにより採取した試料を高分解ガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法	日本工業規格K0312に定める方法	水底の底質に含まれるダイオキシン類をソックスレー抽出し、高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法	土壌に含まれるダイオキシン類をソックスレー抽出し、高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計により測定する方法
達成期間	<ul style="list-style-type: none"> 環境基準が達成されていない地域又は水域にあっては、可及的速やかに達成されるように努めることとする。 環境基準が現に達成されている地域若しくは水域又は環境基準が達成された地域若しくは水域にあっては、その維持に努めることとする。 土壌の汚染に係る環境基準が早期に達成されることが見込まれない場合にあっては、必要な措置を講じ、土壌の汚染に起因する環境影響を防止することとする。 			
適用	<ul style="list-style-type: none"> 大気汚染に係る環境基準は、工業専用地域、車道その他一般公衆が通常生活していない地域又は場所については適用しない。 水質汚濁に係る環境基準は、公共用水域及び地下水について適用する。 土壌汚染に係る環境基準は、廃棄物の埋立地その他の場所であって、外部から適切に区別されている施設に係る土壌については適用しない。 			
告示	平成11年12月27日 環境庁告示第68号		最終改正 平成21年3月31日 環境省告示第11号	
備考	<ul style="list-style-type: none"> 基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-p-ダイオキシンの毒性に換算した値とする。 大気及び水質の基準値は、年間平均値とする。 土壌にあっては、環境基準が達成されている場合であって、土壌中のダイオキシン類の量が250pg-TEQ/g以上の場合には、必要な調査を実施することとする。 			

(3) 水質汚濁に係る基準等

①公共用水域に係る環境基準

ア 人の健康の保護に関する環境基準（健康項目）

昭和46年12月28日
環境庁告示第59号
最終改正平成31年3月20日
環境省告示第46号

項目	基準値
カドミウム	0.003mg/L 以下
全シアン	検出されないこと。
鉛	0.01mg/L 以下
六価クロム	0.05mg/L 以下
砒素	0.01mg/L 以下
総水銀	0.0005mg/L 以下
アルキル水銀	検出されないこと。
P C B	検出されないこと。
ジクロロメタン	0.02mg/L 以下
四塩化炭素	0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	1 mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L 以下
トリクロロエチレン	0.01mg/L 以下
テトラクロロエチレン	0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L 以下
チウラム	0.006mg/L 以下
シマジン	0.003mg/L 以下
チオベンカルブ	0.02mg/L 以下
ベンゼン	0.01mg/L 以下
セレン	0.01mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/L 以下
ふっ素	0.8mg/L 以下
ほう素	1mg/L 以下
1,4-ジオキサン	0.05mg/L 以下
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。 ・「検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。「イ 生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目）」において同じ。 ・海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。 ・硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、規格 43.2.1、43.2.3、43.2.5 又は 43.2.6 により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数 0.2259 を乗じたものと規格 43.1 により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数 0.3045 を乗じたものの和とする。

イ 生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目）

(ア) 河川

a) BOD等に係る環境基準

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基 準 値					該当水域
		水素イオン 濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	
AA	水道1級 自然環境保全及びA 以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/L以下	25mg/L以下	7.5mg/L 以上	50MPN /100ml以下	水域類型 ごとに 指定する 水域
A	水道2級 水産1級 水浴及びB以下の 欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/L以下	25mg/L以下	7.5mg/L 以上	1,000MPN /100ml以下	
B	水道3級 水産2級 及びC以下の欄に 掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/L以下	25mg/L以下	5mg/L以上	5,000MPN /100ml以下	
C	水産3級 工業用水1級及びD 以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/L以下	50mg/L以下	5mg/L以上	—	
D	工業用水2級 農業用水及びEの 欄に掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/L以下	100mg/L以 下	2mg/L以上	—	
E	工業用水3級 環 境 保 全	6.0以上 8.5以下	10mg/L以下	ごみ等の浮 遊が認めら れないこと	2mg/L以上	—	

備 考

- ・基準値は日間平均値とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
- ・農業用利水点については、水素イオン濃度 6.0以上7.5以下、溶存酸素量5mg/L以上とする。
- ・水質自動監視装置とは、当該項目について自動的に計測することができる装置であって、計測結果を自動的に記録する機能を有するもの又はその機能を有する機器と接続されているものをいう（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
- ・最確数による定量法とは、次のものをいう（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
試料10ml、1ml、0.1ml、0.01ml……のように連続した4段階（試料量が0.1ml以下の場合は1mlに希釈して用いる。）を5本ずつBGLB醗酵管に移殖し、35～37℃、48±3時間培養する。ガス発生を認めたものを大腸菌群陽性管とし、各試料量における陽性管数を求め、これから100ml中の最確数を最確数表を用いて算出する。この際、試料はその最大量を移殖したものの全部か又は大多数が大腸菌群陽性となるように、また最少量を移殖したものの全部か又は大多数が大腸菌群陰性となるように適当に希釈して用いる。なお、試料採取後、直ちに試験ができないときは、冷蔵して数時間以内に試験する。

※自然環境保全：自然探勝等の環境保全

- ※水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
- 〃 2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
- 〃 3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの

- ※水産1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
- 〃 2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
- 〃 3級：コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用

- ※工業用水1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
- 〃 2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
- 〃 3級：特殊の浄水操作を行うもの

※環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む）において不快感を生じない限度

b) 水生生物の保全に係る環境基準

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値			該当水域
		全重鉛	ニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L以下	0.001mg/L以下	0.03mg/L以下	水域類型ごとに指定する水域
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L以下	0.0006mg/L以下	0.02mg/L以下	
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L以下	0.002mg/L以下	0.05mg/L以下	
生物特B	生物A又は生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L以下	0.002mg/L以下	0.04mg/L以下	
備考 ・基準値は年間平均値とする。					

(イ) 海域

a) COD等に係る環境基準

項目 類型	利用目的の適応性	基準値					該当水域
		水素イオン濃度 (pH)	化学的酸素要求量 (COD)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	n-ヘキサン抽出物質 (油分等)	
A	水産1級水浴 自然環境保全及びB以下の欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	2mg/L以下	7.5mg/L以上	1,000MPN/100ml以下	検出されないこと	水域類型ごとに指定する水域
B	水産2級 工業用水及びCの欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	3mg/L以下	5mg/L以上	—	検出されないこと	
C	環境保全	7.0以上 8.3以下	8mg/L以下	2mg/L以上	—	—	
備考 ・水産1級のうち、生食用原料カキの養殖の利水点については、大腸菌群数70MPN/100ml以下とする。							

※自然環境保全：自然探勝等の環境保全

※水産1級：マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産2級の水産生物用

〃 2級：ボラ、ノリ等の水産生物用

※環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む）において不快感を生じない限度

b) 全窒素及び全磷に係る環境基準

項目 類型	利用目的の適応性	基準値		該当水域
		全窒素	全磷	
I	自然環境保全及び II以下の欄に掲げるもの (水産2種及び3種を除く)	0.2mg/L 以下	0.02mg/L 以下	水域類型 ごとに 指定する 水域
II	水産1種 水浴及びIII以下の欄に掲げるもの (水産2種及び3種を除く)	0.3mg/L 以下	0.03mg/L 以下	
III	水産2種及びIVの欄に掲げるもの (水産3種を除く)	0.6mg/L 以下	0.05mg/L 以下	
IV	水産3種 工業用水 生物生息環境保全	1mg/L 以下	0.09mg/L 以下	
備考				
<ul style="list-style-type: none"> ・基準値は、年間平均値とする。 ・水域類型の指定は、海洋植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある海域について行うものとする。 				

※自然環境保全：自然探勝等の環境保全

※水産1種：底生魚介類を含め多様な水産生物がバランス良く、かつ、安定して漁獲される

〃 2種：一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多獲される

〃 3種：汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される

※生物生息環境保全：年間を通して底生生物が生息できる限度

c) 水生生物の保全に係る環境基準

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値			該当水域
		全亜鉛	ニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	
生物A	水生生物の生息する水域	0.02mg/L 以下	0.001mg/L 以下	0.01mg/L 以下	水域類型 ごとに 指定する 水域
生物特A	生物Aの水域のうち、水生生物の産卵場 (繁殖場)又は幼稚子の生育場として特に 保全が必要な水域	0.01mg/L 以下	0.0007mg/L 以下	0.006mg/L 以下	

d) 底層溶存酸素量に係る環境基準

項目 類型	水生生物が生息・再生産する場の適応性	基準値	該当水域
		底層溶存酸素量	
生物1	生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域	4.0mg/L 以上	水域類型 ごとに 指定する 水域
生物2	生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域	3.0mg/L 以上	
生物3	生息段階において貧酸素耐性の高い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域、再生産段階において貧酸素耐性の高い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域又は無生物域を解消する水域	2.0mg/L 以上	
備考			
<ul style="list-style-type: none"> ・基準値は日間平均値とする。 ・底面近傍で溶存酸素量の変化が大きいことが想定される場合の採水には、横型のバンドン採水器を用いる。 			

ウ 環境基準の類型指定状況

(ア) 河川

a) BOD等に係る環境基準

河川	類型	達成期間	環境基準値					類型指定 年月日
			水素イオン濃度	生物化学的酸素要求量	浮遊物質	溶存酸素量	大腸菌群数	
多々良川上流 津屋堰から上流	A	ロ	6.5 以上 8.5 以下	2mg/L 以下	25mg/L以下	7.5mg/L以上	1,000MPN /100ml以下	平成8年 6月14日 福岡県 告示 第1141号
多々良川下流 津屋堰から下流	C	イ (ロ)	6.5 以上 8.5 以下	5mg/L 以下	50mg/L以下	5mg/L以上	—	
宇美川上流 亀山新橋から上流	B	イ	6.5 以上 8.5 以下	3mg/L 以下	25mg/L以下	5mg/L以上	5,000 MPN /100ml以下	
宇美川下流 亀山新橋から下流	C	ロ (ハ)	6.5 以上 8.5 以下	5mg/L 以下	50mg/L以下	5mg/L以上	—	
須恵川上流 南里井堰から上流	B	イ	6.5 以上 8.5 以下	3mg/L 以下	25mg/L以下	5mg/L以上	5,000 MPN /100ml以下	
須恵川下流 南里井堰から下流	C	イ	6.5 以上 8.5 以下	5mg/L 以下	50mg/L以下	5mg/L以上	—	
樋井川 全域	B (C)	イ (ハ)	6.5 以上 8.5 以下	3mg/L 以下	25mg/L以下	5mg/L以上	5,000 MPN /100ml以下	
室見川 全域	A	イ	6.5 以上 8.5 以下	2mg/L 以下	25mg/L以下	7.5mg/L以上	1,000MPN /100ml以下	
金屑川 全域	C	イ (ロ)	6.5 以上 8.5 以下	5mg/L 以下	50mg/L以下	5mg/L以上	—	
十郎川 全域	C	イ (ハ)	6.5 以上 8.5 以下	5mg/L 以下	50mg/L以下	5mg/L以上	—	
瑞梅寺川 全域	A	イ	6.5 以上 8.5 以下	2mg/L 以下	25mg/L以下	7.5mg/L以上	1,000 MPN /100ml以下	
名柄川 全域	C	イ (ハ)	6.5 以上 8.5 以下	5mg/L 以下	50mg/L以下	5mg/L以上	—	
唐の原川 全域	C	ロ	6.5 以上 8.5 以下	5mg/L 以下	50mg/L以下	5mg/L以上	—	
七寺川 全域	C	イ	6.5 以上 8.5 以下	5mg/L 以下	50mg/L以下	5mg/L以上	—	
江の口川 全域	C	ロ	6.5 以上 8.5 以下	5mg/L 以下	50mg/L以下	5mg/L以上	—	
那珂川上流 塩原橋から上流	A	イ	6.5 以上 8.5 以下	2mg/L 以下	25mg/L以下	7.5mg/L以上	1,000MPN /100ml以下	
那珂川下流(1) 塩原橋から博多川 分岐点まで	B (C)	イ (ハ)	6.5 以上 8.5 以下	3mg/L 以下	25mg/L以下	5mg/L以上	5,000MPN /100ml以下	
那珂川下流(2) 博多川分岐点から 下流	C (D)	イ (ハ)	6.5 以上 8.5 以下	5mg/L 以下	50mg/L以下	5mg/L以上	—	
御笠川上流 金島井堰から上流	B	イ	6.5 以上 8.5 以下	3mg/L 以下	25mg/L以下	5mg/L以上	5,000 MPN /100ml以下	
御笠川下流(1) 金島井堰から山王橋	D	ハ	6.0 以上 8.5 以下	8mg/L 以下	100mg/L以下	2mg/L以上	—	
御笠川下流(2) 山王橋から下流	D (E)	イ (ハ)	6.0 以上 8.5 以下	8mg/L 以下	100mg/L以下	2mg/L以上	—	

※達成期間の分類は、次のとおりとする。

「イ」は、直ちに達成

「ロ」は、5年以内で可及的速やかに達成

「ハ」は、5年を超える期間で可及的速やかに達成

※()内は、平成8年6月14日以前の基準

b) 水生生物保全に係る環境基準

指定水域名	類型	達成期間	環境基準値			類型指定 年月日
			全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	
那珂川上流 今光橋から上流	生物A	イ	0.03mg/L 以下	0.001mg/L 以下	0.03mg/L 以下	平成29年 4月7日 福岡県 告示 第298号
那珂川下流 今光橋から下流	生物B	イ	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.05mg/L 以下	
御笠川 全域	生物B	イ	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.05mg/L 以下	
多々良川 全域	生物B	イ	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.05mg/L 以下	
宇美川 全域	生物B	イ	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.05mg/L 以下	
須恵川 全域	生物B	イ	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.05mg/L 以下	
樋井川 全域	生物B	イ	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.05mg/L 以下	
室見川上流 矢倉橋から上流	生物A	イ	0.03mg/L 以下	0.001mg/L 以下	0.03mg/L 以下	
室見川下流 矢倉橋から下流	生物B	イ	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.05mg/L 以下	
瑞梅寺川 全域	生物B	イ	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.05mg/L 以下	

※達成期間の分類は、次のとおりとする。

「イ」は、直ちに達成

「ロ」は、5年以内で可及的速やかに達成

「ハ」は、5年を超える期間で可及的速やかに達成

「二」は、段階的に暫定目標を達成しつつ、環境基準の可及的速やかな達成に努める。

(イ) 博多湾

a) COD等に係る環境基準

水 域	類 型	達成期間	環境基準値					類型指定 年月日
			水素イオン濃度	化学的酸素要求量	溶存酸素量	大腸菌群数	n-ヘキサン抽出物質(油分等)	
東 部 海 域	B	ロ (ハ)	7.8 以上 8.3 以下	3mg/L 以下	5mg/L 以上	—	検出されないこと	平成8年 6月14日
中 部 海 域	A	ロ	7.8 以上 8.3 以下	2mg/L 以下	7.5mg/L以上	1,000MPN /100ml以下	検出されないこと	福岡県 告示 第1141号
西 部 海 域	A	イ	7.8 以上 8.3 以下	2mg/L 以下	7.5mg/L以上	1,000MPN /100ml以下	検出されないこと	

備 考 ※基準値は日間平均値とする。

※達成期間の分類は、次のとおりとする。

「イ」は、直ちに達成

「ロ」は、5年以内で可及的速やかに達成

「ハ」は、5年を超える期間で可及的速やかに達成

※ () 内は、平成8年6月14日以前

b) 全窒素・全磷に係る環境基準

水 域	類 型	達 成 期 間	環 境 基 準 値		類型指定年月日
			全 窒 素	全 磷	
東 部 海 域	Ⅲ	ニ	0.6 mg/L 以下	0.05 mg/L 以下	平成8年6月14日 福岡県告示第1140号
中 部 海 域	Ⅲ	イ	0.6 mg/L 以下	0.05 mg/L 以下	
西 部 海 域	Ⅱ	イ	0.3 mg/L 以下	0.03 mg/L 以下	

※達成期間の分類は、次のとおりとする。

「イ」は、直ちに達成

「ニ」は、段階的に暫定目標を達成しつつ、環境基準の可及的速やかな達成に努める。

※博多湾東部海域の全磷については、引き続き類型Ⅲの基準値が維持されるように努めるものとする。

水域の範囲

東部海域：福岡市東区西戸崎二丁目 2905 番地先南端と博多港西防波堤（以下「西防波堤」という。）北端とを結ぶ直線、西防波堤、西防波堤南端と同市中央区荒津二丁目 3 番 50 号地先北端とを結ぶ直線及び海岸線に囲まれた海域

中部海域：福岡市東区大岳四丁目 2898 番地の 20 大岳岬南端と同市西区小戸二丁目 1992 番地の妙見岬北端とを結ぶ直線及び海岸線に囲まれた海域であって東部海域に係る部分を除いたもの

西部海域：福岡市東区勝馬 2115 番地先北端と同市西区大字西浦 2467 番地西浦崎北端とを結ぶ直線及び海岸線に囲まれた海域であって東部海域及び中部海域に係る部分を除いたもの

c) 水生生物保全に係る環境基準

水 域	類 型	達 成 期 間	環 境 基 準 値			類型指定年月日
			全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	
博多湾	生物特A	イ	0.01mg/L 以下	0.0007mg/L 以下	0.006mg/L 以下	令和3年 3月26日 福岡県 告示 第393号

※達成期間の分類は、次のとおりとする。

「イ」は、直ちに達成

(ウ) 筑前海

a) COD等に係る環境基準

水 域	類 型	達 成 期 間	環 境 基 準 値					類型指定年月日
			水素イオン濃度	化学的酸素要求量	溶存酸素量	大腸菌群数	n-ヘキサン抽出物質(油分等)	
筑前海水域	A	イ	7.8 以上 8.3 以下	2mg/L 以下	7.5mg/L以上	1,000MPN /100ml以下	検出されないこと	平成13年10 月31日 福岡県告示 第1789号

筑前海水域：北九州市若松区八幡岬から糸島市と佐賀県との境界に至る陸岸の地先海域であって博多湾水域及び唐津湾（1）に係る部分を除いたもの。ただし福岡県内の海域に限る。

b) 水生生物保全に係る環境基準

水域	類型	達成期間	環境基準値			類型指定 年月日
			全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	
筑前海(1)	生物特A	イ	0.01mg/L 以下	0.0007mg/L 以下	0.006mg/L 以下	令和3年 3月26日
筑前海(2)	生物A	イ	0.02mg/L 以下	0.001mg/L 以下	0.01mg/L 以下	福岡県 告示 第393号

※達成期間の分類は、次のとおりとする。

「イ」は、直ちに達成

水域の範囲

筑前海(1)：別記1(北九州市若松区八幡岬から糸島市と佐賀県との境界に至る陸岸の地先海域であって博多湾水域及び唐津湾(1)に係る部分を除いたもの。ただし福岡県内の海域に限る。)のうち水深30m以下の海域。

筑前海(2)：別記1のうち、筑前海(1)に係る部分を除いた海域。

②地下水の水質汚濁に係る環境基準

平成9年3月13日環境省告示第10号
最終改正 令和2年3月30日環境省告示第35号

項目	基準値	項目	基準値
カドミウム	0.003mg/L 以下	1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L 以下
全シアン	検出されないこと。	1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L 以下
鉛	0.01mg/L 以下	トリクロロエチレン	0.01mg/L 以下
六価クロム	0.05mg/L 以下	テトラクロロエチレン	0.01mg/L 以下
砒素	0.01mg/L 以下	1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L 以下
総水銀	0.0005mg/L 以下	チウラム	0.006mg/L 以下
アルキル水銀	検出されないこと。	シマジン	0.003mg/L 以下
PCB	検出されないこと。	チオベンカルブ	0.02mg/L 以下
ジクロロメタン	0.02mg/L 以下	ベンゼン	0.01mg/L 以下
四塩化炭素	0.002mg/L 以下	セレン	0.01mg/L 以下
クロロエチレン(別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー)	0.002mg/L 以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L 以下	ふっ素	0.8mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L 以下	ほう素	1mg/L 以下
1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L 以下	1,4-ジオキサン	0.05mg/L 以下
備考 <ul style="list-style-type: none"> ・基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。 ・「検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。 ・硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、規格K0102の43.2.1, 43.2.3, 43.2.5又は43.2.6により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと規格K0102の43.1により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。 ・1,2-ジクロロエチレンの濃度は、規格K0125の5.1, 5.2又は5.3.2により測定されたシス体の濃度と規格K0125の5.1, 5.2又は5.3.1により測定されたトランス体の濃度の和とする。 			

③海水浴場における水質判定基準

改正平成 9 年 4 月 11 日環水管第 115 号

区分	ふん便性大腸菌群数	油膜の有無	C O D	透 明 度	
適	水質 A A	不検出(検出限界2個/100ml)	油膜が認められない	2mg/L以下	全透(水深1m以上)
	水質 A	100個/100ml以下	油膜が認められない	2mg/L以下	全透(水深1m以上)
可	水質 B	400個/100ml以下	常時は油膜が認められない	5mg/L以下	水深1m未満～50cm以上
	水質 C	1,000個/100ml以下	常時は油膜が認められない	8mg/L以下	水深1m未満～50cm以上
不 適	1,000個/100mlを超えるもの	常時油膜が認められる	8mg/L超	50cm未満*	

※全て、同一水浴場に関して得た測定値の平均による。

「不検出」とは、平均値が検出限界未満のことをいう。透明度(*の部分)に関しては、砂の巻き上げによる原因は評価の対象外とすることができる。

※判定については、上記の表に基づいて以下のとおりとする。

- ・ふん便性大腸菌群数、油膜の有無、C O D又は透明度のいずれかの項目が「不適」であるものを、「不適」な水浴場とする。
- ・「不適」でない水浴場について、ふん便性大腸菌群数、油膜の有無、C O Dおよび透明度によって、「水質 A A」、「水質 A」、「水質 B」あるいは「水質 C」を判定し、「水質 A A」又は「水質 A」であるものを「適」、「水質 B」又は「水質 C」であるものを「可」とする。

※各項目の全てが「水質 A A」である水浴場を「水質 A A」(水質が特に良好な水浴場)とする。

※各項目の全てが「水質 A」以上である水浴場を「水質 A」(水質が良好な水浴場)とする。

※各項目の全てが「水質 B」以上である水浴場を「水質 B」とする。

※これら以外のものを「水質 C」とする。

※「改善対策を要するもの」については以下のとおりとする。

- ・「水質 C」と判定されたもののうち、ふん便性大腸菌群数が、400 個/100ml を超える測定値が 1 以上あるもの。
- ・油膜が認められたもの。

(4) 土壤汚染に係る基準等

① 土壤の汚染に係る環境基準

平成 3 年 8 月 23 日環境庁告示第 46 号
最終改正 令和 2 年 4 月 2 日環境省告示第 44 号

項 目	環 境 上 の 条 件
カドミウム	検液 1 L につき 0.003mg 以下であり、かつ、農用地においては、米 1 kg につき 0.4mg 以下であること。
全シアン	検液中に検出されないこと。
有機燐	検液中に検出されないこと。
鉛	検液 1 L につき 0.01mg 以下であること。
六価クロム	検液 1 L につき 0.05mg 以下であること。
砒素	検液 1 L につき 0.01mg 以下であり、かつ、農用地(田に限る。)においては、土壤 1 kg につき 15mg 未満であること。
総水銀	検液 1 L につき 0.0005mg 以下であること。
アルキル水銀	検液中に検出されないこと。
PCB	検液中に検出されないこと。
銅	農用地(田に限る。)において、土壤 1 kg につき 125mg 未満であること。
ジクロロメタン	検液 1 L につき 0.02mg 以下であること。
四塩化炭素	検液 1 L につき 0.002mg 以下であること。
クロロエチレン(別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー)	検液 1 L につき 0.002mg 以下であること。
1,2-ジクロロエタン	検液 1 L につき 0.004mg 以下であること。
1,1-ジクロロエチレン	検液 1 L につき 0.1mg 以下であること。
1,2-ジクロロエチレン	検液 1 L につき 0.04mg 以下であること。
1,1,1-トリクロロエタン	検液 1 L につき 1 mg 以下であること。
1,1,2-トリクロロエタン	検液 1 L につき 0.006mg 以下であること。
トリクロロエチレン	検液 1 L につき 0.01mg 以下であること。
テトラクロロエチレン	検液 1 L につき 0.01mg 以下であること。
1,3-ジクロロプロペン	検液 1 L につき 0.002mg 以下であること。
チウラム	検液 1 L につき 0.006mg 以下であること。
シマジン	検液 1 L につき 0.003mg 以下であること。
チオベンカルブ	検液 1 L につき 0.02mg 以下であること。
ベンゼン	検液 1 L につき 0.01mg 以下であること。
セレン	検液 1 L につき 0.01mg 以下であること。
ふっ素	検液 1 L につき 0.8mg 以下であること。
ほう素	検液 1 L につき 1mg 以下であること。
1,4-ジオキサン	検液 1 L につき 0.05mg 以下であること。
備考	<p>1 環境上の条件のうち検液中濃度に係るものにあつては付表に定める方法(環境省の定める方法)により検液を作成し、これを用いて測定を行うものとする。</p> <p>2 カドミウム、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、セレン、ふっ素及びほう素に係る環境上の条件のうち検液中濃度に係る値にあつては、汚染土壤が地下水水面から離れており、かつ、原状において当該地下水中のこれらの物質の濃度がそれぞれ地下水 1 L につき 0.003mg、0.01mg、0.05mg、0.01mg、0.0005mg、0.01mg、0.8mg 及び 1mg を超えていない場合には、それぞれ検液 1 L につき 0.009mg、0.03mg、0.15mg、0.03mg、0.0015mg、0.03mg、2.4mg 及び 3mg とする。</p> <p>3 「検液中に検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法(環境省が定める方法)により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。</p> <p>4 有機燐とは、パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及びEPNをいう。</p> <p>5 1,2-ジクロロエチレンの濃度は、日本産業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2より測定されたシス体の濃度と日本産業規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1により測定されたトランス体の濃度の和とする。</p>

(5) 騒音・振動に係る基準等

① 騒音に係る環境基準

(平成 10 年 9 月 30 日環境庁告示第 64 号 最終改正平成 24 年 3 月 30 日環境省告示第 54 号)

ア 道路に面する地域以外の地域

地域の類型	基準値	
	昼間	夜間
AA	50デシベル以下	40デシベル以下
A及びB	55デシベル以下	45デシベル以下
C	60デシベル以下	50デシベル以下

※時間の区分は、昼間を午前 6 時から午後 10 時までの間とし、夜間を午後 10 時から翌日の午前 6 時までの間とする。

※AAを当てはめる地域は、療養施設、社会福祉施設等が集合して設置される地域など特に静穏を要する地域とする。

※Aを当てはめる地域は、専ら住居の用に供される地域とする。

※Bを当てはめる地域は、主として住居の用に供される地域とする。

※Cを当てはめる地域は、相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域とする。

イ 道路に面する地域

地域の区分	基準値	
	昼間	夜間
A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域	60デシベル以下	55デシベル以下
B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域及びC地域のうち車線を有する道路に面する地域	65デシベル以下	60デシベル以下

※車線とは、1 縦列の自動車及安全かつ円滑に走行するために必要な一定の幅員を有する帯状の車道部分をいう。

ウ 幹線交通を担う道路に近接する空間における特例

基準値	
昼間	夜間
70デシベル以下	65デシベル以下

※個別の住居等において騒音の影響を受けやすい面の窓を主として閉めた生活が営まれていると認められるときは、屋内へ透過する騒音に係る基準（昼間にあっては 45 デシベル以下、夜間にあっては 40 デシベル以下）によることができる。

エ 達成期間

① 道路に面する地域以外の地域	直ちに
② 既設の道路に面する地域	10年以内
幹線交通を担う道路に面する地域	10年を超える期間で可及的速やかに
③ 新たに道路に面する地域	環境基準施行後計画された道路は供用後直ちに施行前に計画された道路については②を準用

オ 地域類型のあてはめ

(平成 24 年 4 月 1 日福岡市告示第 113 号)

AA	当該地域なし
A	騒音規制法第 3 条第 1 項の規定に基づき指定する地域（以下「指定地域」という。）のうち、同法第 4 条第 1 項の規定に基づき定める時間及び区域の区分ごとの規制基準（以下「規制基準」という。）により第 1 種区域に区分された地域
B	指定地域のうち、規制基準により第 2 種区域に区分された地域
C	指定地域のうち、規制基準により第 3 種区域及び第 4 種区域に区分された地域
除外	工業専用地域、臨港地区、福岡空港

※図面は環境局環境監理部環境保全課に備え縦覧に供している。

②航空機騒音に係る環境基準

ア 環境基準

(昭和48年12月27日環境庁告示第154号 最終改正平成19年12月17日環境省告示第114号)

地域の類型	基準値
I	57デシベル以下
II	62デシベル以下

※I類型：専ら住居の用に供される地域

II類型：I以外の地域であって、通常の生活を保全する必要がある地域

イ 達成期間等

	達成期間	改善目標
福岡空港	10年をこえる期間内に可及的速やかに	1 5年以内に、70デシベル未満とすること又は70デシベル以上の地域において屋内で50デシベル以下とすること。 2 10年以内に、62デシベル未満とすること又は62デシベル以上の地域において屋内で47デシベル以下とすること。

※航空機騒音の防止のための施策を総合的に講じても、上表の達成期間で環境基準を達成することが困難と考えられる地域においては、当該地域に引き続き居住を希望する者に対し家屋の防音工事等を行うことにより、環境基準が達成された場合と同等の屋内環境が保持されるようにするとともに、極力環境基準の速やかな達成を期するものとする。

ウ 地域の類型のあてはめ

(平成4年4月6日福岡県告示第672号 最終改正平成30年3月23日福岡県告示第255号)

I	東区・博多区・中央区・南区の第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域及び田園住居地域
II	東区・博多区・中央区・南区のうち類型Iをあてはめた地域以外の地域 ただし、工業専用地域、市街化調整区域にある森林地域（国土利用計画法）、河川区域（河川法）、海上、湖沼及び福岡空港敷地は除く

③新幹線鉄道騒音に係る環境基準

ア 環境基準

(昭和50年7月29日環境庁告示第46号 最終改正平成12年12月14日環境庁告示第78号)

地域の類型	基準値
I	70デシベル以下
II	75デシベル以下

※I類型：主として住居の用に供される地域

II類型：商工業の用に供される地域等I以外の地域であって通常の生活を保全する必要がある地域

イ 達成目標期間

新幹線鉄道の沿線区域の区分	達成目標期間		
	既設新幹線鉄道に係る期間	工事中新幹線鉄道に係る期間	新設新幹線鉄道に係る期間
a 80デシベル以上の区域	3年以内	開業時に直ちに	開業時に直ちに
b 75デシベルを超え、80デシベル未満の区域	イ 7年以内	開業時から3年以内	
	ロ 10年以内		
c 70デシベルを超え、75デシベル以下の区域	10年以内	開業時から5年以内	

※ bの区域中イとは地域の類型Iに該当する地域が連続する沿線地域内の区域をいい、ロとはイを除く区域をいう

※ 山陽新幹線は既設新幹線鉄道に該当する

ウ 地域の類型あてはめ

(平成 14 年 3 月 29 日福岡県告示第 538 号 最終改正平成 30 年 3 月 23 日福岡県告示第 256 号)

I	新幹線鉄道の軌道中心線より左右両側それぞれ300m以内の指定する地域のうち 第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、 第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域、田園住居 地域及び市街化調整地域
II	新幹線鉄道の軌道中心線より左右両側それぞれ300m以内の指定する地域のうち 近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域

④在来鉄道の新設又は大規模改良に際しての騒音対策の指針

(平成 7 年 12 月 20 日環大一第 174 号)

環境庁は、在来鉄道の新設又は大規模改良（高架化、複線化等）に際して、生活環境を保全し、騒音問題が生じることを未然に防止する上で目標となる当面の指針を以下のとおり定めた。

新線	等価騒音レベル(L _{Aeq})として、昼間（7～22時）については、60dB(A)以下、 夜間（22時～翌日7時）については、55dB(A)以下とする。なお、住居専用 地域等住環境を保護すべき地域にあっては、一層の低減に努めること。
大規模改良線	騒音レベルの状況を改良前より改善すること。

環境庁は、各都道府県・政令指定都市に対して本指針を在来鉄道の新設又は大規模改良に係る環境影響評価に際し活用するなどの点を求めるとともに、関係省庁にこの旨協力を依頼した。

⑤特定工場等の騒音の規制基準

ア 規制基準 (平成 9 年 3 月 31 日福岡市告示第 74 号)

時間の区分 区域の区分	昼 間 8時～19時	朝 ・ 夕 6時～8時・19時～23時	夜 間 23時～翌日6時
第 1 種 区 域	50デシベル以下	45デシベル以下	45デシベル以下
第 2 種 区 域	60デシベル以下	50デシベル以下	50デシベル以下
第 3 種 区 域	65デシベル以下	65デシベル以下	55デシベル以下
第 4 種 区 域	70デシベル以下	70デシベル以下	65デシベル以下

イ 区域の区分

(平成 9 年 3 月 31 日福岡市告示第 74 号 最終改正令和 3 年 3 月 29 日福岡市告示第 118 号)

第 1 種 区 域	第 1 種低層住居専用地域・第 2 種低層住居専用地域 第 1 種中高層住居専用地域・第 2 種中高層住居専用地域
第 2 種 区 域	主として、第 1 種住居地域・第 2 種住居地域・準住居地域 近隣商業地域（容積率200%）・市街化調整区域・都市計画区域外
第 3 種 区 域	主として、近隣商業地域（容積率300%）・商業地域・準工業地域
第 4 種 区 域	主として、工業地域・工業専用地域
除外する区域	福岡空港

※図面は環境局環境監理部環境保全課に備え縦覧に供している。

⑥特定建設作業の騒音の規制基準

ア 規制基準

(昭和 43 年 11 月 27 日厚生省・建設省告示第 1 号 最終改正平成 12 年 3 月 28 日環境庁告示第 16 号)

区域の区分	第 1 号区域	第 2 号区域
敷地境界線における騒音の大きさ	85デシベル以下	
作業が出来る時間	7時～19時	6時～22時
1 日における延作業時間	10時間以内	14時間以内
同一場所における作業期間	連続6日以内	
日曜・休日における作業	禁止	

イ 区域の区分

(昭和 61 年 4 月 1 日福岡市告示第 74 号 最終改正令和 3 年 3 月 29 日福岡市告示第 119 号)

第 1 号区域	騒音の指定区域のうち第 1 種、第 2 種、第 3 種区域の全域 第 4 種区域のうち学校等の周囲80m以内の区域
第 2 号区域	騒音の指定区域のうち 1 号区域以外の区域

⑦自動車騒音の要請限度

ア 要請限度の限度値

(平成 12 年 3 月 2 日総理府令第 15 号 最終改正平成 23 年 11 月 30 日環境省令第 32 号)

	区域の区分	時間の区分	
		昼間(6時～22時)	夜間(22時～6時)
1	a 区域及び b 区域のうち 1 車線を有する道路に面する区域	65デシベル	55デシベル
2	a 区域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する区域	70デシベル	65デシベル
3	b 区域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する区域及び c 区域のうち車線を有する道路に面する区域	75デシベル	70デシベル

上表にあげる区域のうち、幹線交通を担う道路に近接する区域（2車線以下の車線を有する道路の場合は、道路の敷地の境界線から 15m、2車線を超える車線を有する道路の場合は、道路の敷地の境界線から 20mまでの範囲をいう）に係る限度は上表にかかわらず、昼間においては 75 デシベル、夜間においては 70 デシベルとする。

a 区域、b 区域、c 区域とは、それぞれ次の各号に掲げる区域として都道府県知事（指定都市の長）が定めた区域をいう。

- a 区域：専ら住居の用に供される区域 b 区域：主として住居の用に供される区域
c 区域：相当数の住居と併せて、商業、工業等の用に供される区域

イ 区域の区分

(平成 12 年 3 月 30 日福岡市告示第 86 号 最終改正令和 3 年 3 月 29 日福岡市告示第 120 号)

特定工場等の騒音の規制基準の区域の区分のうち、次の区分とする。

- a 区域：第 1 種区域
b 区域：第 2 種区域
c 区域：第 3 種、第 4 種区域

⑧特定工場等の振動の規制基準

ア 規制基準

(平成 9 年 3 月 31 日福岡市告示第 77 号)

区域の区分	時間の区分	
	昼 間 8 時～19 時	夜 間 19 時～翌日 8 時
第 1 種 区 域	60デシベル以下	55デシベル以下
第 2 種 区 域	65デシベル以下	60デシベル以下

イ 区域の区分

(平成 9 年 3 月 31 日福岡市告示第 77 号 最終改正令和 2 年 3 月 23 日福岡市告示第 93 号)

第 1 種 区 域	主として、第 1 種低層住居専用地域・第 2 種低層住居専用地域 第 1 種中高層住居専用地域・第 2 種中高層住居専用地域 第 1 種住居地域・第 2 種住居地域・準住居地域 近隣商業地域（容積率200%）・市街化調整区域・都市計画 区域外
第 2 種 区 域	主として、近隣商業地域（容積率300%）・商業地域・準工業地域 工業地域・工業専用地域
除外する区域	福岡空港・工業専用地域及び臨港地区の一部

(備考) 図面は環境局環境監理部環境保全課に備え縦覧に供している。

⑨特定建設作業の振動の規制基準

ア 規制基準

(昭和 51 年 11 月 10 日総理府令第 58 号 最終改正平成 23 年 11 月 30 日環境省令第 32 号)

区域の区分	第 1 号区域	第 2 号区域
敷地境界線における振動の大きさ	75デシベル以下	
作業が出来る時間	7時～19時	6時～22時
1日における延作業時間	10時間以内	14時間以内
同一場所における作業期間	連続6日以内	
日曜・休日における作業	禁止	

イ 区域の区分

(平成 9 年 3 月 31 日福岡市告示第 78 号 最終改正平成 22 年 1 月 25 日福岡市告示第 23 号)

〈特定工場等の振動の規制基準に係る指定地域全域が第 1 号区域で、第 2 号区域は市内にありません〉

⑩道路交通振動の要請限度

ア 要請限度

(昭和 51 年 11 月 10 日総理府令第 58 号 最終改正平成 23 年 11 月 30 日環境省令第 32 号)

区域の区分	時間の区分	
	昼 間	夜 間
第 1 種区域	8時～19時 65デシベル	19時～翌日8時 60デシベル
第 2 種区域	70デシベル	65デシベル

イ 区域の区分、時間の区分

(区域の区分：昭和 61 年 4 月 1 日福岡市告示第 79 号 最終改正令和 2 年 3 月 23 日福岡市告示第 94 号)

(時間の区分：昭和 61 年 4 月 1 日福岡市告示第 79 号 最終改正平成元年 12 月 21 日福岡市告示第 261 号)

特定工場等の振動の規制基準の区域の区分、時間の区分による

3 環境関連発行物

名称	内容	発行日 (又は策定年)	発行頻度	発行部数	担当課
福岡市環境基本計画 (第三次)	福岡市環境基本条例第7条に定められた環境の保全及び創造に関する基本的な計画であり、また福岡市新・基本計画を環境面から総合的・計画的に推進するための基本指針	H26.9	-	500部	環境局 環境政策課
福岡市環境基本計画 (第三次)・概要版	上記計画の概要版	H26.9	-	1,000部	
福岡市新世代 環境都市ビジョン	複雑・多様化する環境問題と、関連する社会・経済の情勢の変化に対応しながら、長期的展望に立って環境都市づくりを推進するための指針	H25.3	-	300部	
ふくおかの環境計画 (年次報告書)	福岡市環境基本条例第11条に基づき、環境の状況並びに環境の保全及び創造に関する施策の実施状況を明らかにした年次報告書を作成し、市全体の環境の情報の提供として公表している。	毎年 12月頃	1回/年	220部	
福岡市環境教育・学習計画 (第三次)	社会全体の環境に関する認識の向上を図り、環境の保全及び創造に関する行動への参加を促進していくため、福岡市環境基本計画(第三次)の部門別計画として策定した。	H27.9	-	500部	
小学校社会科資料(副読本) 「わたしたちのまちの環境」	地域の環境や地球の環境を守り育て、次世代に引き継いでいくため、小学校5年生の社会科資料(副読本)「わたしたちのまちの環境」を作成している。	H30.3	1回/年	17,000部	
環境教育・学習人材リスト	環境教育や実践活動を行う際の講師・指導者選びの参考とするため、環境教育・学習人材情報を提供している。	-	-	- (HP掲載のみ)	
エコチェックシート	エコライフ度を自己チェックするためのシート。	H18年度	-	3,000枚	
環境にe(い〜)こと 実践手引き	市民及び事業者の行動が自主的・積極的に環境に配慮した暮らしのあり方や経済活動となるよう、環境負荷の低減に向けて、誘導・促進していくための手引き	H19.8	-	日常生活編 事業活動編 各2,500部	
福岡市環境行動賞活動紹介 パンフレット	環境保全・創造に高い水準で貢献し、顕著な功労・功績のあった個人・団体・学校・事業者を表彰する「福岡市環境行動賞」受賞者の活動を紹介するパンフレット	R2.7	隔年制作	4,500部	
エコ発する事業のご紹介	「エコ発する事業」を活用し市民団体やNPO法人などが行っている、環境活動を紹介するパンフレット	H30.2	1回/年	1,500部	
環境啓発U-30 事業実施報告書	30歳以下の若者を対象とした環境啓発U-30事業の1年間の活動をまとめた実施報告書	H27.3	-	50部	
福岡市U-30 エコ活団体ガイドブック	福岡市内で環境活動に取り組む、U-30世代(30歳以下の若者)の団体の活動を紹介するガイドブック	H27.3	-	700部	
福岡方式リーフレット (準好気性埋立構造とは?)	海外からの研修生等向けに、「福岡方式」の要点を紹介する英語版のリーフレット	H27.3	-	1,500部	
地球温暖化(脱炭素社会の 実現)に関するリーフレット	「脱炭素社会」について正しい知識を伝え、広く市民へ広報・啓発を行うためのリーフレットを作成し、環境局ホームページへ掲載している。	R2.11	-	-	
福岡市地球温暖化対策 実行計画	市全体の温暖化対策を市民・事業者・福岡市が総合的・計画的に進めることを目的とした、地球温暖化対策推進法に基づく法定計画、かつ福岡市環境基本計画に基づく地球温暖化対策についての部門別計画	H28.12	-	300部	環境局 環境・エネルギー 対策課
福岡市地球温暖化対策 実行計画・概要版	上記計画の概要版	H28.12	-	1,000部	
福岡市環境・エネルギー 戦略	ふくおか型の自立分散型エネルギー社会の早期実現を目指した、福岡市環境基本計画に基づくエネルギー政策についての部門計画	H26.6	-	-	
福岡市環境・エネルギー 戦略・概要版	上記戦略の概要版	H26.6	-	1,000部	
やるほど快感!お金が増える 省エネ術パンフレット	省エネ対策の参考としていただくための省エネ手法を紹介するパンフレット	H27.11	随時	400部	
福岡市大原メガソーラー 発電所リーフレット	福岡市大原メガソーラー発電所の設備やシステム等の概要について、わかりやすく紹介したリーフレット	H25.2	-	1,000部	
福岡市蒲田メガソーラー 発電所リーフレット	福岡市蒲田メガソーラー発電所の設備やシステム等の概要について、わかりやすく紹介したリーフレット	H26.6	-	1,000部	
スマートハウス展示場 リーフレット	スマートハウスの仕組みや、スマートハウス展示場内で体験できる、エネルギーを賢く使った暮らしをわかりやすく紹介したリーフレット	H26.5	-	3,000部	
博多湾環境保全計画 (第二次)	博多湾の水質保全ならびに博多湾の持つ豊かな生物の生息・生育の場の保全・再生及び創造を推進するため、「福岡市環境基本計画(第二次)」の部門別計画として策定した。	H28.9	-	500部	
博多湾環境保全計画 (第二次)の概要	「博多湾環境保全計画(第二次)」の概要版	H28.9	-	1,000部	
生物多様性ふくおか戦略	福岡市における生物多様性の保全等の取組みや指針	H24.8	-	400部	環境局 環境調整課

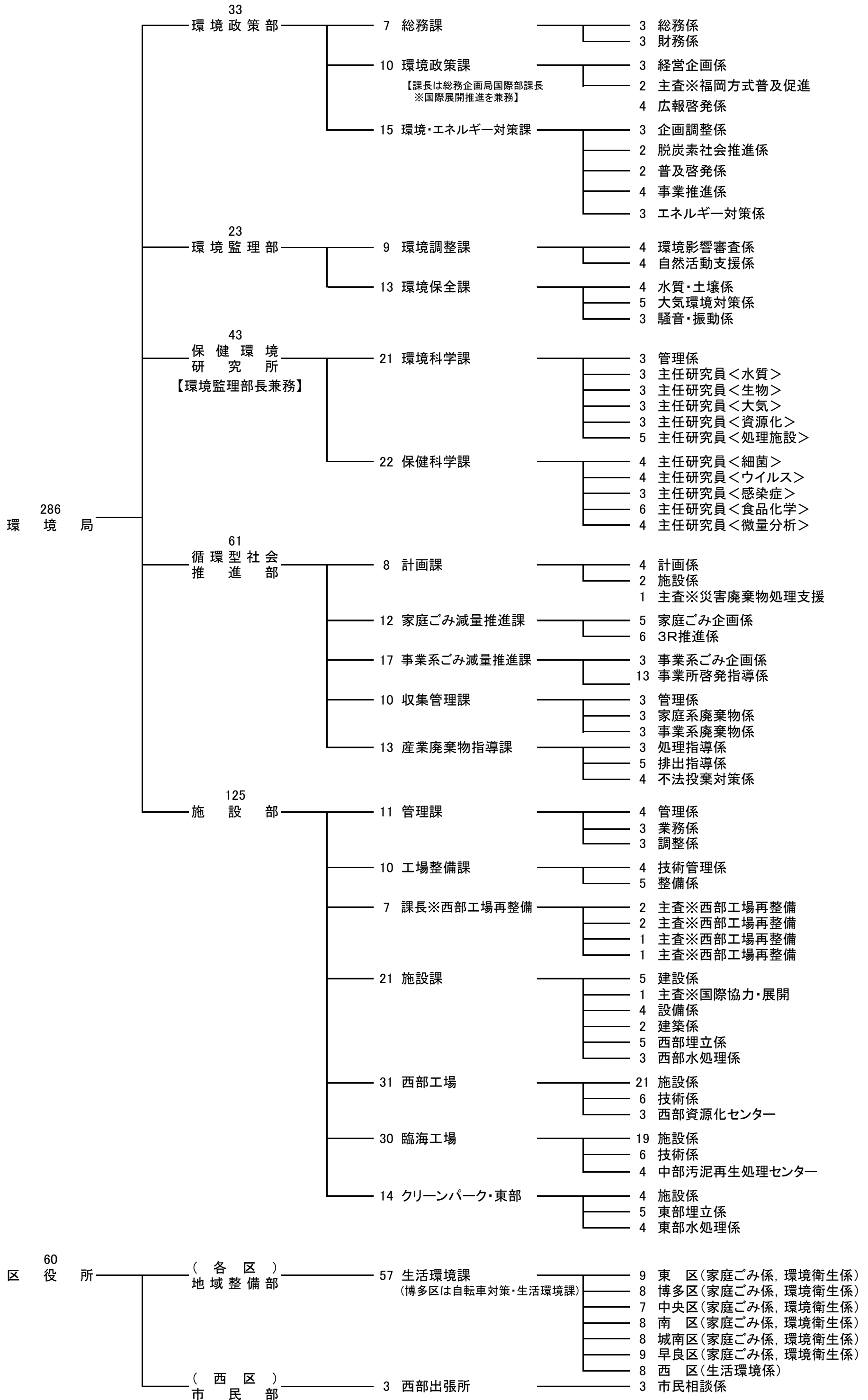
名称	内容	発行日 (又は策定年)	発行頻度	発行部数	担当課
福岡市環境配慮指針 (改定版)	公共の都市基盤整備事業や民間の開発事業の「構想」「計画」「実施」にあたり、環境に配慮すべき事項を具体的に示し、これらの事業が環境と調和のとれたまちづくりへと結びつくように誘導するための指針	H28.9 改定	-	1,000部	環境局 環境調整課
造成・建設工事、公共工事等の前には「福岡市環境配慮指針」	「福岡市環境配慮指針(改定版)」の概要や具体的な使い方を解説したリーフレット	H30.6	-	-	
アイランドシティ環境配慮指針(改定版)	アイランドシティにおいて、環境と共生した先進的なまちづくりを実現するため、緑化の推進や省エネルギー設備、新エネルギーシステムの導入など環境に配慮した施設整備を誘導する指針	H24.3 改定	-	500部	
アイランドシティ環境配慮指針技術マニュアル(改定版)	「アイランドシティ環境配慮指針(改定版)」に基づいて、事業者等が環境に配慮したまちづくりや施設整備を確実に進めるため、環境配慮対策の具体的な手法や関連法制度などについて解説したもの。	H24.3 改定	-	500部	
アイランドシティ環境配慮指針のあらまし(改定版)	「アイランドシティ環境配慮指針(改定版)」の概要版	H24.3 改定	-	1,000部	
アイランドシティ環境配慮指針(住宅編)(改定版)	「アイランドシティ環境配慮指針(改定版)」のうち、住宅に関する事項について分かりやすく紹介したパンフレット	H24.3 改定	-	1,000部	
ふくおかの生きもの	福岡で見られる貴重な生きものや環境関連施設の紹介リーフレット	R2.3	-	10,000部	
今津干潟の生きもの	今津干潟の環境やそこに生息・生育する生きものについてのリーフレット	H16.3	-	500部	
ピオトープ つくってみませんか?	「地域の人たちが協力して小規模な水辺のあるピオトープをつくっていく」という想定でピオトープづくりの過程や活用事例を紹介したリーフレット。環境局で実際に携わったピオトープづくりのノウハウを基に作成	H18.3	-	5,000部	
私たちのくらしと生きもの のにぎわい	生物多様性ふくおか戦略の図解パンフレット	H24.10	-	3,000部	
福岡市の環境影響評価制度 (環境アセスメント)	福岡市の環境影響評価制度について分かりやすく紹介したパンフレット	H25.3 改定	-	500部	
ふくおかのカブトガニ	カブトガニの生態や本市における保全の取り組みを紹介したリーフレット	H25.3 改定	-	2,000部	
今津干潟の里海づくり ニュースレター	今津干潟において、地域住民と共働で実施している里海保全再生活動のニュースレター	H26.3	-	1,000部	
“自然で遊ぼうふくおか エコツアー”パンフレット	福岡市内で行えるエコツアーを紹介し、市民と自然の関わり方を啓発するパンフレット	H27.9	-	5000部	
“自然で遊ぶふくおか エコツアー” パンフレット第2弾	福岡市内で行えるエコツアーを紹介し、市民と自然の関わり方を啓発するパンフレット	H28.8	-	5000部	
ふくおかエコツアー パンフレット海編	福岡市の海辺のエコツアーを紹介し、市民と自然の関わり方を啓発するパンフレット	H30.3	-	5000部	
ふくおかエコツアー パンフレット干潟編	福岡市の干潟のエコツアーを紹介し、市民と自然の関わり方を啓発するパンフレット	H31.3	-	5000部	
知っておきたい アスベストとは	アスベストについて、特性や健康への影響、劣化したアスベストの対処方法などを分かりやすく説明している。	H18.10	-	1,000部	環境局 環境保全課
ご存知ですか? 光化学スモッグ	光化学スモッグ(光化学オキシダント)について、基礎知識から注意報発令時の健康上の注意点、また、福岡市防災メールでのお知らせなどをイラストを添えて説明している。	H20.4	-	25,000部	
福岡市黄砂情報	黄砂の飛来予測や飛来時の行動のめやすなどについてわかりやすく紹介したリーフレット	H25.1	-	10,000部	
教えて!PM2.5	PM2.5の発生源や環境基準、予測情報や行動のめやすなどについてわかりやすく紹介したリーフレット	H31.1	-	8,000部	
福岡市水質測定結果報告書	水環境の状況を把握するために実施した、河川・博多湾などの公共用水域及び地下水などの常時監視結果やダイオキシン類、環境ホルモン、ゴルフ場農薬などの微量化学物質調査結果を記載し、関係機関に配布している。	毎年 1月頃	1回/年	40部	
福岡市大気測定結果 報告書	大気汚染状況を監視するために実施した、大気測定局16局の常時監視結果及びダイオキシン類調査結果、有害大気汚染物質調査結果、酸性雨、クロロフルオロカーボン、降下ばいじん、アスベスト等の調査結果を掲載し、関係機関に配布している。	毎年1月頃	1回/年	50部	
熱中症予防リーフレット	熱中症予防啓発のため、熱中症による救急搬送状況、予防のポイント、応急対応方法や暑さ指数の活用方法等について掲載。	R3.3 改訂	-	42,000部	
熱中症予防法の8か条	高齢者向けに、熱中症の予防法について分かりやすくまとめたチラシ	H31.3	-	40,000部	

名称	内容	発行日 (又は策定年)	発行頻度	発行部数	担当課
熱中症対策の手引き (イベント主催者向け)	イベント主催者向けに計画段階からイベント当日までの必要な対策を分かりやすくまとめたリーフレット	R3.3 改訂	-	5,000部	環境局 環境保全課
保健環境学習室まもる一む 福岡 リーフレット	保健環境学習室まもる一む福岡の施設概要を紹介	H25.4 改定	-	5,000部	環境局 環境科学課
ほかんげんだより	安心・安全に関するお知らせや保健環境研究所の活動、トピックスを紹介	R2.4 R2.5	-	各1,000部	
福岡市保健環境研究所報	保健環境研究所の事業概要並びに調査研究の成果を集約し、関係機関はもとより福岡市民をはじめ全国の方々に情報として提供し、広く活用して頂くことを目的に作成	毎年10月頃	1回/年	100部	
環境活動 NEWS	環境活動を行う NPO 団体や個人、事業者等の交流・連携を支援する取組みを紹介 (保健環境学習室まもる一む福岡)	R3.1 R3.3	2回/年	各400部	環境局計画課
循環のまち・ふくおか 推進プラン	ごみの発生抑制や再使用に重点を置いた3Rの取組みにより「福岡式循環型社会システムの構築」を推進するための基本的な方向性を定める一般廃棄物の処理に関する計画、かつ「福岡市環境基本計画(第三次)」の部門別計画	R3.8	-	1,500部	
循環のまち・ふくおか 推進プラン リーフレット	上記計画の市民へのPRと、ごみ減量の取り組み方を解説したリーフレット	R3.8	-	2,500部	
社会科副読本 「ごみとわたしたち」	本市のごみ処理のしくみや3Rの取組みを紹介した小学4年生向けの社会科副読本「ごみとわたしたち」を作成・配布している。	R3.3	1回/年	17,200部	環境局 家庭ごみ減量 推進課
ゼロ ポイ捨て0! FUKUOKA	福岡市空き缶等の散乱防止及びその再資源化の促進に関する条例の内容を解説したリーフレット	H24.3	-	1,250部	
家庭ごみルールブック	福岡市の家庭のごみ出しルール、資源物の出し方や回収場所を紹介。	R3.2	1回/年	95,000部	
家庭ごみガイド	福岡市の家庭のごみ出しルール、資源物の出し方や回収場所を紹介。家庭ごみルールブックの簡易版として作成。	R3.2	1回/年	55,000部	
家庭からの食品ロス削減 リーフレット	家庭での食品ロスを削減するための冷蔵庫の収納方法や、食べ切り・使い切りのための保存・使い方を紹介。	H30.3	-	5,000部	環境局 事業系ごみ減量 推進課
家庭でできる食品ロス削減 チラシ	家庭のごみの組成や家庭で取り組める食品ロス削減のためのチェックリスト等を紹介。	H30.3	-	3,000部	
古紙分別リーフレット	令和2年10月開始の事業系ごみの分別区分追加に向け、周知・啓発のため事業所へ配布。	R1.11 R2.2	-	104,000部 114,000部	環境局 事業系ごみ減量 推進課
古紙分別ガイドブック	令和2年10月開始の事業系ごみの分別区分追加に向け、古紙の出し方や古紙業者の情報を掲載。事業系一般廃棄物処理ルールブックの古紙に特化した別冊版として作成。	R2.6	-	100,000部	
福岡方式(準好気性埋立構 造とは?)パンフレット	ごみ埋立技術の福岡方式(準好気性埋立構造)を見学者等に説明するためのパンフレット。「福岡方式」の開発経緯や概要、跡地利用の説明の他、国際協力事例などを紹介している。	H25.3 改訂	-	日本語版 1,000部 英語版 1,000部	環境局 施設課
福岡市新・緑の基本計画	緑地の保全及び緑化の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施し、少子高齢化や環境問題といった、緑をとりまく社会状況の変化に対応しながら、良好な都市環境の形成を図り、健康で文化的な都市生活の確保に寄与することを目的に、「都市緑地法」及び「福岡市緑地保全と緑化推進に関する条例」に基づき策定したものの。	H21.5	-	-	住宅都市局 みどり政策課
小学校副読本・社会資料 「わたしたちのくらしと 下水道」	下水道の存在意義を理解してもらうため、下水道のしくみと役割をまとめた小学校4年生向けの社会科資料「わたしたちのくらしと下水道」を作成し、配布している。	R2.4	1回/年	17,500部	道路下水道局 下水道経営企画課
エコパークゾーン ガイドブック	博多湾東部のエコパークゾーンについて、市民の認知度や関心を高めることを目的に、エコパークゾーンの経緯や各ゾーンの見どころ、交通アクセス、これまでに実施した環境保全創造に向けた取組等について紹介したガイドブックを作成・配布している。	H31.4 改訂	-	17,500部	港湾空港局 みなと環境政策課
アイランドシティ自然 エネルギー活用ビジョン	国内トップレベルの創エネ・省エネ型都市の実現を目指すアイランドシティにおいて、自然エネルギーを最大限に活用したまちづくりを進める将来像や今後の取り組みの方向性等を市民及び事業者等に示したものの。	H23.9	-	-	港湾空港局 分譲推進課 事業管理課
みずだより (水道広報紙)	水道事業全般について市民に情報を提供し、水道事業への理解促進を図っている。	R2.5.15 R2.8.1 R3.1.1	3回/年	約80万部/回 (市内全戸配布)	水道局総務課
社会科副読本 「水とわたしたち」	限りある貴重な資源である水を大切に使い、水に対する理解を深めるために、本市の水道に関してまとめた、小学4年生向け副読本「水とわたしたち」を作成し、配布している。	R3.4	1回/年	16,700部	
地下鉄概要パンフレット	地下鉄の概要を紹介する冊子で、地下鉄が環境に良い乗り物であることや、環境負荷軽減のための取組みを紹介している。	毎年7月頃	1回/年	1,250部	交通局 経営企画課

4 環境局の概要

(1) 令和3年度 環境局機構図(令和3年4月1日現在)

※数字は職員定数



※区役所の数は、環境局で給与費の支払いをしている職員数

(2) 職員配置表

令和3年4月1日現在

区 分	合 計	局 長	部 長	課 長 級	係 長 級	係 員		環 境 業 務 員	自 動 車 運 転 手	
						事 務	技 術			
総 計	346	1	4	26	69	84	102	58	2	
局 計	286	1	4	19	63	64	95	38	2	
環 境 局	環 境 政 策 部	33		1	3	10	17	2		
	総 務 課	7			1	2	4			
	環 境 政 策 課	10			1	3	6			
	環 境 ・ エ ネ ル ギ ー 対 策 課	15			1	5	7	2		
	環 境 監 理 部	23		1	2	5		15		
	環 境 調 整 課	9			1	2		6		
	環 境 保 全 課	13			1	3		9		
	保 健 環 境 研 究 所	43			2	11	1	29		
	環 境 科 学 課	21			1	6	1	13		
	保 健 科 学 課	22			1	5		16		
	循 環 型 社 会 推 進 部	61		1	5	13	35	5		2
	計 画 課	8			1	3	4			
	家 庭 ご み 減 量 推 進 課	12			1	2	9			
	事 業 系 ご み 減 量 推 進 課	17			1	2	12	2		
	収 集 管 理 課	10			1	3	6			
	産 業 廃 棄 物 指 導 課	13			1	3	4	3		2
	施 設 部	125		1	7	24	11	44	38	
	管 理 課	11			1	3	6	1		
	工 場 整 備 課	10			1	2		7		
課 長 ※ 西 部 工 場 再 整 備	7			1	4		2			
施 設 課	21			1	6	1	11	2		
西 部 工 場	31			1	3	1	8	18		
臨 海 工 場	30			1	3	1	9	16		
ク リ ー ン パ ー ク ・ 東 部	14			1	3	2	6	2		
区 張 出 所	60			7	6	20	7	20		

※ 区役所の職員配置数については、環境局給与費で支払いしている職員の数に記載している。

(3) 事務分掌

令和3年4月1日現在

担 当 課	分 掌 事 務
環 境 政 策 部	
総 務 課	①当該局の所掌事務に係る局内の総合的な連絡調整に関する事 ②当該部の所掌事務に係る部内の連絡調整に関する事 ③当該局の予算及び決算に関する事 ④他の部及び部内の他の課の主管に属しない事
環 境 政 策 課	①環境の保全及び創造に係る総合的な企画及び調整に関する事 ②環境審議会に関する事 ③環境に関する広報に係る総合調整に関する事 ④環境保全の意識の普及向上に関する事 ⑤地域における環境活動の促進に関する事 ⑥地域における環境活動の促進に係る区役所所掌事務の連絡調整に関する事 ⑦当該局の自律経営の推進に関する事 ⑧福岡方式の普及促進に関する事
環 境 ・ エ ネ ル ギ ー 対 策 課	①温暖化対策・自律分散型エネルギー社会の実現に係る企画及び調整に関する事 ②温暖化対策に係る事業の推進に関する事 ③省エネルギーの推進に関する事 ④再生可能エネルギーの導入促進に関する事
環 境 監 理 部	
環 境 調 整 課	①当該部の所掌事務に係る部内の連絡調整に関する事 ②事業等の立案及び実施における環境への配慮の推進に係る調整に関する事 ③生物多様性の保全に関する事 ④環境影響評価制度に関する事 ⑤環境影響評価審査会に関する事 ⑥博多湾の環境保全及び自然環境保全に関する事 ⑦環境保全の意識の普及向上に関する事。ただし、環境政策部の所管に係るものを除く。
環 境 保 全 課	①大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動その他の公害（事業場等に係るものに限る。）の調査及び防止に関する事 ②大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動等に係る環境の調査及び情報の収集、解析、提供等に関する事 ③公害に係る相談に関する事 ④公害の防止に係る区役所所掌事務の連絡調整に関する事
保 健 環 境 研 究 所	
環 境 科 学 課	①保健環境研究所内の連絡調整に関する事 ②保健環境研究所の予算及び決算に関する事 ③環境保全及び生活衛生に係る化学検査及び調査研究に関する事 ④廃棄物の資源化に係る各種技術の調査研究に関する事 ⑤清掃施設及び廃棄物の試験検査に関する事
保 健 科 学 課	①感染症の病原体、細菌及びウイルス等の検査及び調査研究に関する事 ②食品一般の化学検査及び家庭用品の有害物質検査並びにこれらの調査研究に関する事

担 当 課	分 掌 事 務
循環型社会推進部	
計 画 課	<ul style="list-style-type: none"> ①当該部の所掌事務に係る部内の連絡調整に関する事。 ②廃棄物行政に係る総合的な企画及び調整に関する事。 ③一般廃棄物処分業及び一般廃棄物処理施設の許可等に関する事。ただし、農林水産局水産部の所管に係るものを除く。 ④一般廃棄物処分業者の施設の検査並びに指導及び監督に関する事。 ⑤一般廃棄物の処理施設の整備計画に関する事。 ⑥災害廃棄物に関する事。 ⑦ふくおか環境財団との連絡調整に関する事。 ⑧当該課所掌事務に係る区役所所掌事務の連絡調整に関する事。 ⑨部内の他の課の主管に属しないこと。
家 庭 ぐ み 減 量 推 進 課	<ul style="list-style-type: none"> ①家庭系廃棄物の減量及びリサイクルに係る企画立案及び基本調査並びに情報提供に関する事。 ②家庭系廃棄物の適正な分別・排出の啓発に関する事。 ③リサイクルプラザに関する事。 ④清掃意識の普及向上に関する事。 ⑤当該課所掌事務に係る区役所所掌事務の連絡調整に関する事。
事 業 系 ぐ み 減 量 推 進 課	<ul style="list-style-type: none"> ①事業系一般廃棄物の減量及びリサイクルに係る企画立案及び基本調査並びに情報提供に関する事。 ②事業系一般廃棄物の適正な分別・排出の啓発に関する事。 ③事業系一般廃棄物の減量及びリサイクルに係る排出者指導に関する事。 ④清掃意識の普及向上に関する事。
収 集 管 理 課	<ul style="list-style-type: none"> ①一般廃棄物の処理に関する事。 ②一般廃棄物の処理に係る調査及び統計（し尿に係るものに限る。）に関する事。 ③一般廃棄物収集運搬業の許可等に関する事。ただし、農林水産局水産部の所管に係るものを除く。 ④一般廃棄物収集運搬業者の器材の検査並びに指導及び監督に関する事。ただし、農林水産局水産部の所管に係るものを除く。 ⑤浄化槽清掃業の許可に関する事。 ⑥当該局の所管に係る公衆便所に関する事。 ⑦粗大ごみ受付センターに関する事。 ⑧当該課所掌事務に係る区役所所掌事務の連絡調整に関する事。
産 業 廃 棄 物 指 導 課	<ul style="list-style-type: none"> ①産業廃棄物の処理に関する事。 ②産業廃棄物に係る調査及び統計に関する事。 ③産業廃棄物処理業及び産業廃棄物処理施設の許可等に関する事。ただし、農林水産局水産部水産振興課の所管に係るものを除く。 ④産業廃棄物処理業者の指導に関する事。 ⑤産業廃棄物の指導に関する事。 ⑥建設廃棄物の再資源化に関する事。 ⑦使用済自動車の再資源化等に関する法律に基づく許可及び指導に関する事。 ⑧PCB廃棄物の処理等に関する事。 ⑨不法投棄の防止に関する事。 ⑩当該課所掌事務に係る区役所所掌事務の連絡調整に関する事。

担 当 課	分 掌 事 務
施 設 部	
管 理 課	<ul style="list-style-type: none"> ①当該部の所掌事務に係る部内の連絡調整に関すること。 ②一般廃棄物の処理に係る調査及び統計に関すること。ただし、循環型社会推進部 収集管理課の所管に係るものを除く。 ③西部工場、臨海工場、クリーンパーク・東部との連絡調整に関すること。 ④清掃施設の設置に係る地元対策、調整等に関すること。 ⑤局の所管に係る行政財産の取得及び管理に関すること。 ⑥福岡クリーンエナジーとの連絡調整に関すること。 ⑦自己搬入ごみ事前受付センターに関すること。 ⑧市外等の一般廃棄物の受入れに関すること。 ⑨福岡都市圏南部環境事業組合との連絡調整に関すること。 ⑩資源物の売却等に関すること。 ⑪部内の他の課の主管に属しないこと。
工 場 整 備 課	<ul style="list-style-type: none"> ①一般廃棄物の中間処理施設（し尿に係るものを除く。次号及び第3号において同じ。）の建設計画の施工に関すること。 ②一般廃棄物の中間処理施設の設備工事の施行に関すること。 ③一般廃棄物の中間処理施設の設計及び積算に関すること。 ④一般廃棄物の処理及び資源化に係る各種技術の調査及び導入に関すること。 ⑤当該部の所掌事務に係る設備技術の継承に関すること。 ⑥当該部の所掌事務に係る保健環境研究所環境科学課との連絡調整に関すること。
施 設 課	<ul style="list-style-type: none"> ①当該局の所管に係る施設（工場整備課の所管に係るものを除く。次号及び第3号において同じ。）の建設計画に関すること。 ②当該局の所管に係る施設の工事の施行に関すること。 ③当該局の所管に係る施設の維持修繕に関すること。 ④西部埋立場の維持管理に関すること。 ⑤西部埋立場に係るごみ、燃えがら等の埋立処分に関すること。 ⑥ふくおかの環境技術を活かした国際貢献・展開事業の推進に関すること。
西 部 工 場	<ul style="list-style-type: none"> ①西部工場及びその付帯施設の維持管理に関すること。ただし、環境局施設部工場整備課及び施設課の所管に係るものを除く。 ②廃棄物の焼却処理及び破砕処理に関すること。 ③小呂島生ごみ処理場の維持管理及び運営に関すること。ただし、環境局施設部工場整備課の所管に係るものを除く。 ④その他特に命じる事項に関すること。
臨 海 工 場	<ul style="list-style-type: none"> ①臨海工場及びその付帯施設の維持管理に関すること。ただし、環境局施設部工場整備課及び施設課の所管に係るものを除く。 ②廃棄物の焼却処理に関すること。 ③中部汚泥再生処理センターの汚泥再生処理に関すること。 ④中部汚泥再生処理センター及び玄界島焼却場の維持管理及び運営に関すること。ただし、環境局工場整備課及び施設課の所管に係るものを除く。 ⑤その他特に命じる事項に関すること。
ク リ ー ン パ ー ク ・ 東 部	<ul style="list-style-type: none"> ①クリーンパーク・東部及びその付帯施設の維持管理に関すること。ただし、環境局施設部工場整備課及び施設課の所管に係るものを除く。 ②廃棄物の破砕処理に関すること。 ③東部埋立場の維持管理に関すること。 ④東部埋立場に係るごみ、燃えがら等の埋立処分に関すること。 ⑤その他特に命じる事項に関すること。

特命担当の課長

所 属	特 命 事 項
施 設 部	西 部 工 場 再 整 備

担 当 課	分 掌 事 務
区 役 所	
生活環境課 ※博多区は自転車 対策・生活環境課	①清掃相談、清掃思想の普及及びごみ減量の推進に関する事。 ②廃棄物処理の申込受付に関する事。 ③廃棄物処理業者の指導及び監督に関する事。 ④清掃委託業務の検査に関する事。 ⑤廃棄物の不法投棄の防止に関する事。 ⑥環境活動の推進に関する事。 ⑦環境の保全に係る相談に関する事。 ⑧特定建設作業に係る届出の受理、監視及び指導に関する事。
西部出張所 (市民相談係)	①清掃思想の普及に関する事。 ②廃棄物処理の申込みの受付に関する事。 ③市民相談(清掃相談を含む。)に関する事。 ④清掃委託業務の検査、廃棄物処理業者の指導及び監督、廃棄物の不法投棄の防止並びに環境活動の推進に関する事。

(4) 施設・車両

① 事務所

区分	粗大ごみ受付センター
所在地	福岡市中央区那の津2丁目10番15号
電話番号	092-731-1153
アドレス	https://sodaigomi-kankyo.city.fukuoka.lg.jp/
備考	<ul style="list-style-type: none">●電話での受付<ul style="list-style-type: none">・受付時間 毎週月曜日～土曜日 午前9時から午後5時・休み 日曜日、年末年始(12月29日～1月3日)・FAXでの申し込み 092-731-1195●インターネット、LINEでの受付 原則として24時間365日受付対応 (ただし、メンテナンス作業時は受付不可)●業務内容 粗大ごみ処理の申込みを受け、コンピューターシステムを利用して、受付情報を収集業者に送信する。●電話回線 22回線

区分	自己搬入ごみ事前受付センター
所在地	福岡市博多区博多駅前2丁目1番1号
電話番号	092-433-8234
アドレス	https://uketuke-kankyo.city.fukuoka.lg.jp/
備考	<ul style="list-style-type: none">●電話での受付<ul style="list-style-type: none">・受付時間 毎週月曜日～土曜日 午前8時30分から午後4時・休み 日曜日、年始(1月1日～1月3日)●インターネットでの受付 原則として24時間365日受付対応 (ただし、メンテナンス作業時は受付不可)●業務内容 自己搬入ごみの申込みを受け付け、コンピューターシステムを利用して、データ管理を行い、各ごみ処理施設へ受付情報を送信する。●電話回線 年間平均11回線(繁忙期は最大16回線)

② ごみ処理施設

ア 工場

区 分	西 部 工 場	臨 海 工 場
所 在 地	福岡市西区大字拾六町1191番地 (クリーンパーク・西部内)	福岡市東区箱崎ふ頭4丁目13-42 (クリーンパーク・臨海内)
電 話 番 号	092-891-3433	092-642-4577
敷 地 面 積	約143,500m ²	約97,700m ²
建 築 面 積	12,357m ²	21,901m ²
延 床 面 積	27,122m ²	53,004m ²
竣 工	平成4年3月	平成13年3月
焼 却 炉 型 式	連続運転式ストーカ炉	連続運転式ストーカ炉
規 模	750 t / 日 (250 t / 日 × 3 基)	900 t / 日 (300 t / 日 × 3 基)
排 ガ ス 処 理	無触媒脱硝 電気式集じん 湿式苛性ソーダ洗浄 活性炭吹込+ろ過式集じん	無触媒脱硝 消石灰吹込+ろ過式集じん 湿式苛性ソーダ洗浄 触媒脱硝
排ガス冷却方式	廃熱ボイラ方式	廃熱ボイラ方式 水噴射方式
煙 突	外筒RC造、内筒鋼板製 高さ80m、集合煙突方式	外筒RC造、内筒鋼板製 高さ80m、集合煙突方式
熱 利 用	所内給湯冷暖房 自家発電 (10,000kW) 西部資源化センター、総合西市民プール、 西部3Rステーションへ電力供給 老人福祉センター「福寿園」へ電力 ・熱供給 余剰電力は売却	所内給湯冷暖房 自家発電 (25,000kW) 余剰電力は売却

区 分	東 部 工 場	福 岡 都 市 圏 南 部 工 場
所 在 地	福岡市東区蒲田5丁目11-2 (クリーンパーク・東部内)	春日市大字下白水104-5
電 話 番 号	092-691-2999	092-596-1570
敷 地 面 積	約58,000m ²	約95,000m ²
建 築 面 積	14,798m ²	9,486m ²
延 床 面 積	33,450m ²	19,093m ²
竣 工	平成17年7月	平成28年3月
焼 却 炉 型 式	連続運転式ストーカ炉	連続運転式ストーカ炉
規 模	900 t / 日 (300 t / 日 × 3 基)	510 t / 日 (170 t / 日 × 3 基)
排 ガ ス 処 理	消石灰吹込+活性炭吹込+ろ過式集じん 湿式苛性ソーダ洗浄 触媒脱硝	ろ過式集じん 湿式苛性ソーダ洗浄 触媒脱硝 活性炭吸着
排ガス冷却方式	廃熱ボイラ方式 水噴射方式	廃熱ボイラ方式
煙 突	外筒RC造、内筒鋼板製 高さ80m、集合煙突方式	外筒RC造、内筒鋼板製 高さ80m、集合煙突方式
熱 利 用	所内給湯 自家発電 (29,200kW) クリーンパーク・東部管理棟、東部污水 処理場へ電力供給 東部資源化センターへ電力・熱供給、余 剰電力は売却	所内給湯 自家発電 (16,700kW) 余剰電力は売却

※東部工場の建設・運営は(株)福岡クリーンエナジーで実施

※福岡都市圏南部工場の建設・運営は福岡都市圏南部環境事業組合で実施

イ 不燃性ごみ破碎選別処理施設

区 分	東部資源化センター	西部資源化センター
所 在 地	福岡市東区蒲田5丁目11-1 (クリーンパーク・東部内)	福岡市西区大字拾六町1191番地 (クリーンパーク・西部内)
電 話 番 号	092-691-0831	092-891-3433
敷 地 面 積	約36,000m ²	西部工場敷地の一部
延 床 面 積	約5,800m ²	約8,500m ²
竣 工	昭和61年9月(平成15年3月プラント更新)	平成6年7月
処 理 能 力	100 t/日 (100 t/5 h × 1 系列)	100 t/日 (100 t/5 h × 1 系列)
施 設 の 概 要	不燃性ごみを破碎し、有価物(鉄・アルミ)、可燃物及び不燃物に選別する。	

ウ 最終処分場

区 分	東部(伏谷)埋立場	西部(中田)埋立場
所 在 地	糟屋郡久山町大字山田1431-1	福岡市西区今津4439
総面積(ごみの埋立量)	約644,000m ² (約510万 t)	約380,000m ² (約238万 t)
R3年3月までの埋立量	約333万 t	約105万 t
浸出水処理施設	敷 地 面 積	17,000m ²
	処 理 方 法 (放流先)	生物処理+物理化学処理 (公共下水道)
	処 理 能 力	1,600m ³ /日
管理事務所(電話)	東部埋立管理事務所(092-976-1851)	西部埋立管理事務所(092-807-5553)

区 分	福岡都市圏南部最終処分場
所 在 地	大野城市大字中906-12
総 面 積	約152,000m ²
R3年3月までの埋立量	約5万4千m ²
浸出水処理施設	処 理 方 法 (放流先)
	処 理 能 力

※福岡都市圏南部最終処分場の建設・運営は福岡都市圏南部環境事業組合で実施

エ 離島処理施設

区 分	玄界島焼却場	小呂島生ごみ処理場	
所 在 地	福岡市西区大字玄界島 字タテハサ310-2	福岡市西区大字小呂 島字神の下63-1	福岡市西区大字小呂 島字神の下306-2
敷地面積	約783m ²	約250m ²	約180m ²
竣 工	平成26年 5月	平成13年 3月	平成28年 3月
処理能力	1 t / 8 h	30kg/日	20kg/日
処理方式	機械化バッチ燃焼式 (ストーカ炉)	生ごみ分解消滅処理(バイオ処理)	

オ びん・ペットボトル中継保管施設

所 在 地	福岡市東区蒲田 5 丁目14番 2 号 (クリーンパーク・東部内)
敷地面積	約3,000m ²
建築面積	886.43m ²
竣 工	平成12年 3月
保管容量	341m ³
施設概要	ガラスびん及びペットボトルの分別収集を実施するためのストックヤード

カ ストックヤード

所 在 地	福岡市東区蒲田 5 丁目11番 1 号 (クリーンパーク・東部内)
敷地面積	約1,800m ²
建築面積	540m ²
竣 工	平成21年 3月
施設概要	廃家電、廃蛍光管及び廃白色トレイの一時保管施設

③ 啓発施設

区 分	西部 3 Rステーション (西部リサイクルプラザ)	臨海 3 Rステーション (臨海リサイクルプラザ)
開 館	平成 6 年 6 月	平成13年 3月
所 在 地 (電話)	福岡市西区今宿青木1043番地の2 (クリーンパーク・西部内) (092-882-3190)	福岡市東区箱崎ふ頭4丁目13番42号 (クリーンパーク・臨海内) (092-642-4641)
延床面積	985m ²	2,170m ²
備 考	家具(臨海 3 Rステーションのみ)・図書・衣類等リユースエリア、情報・啓発エリア、講座エリア等 開館 午前10時～午後5時 休館 月曜日(休日の場合は次の平日)、年末年始(12月28日～1月3日)	

④ し尿処理施設

区 分	中部汚泥再生処理センター
所在地 (電 話)	福岡市中央区那の津二丁目11番3号 (092-751-1179)
敷地面積 (延床面積)	9,312m ² (4,678m ²)
供 用	平成27年11月～(昭和63年3月～平成27年10月迄中部中継所として運用)
施設能力	計画日量65k1/日 (固液分離設備：91k1/日)
処理フロー	<p style="text-align: center;"> 投入槽 (100m³×2槽) ↓ 破碎ポンプ ↓ 貯留槽 (200m³) ↓ 汚泥供給ポンプ ↓ 汚泥脱水機→脱水汚泥 ↓ 臨海工場 (燃料) ↓ ろ液槽 (250m³) ↓ 曝気槽 (400m³) ↓ 希釈水→放流槽 (110m³) ↓ 公共下水道管渠 </p>
臭気対策	薬液洗浄 (酸・アルカリ・次亜塩素酸ソーダ) + 活性炭吸着
圧送管	圧送管は廃止し公共下水道へ放流

※平成13年3月 海洋投入廃止

平成18年3月 中部中継所処理フロー変更

平成19年3月 久山中継所廃止

平成19年4月 中部中継所より東部水処理センターへし尿圧送開始

平成21年3月 玄界島中継施設し尿処理停止

平成22年3月 玄界島中継施設廃止

平成25年3月 中部中継所脱臭処理フロー変更

平成27年11月 中部中継所を廃止し中部汚泥再生処理センターとして供用開始

平成30年3月 中部汚泥再生処理センター脱臭処理系統分離

⑤ 車両（令和3年4月1日）

ア ごみ収集車

区 分	計	パッカー車		4 輪 ダンプ	クレーン ダンプ	トラック 等	業者数	
		中 型 (2t超)	小 型 (2t以下)					
計	399	229	83	10	0	77	41	
委託	可燃ごみ収集	162	104	42	—	—	16	14
	不燃ごみ収集	29	15	8	—	—	6	3
	粗大ごみ収集	44	4	11	—	—	29	8
	空きびん・ペットボトル収集	27	13	10	—	—	4	3
許 可	137	93	12	10	—	22	13	

※不燃ごみ、粗大ごみ一部及び空きびん・ペットボトルの収集業者は同一業者である。

イ し尿収集車

区 分	計	ポ ン プ 車				業者数	
		大 型 (4.5kl以上)	中 型 (3.3～3.7kl)	小 型 (3.2～1.9kl) (1.8kl以下)			
合 計	14	2	6	4	2	3	
委託	(公財) ふくおか 環境財団	6	—	3	3	—	1
許可 (浄化槽汚泥等)	8	2	3	1	2	2	

ウ その他

区 分	計	ダンプ車	ロードスイ ーパー	散水車	トラック	清掃船	ブルドーザ ー	ショベル	コンパクト ー	パッカー	普 通 乗用車	フォーク リフト	ホイールロ ーダ
道路・街路清掃 (委託)	45(13)	17(5)	15(5)	10	1(1)	—	—	1(1)	—	1(1)	—	—	—
河 川 清 掃 (委託)	5(2)	—	—	—	—	5(2)	—	—	—	—	—	—	—
犬猫等の死体収集 (委託、許可)	4	—	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—
民間協力店資源回収 (委託)	6	—	—	—	4	—	—	—	—	2	—	—	—
工場焼却灰運搬(委託) 破碎不燃物及び副産塩 運搬を含む	14(1)	14(1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
埋立処分場管理 (委託)	14	4	—	2	—	—	2	4	2	—	—	—	—
びん・ペット中継保管 (委託)	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1

※ () 内数字は予備車であり内数である。

東部工場を含む。

⑥ その他

ア 公衆便所の整備及び清掃

環境局所管の公衆便所については、不特定多数の利用者が見込まれ、環境衛生上必要がある場合に整備することとし、令和3年4月現在、21か所に設置するとともに、夏季に2か所の海水浴場に仮設トイレを臨時設置している。

常設公衆便所の清掃については、委託により毎日（日曜日を除く）又は隔日（土、日曜日を除く）に1回実施しており、利用頻度の高いところは毎日2回及び日曜日に1回の清掃を行っている。

区	名 称	所 在 地	規 模	面積	供用開始年月
東	箱 崎	箱崎1丁目42	女3、男大1、小3	20.00m ²	S55. 9
	志 賀 島	大字志賀島411-1	女2、男大1、小2	11.52m ²	S58. 2
	香 椎	香椎4丁目17	女2、男大1、小3	18.40m ²	H 3. 3
博 多	対馬小路	対馬小路3	女1、男大1、小2、身1	20.78m ²	S47. 3
	東中島橋	中洲5丁目6	女2、男大1、小2、身1	27.25m ²	S49. 3
	中洲かけ橋	中洲4丁目1	女2、男大1、小4	16.89m ²	H元. 1
	櫛田神社	上川端町1	女4、男大2、小4、身1	29.94m ²	S46. 5
	恵比須橋	下呉服町10	女1、男大1、小1	9.40m ²	S51. 3
	市民体育館	東公園8-2	女2、男大1、小3	14.24m ²	S47. 3
中 央	盲導犬専用トイレ	天神2丁目11	犬用1	6.51m ²	H15. 11
	長 浜	長浜3丁目14	女1、男大1、小1、身1	15.55m ²	H28. 2
	城 内 町	城内11	女2、男大1、小2	14.31m ²	S58. 3
	天神1丁目	天神1丁目12	女2、男大1、小2、身1	25.47m ²	H 4. 3
早 良	板 屋	大字板屋308-1	女1、男大1、小1	10.75m ²	S53. 12
	田 隈	大字野芥2	女2、男大1、小3	16.81m ²	S52. 8
西	能 古	能古193-2	女2、男大1、小2	14.58m ²	S58. 2
	玄 界 島	大字玄界島21-14	女1、男大1、小1	4.50m ²	S54. 3
	今 津	今津377-4	大3、小3	16.54m ²	S61. 3
	下 山 門	下山門4丁目2	女2、男大1、小3	17.28m ²	S61. 7
	飯 盛	大字飯盛609	女2、男大1、小2	12.93m ²	H 3. 3
	今津ふれあい広場	今津4824-4	小1、身1	11.36m ²	H30. 11
計	21 か 所				

イ 跡地利用

本市では、昭和40年以降東西2方面に11か所の埋立場を設置し、うち9か所については、既に埋立を完了しており、埋立完了後の跡地利用については地元条件、行政需要等を勘案の上、都市づくりの観点から総合的な活用計画を企画・立案し、その有効利用を図っている。

なお、姪浜埋立場、今津第1埋立場及び今津第2埋立場については、平成18年12月11日、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の17第1項の規定に基づき、廃棄物が地下にある土地を指定区域として指定した。

(埋立場の設置及び跡地の利用状況)

名 称		総面積 千m ²	跡地残 面 積 千m ²	埋立期間	所 在 地	利 用 状 況
東 部 埋 立 場	八田埋立場	234	5	S43. 9～ S48. 3	東区青葉	小学校、特別支援学校、公民館 中学校、公園（青葉公園）等
	旧蒲田埋立場	42	281	S40. 6～ S43. 9	東区蒲田	ペットボトル保管庫 スプリングマットレス外解体処理棟
	久山埋立場	94		S48. 3～ S50. 3 S51. 4～ S51. 11	糟屋郡久山 町大字山田	ケイマンゴルフ場
	新蒲田埋立場	61		S50. 4～ S51. 3 S51. 12～ S52. 7	東区蒲田	資源化センター 東部工場（福岡クリーンエナジー） ストックヤード
	武節ヶ浦 埋 立 場	191		S52. 8～ S63. 3	東区蒲田	運動広場 びん・ペットボトル中継保管施設 污水处理場 ※メガソーラー発電所
	伏谷埋立場 （埋立中）	644	—	S63. 4～	糟屋郡久山 町大字山田	久山グラウンドゴルフ場
西 部 埋 立 場	姪浜埋立場	65	—	S45. 2～ S47. 12	西区姪浜町	中学校、幼稚園
	今津第1 埋 立 場	64	—	S48. 1～ S49. 4	西区今津	借地であったため、所有者に返 還（農地）
	今津第2 埋 立 場	11	—	S49. 5～ S49. 10	西区今津	借地であったため、所有者に返 還（農地）
	今津埋立場	758	311	S50. 2～ H11. 9	西区今津	特別支援学校、運動公園、市民 リフレッシュ農園、子どもの村、 松濤園等 ※球技場
	中田埋立場 （埋立中）	380	—	H 8. 4～	西区今津	※メガソーラー発電所

※は暫定的利用

⑦ 予算

令和3年度の環境局予算は、254億8,149万5千円で一般会計予算の約2.4%を占めており、計画的な施設整備の進捗等により前年度当初予算に比し約19.2%の減となっている。

ア 令和3年度重要施策

(ア) 快適で良好な生活環境のまちづくり

a) 黄砂・PM2.5などの大気汚染物質への対応

PM2.5や光化学オキシダントをはじめとする大気汚染物質の状況を把握するとともに、黄砂などの予測情報を提供し、市民への分かりやすい情報提供に努める。

63,830千円

b) 良好な生活環境の保全

「福岡市アスベスト対策推進プラン（第二次）」に基づき、年々増加する建築物の解体工事等に対して監視・指導を適切に実施する。また、大気汚染防止法の改正を踏まえ、新たに規制対象となる解体工事等への対応を強化する。

加えて、騒音や化学物質等について監視・指導を実施する。

43,167千円

c) 気候変動への適応

全庁的な推進体制のもと、気候変動適応に係る基本認識や情報の共有を図るとともに、各局区と連携した気候変動の影響による被害の回避・軽減の取組みを推進する。

熱中症対策については、防災メールやリーフレット等を活用した注意喚起や啓発を実施する。特に「新しい生活様式」の下での熱中症予防行動について、市政だよりやデジタルサイネージを活用した動画の放映など、様々な機会を捉えた啓発を実施する。

5,668千円

d) 歴史・景観を活かした美しいまちの実現

自治会・町内会による地域ぐるみ清掃やボランティアによる清掃活動を支援し、清潔で美しいまちづくりを進める。

1,747千円

(イ) 市民がふれあう自然共生のまちづくり

a) 生き物や自然環境の保全・再生と自然のネットワークの形成

生きものが生まれ育つ博多湾を目指して、「博多湾環境保全計画（第二次）」に基づき博多湾の環境保全・再生の取組みを推進するため、貧酸素発生状況調査や、市民との共働による干潟生物調査等の生物指標調査に取り組むとともに、博多湾に流入する河川の環境改善に関する調査等を実施する。

また、市内における水生生物および特定外来生物アライグマの生息状況を把握するため、自然環境調査を実施する。

29,242千円

b) 生物多様性の認識の社会への浸透

「生物多様性ふくおか戦略」に基づき、身近な自然の恵みの持続的な利用と保全の好循環を生み出すための取組みを促進する。

生物多様性の保全や水源涵養等の様々な役割を持つ森について市民の関心を高めるため、NPO団体等と共働し、森の機能・特徴を学び、恵みを体験する活動を実施する。

また、地域において自然の大切さを伝えていく人材となる「ふくおかレンジャー」の育成、活動支援等を実施するとともに、地域住民や大学等との共働により、カブトガニの保全等に取り組む里海保全再生活動を推進する。

15,417千円

(ウ) 資源を活かす循環のまちづくり

a) 計画の策定、広報啓発の推進

更なるごみ減量・リサイクルを推進するため、新たなごみ処理基本計画を策定し、特に、プラスチックごみ、古紙、食品廃棄物の3品目に重点的に取り組む。

また、広く市民の理解を深め、実践行動を促進するため、引き続き、小学4年生を対象に行う環境学習、市政だよりの環境特集号の発行のほか、オンライン講座やSNSの活用等による周知・啓発を行う。

101,535千円

b) プラスチックごみ対策の推進

プラスチックごみの削減については、「リフューズ」による発生抑制を推進するため、イベント等で使用されるワンウェイプラスチックを削減するためのモデル事業を実施するほか、市内飲食店等を「マイボトル協力店」として登録する制度や公共施設の給水スポットを活用し、マイボトル利用の促進を図るなど、ライフスタイルの変革を促進する。

また、海洋プラスチックごみの削減を進めるため、世界水泳と連携した清掃活動を行うほか、福岡都市圏の各自治体と連携した河川での清掃イベント等を通じた啓発を行い、意識の醸成を図る。

21,367千円

c) 古紙等の資源化推進

家庭から排出される古紙については、高齢化等に対応したモデル事業を行い、集団回収制度の促進策を検討するとともに、「雑がみ回収促進袋」の全戸配布校区の拡大により、資源化を推進する。

事業系古紙については、古紙分別保管場所等整備支援補助金などの支援を継続するとともに、個別訪問による適正排出指導や市内全事業者へルールブックを配布するなど、分別区分追加の制度定着に向けた周知・啓発を行い、資源化を推進する。

さらに、使用済小型家電等の資源回収を推進するほか、リチウムイオン電池等の廃棄方法に関する広報啓発の強化を図るとともに、回収拠点の拡充を行う。

530,448千円

d) 食品ロス対策の推進

食品ロスの削減を図るため、家庭での食品ロスを記録することで削減を促す「食品ロスダイアリー」を環境学習を受けた小学生に配付するとともに、「福岡エコ運動協力店」のさらなる拡大や、AIやICTを活用した食品関連事業者の取組みを支援する。

また、区役所等の公共施設において家庭での未利用食品を集める常設の「フードドライブスポット」を設置するとともに、NPOとのフードバンク活動に係る共働事業を継続し、食品提供量の増加に向けた取組みを行う。

25,779 千円

e) 廃棄物の適正処理の確保

家庭ごみの収集運搬を着実に実施するとともに、不法投棄対策及び資源物の持ち去り対策等に取り組む。

また、清掃工場等へのごみの自己搬入については、搬入物検査による分別や不適物除去の指導を徹底するとともに、排出者自らが搬入実績量を確認し、ごみの減量効果を把握できるよう、「自己搬入ごみ事前受付システム」に事前登録機能等を追加する。

さらに、清掃工場や埋立場等の改良工事や復旧工事等の施設整備を計画的に実施するとともに、西部工場の再整備の検討を行う。また、株式会社福岡クリーンエナジーにより東部工場を、福岡都市圏南部環境事業組合により同組合の工場及び最終処分場を運営する。

14,719,402 千円

(エ) 未来につなぐ脱炭素のまちづくり

a) 計画の改定

脱炭素社会の実現に向けて温暖化対策を総合的・計画的に推進するため、「福岡市地球温暖化対策実行計画」の改定を行う。改定にあたっては、国の地球温暖化対策計画等の改定状況、福岡市環境審議会及び事業者、学識経験者、市民等からなる作業部会における議論を踏まえ、検討を進める。

14,690 千円

b) 省エネルギーの促進

市民・事業者の省エネの取組みを促進するため、建物の省エネ化や高効率な省エネ機器等の導入など国等の事業と連携を図りつつ、家庭部門では、「ECOチャレンジ応援事業」等による周知・啓発を、業務部門では、「事業所省エネ計画書制度」等による事業所の自主的・計画的な取組み支援を行う。

また、自動車部門では、次世代自動車（電気自動車・燃料電池自動車等）への移行を促進するため、車両購入に対する助成を行うとともに、電気自動車の利用環境の充実に向け、充電設備設置の誘導を図る。

51,813 千円

c) 再生可能エネルギーやエネルギーマネジメントシステムなどの導入・活用

再生可能エネルギーの普及促進のため、自家消費型の住宅用太陽光発電を有効利用する蓄電池や、電気自動車と住宅が相互に充給電可能なV2Hシステムの導入助成を行うなど、市民のエネルギ

ーマネジメントシステムの導入・活用を支援する。

また、家庭や企業における使用電力の脱炭素化を促進するため、再生可能エネルギーにかかる小売電気の情報や導入機会を提供するなど利用しやすい環境づくりを進める。

236,531 千円

(オ) 環境の保全・創造に向けた人・地域・しくみづくり、広域的な取組み

a) 環境の保全・創造に向けた人づくり・地域づくり

若年層の参加促進に努めながら、市民・市民団体による地球温暖化対策やごみ減量・リサイクル、環境イベントなどの環境活動を幅広く支援するとともに、環境フェスティバル等の各種啓発事業を実施する。

また、環境に関する情報がワンストップで入手できる環境市民ポータルサイトを開設するとともに、再生可能エネルギーについて楽しく学べる環境関連施設の親子見学会を実施する。

加えて、保健環境学習室「まもる一む福岡」において、保健と環境に関する体験型学習を充実するとともに、環境保全活動に取り組む団体等の交流支援・情報発信を行う。

47,199千円

b) 環境の保全・創造に向けたしくみづくり

市民の健康と快適な環境を守るため、新型コロナウイルス感染症の検査体制を拡充するとともに、市民や行政のニーズに応じたPM2.5、博多湾、食中毒などに関する試験・研究に取り組む。

また、環境保全及び創造等に貢献し、顕著な功績のあった個人・団体・学校・事業者を顕彰する「福岡市環境行動賞」の募集を行う。

197,602千円

c) ふくおか から九州・アジアへ

廃棄物処理や環境の保全など広域化する環境行政に対応するため、近隣自治体との相互連携により、情報交換や普及啓発事業等を実施する。

また、廃棄物埋立技術「福岡方式」を活用したミャンマー・ヤンゴン市での技術協力や「福岡方式」の普及促進など国際貢献・協力を推進する。

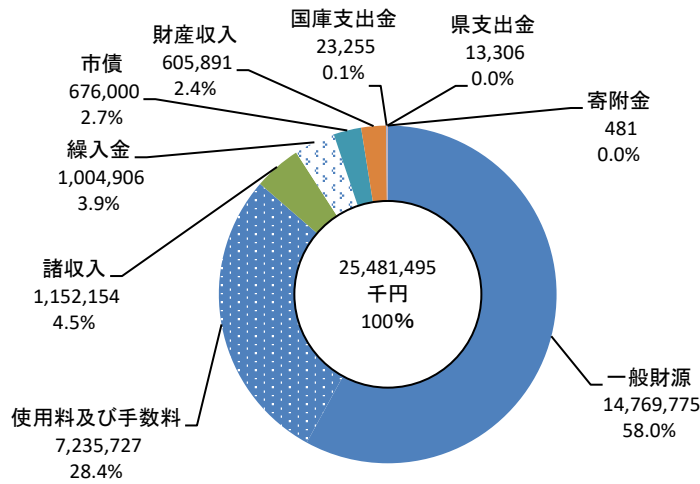
59,300 千円

イ 一般会計と環境費

区 分	一 般 会 計	環 境 費
令和3年度当初予算	1,054,544,000千円	25,481,495千円
比 率 (一般会計=100%)	100%	2.4%
対前年度比 (令和2年度=100%)	118.8%	80.8%

ウ 令和3年度 環境局予算の内訳

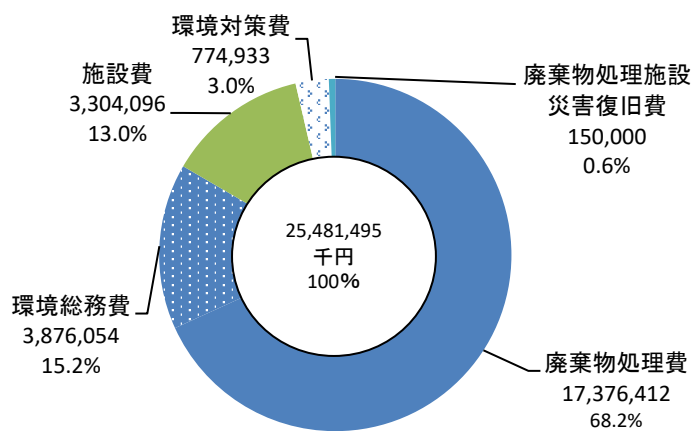
(ア) 歳入



(単位:千円)

科 目	予 算 額	説 明
特 定 財 源	10,711,720	
使用料及び手数料	7,235,727	環境施設使用料 10,560 運動広場使用料 1,176 ごみ処理手数料 7,170,804 し尿処理手数料 49,997 保健環境研究所手数料 1,242 収入証紙収入 1,948
国庫支出金	23,255	感染症対策費負担金 2,780 ごみ処理施設整備費補助金 19,866 公害調査費等委託金 609
県支出金	13,306	河川清掃費補助金 3,000 産業廃棄物対策事業補助金 9,857 公害防止事務等取扱費委託金 449
財産収入	605,891	財産貸付収入 13,200 環境市民ファンド利子収入 1,269 事業系ごみ資源化推進ファンド利子収入 3,421 株式会社福岡クリーンエナジー出資金配当金 586,500 土地建物売払収入 1,500 物品売払収入 1
寄 附 金	481	環境市民ファンド寄附金 381 事業系ごみ資源化推進ファンド寄附金 100
繰 入 金	1,004,906	環境市民ファンド受入金 842,954 事業系ごみ資源化推進ファンド受入金 161,952
諸 収 入	1,152,154	延滞金及び加算金 1 納付金 11,873 保険料収入 19,091 受託事業収入 94,379 雑入 1,026,810
市 債	676,000	(環境施設整備事業に充当する起債) 工場等整備 388,000 埋立場整備 141,000 (廃棄物処理施設災害復旧事業に充当する起債) 災害復旧事業 147,000
一 般 財 源	14,769,775	

(イ) 歳出



(単位:千円)

科	目	予 算 額	説 明
歳 出	合 計	25,481,495	
環 境 費	環境総務費	3,876,054	給与費等 2,883,232 地域環境活動推進経費 1,747 清掃事業普及推進経費 452,758 周辺自治体との協働経費 12,628 福岡市環境審議会経費 1,607 ふくおかの環境技術を活かした国際貢献・展開 55,543 環境市民ファンド積立金 449,614 事業系ごみ資源化推進ファンド積立金 3,521 その他の経費 15,404
	環境対策費	774,933	一般職職員給与費等 50,669 環境にやさしい都市づくり推進経費 403,466 適正な環境管理推進経費 161,726 保健環境研究所経費 156,526 その他の経費 2,546
	廃棄物処理費	17,376,412	一般職職員給与費等 80,290 指定袋関連経費 689,492 可燃ごみ収集経費 6,484,333 不燃ごみ収集経費 772,073 粗大ごみ収集経費 864,009 資源物回収経費 1,392,801 道路清掃経費 741,044 河川清掃経費 49,639 犬・猫等死体処理経費 70,555 堆積ごみ処理経費 16,015 不法投棄対策経費 16,673 資源物持ち去り防止対策 17,747 ごみ終末処理経費 5,519,901 産業廃棄物処理指導等経費 11,212 併用世帯ごみ収集事業補助金 3,960 し尿収集経費 179,751 し尿処理手数料徴収事務経費 44,202 し尿終末処理経費 118,382 その他の経費 304,333
	施設費	3,304,096	一般職職員給与費等 3,425 工場等周辺環境整備費 201,097 埋立場周辺環境整備費 77,618 工場等整備費 412,270 ごみ埋立場整備費 624,455 その他の施設整備費 22,540 施設維持管理費 1,962,691
	災害復旧費	廃棄物処理施設災害復旧費	150,000

エ 環境局予算の推移

(ア) 歳入

(単位:千円)

区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
合 計	27,952,161	30,469,121	30,929,276	31,519,299	25,481,495
伸 率	101.2	109.0	101.5	101.9	80.8
使用料及び手数料	7,056,836	7,199,633	7,381,580	7,449,897	7,235,727
国庫支出金	52,128	918,753	1,213,461	1,536,789	23,255
県支出金	12,778	12,399	12,105	12,680	13,306
財産収入	228,172	103,887	622,923	104,685	605,891
寄附金	1,416	1,283	773	633	481
繰入金	984,508	1,001,820	857,244	1,251,901	1,004,906
諸収入	1,569,610	1,066,251	1,358,091	1,329,590	1,152,154
市債	645,000	1,566,000	2,080,000	2,254,000	676,000
一般財源	17,401,713	18,599,095	17,403,099	17,579,124	14,769,775

(イ) 歳出

(単位:千円)

区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	
一般会計	832,795,000	838,769,000	866,640,000	887,458,000	1,054,544,000	
環境局所管合計	27,952,161	30,469,121	30,929,276	31,519,299	25,481,495	
内訳	環境総務費	5,027,590	4,790,346	4,372,236	4,593,612	3,876,054
	環境対策費	766,533	741,701	773,887	784,465	774,933
	廃棄物処理費	17,916,628	17,931,626	19,001,717	18,453,772	17,376,412
	施設費	4,241,410	7,005,448	6,781,436	7,687,450	3,304,096
	災害廃棄物処理施設 復旧費 災害復旧費	-	-	-	-	150,000
一般会計に占める割合	3.4	3.6	3.6	3.6	2.4	

(単位:円)

区 分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	
市民1人の 経費	一般会計	531,394	531,051	544,147	550,068	652,423
	環境費	17,836	19,291	19,420	19,536	15,765
1世帯の 経費	一般会計	1,050,811	1,041,301	1,056,668	1,072,998	1,266,148
	環境費	35,270	37,826	37,711	38,109	30,595
人 口	1,567,189	1,579,450	1,592,657	1,613,361	1,616,351	
世 帯 数	792,526	805,501	820,163	827,083	832,876	

※平成29年度から令和元年度までは決算額、令和2年・3年度については当初予算額。

人口世帯数は各年10月1日現在の推計人口。令和3年度は令和3年4月1日現在の推計人口。

令和2年度・3年度については、国勢調査結果速報（本市独自集計）の推計人口。

5 環境局事業年表

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
1880年 (明13)		●各戸ごとの収集			●清潔法施行(県達)
1883年 (明16)		●福岡部、博多部の大半が、常置された掃除夫により各戸ごとの定期収集が開始される。			
1889年 4月 (明22) 12月					●市制施行 ●人口50,847人
1890年 4月 (明23)	●庶務課に衛生係設置				
1891年 (明24)		●収集業務の民間請負開始			●福岡市掃除定則制定
1900年 4月 (明33)					●汚物掃除法施行
1903年12月 (明36)	●掃除監督部設置				
1910年 4月 (明43)	●掃除係設置				
1920年12月 (大9)	●衛生課に拡大強化				
1926年 (大15)		●本市初の焼却場完成(曙町80t/日)			
1935年 1月 (昭10)		●席田焼却場完成(110 t / 日)			
1944年 5月 (昭19)		●席田焼却場廃止			
1947年 8月 (昭22)	●衛生課から清掃課に変更				
1948年 9月 (昭23)		●東部焼却場完成(下臼井120 t / 日)			
1951年 (昭26)			●収集業者による収集始まる		
1952年12月 (昭27)	●清掃課、衛生課に統合				
1953年 4月 (昭和28) 6月		●収集手数料制定 1日排出量5kg以上のとき1kgにつき1円 ●大口収集手数料制定 4t積1台につき1,000円	●直営収集開始 1斗(18L)につき1円 ●収集手数料制定 1桶(正味1斗入)につき15円		●大豪雨により水害発生 ●「福岡市塵芥搬出及び尿尿汲取手数料条例」制定
1954年 6月 (昭29) 7月 9月	●清掃課復活	●手数料を月額制に改正 排出量5kg未満は月40円、5kg以上は、5kgごとに月30円加算 ●特別搬出手数料制定 月排出量150kg以上200kg未満月40円、200kg以上	●大口収集手数料制定 大型ポンプ車 1/4につき500円 小型ポンプ車 1/5につき150円 ●清掃作業所(船舶基地)完成 地下タンク50kL 地上タンク100kL		●清掃法施行 ●「福岡市清掃条例制定」

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
		150kgごとに月20円加算 ●燃えがら搬出手数料制定 1箱につき10円 ●事業系ごみの許可制度開始	(鋼板製) 投入口5ヶ所		
1955年 4月 (昭30)		●那珂町編入に伴い南部焼却場移管(7t/日) ●河川浮遊ごみ収集委託開始(那珂川) ●臨時搬出手数料を制定 4t積1/4につき250円	●許可制度実施(164名、182台) ●し尿投棄船「清福丸」完成(91.8t) ●し尿海洋投入開始(直営) ●し尿中継槽投入使用料制定 1石につき10円		●人口50万人突破(10月国勢調査544,312人)
5月					
6月					
1957年 4月 (昭32)		●収集手数料を、1週当たり収集回数(毎日、週3回、週2回、週1回)及び重量による月額に改正 ●燃えがら搬出手数料増額改定 ●一般家庭週2回収集開始	●許可業者133名160台となる。		●ごみの夜間収集へ漸次移行開始 ●自然公園法制定(10月施行)
6月					
10月					
1958年 4月 (昭33)		●じんかい焼却手数料制定 普通貨物車1台につき200円	●し尿中継槽投入使用料増額改定 180Lごとに20円		●「公共用水域の水質の保全に関する法律」及び「工場排水等の規制に関する法律」施行
6月					
1959年 7月 (昭34)	●東西掃除作業所(係)設置				
1960年 4月 (昭35)	●清掃作業所(係、船舶基地)設置	●特殊容器からの搬出手数料制定 1世帯1月30円 ●燃えがら搬出入手数料を改正 20kgを超えるものにつき50kgごとに10円 ●犬、猫等の死体処理手数料制定 1体につき100円 ●旧西焼却場廃止(曙町) ●西じんかい処理場完成(焼却量150t/日)	●し尿投棄船「第二清福丸」完成(鉄鋼船215.28t) ●許可業者86名123台となる		
5月					
10月					

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
12月	●東、西清掃作業所（係）を清掃事業所に拡大 ●西じんかい処理場（係）設置				
1961年 8月 (昭36) 10月		●コンクリート容器規格制定 ●旧東部焼却場廃止（下白井） ●正手埋立場（36年10月～38年9月） ●東じんかい処理場完成（焼却量150t/日）			
1962年 4月 (昭37) 5月 7月 8月 10月 12月		●収集手数料増額改定 ●じんかい焼却手数料改正 ●一部地区別収集委託開始（不燃物）	●手数料増額改定 ●ホース延長距離による加算料金制定—30m以上、10mごとに1円加算		●「建築物用地下水の採取の規制に関する法律」制定（8月施行） ●「工業用水法」改正 ●オークランド市（米）と姉妹都市締結 ●「ばい煙の排出の規制等に関する法律」施行
1963年 3月 (昭38) 6月 8月			●許可業者の収集地域割当制採用	●降下ばいじん量測定開始（市内10ヶ所）	●「狩猟法」を「鳥獣保護及び狩猟に関する法律」に改正 ●集中豪雨により水害発生（浸水家屋10,130戸）
1964年 4月 (昭39) 7月 11月	●各清掃事務所に指導係を設置	●ポリ容器の普及推進開始 ●収集手数料増額改定 ●犬、猫等の死体処理手数料改定1体につき130円	●海洋投入業務委託開始（1社）	●天神交差点自動車排出ガス測定開始（検知管法）	
1965年 1月 (昭40)			●手数料の原価計算方式を採用するとともに、一般家庭は人頭制、それ		

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
4月 6月 9月 10月 12月	●衛生局に清掃部設置（管理課、業務課、東、西清掃事務所）	●旧蒲田埋立場埋立開始 ●隣接町（久山町）の処理受託開始	以外は従量制とし、併せて手数料の一部市負担開始 人頭制1人1月57円（別途市負担3円） 従量制18Lにつき28円50銭（別途市負担1円50銭） ●し尿中継投入使用料廃止	●硫黄酸化物測定開始（市内10ヶ所）	●清掃対策協議会設置1年間委嘱 ●清掃モニター制度発足 ●清掃法の一部改正 ●「公害防止事業団法」制定 ●清掃基本調査実施（全市対象） ●公害防止事業団設立
1966年 4月（昭41） 5月 7月 8月		●御笠川（石堂川）清掃委託開始 ●市内全域不燃物分別収集委託開始（可燃物は戸別、不燃物はステーション収集）	●新清掃作業所し尿中継基地完成 貯留能力1,200kL（200kL/日）併せてし尿中継基地管理委託開始 ●隣接11町の処理受託開始		●中部下水処理場運転開始
1967年 4月（昭42） 7月 8月 11月	●清掃部に施設課設置	●処理場搬入手数料廃止 ●「清掃週間」全市一斉清掃開始 ●主な幹線道路に道路清掃車（ロードスイーパー）を採用委託	●許可業者48名123台となる ●し尿投棄船「清福丸」廃船 ●福岡市汚物取扱業統合資金融資制度発足 ●清掃実態調査実施（全市対象） ●し尿収集問題調査研究協議会発足		●「清掃法」制定（4月22日） ●「公害対策基本法」「公共用飛行場周辺における航空機騒音による障害の防止等に関する法」制定施行

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
12月	●南清掃事務所 (課) 設置	●清掃監視員制度 発足			
1968年 4月 (昭43)		●収集手数料を重量による計算から 容積による計算に 改定	●手数料増額改定		●清掃協力者の表彰を始める
5月	●じんかい埋立管理事務所(係)を 設置			●市内主要河川の水質調査開始(那珂川他9河川、委託調査)	
6月					●「大気汚染防止法」「騒音規制法」 制定(12月施行)
9月		●旧蒲田埋立場埋立終了 ●八田埋立場埋立開始			
10月	●清掃部管理課内に委託制度実施 「準備係」設置		●収集用全車両(許可業者含む) に脱臭器取付		
11月			●収集業務委託のためのくみとり 申込書受理(全市域)		
12月		●博多川清掃委託開始			
1969年 3月 (昭44)		●南部焼却場廃止(昭和28年、旧那珂町が設置したもの)			
4月	●衛生局環境衛生課に公害調査係新設		●公衆便所清掃委託開始		
5月				●騒音規制地域指定(市街地を重点に騒音の規制を行い、特定工場等の監視を行う)	
7月					●(財)福岡市環境衛生公社設立
10月	●清掃部を清掃局に拡大強化し、業務課を業務第1課及び業務第2課に分課 ●公害調査係を公害係に改め査査を配置		●収集業務委託開始(1公社19台、12業者89台計108台) ●手数料徴収事務委託開始 ●許可業者は浄化槽清掃(2業者、12台)のみとなる ●ホース延長距離による加算料金を廃止		
1970年 2月 (昭45)		●姪浜埋立場(不燃物)埋立開始			
4月		●西部清掃工場起工			●「福岡県公害防止条例」制定(7月施行)
6月					●福岡市公害対策協議会(助役及び

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
7月 9月 10月 12月	●衛生局に公害課を新設（3係8人） ●衛生試験所開設		●町を単位とした定日収集開始	●硫黄酸化物自動測定開始（市役所屋上） ●市内11河川の有害物質調査 ●ばい煙等影響調査実施（西保健所管内500人） ●ビル暖房燃料調査及び指導	全局長を委員とする協議機関）発足 ●第64国会で公害関係14法が制定 ●「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」制定（昭46.9月施行） ●「水質汚濁防止法」制定（昭和46.6.24施行）
1971年 1月（昭46） 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月	●清掃局を2部制化（管理部、作業部） ●清掃事務所（東、西、南）を廃止し、東部作業課西南部作業課を設置 ●支所市民生活課に清掃係を設置し、旧清掃事務所の指導員を配置 ●公害苦情相談員配置（公害課、各保健所12人）	●能古島収集開始	●し尿収集問題調査研究協議会閉会 ●収集委託業者2社（12台）が廃業、1公社、10業者で109台となる ●浄化槽業者3業者14台となる ●能古島収集開始	●一酸化炭素自動測定開始（天神交差点） ●市内各大学で使用される薬物調査実施 ●ビル暖房使用燃料アンケート調査 ●大気環境測定車「みどり号」完成 ●大気環境測定車「みどり号」測定開始（主要交差点12ヶ所） ●工場実態調査実施（約600工場を対象に聴取り調査）	●「福岡県公害防止条例」改正 ●志賀町編入 ●支所制度発足 ●「悪臭防止法」制定（昭47.5月施行） ●環境庁設置

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
10月 11月 12月			(直営)	<ul style="list-style-type: none"> ●那珂川、御笠川水質調査開始 ●市内貫流河川及び博多湾の水質、底質の健康阻害物質調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●福岡県清掃協議会設立 ●公共用水域の水質汚濁に係る環境基準告示 (S46. 12. 28)
1972年 1月 (昭47)				<ul style="list-style-type: none"> ●騒音規制法規制対象工場の一斉立入検査実施 (668工場) 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ●西南部作業課 (第2係) 事務所移転 	<ul style="list-style-type: none"> ●西じんかい処理場廃止 ●西部清掃工場竣工 処理能力450 t / 日 (150 t × 24 h × 3基) 			
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●西じんかい処理場 (係) を廃止し、西部清掃工場 (課) を設置 ●衛生局に公害部を新設 (2課、4係、22人) 	<ul style="list-style-type: none"> ●くずかご、吸いながら入れ設置を始める ●玄界島焼却場竣工 (1 t / 日) ●街路清掃を委託により始める ●処理手数料 (定期、臨時搬出) の改定 			<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市清掃条例」を廃止し「福岡市廃棄物の処理及び清掃に関する条例」「同施行規則」を制定 ●政令指定都市へ移行 (5区制)
5月				<ul style="list-style-type: none"> ●PCB使用関連工場実態調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●PCB対策委員会設立 (関係局長による汚染対策等の調査研究)
6月		<ul style="list-style-type: none"> ●産業廃棄物処分費用徴収開始 			<ul style="list-style-type: none"> ●「国連人間環境会議」開催 (スウェーデン、参加114ヶ国)
7月				<ul style="list-style-type: none"> ●47年1月の立入検査結果に基づき改善勧告 (176工場) 	<ul style="list-style-type: none"> ●PCBの排出等に関する暫定指導指針の設定
8月				<ul style="list-style-type: none"> ●PCB環境汚染調査実施 	
10月				<ul style="list-style-type: none"> ●公害パトローラー活動開始 	
11月				<ul style="list-style-type: none"> ●庁用車の排出ガス浄化装置取付開始 	
12月		<ul style="list-style-type: none"> ●姪浜埋立場埋立完了 			
1973年 1月 (昭48)		<ul style="list-style-type: none"> ●今津第1埋立場 (不燃物) 埋立開始 			
3月		<ul style="list-style-type: none"> ●八田埋立場埋立完了 ●久山埋立場 (可燃物) 埋立開始 	<ul style="list-style-type: none"> ●し尿投棄船「清福丸」完成 	<ul style="list-style-type: none"> ●大気汚染監視設備完了 (屋上局4局、地上局3局をテレメーター化) 	

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●管理部に建設課を新設 ●管理部に副主幹主査（用地担当）を新設 ●管理部業務第2課に産業廃棄物指導係を新設 ●清掃作業所（係）を課に拡大強化 ●じんかい埋立管理事務所を東部及び西部じんかい埋立管理事務所に2係化 ●管理課を庶務課に名称変更 		<ul style="list-style-type: none"> ●海洋汚染防止法施行令の一部改正により、基地より62海里の海域に投棄海域を変更 ●し尿廃棄船「第2清福丸」廃船 ●し尿収集車両にホース自動巻取機採用 		<ul style="list-style-type: none"> ●管理部、本庁より第一生命ビルの仮庁舎に移転 ●「福岡市公害対策審議会」設置
5月					<ul style="list-style-type: none"> ●大気の汚染に係る環境基準（一酸化炭素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント）告示（昭48.5.8） ●大気の汚染に係る環境基準（二酸化硫黄）告示（昭48.5.16）
6月				<ul style="list-style-type: none"> ●第1回環境週間（ノーカーデー、私たちの環境展、施設見学、ポスター募集等） 	<ul style="list-style-type: none"> ●「博多湾総合調査委員会」設置
7月				<ul style="list-style-type: none"> ●大気汚染物質排出量総合調査開始（環境庁委託） 	<ul style="list-style-type: none"> ●福岡地区広域行政推進会議「清掃部会」発足
10月					<ul style="list-style-type: none"> ●「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」及び「化学物質の審査及び製造の規制に関する法」制定（昭49.4月施行）
11月			<ul style="list-style-type: none"> ●し尿収集問題調査研究協議会（第2回）発足 		<ul style="list-style-type: none"> ●大豪雨による水害発生
12月			<ul style="list-style-type: none"> ●福岡市し尿収集業者転業準備資金融資制度発足 	<ul style="list-style-type: none"> ●燃料規制地域の重油一斉調査実施 	
1974年 2月 (昭49)				<ul style="list-style-type: none"> ●地下水調査（環境庁の委託により県との合同調査）実施 	
3月		<ul style="list-style-type: none"> ●粗大ごみ処理施設竣工 	<ul style="list-style-type: none"> ●玄界島し尿処理場竣工（処理能力2kL/日） 	<ul style="list-style-type: none"> ●那珂川水質自動測定局完成 	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●管理部業務第2課産業廃棄物指導係を課へ拡大強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●処理手数料改定（施行10.1） ●久山埋立場コン 	<ul style="list-style-type: none"> ●公園内公衆便所関連事務を都市計画局公園緑地部へ 		

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
5月		パクター導入 ●今津第1埋立場埋立終了 ●今津第2埋立場埋立開始	移管 ●福岡市し尿収集業者転業資金融資制度発足		
6月		●東部清掃工場起工			
7月		●廃油中継所竣工		●市内環境騒音測定開始	
9月			●玄界島し尿収集開始		
10月		●今津第2埋立場埋立終了 ●併用世帯に対する収集料金の補助 ●粗大ごみ収集開始			
11月		●産業廃棄物処分費用改定		●新幹線騒音測定開始	
1975年 1月 (昭50) 2月		●今津埋立場（不燃物）にコンパクターを導入し埋立開始		●箱崎1区埋立地の企業14社と公害防止協定締結	
3月				●室見川水質自動測定局完成 ●警固自動車排出ガス測定局完成	●早良町編入
4月	●建設課に建設第2係を新設 ●管理部施設課を作業部へ移管	●新蒲田埋立場（可燃物）埋立開始 ●「ごみとわたしたち」を社会科副読本として使用開始			●東部下水処理場運転開始
5月			●し尿収集問題調査研究協議会（第2回）閉会		●県営御笠川、那珂河流域、下水那珂終末処理場運転開始
7月				●広域環境振動調査開始	●「下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」制定、施行
8月		●清掃モデル地区制度開始			
10月					●人口100万人突破（10月国勢調査1,000,214人）
1976年 1月 (昭51)					●福岡市あき缶・あきびん処理対策協議会設立
3月			●久山中継所竣工貯溜能力500kL（200kL/日）	●六本松自動車排出ガス測定局完成	
4月	●庶務課に主査、清掃作業所に久山中継所を設置	●処理手数料の改定	●収集委託車両107台となる（10業者77台、1公社30台）		●全国都市清掃会議総会を福岡市で開催

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
5月			<ul style="list-style-type: none"> ●海洋汚染防止法施行令により、福岡市より約230kmの海域投棄海域を変更 ●海洋投入業務委託が2社となる ●港湾敷地内公衆便所関連事務を港湾局へ移管 ●し尿収集問題調査研究協議会（第3回）発足 		<ul style="list-style-type: none"> ●管理部及び作業部施設課、本庁舎ビル（北別館）に移転
6月					
7月	●作業部東部清掃工場を新設	●東じんかい処理場閉鎖			
9月					
10月		●東部清掃工場竣工 （焼却能力600 t／日）			
11月		●久山埋立場埋立終了			
1977年 1月 (昭52)		<ul style="list-style-type: none"> ●南部清掃工場建設に関する基本協定締結 ●清掃監視員制度廃止 		<ul style="list-style-type: none"> ●福岡市の公害対策はいかにあるべきかについて、福岡市公害対策審議会の中間答申 ●箱崎1区埋立地の企業6社と公害防止協定締結 	<ul style="list-style-type: none"> ●「廃棄物の処理及び清掃に関する法律の一部を改正する法」施行 ●清掃モニター制度廃止
3月	●庶務課の主査廃止				
4月		●処理手数料改定	●し尿処理手数料改定		
7月		<ul style="list-style-type: none"> ●新蒲田埋立場埋立完了 ●清掃推進委員制度発足 	●し尿収集実態調査実施（～8月、全市一斉）		
8月		●武節ヶ浦埋立場埋立開始			
11月		●南部清掃工場建設着手			
1978年 3月 (昭53)		<ul style="list-style-type: none"> ●東部清掃工場余熱利用施設の竣工 ●武節ヶ浦、今津埋立場汚水処理施設（1系）竣工（各600m³／日） 	●し尿収集問題調査研究協議会（第3回閉会）		
4月	●作業部を施設部に名称変更し、副主幹を管理課に名称変更し施設部へ、建設課を施設部に移管し、東部、西南部事業所を名		●直営のし尿収集車両を5台減車（17台→12台）	●悪臭3物質の追加告示（福岡市公害対策審議会答申による）	

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考	
5月	称変更し管理部へ 移管、清掃事業所 を中部中継所に名 称変更 ●業務第2課に、 普及係を新設し、 清掃パトロール班 の設置 ●東部、西南部事 業所に機動処理班 設置	●許可収集業者の 地域割実施 ●産業廃棄物処分 費用改定 ●一般廃棄物処分 手数料徴収開始			●異常濁水による 制限給水始まる	
6月					●資源ごみ回収テ スト実施	●大気汚染に係 る環境基準（二酸 化窒素）告示 （昭53.7.11）
7月						●台風18号による 風害発生
9月						●10大都市清掃事 業協議会を福岡市 で開催
1979年 3月 (昭54)		●不燃性収集ごみ の組織調査報告 ●ごみの新処理技 術に関する基本調 査報告 ●資源ごみ回収テ スト継続実施（54 年度中）	●昭和53年度し尿 処理に関する調査 委託報告 ●委託業者4社16 台を転廃業（1社 は業務縮小）し、 1公社7業者106 台となる	●福岡市の公害対 策はいかにあるべ きかについて、福 岡市公害対策審議 会の答申 ●福岡市公害防止 計画策定（目標年 次；昭和60年度）	●制限給水全面解 除	
4月					●福岡、広州友好 都市締結	
5月					●豪雨による災害 発生（～7月）	
6月					●市政90周年式典	
10月					●博多港、オーク ランド港（NZ） 姉妹港締結	
1980年 1月 (昭55)	●施設部に副主幹 を設置 ●施設課に主査設 置	●今津汚水処理施 設（2系）竣工 （600m ³ /日） ●処理手数料改定 ●資源ごみ回収テ スト継続実施（55 年度中） ●「再資源化調査 研究会」設置 ●リサイクルング フェア開催（3日		●「福岡市合成洗 剤対策実施要綱」 制定		
3月						
4月						
6月						
9月						

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
10月 12月	●南部清掃工場 組織発足	間入場者約18,000 人) ●小呂島焼却設備 費補助 ●ごみゼロ隊発足			●西部下水処理場 運転開始
1981年 3月 (昭56) 4月 5月 12月	●施設部副主幹廃 止 ●管理課に主査設 置	●南部清掃工場竣 工 (焼却能力600 t /日) ●モラルでクリー ン運動実施 ●処理手数料改 定			●市営地下鉄開通 ●汚でい処理セン ター開所(下水道 局)
1982年 3月 (昭57) 4月 5月 6月 10月 11月	●西南部事業所 (1係)移転改築 ●施設課の主査を 廃止し、施設第3 係を設置 ●公害部を環境保 全部に名称変更	●不法投棄通報制 度発足 ●処理手数料改定	●し尿処理手数料 改定 ●小呂島清掃運搬 施設整備費補助 ●し尿処理受託市 町が2市6町とな る	●大気環境測定車 「みどり号」廃止 業務委託に切替 ●「福岡都市圏合 成洗剤対策連絡会 議要綱」制定	●新7区発足 ●福岡市議会棟竣 工 ●福岡・ポルドー 姉妹都市締結
1983年 1月 (昭58) 4月 5月 6月		●伏谷埋立場工事 着工 ●小呂島不燃性ご み収集運搬委託開 始 ●犬猫等の死体処 理手数料改定1体 につき800円 ●処理手数料改定	●し尿処理手数料 にランク制を採用 (簡易水洗便所) ●収集委託車両 104台となる	●香椎大気汚染測 定局完成	●浄化槽法制定 (昭60.10月全面 施行) ●福岡市環境管理 計画技術検討委員 会設置
1984年 4月 (昭59) 6月 8月 10月		●処理手数料改定 ●東部破砕処理セ ンター着工	●収集委託車両 102台となる	●「福岡市光化学 オキシダント緊急 時対策実施要綱」 制定	●11大都市清掃事 業研究会を福岡で 開催 ●「環境影響評価 実施要綱」閣議決 定

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
1985年 1月 (昭60)				●公害監視局移設 (市役所新館前から北別館へ)	
3月				●「名水百選」に本市「不老水」が選定される	
4月	●西部清掃工場に試験係を新設	●処理手数料改定 ●直営のごみ収集車両をダンプよりパッカーに転換(パッカー7台、レーンダンプ4台)	●し尿処理手数料改定 ●収集委託車両98台となる ●直営のし尿収集車両を5台減車(12台→7台)		
7月					●福岡市浄化槽清掃業の許可申請手数料等に関する条例制定(10月施行)
9月					●福岡市浄化槽法施行細則制定(10月施行)
					●福岡市浄化槽清掃業の許可等に関する規則制定(10月施行)
11月				●環境管理計画の基本的考え方について福岡市環境管理計画技術検討委員会より報告書提出	
12月		●東部污水处理施設(伏谷系)竣工(600m ³ /日)		●「福岡市における環境対策について」福岡市公害対策審議会に諮問	
1986年 4月 (昭61)	●衛生局環境保全部をあわせて環境局と名称変更 また産業廃棄物指導課を環境保全部に移管 ●東部清掃工場に東部破碎処理センターを開設	●処理手数料改定	●収集委託車両94台となる ●小呂島し尿収集費補助		
5月			●清掃問題調査研究協議会(第4回)発足		
6月					●福岡・オークランド(NZ)姉妹都市締結
9月		●東部破碎処理センター竣工 ●玄界島可燃性ごみ収集運搬委託開始		●「福岡市における環境について」福岡市環境プランを策定し、環境対策を進めるべきとの答申を得る ●「福岡市環境プラン」策定	
10月			●収集委託車両93台となる		

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
12月					●「福岡市環境プラン推進委員会」設置（これに伴い福岡市環境管理計画技術検討委員会を廃止）
1987年 3月 (昭62)					●福岡市公害対策協議会を福岡市環境保全対策協議会に改組
4月	●庶務課計画係を廃止し、計画課を新設 ●業務第2課の調査係を廃止 ●管理課主査を廃止	●ごみ処理手数料改定 ●産業廃棄物処理業許可期限導入	●収集委託車両88台となる		
5月	●建設課に建設第3係を新設		●清掃問題調査研究協議会（第4回）閉会	●「福岡都市圏合成洗剤対策連絡会議要綱」を発展させ、「福岡都市圏生活雑排水対策連絡会議要綱」を制定	
6月			●清掃問題調査研究協議会（第5回）発足		
7月		●粗大ごみ収集を3ヶ月に1回から月1回の不燃性ごみとの混合収集に変更			
9月		●第1回清掃展開催（入場者3,393人）			
1988年 3月 (昭63)		●武節ヶ浦埋立場埋立終了	●中部中継所建替完了		
4月	●計画課に主査を新設 ●東部清掃工場に東部汚水処理場を新設	●伏谷埋立場埋立開始 ●ごみ処理手数料改定	●収集委託車両84台となる ●収集車にアルミ架装車年次的に採用		
6月					●福岡市行政棟竣工
7月					●環境局新行政棟へ移転
9月		●「ごみ減量対策推進本部」設置			
12月			●小呂島にコンポスト設置年次的に補助開始		
1989年 2月 (平元)		●市役所本庁舎において古紙回収を開始			
3月				●吉塚大気汚染測定局移設（福岡第1病院から東吉塚小学校へ）	●アジア太平洋博覧会（よかトピア）開催 ●福岡・イポー姉妹都市締結

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
4月	●業務第2課に主査を新設 ●主幹設置	●ごみ処理手数料改定 ●犬猫等の死体処理手数料改定 1体につき1,000円	●収集委託車両77台となる	●環境庁から「ふるさといきもの里（小動物生息環境保全地域）」に室見川中上流一帯が選定される	
7月		●区役所において古紙回収を開始			
10月	●業務部に副主幹、主査設置				●福岡・釜山広域行政交流都市締結
1990年 2月 (平2)			●玄界島し尿処理場を改造 (2kL/日→3kL/日)		
3月	●業務部の副主幹、主査廃止				●(株)都市環境設立 ●「福岡市環境保全基金条例」制定
4月	●主幹廃止 ●業務第2課主査を廃止し、ごみ減量推進室を新設 ●指導課に主査を新設	●第1期ごみ減量モニター委嘱 ●市役所内のPPC用紙に再生紙を使用開始 ●ごみ処理手数料改定	●し尿処理手数料改定 ●収集委託車両71台となる ●直営のし尿収集車を2台減車(7台→5台)		
5月				●第1期環境モニター委嘱	
7月		●東部清掃工場第2工場竣工			
8月		●福岡市ごみ処理(施設設備)計画策定			
9月		●「かーるマークの店」制度開始			●第45回国民体育大会(とびうめ国体)を福岡市で開催
12月			●し尿業界との協定書等の締結(平成5年度末廃業)		
1991年 3月 (平3)					●第2、第4土曜日閉庁実施 ●「再生資源の利用の促進に関する法」制定(10月施行)
4月	●環境保全部「調整課」を「環境管理課」に名称変更 ●産業廃棄物指導課に計画調整係を新設 ●西部清掃工場に新西部清掃工場開設準備主査を新設	●市役所内の全印刷物等を原則として再生紙に切替 ●一般家庭可燃物収集車色変更 ●パッカー車火災実験	●収集委託車両64台となる		
6月		●生ごみコンポスト化容器購入補助制度開始			
7月		●地域集団回収表彰制度開始 ●福岡市産業廃棄物処理指導計画策定			
8月					●土壌の汚染に係る環境基準告示(H3.8.23)

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
9月 10月		<ul style="list-style-type: none"> ●福岡市産業廃棄物処理施設の設置に係る紛争の予防及び調整に関する要綱施行 ●事業所古紙回収説明会開催 ●都市美化推進モデル事業開始 			<ul style="list-style-type: none"> ●「第1回福岡市・釜山直轄市環境行政交流会議」開催
1992年 1月 (平4) 2月 3月 4月 5月 6月 8月 9月 12月	<ul style="list-style-type: none"> ●「業務部」を「管理部」に名称変更し、環境保全部の産業廃棄物指導課を管理部に移管 ●環境保全部の指導課を水質騒音課と大気課に分課 ●東部、南部、西部工場に運転係を新設 ●西部工場に廃棄物試験研究センターを新設 ●清掃推進委員を環境推進委員に変更 	<ul style="list-style-type: none"> ●西部清掃工場廃止 ●(新)西部清掃工場竣工 ●今津汚水処理施設(3系)竣工(60m³/日) ●空き缶選別プレス車「カンパク大将」運行開始 ●ごみ処理手数料改定 ●市役所内で使用する紙類について原則として中性・再生紙に切替 ●「ラブアース・クリーンアップ」キャンペーン開始 ●区役所で資源回収啓発事業(クリーン・リサイクル)開始 ●福岡市ごみ減量・リサイクル推進会議設置 ●「清掃週間」を「清掃月間」に改める 	<ul style="list-style-type: none"> ●収集委託車両59台となる ●海洋投入業務委託が1社となる 	<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市環境配慮指針」策定 ●第1回「子ども地球環境会議」開催 ●毎月14日を「環境デー」とする ●第1回「環境元年宣言記念市民フォーラム」開催 ●警固自動車排出ガス測定局を廃止し大橋自動車排出ガス測定局を新設 	<ul style="list-style-type: none"> ●(財)福岡県環境保全公社設立 ●「ローマ・クラブ福岡会議イン九州」開催 ●「環境にやさしい都市をめざす福岡市民の宣言」発表 ●「環境にやさしい都市をめざす福岡市民の行動計画」策定
1993年 3月 (平5)				<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市自動車交通公害防止計画」策定 	<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市廃棄物の処理及び清掃に関する条例」を廃止し、「福岡市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●東部埋立管理事務所及び東部汚水処理場を統合し、課組織の東部埋立管理事務所を新設 ●ごみ減量推進室の推進係を第1係に名称変更するとともに、第2係を新設 ●建設課に主査（廃棄物資源化等施設整備担当）を新設 ●区役所市民相談室に主査（ごみ減量推進担当）を新設 	<ul style="list-style-type: none"> ●福岡市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画策定 ●市役所内の機密文書再資源化のための大型シュレッダーを北別館に設置 	<ul style="list-style-type: none"> ●直営の海洋投入を廃止（委託1社となる） ●し尿投棄船「清福丸」廃船 ●収集委託車両54台となる ●し尿処理手数料改定 		<ul style="list-style-type: none"> 例」制定（4月施行） ●「福岡市空き缶等の散乱防止及びその再資源化の促進に関する条例」制定（10月施行）
5月				<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市自動車交通公害防止計画推進協議会」設置 	
7月		<ul style="list-style-type: none"> ●出張所で資源回収啓発事業開始 			<ul style="list-style-type: none"> ●福岡・アトランタパートナーシップ都市締結
10月	<ul style="list-style-type: none"> ●西部清掃工場に主査（西部破碎選別処理施設開設準備担当）を新設 	<ul style="list-style-type: none"> ●ガラスびん拠点回収事業開始 ●ガラスびん選別センター選別開始 			
11月					<ul style="list-style-type: none"> ●「環境基本法」制定
1994年 3月 (平6)				<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市地球温暖化対策地域推進計画」策定 	<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市環境審議会条例」制定（8月施行）
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●業務第1課及び業務第2課を統合し、業務課を設置 ●西部埋立管理事務所（課組織）を新設 ●ごみ減量推進室にリサイクルプラザ（係組織）を新設 ●計画課の主査を廃止し、業務第2課の普及係を計画課に移管 ●清掃施設の名称変更により、東部、南部、西部清掃工場をそれぞれ東部、南部、西部工場に、また東部破碎処理センターを東部資源化センターに名称変更 		<ul style="list-style-type: none"> ●小呂島し尿処理場竣工（処理能力1kL/日） ●委託業者7社が一斉廃業（収集委託車両は福岡市環境衛生公社16台、都市環境30台などで48台となる） 		

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●西部工場の主査（西部破碎選別処理施設開設準備担当）を廃止し、西部資源化センターを新設 ●区役所の市民相談室環境係及び主査（ごみ減量推進担当）を振興課に移管 				
6月		<ul style="list-style-type: none"> ●リサイクルプラザ供用開始 			<ul style="list-style-type: none"> ●福岡都市圏空き缶等対策協議会設立
7月		<ul style="list-style-type: none"> ●西部資源化センター竣工 			
10月					<ul style="list-style-type: none"> ●散乱防止条例で定める「特定容器回収促進区域」の指定を拡大
1995年 3月 (平7)		<ul style="list-style-type: none"> ●廃木材の資源化事業開始 			<ul style="list-style-type: none"> ●「悪臭防止法」改正 従来の器機分析に加え、人の嗅覚による測定も行われるようになる (平8年4月施行)
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●建設課を工場建設課（名称変更）と工場整備課（新設）に分課 ●産業廃棄物指導課に主査（特別管理産業廃棄物の指導担当）を新設 ●水質騒音課を水質課に大気課を大気騒音課にそれぞれ名称変更 ●水質課に第2係を新設 	<ul style="list-style-type: none"> ●直営のごみ収集に関し、公共施設のごみについて分別収集の徹底化及び資源ごみ（ガラスびん及び古紙）収集を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ●直営のし尿収集を廃止（収集委託車両は、福岡市環境衛生公社4台、都市環境27台などで43台となる） 		
6月		<ul style="list-style-type: none"> ●西部（中田）埋立場汚水処理施設（1系）竣工（500m³/日） 		<ul style="list-style-type: none"> ●「低公害車買換等資金融資制度」を福岡市商工金融資金制度の公害防止資金の中に新設 	<ul style="list-style-type: none"> ●「容器包装リサイクル法」制定 ●「福岡市悪臭対策指導要綱」制定
7月				<ul style="list-style-type: none"> ●子どもエコクラブ事業開始 ●第1回水辺教室開催 	
11月		<ul style="list-style-type: none"> ●ごみ減量対策専門部会設置 			
1996年 1月 (平8)					<ul style="list-style-type: none"> ●悪臭10物質の追加告示
2月		<ul style="list-style-type: none"> ●緑のリサイクルセンター竣工 ●西部（中田）埋立場竣工 			

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
3月		●(新)玄界島焼却場竣工			
4月	●庶務課を総務課に名称変更 ●計画課に主査(廃棄物問題担当)を新設 ●ごみ減量推進室をごみ減量推進課に名称変更 ●工場建設課に主査(破碎処理施設等担当)を2新設 ●工場整備課に整備第2係を新設 ●西部埋立管理事務所に水処理係を新設 ●環境管理課に主査(自然環境保全業務専任)を新設 ●大気騒音課に主査(悪臭対策専任)を新設	●緑のリサイクルセンター稼働開始 ●西部(中田)埋立場埋立開始 ●(新)玄界島焼却場稼働開始 ●ごみ処理手数料改定	●収集委託車両39台となる		
7月				●「福岡市庁用自動車低公害化推進連絡会議」設置 ●環境庁「残したい日本の音風景100選」に博多祇園山笠の昇き山笠が選定される	
9月					●「福岡市環境基本条例」制定
11月				●「福岡市カブトガニ保全対策協議会」設置	
12月		●(新)小呂島焼却場竣工			
1997年 1月(平9)		●空きびん・ペットボトル分別収集モデル事業開始	●領海法の改正により福岡市から約270kmの海域に投棄海域を変更		
2月					●ベンゼン、トリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンによる大気の汚染に係る環境基準告示(H9.2.4)
3月		●「福岡市におけるごみ減量と容器包装廃棄物のリサイクル推進の方策」に関する報告		●「福岡市環境基本計画」策定 ●「福岡市環境配慮指針」改定 ●騒音規制法及び振動規制法に基づく地域の指定及び区域区分の変更	●地下水の水質汚濁に係る環境基準告示(H9.3.13)
4月	●計画課の主査(廃棄物問題担当)を1増して2	●ごみ処理手数料改定	●し尿処理手数料改定	●「福岡市環境調整会議」設置	●「福岡市環境審議会条例」改正

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
5月	主査体制化 ●工場整備課に廃棄物試験研究センターを移管 ●東部工場に主査（リサイクル施設担当）を新設 ●環境保全部の機構整備を行い、環境管理課、水質課、大気騒音課を廃止し、環境計画課（調整係、企画係、自動車対策係）、啓発推進課（啓発係、環境情報係、自然環境保全業務専任主査）、指導課（第1係、第2係、臭気対策専任主査）環境調整課（環境調整係、環境影響評価制度専任主査）を新設	●フロンガス回収事業開始 ●久山処分場（環境保全公社による産業廃棄物処分場供用開始）	●収集委託車輛34台となる	●「福岡市環境基本計画推進委員会」設置	●A D B福岡総会開催
6月				●まもる一む福岡開設	●「環境影響評価法」制定
8月				●「福岡市低公害車普及促進協議会」設置	
10月				●「福岡市における環境影響評価制度のあり方について」環境審議会に諮問	
11月	●粗大ごみ受付センター新設	●ミニリサイクルプラザ供用開始			
12月		●3分別収集開始、指定袋制度、粗大ごみ申込・有料制導入、不燃・粗大ごみステーションの廃止 ●事業系ごみの2分別収集及び推奨袋制度開始			
1998年 1月 (平10)				●「福岡市における環境影響評価制度のあり方について」環境審議会より答申	
2月				●「残したい福岡の音風景21選」選定	
3月		●都市美化推進モデル事業を廃止		●「博多湾水質保全計画」策定	●「福岡市環境影響評価条例」制定（平12.3月施行）

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●啓発推進課に主査（有害汚染物質専任）を新設 ●産業廃棄物指導課及び工場整備課に主査（ダイオキシン削減対策担当）を新設 ●工場建設課の2主査（破碎処理施設等担当）を廃止し、4主査（東部工場建設担当）を新設 ●工場整備課の事業調整係を技術調整係に名称変更 	<ul style="list-style-type: none"> ●ごみ処理手数料改定 ●空きびん・ペットボトル分別収集モデル事業拡大（3地区） ●市役所内における「福岡市再生紙等利用指針」の施行 	●収集委託車両28台となる	<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市環境教育・学習計画」策定 ●「福岡市自動車交通公害防止計画（第二次実施計画）」策定 ●「環境保全に向けた福岡市率先実行計画」策定 	
6月		●第2次福岡市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画策定		<ul style="list-style-type: none"> ●第1回「環境保全功労者表彰」実施 ●第1回「省エネルギー講習会」開催 	●「家電リサイクル法」制定
10月				<ul style="list-style-type: none"> ●第1回「地球温暖化防止福岡市民大会」開催 ●エコKidsノート作成・配布 	●「地球温暖化対策の推進に関する法律」制定
12月		●事業系ごみ減量対策専門部会設置		●第1回「エコKidsノートコンクール」開催	
1999年 1月 (平11)		●空き缶選別プレス車「カンパク大将Ⅱ号」運行開始			
2月				●環境関連ホームページ「学ぼう！つなごう！ふくおかの環境」開設	
3月					<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市環境影響評価条例施行規則」制定（平12.3月施行） ●「福岡市環境影響評価技術指針」制定 ●「福岡市環境影響評価審査会規則」制定（平11.3月施行）
4月	●計画課主査（廃棄物問題担当）2のうち1を廃止	●東部（伏谷）埋立場浸出水処理施設（2系）稼働開始（1,000m ³ /日）	●収集委託車両22台（定期収集分）となる		●騒音に係る新環境基準施行

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
7月	<ul style="list-style-type: none"> ●工場建設課を工場建設第1課（名称変更）と工場建設第2課（新設）に分課 ●ごみ減量推進課に主査（リサイクル推進担当）を新設 ●施設課に第3係を新設 ●産業廃棄物指導課の2主査を「特別管理産業廃棄物指導等専任」及び「ダイオキシン削減対策等担当」に名称変更 ●環境調整課の主査（環境影響評価制度担当）を審査係に名称変更 	<ul style="list-style-type: none"> ●西部中田埋立場浸出水処理施設（2系）稼動開始（1,100m³/日） ●ごみ処理手数料改定 ●空きびん・ペットボトル分別収集モデル事業拡大（7地区） 			<ul style="list-style-type: none"> ●「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）」制定（平成12.3月施行） ●「ダイオキシン類対策特別措置法」制定（平成12.1月施行） ●「福岡市地球温暖化防止市民協議会」設立
12月				<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市地球温暖化防止市民協議会」設立 	<ul style="list-style-type: none"> ●ダイオキシン類による大気、水質及び土壌の汚染に係る環境基準告示（H11.12.27）（平成13.1月適用）
2000年 3月 (平12) 4月	<ul style="list-style-type: none"> ●業務課に主査（資源化处理指導担当）を新設し、主査の職名を変更（事業所分別排出指導専任→許可指導専任）、粗大ごみ受付センターの管理運営を（財）福岡市環境衛生公社へ全面委託化 ●ごみ減量推進課に計画課普及係を移管し、名称をごみ減量・美化推進課に変更、主査（第 	<ul style="list-style-type: none"> ●ガラスびん拠点回収事業廃止 ●家庭ごみ4分別収集開始（空きびん・ペットボトルを分別） ●地域リサイクルステーション事業開始（スーパー等小売店のみ） ●資源回収啓発事業（クリーン・リサイクル）廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ●収集委託車両19台（定期収集分）となる 	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車騒音の限度（要請限度）に係る区域区分の変更 	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車騒音の限度（要請限度）の改正施行

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
5月	<p>2リサイクルプラザ開設準備担当)を新設</p> <ul style="list-style-type: none"> ●課長及び主査(事業系廃棄物減量推進担当)を新設 ●臨海工場開設準備室を新設 ●東部、南部、西部工場に主査(発電設備専任)を新設 ●保健福祉局より保健環境研究所を移管 	<ul style="list-style-type: none"> ●区役所等で地域リサイクルステーション事業開始 ●「福岡市における事業系一般廃棄物の減量に向けて」に関する報告 ●「福岡市ごみ減量対策推進本部」本部長を市長として体制を強化し、市役所内でのごみ減量、再資源化の取組強化 			<ul style="list-style-type: none"> ●「建設リサイクル法」制定
6月	<ul style="list-style-type: none"> ●部長及び係長(共同事業化推進担当)を新設 	<ul style="list-style-type: none"> ●ごみ処理手数料の改定(自己搬入110円/10kg、定期収集165円/50L、臨時収集4,340円/m3) 			<ul style="list-style-type: none"> ●「循環型社会形成推進基本法」制定
8月		<ul style="list-style-type: none"> ●福岡市循環型システム研究会設置 ●事業系古紙回収支援事業開始 			
10月	<ul style="list-style-type: none"> ●施設部工場整備課の廃棄物試験研究センターと、東部、南部、西部工場の試験係を統合し、廃棄物試験研究センター(課)として保健環境研究所に設置 ●新東部工場の建設・運営を行う事業会社の設立に従い、部長及び係長(共同事業化推進担当)並びに工場建設第2課を廃止、工場建設第1課を工場建設課に名称変更 				<ul style="list-style-type: none"> ●(株)福岡クリーンエナジー設立 ●西部工場でのISO14001の認証取得

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
12月		●粕屋地区1市7町と一般廃棄物の処理に関する相互協力協定書を締結	●粕屋地区1市7町と一般廃棄物の処理に関する相互協力協定書を締結		
2001年 1月 (平13)	●臨海工場開設に伴い臨海工場開設準備室を廃止				
3月		●臨海工場竣工 ●臨海リサイクルプラザ供用開始 ●西部(中田)埋立場第2区画竣工 ●小呂島焼却場を廃止し、生ごみ処理装置を設置 ●フロンガス回収事業廃止	●し尿の海洋投入を全面廃止	●「ふくおか2010アクションプラン(第二次福岡市地球温暖化対策地域推進計画)」策定	
4月	●計画課の主査(廃棄物問題担当)を廃止し、工場整備課より技術調整係を移管して第2係を新設 ●臨海工場建設終了に伴い、工場建設課を廃止して、主査(東部建替調整担当)を管理課に、主査(余熱利用施設整備事業担当)を工場整備課に移管 ●工場整備課の整備第1係、整備第2係を第1係、第2係に名称変更 ●施設課に主査(埋立技術調整担当)を新設 ●東部工場の主査(リサイクル施設担当)を廃止 ●環境計画課に主査(温暖化対策担当)を新設 ●保健環境研究所の環境科学課、微生物課、理化学課を廃止し、それぞれ業務を担当する主席研究員を設置	●家電リサイクル法対象物について、市による収集・処理を中止 ●不法投棄防止夜間パトロール開始	●し尿処理手数料改定 ●収集委託車両16台(定期収集分)となる ●し尿処理受託自治体4町となる	●「市民環境リーダー育成フォーラム」開始 ●「省エネ・新ネ子ども学習講座」開始	●ホームページ「福岡市環境局」開設 ●家電リサイクル法の施行 ●ベンゼン等による大気汚染に係る環境基準について一部改正告示(ジクロロメタン追加) (H13. 4. 20)
5月		●西部(中田)埋立場第2区画埋立開始			●「福岡市環境影響評価審査会運営要領」制定(平13.5月実施)
6月		●ごみ処理手数料改定(定期収集178円/50L、臨時収集4,580円/ m3)	●糸島地区1市2町1組合と一般廃棄物の処理に関する相互協力協定書を締結	●ビオトープ事業開始	●「特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律」

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
7月		<ul style="list-style-type: none"> ●粗大ごみ持ち出しサービス事業開始 ●電動式生ごみ処理機購入費助成制度開始 ●糸島地区1市2町1組合と一般廃棄物の処理に関する相互協力協定書を締結 ●福岡都市圏環境行政推進協議会発足 			(平成13. 6月制定)
8月			●玄界島で集落排水処理施設が供用開始する	●平尾自動車排出ガス測定局を廃止し、今宿自動車排出ガス測定局を新設	●「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」施行
9月	●ごみ減量・美化推進課の主査(第2リサイクルプラザ開設準備担当)を廃止				
10月	●新計画課に第3係を新設	<ul style="list-style-type: none"> ●市役所内の機密文書再資源化のための大型シュレッダーを臨海工場内に増設 ●福岡都市圏南部環境行政推進連絡協議会発足 			
2002年 1月 (平14)		<ul style="list-style-type: none"> ●春日市外2市1町と環境行政に関する基本協定書締結 ●(株)福岡クリーンエナジーと廃棄物中間処理委託基本契約締結 			
3月		<ul style="list-style-type: none"> ●市役所内の廃蛍光管回収を開始 ●野多目小学校に電動式生ごみ処理機を設置し、モデル事業開始 	●収集委託車両14台(定期収集分)となる	<ul style="list-style-type: none"> ●元岡一般環境大気測定局を新設 ●全国環境首都コンテストで全国第2位獲得 ●第二次福岡市自動車交通公害防止計画(交通グリーン化アクションプラン)策定 ●福岡市グリーン購入ガイドライン制定 	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)福岡クリーンエナジーにてプロジェクトファイナンス成立 ●臨海工場余熱利用施設「タラソ福岡」開業 ●(財)福岡市環境衛生公社から(財)福岡市くらしの環境財団に名称変更 ●「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の促進に関する法律」に基づき排出量・移動量届出開始
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●管理部、環境保全部の構成を見直して環境都市推進部を新設し、総務部、環境都市推進部、指導部とする ●ごみ減量・美化推進課を家庭ごみ減量対策課に名称変更し、指導部から総務部へ移管 ●事業系ごみ対策課を新設し、課長(事業系廃棄物減量推進担当)を廃止 				

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●課長（埋立場等調整担当）を新設 ●西部埋立管理事務所長を廃止して埋立係、水処理係を施設課へ移管し西部埋立係、西部水処理係に名称変更 ●総務課の経理係を財務係に名称変更 ●計画課に主査（循環型システム構築担当）を新設 ●業務課の主査（資源化処理指導担当）を廃止 ●環境保全課の主査（臭気対策専任）を廃止 ●工場整備課の第1係、2係を技術管理係、整備係に名称変更 ●工場整備課に主査（クリーンパーク東部再整備担当）を新設し、主査（ダイオキシン削減対策担当）及び主査（臨海工場余熱利用施設整備担当）を廃止 ●課長（埋立場等調整担当）に主査（埋立場等調整担当）を新設し、施設課より主査（埋立技術調整担当）を移管 				
6月				<ul style="list-style-type: none"> ●環境フェア2002 ●わがまち環境マップ展等開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●土壤汚染対策法公布（H15.2.15施行）
7月		<ul style="list-style-type: none"> ●春日市外3市1町と環境行政に関する基本協定書締結 			<ul style="list-style-type: none"> ●「自動車リサイクル法」制定 ●ダイオキシン類に係る環境基準の改正告示（H14.7.22）（水底の底質の追加）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ●循環のまち・ふくおか行動委員会設置 				
9月		<ul style="list-style-type: none"> ●中国環境モデル都市日本環境視察団受入 			

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
10月		<ul style="list-style-type: none"> ●不法投棄防止監視カメラ設置 ●中国広州市環境衛生交流団受入 ●緑のリサイクルセンター中田中継所開設 		<ul style="list-style-type: none"> ●ごみ減量フェア ●エコカーシェアリングステーション開設 ●市営駐車場等における低公害車優待措置開始（～H16.9.30） ●福岡市・釜山広域市環境交流会議 ●福岡市地球温暖化防止市民大会 	
12月					<ul style="list-style-type: none"> ●「人に優しく安全で快適なまち福岡をつくる条例」制定（14.12施行）
2003年 2月 (平15)		<ul style="list-style-type: none"> ●東部（伏谷）埋立ちは当初昭和63年4月から15年間（平成15年3月迄）の埋立計画であったが、平成15年2月5日に締結した協定書により平成15年4月1日から平成30年3月末日までの埋立期間となった。 		<ul style="list-style-type: none"> ●エコキッズ交流会 ●新・福岡市民の行動計画策定 	
3月				<ul style="list-style-type: none"> ●全国環境首都コンテスト1位獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市ピンクラし等の根絶に関する条例」制定（平15.4施行）
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●指導部の名称を「ごみ対策部」に変更 ●家庭ごみ減量対策課を総務部からごみ対策部へ移管 ●環境保全課をごみ対策部から総務部へ移管 ●調整課を新設し課長（埋立場等調整担当）を廃止 ●企画調整課を新設し、主席研究員を廃止 ●環境啓発課の環境情報係及び主査（有害汚染物質専任）を企画調整課に移管 ●計画課に主査（都市型公害対策調整担当）を新設 ●業務課の主査（許可業指導専任）を廃止 ●産業廃棄物指導課の指導係及び計 	<ul style="list-style-type: none"> ●福岡市事業系古紙回収推進協議会設立 	<ul style="list-style-type: none"> ●収集委託車両13台（定期収集分）となる 	<ul style="list-style-type: none"> ●Fukuoka e+サイエンス発行（中学生向け副読本） ●臨海リサイクルプラザ等にエコーーム設置 	

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
6月	<p>画調整係を処理指導係、排出指導係に名称変更し、主査（循環促進担当）を新設するとともに、主査（特別管理産業廃棄物指導等担当）及び主査（ダイオキシン削減対策等担当）を廃止</p> <p>●管理課に業務係長を新設し、調整係長を調整課に移管して主査（東部建替調整担当）を廃止</p> <p>●課長（埋立場等調整担当）の主査（埋立場等調整担当）を調整課に移管し主査（埋立技術調整担当）を技術調整係に変更</p> <p>●総務部に課長（廃棄物問題調整担当）を新設</p>				
8月		●灰皿付き屑かご撤去		●福岡都市圏南部地域の5市1町（福岡市、春日市、大野城市、筑紫野市、太宰府市、那珂川町）で「ノーマイカーデー」共同実施	
9月		●宗像地区1市2町1村と一般廃棄物の処理に関する相互協力協定書を締結	●宗像地区1市2町1村と一般廃棄物の処理に関する相互協力協定書を締結	●屋上緑化展示会開催	
10月		●事業系古紙回収推進モデル事業の開始（9月18日博多駅東・南地区）		●「環境フェスティバルふくおか2003」開催 ●エコ&デザインコンクール	●資源有効利用促進法に基づく家庭系パソコンのリサイクル制度開始 ●環境保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律施行 ●アイランドシティ環境配慮指針策定 ●和白干潟及び周辺海域が国の鳥獣保護区に指定される。 ●福岡市環境シンボルキャラクター“エコッパ”の制

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
11月		●東部（伏谷）埋立場の構造変更届出書を福岡県が受理。 ●清華大学－福岡市－福岡大学による廃棄物処分技術「福岡方式」の普及等を含めた環境分野の技術協力協定締結			定
12月				●福岡市地球温暖化防止市民大会	
2004年 3月 (平16)		●東部（伏谷）埋立場左岸周回道路供用開始		●福岡都市圏南部環境行政推進連絡協議会で「那珂川・御笠川・宝満川 生きものマップ」作成 ●「福岡市環境調整会議規則」改定	●「福岡地域公害防止計画」策定
4月	●理事を新設 ●課長（廃棄物問題調整担当）に主査（廃棄物問題調整担当）を新設 ●業務課に不法投棄対策係を新設 ●産業廃棄物指導課に自動車リサイクル指導係を新設 ●計画課の主査（都市型公害対策調整担当）を廃止 ●産業廃棄物指導課の主査（循環促進担当）を廃止	●校区紙リサイクルステーション事業開始	●小呂島で集落排水処理施設が供用開始 ●玄界島し尿処理場を廃止し、玄界中継施設を設置し、集落排水施設に接続 ●玄界島し尿収集運搬業務を（株）都市環境に委託する。 ●収集委託車両11台（定期収集分）となる。	●「福岡市環境調整会議幹事会運営要綱」制定 ●「環境に影響を及ぼすおそれがある事業に係る環境への配慮に関する要綱」制定 ●福岡市役所環境保全実行計画策定	●家電リサイクル法対象物に冷凍庫追加
6月					●外郭団体改革実行計画により福岡市くらしの環境財団と（株）都市環境の統合に向けての協議開始
7月		●事業系古紙回収推進モデル事業を13地区に拡大実施			●パソコンについて、市による収集・処理を中止
8月		●中洲地区で事業系ごみの日曜収集を開始			●東アジア経済交流推進機構環境部会への参加
10月			●水洗化により、小呂島し尿収集運搬業務終了		
12月		●循環のまち・ふくおか基本計画策定		●六本松自動車排出ガス測定局を廃止	
2005年 1月 (平17)	●計画課に主査（循環型システム構築担当）を新設	●東部（伏谷）埋立場第4区画埋立開始			

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
2月		●臨海工場内に古紙ストックヤードを整備			●京都議定書発効 ●福岡・アトランタ姉妹都市締結
3月		●新東部工場試運転開始 ●東部工場、東部第2工場廃止 ●廃油中継所廃止	●水洗化により、小呂島コンポストトイレ維持費補助事業終了	●今津干潟懇話会設立	●20日福岡県西方沖地震(震度6弱)発生 ●「福岡市環境市民ファンド条例」制定 ●「福岡市環境保全基金条例」廃止 ●京都議定書目標達成計画閣議決定 ●環境市民ファンド創設
4月	●事業系ごみ対策課の推進係を推進第1係へ名称変更し、推進第2係を新設 ●管理課の主査(自己搬入ごみ事前受付センター管理運営担当)を新設 ●調整課の主査(埋立場等調整担当)を主査(施設再整備担当)へ変更 ●東部工場と東部埋立管理事務所を統合し、クリーンパーク・東部へ組織変更 ●福岡市くらしの環境財団に主査(家庭ごみ有料化のごみ袋担当)を新設	●臨海工場自己搬入モデル事業開始 ●事業所ごみ減量指導の特定事業用建築物の対象範囲を拡大(延床面積3,000㎡以上→1,000㎡超)	●し尿処理手数料改定		
5月				●第2次福岡市環境基本計画策定について福岡市環境審議会に諮問 ●福岡市環境基本計画検討委員会設置	
6月		●ごみ処理手数料を改定(自己搬入140円/10kg、定期収集202円/50L、臨時収集5,060円/m ³)			
7月	●計画課の主査(地域計画担当)を新設	●東部工場竣工			●福岡式環境ISO推進委員会(事業者版)設置
8月				●子ども地球環境会議2005 ●福岡市アスベスト対策連絡会議設置	
9月		●東部(伏谷)埋立場埋立容量変更当初:3,100,000m ³			

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
10月		変更：3,400,000m ³ ●家庭ごみ有料化 ●粗大ごみの土曜日の受付及び収集を開始 ●自己搬入ごみ事前受付センターでの受付開始 ●家庭ごみ有料化に伴う排出指導の強化 10/2～12/27（日曜を除く）の19：00～22：00 市職員と指導員（市民）が84班に分かれ市内全域を徒歩で巡回指導		●環境フェスティバルふくおか2005 ●環境シンポジウム～子ども達に美しい地球を～	
11月				●新エネルギー普及啓発イベントミュージカル「あしたくる風」開催	
12月				●博多湾環境保全計画策定検討委員会設置	
2006年 2月 (平18)					●「石綿による健康被害の救済に関する法律」制定
3月		●事業系古紙回収推進事業の全市拡大		●福岡式環境ISO（市民版）「環境にe（い～）ことコンテスト」表彰式	
4月	●管理課と調整課の統合 ●環境都市推進部にユニット制導入計画課、環境調整課、環境共生課を環境推進課に名称変更				
5月					●福岡都市圏南部環境事業組合設立
6月		●事業系ごみ処理手数料を改定（定期収集217円/50L、臨時収集5,350円/m ³ ）		●ノーマイカーデーを毎週金曜日に拡大 ●福岡市環境基本計画（第二次）について環境審議会から市長へ答申	
7月				●「福岡市環境基本計画（第二次）」策定 ●「福岡市環境教育・学習計画」（第二次）策定 ●「福岡市地球温暖化対策地域推進計画」（第三次）策定	

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
10月		●粗大ごみインターネット受付を開始		●「福岡市自動車交通公害防止計画」(第三次)策定 ●子ども地球環境会議2006 ●エコアクション21シンポジウム開催 ●環境フェスティバルふくおか2006	
2007年 2月 (平19)	●課長(アジア太平洋環境会議開催支援担当)を新設			●「福岡市環境配慮指針」改訂	●福岡・釜山広域姉妹都市締結
3月	●久山中継所を廃止(閉所)	●西部(中田)埋立場第3区画部分竣工	●久山中継所を廃止		
4月	●総務部主査(アジア太平洋環境会議開催支援担当)を新設 ●環境都市推進部を廃止し、環境対策推進部を新設 ●環境保全課を環境対策推進部に移管 ●環境推進課を計画課に名称変更し、総務部へ移管 ●環境推進課を環境調整課に名称変更 ●環境推進課を温暖化対策課に名称変更、自然環境係を環境調整課へ移管 ●産業廃棄物指導課の排出指導係、自動車リサイクル指導係を、排出指導第1係、排出指導第2係に名称変更 ●東・西南部事業所をごみ対策部に移管 ●中部中継所を施設課に移管 ●保健環境研究所の企画調整課を廃止し、企画調整係を総務係に名称変更し、環境情報係及び主査(有害汚染物質専任)を環境保全課に移管		●中部中継所から東部水処理センターへし尿圧送開始		●(財)福岡市くらしの環境財団と(株)都市環境を統合し、(財)ふくおか環境財団とした。
5月		●西部(中田)埋立場第3区画埋立			

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
6月		開始(一部供用部)		●「エコウェイブ ふくおか2007」及 び「福岡市環境行 動賞」の事業名称 決定	
7月				●「エコアジア 2007開催記念講演 会&映画上映会」 開催	
8月				●「環境にe(い ～)こと実践手引 き」策定	
9月				●第15回アジア太 平洋環境会議(エ コアジア2007)開 催	
10月	●課長(アジア太 平洋環境会議開催 支援担当)及び主 査(アジア太平洋 環境会議開催支援 担当)を廃止			●子ども向け環境 情報ウェブサイト 「こども環境局」 開設	
11月				●環境フェスティ バルふくおか2007	
12月		●「福岡市におけ るレジ袋の削減に 関する協定」締結 (16事業者・219店 舗)		●第1回福岡市環 境行動賞表彰式及 び記念講演会	●航空機騒音に係 る環境基準の一部 改正(平成19年12 月17日告示、平成25 年4月1日施行)
2008年 1月 (平20)				●「博多湾環境保 全計画」策定	
3月	●理事の廃止	●西部(中田)埋立 場第3区画竣工 ●東部工場、東部 第2工場解体完了		●福岡式環境ISO (市民版)「環境に e(い～)ことコ ンテスト」表彰式	
4月	●管理課の主査 (自己搬入ごみ事 前受付センター管 理運営担当)を主 査(自己搬入ごみ 適正処理指導担 当)へ変更 ●工場整備課のク リーンパーク・東 部再整備担当を廃 止 ●クリーンパー ク・東部に主査(リ サイクルセンター 担当)を新設 ●保健環境研究所 の主席研究員制を 廃止し、環境科学				

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
5月 7月 9月 10月 11月	部門を環境科学課に保健科学部門を保健科学課に変更し、総務係を環境科学課へ移管し、管理係に名称変更	●「福岡市におけるレジ袋の削減に関する協定」(第二次)締結(8事業者・12店舗)		●福岡市「ストップ・ザ・温暖化」推進本部の設置 ●「エコ・ウェイブ・ふくおか会議」の発足 ●環境フェスティバルふくおか2008 ●第2回福岡市環境行動表彰式及び記念講演会	●「福岡市環境影響評価技術指針」改正 ●化管法施行令の改正(平20.11.21公布)
2009年 3月 (平21) 4月	●総務部及び環境対策推進部を再編し、それぞれ環境政策部及び温暖化対策部に名称変更 ●ごみ対策部を循環型社会推進部に名称変更 ●旧総務部の廃棄物問題調整担当課長及び計画課廃棄物計画係を循環型社会推進部に移管し、同部に計画課を新設 ●旧総務部の計画課に環境啓発課の啓発業務を移管し、環境政策課に名称変更し、同課に広報係を新設 ●環境啓発課を廃止 ●環境保全課を環境政策部に移管し、水質・騒音係を水質・土壌係に環境情報係を騒音・振動係にそれぞれ名称変更 ●家庭ごみ減量対策課を家庭ごみ減量推進課に名称変更し、企画係を啓発係に推進係を減	●ストックヤード竣工	●玄界島し尿中継施設のし尿処理停止	●福岡市役所環境保全実行計画(第二次)の改定	●福岡地域公害防止計画(第二次)策定 ●土壌汚染対策法の改正(平22.4.1施行)

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
5月	量推進係にそれぞれ名称変更 ●管理課の主査（自己搬入ごみ適正処理指導担当）を廃止 ●クリーンパーク・東部の主査（リサイクルセンター担当）を廃止				
6月				●「今津干潟カプトガニ産卵場整備事業」開始。事業主体として「今津干潟保全協議会」を設立。	●「環境シンポジウム」開催（環境省環境事務次官の基調講演等）（H21.6.5）
7月				●本庁舎西側ふれあい広場に「よかしば（保水性人工芝）」を設置	
9月					●「福岡市地域グリーンニューディール基金条例」制定 ●大気の汚染に係る環境基準（微小粒子状物質）告示（平21.9.9）
10月		●「福岡市におけるレジ袋の削減に関する協定」（第三次）締結（5事業者・232店舗） ●リサイクルプラザの愛称を「3Rステーション」に決定 ●「循環のまち・ふくおか行動委員会作業部会」設置		●環境フェスティバルふくおか2009	
11月				●第3回福岡市環境行動表彰式及び記念講演会	
12月				●「風レンズ風車」の設置（「みなど100年公園」1基及び「シーサイドもち海浜公園」3基）	
2010年 2月 (平22)				●電気自動車充電設備（利用開放型）の設置（本庁舎1階） ●「生物多様性EXP02010in福岡」開催	

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
3月		●「事業系ごみの資源化推進検討委員会」設置	●玄界島し尿中継施設を廃止	●保健環境学習施設「まもるーむ福岡」に「温暖化対策コーナー」と「生物多様性コーナー」を設置	
4月	●温暖化対策課を部の筆頭課に変更 ●温暖化対策課の第2係を廃止し第3係を第2係に名称変更 ●温暖化対策課に計画係と主査(省エネ推進)を新設 ●事業系ごみ対策課の推進第1係と推進第2係を統合し、推進係を新設 ●施設課の中部中継所管理係及び中部中継所技術係を臨海工場に移管し、西部工場の西部埋立係及び西部水処理係を施設課に移管	●街路清掃業務委託を民間開放	●水洗化により、玄界島し尿収集運搬業務終了		
5月					●大気汚染防止法及び水質汚濁防止法の改正(平23.4.1施行)
10月				●環境フェスティバルふくおか2010	
11月				●第4回福岡市環境行動賞表彰式及び記念講演会	
12月		●「事業系ごみの資源循環を進めていくための取組みについて」(答申)			
2011年 3月 (平23)		●空き缶選別プレスカー(カンパク大将)による環境教育学習事業終了		●「生物多様性ふくおか戦略(仮称)」策定検討委員会の設置 ●今津干潟里海保全再生事業開始	●「環境影響評価法」改正
4月	●環境政策課の技術調整係を施設計画係に広報係を広報啓発係にそれぞれ名称変更 ●環境保全課の主査(有害汚染物質専任)を廃止 ●温暖化対策課の第1係を市民啓発係に第2係を次世代自動車係に計画係を計画調整係に主査(省エネ推進)を主査(事業所省				

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
	<p>エネ推進)にそれぞれ名称変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境調整課の企画係を生物多様性戦略推進係に環境影響評価係を環境影響審査係に自然環境係を自然活動支援係にそれぞれ名称変更 ●業務課と家庭ごみ減量推進課を統合し、家庭ごみ対策課に名称変更するとともに不法投棄対策係を計画課に移管 ●計画課の主査(廃棄物問題調整)を廃棄物問題調整係に名称変更 ●東部事業所と西南部事業所を統合し、環境事業所に名称変更するとともに東部事業所業務係を第2係に西南部事業所第2係を第3係にそれぞれ名称変更 ●管理課の調整係を業務係に技術調整係を調整係にそれぞれ名称変更 ●施設課の施設建設係を建設係に名称変更 ●施設部に課長(し尿処理施設整備)を新設 ●臨海工場の中部中継所管理係及び中部中継所技術係を課長(し尿処理施設整備)に移管するとともに統合し、中部中継所管理・技術係に名称変更 ●クリーンパーク・東部所長を臨海工場長が兼務 ●南部工場の管理係及び技術係を統合し、管理・技術係に名称変更するとともに主査(発電設備専任)を廃止 				

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●組織順を西部工場、臨海工場、クリーンパーク・東部、南部工場に変更 ●廃棄物試験研究センターの主任研究員（工場担当）及び主任研究員（埋立場担当）を統合し、主任研究員（処理施設担当）に名称変更 	<ul style="list-style-type: none"> ●東部（伏谷）埋立場容量見直し（ごみ比重1.1t/m³→1.5t/m³） 374万t→510万t 			
6月					<ul style="list-style-type: none"> ●水質汚濁防止法の改正（平24.6.1施行）
7月					<ul style="list-style-type: none"> ●市庁用車を活用したEVカーシェアリング実施（～11月）
8月		<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市事業系ごみ資源化推進ファンド」運営委員会設置 		<ul style="list-style-type: none"> ●福岡市「ストップ・ザ・温暖化」推進本部会議を改組し、市の総合的なエネルギー施策を協議する福岡市環境・エネルギー戦略会議に改称 ●福岡市黄砂影響検討委員会設置 ●福岡市熱中症情報のメール配信開始 ●福岡市節電特別対策本部の設置 	
9月				<ul style="list-style-type: none"> ●環境フェスティバルふくおか2011 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ●部長、課長及び主査（エネルギー政策）を新設 ●部長（エネルギー政策）を環境政策部長が兼務 ●課長（エネルギー政策）を環境政策課長が兼務 ●温暖化対策課の次世代自動車係を課長（エネルギー政策）に移管し、主査（エネ 	<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市資源物回収協定制度」開始 ●事業系ごみ処理手数料を改定（収集運搬経費143円/50L（定期収集）3,885円/m³（臨時収集）、処分経費9円/Kg） 			<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市事業系ごみ資源化推進ファンド」創設

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
11月	ギー政策)に名称変更			●第5回福岡市環境行動賞表彰式・トークセッション ●第21回太陽光発電国際会議関連イベント(市民講座、ソーラーカー製作教室等)開催	
12月		●新循環のまち・ふくおか基本計画策定		●「本市における環境影響評価制度のあり方について」環境審議会に諮問 ●福岡市環境保全プロジェクト推進本部にアスベスト対策調整部会設置	
2012年 1月 (平24)		●容器包装3R連携市民セミナーin福岡の開催(本市共催)			
3月		●東部(伏谷)埋立場管理事務所改築 ●ミニ3Rステーション廃止		●福岡市黄砂情報の提供開始 ●「アイランドシティ環境配慮指針」改定	●本庁舎1階に電気自動車急速充電器設置
4月	●部長(エネルギー政策)を環境エネルギー政策部に名称変更 ●温暖化対策部を廃止 ●保健環境研究所を環境監理部に名称変更 ●部の組織順を環境政策部、環境エネルギー政策部、環境監理部、循環型社会推進部、施設部に変更 ●温暖化対策課を環境エネルギー政策部に移管し、市民啓発係を温暖化対策係に名称変更 ●課長(エネルギー政策)の環境政策課長による兼務を解除し、エネルギー政策課に名称変更するとともに、主査(エネルギー政策)を企画調整係、事業推進係に名称変更				

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
5月	<p>更し、主査（スマートコミュニティ推進）を新設</p> <p>●環境調整課を環境監理部に移管し、主査（野鳥公園整備）を新設</p> <p>●環境保全課を環境監理部に移管し、主査（広域環境問題）を新設</p> <p>●廃棄物試験研究センターを廃止し、主任研究員（資源化）、主任研究員（処理施設）を環境科学課に移管</p> <p>●計画課を循環型社会計画課に名称変更し、部の筆頭課に変更</p> <p>●家庭ごみ対策課の啓発係を3R・美化推進係に減量推進係を適正分別推進係にそれぞれ名称変更</p> <p>●産業廃棄物指導課の排出指導第1係を排出指導係に名称変更するとともに、排出指導第2係を廃止し、排出指導係に統合</p> <p>●西部工場の主査（発電設備専任）を廃止</p>				
10月					
11月					<ul style="list-style-type: none"> ●「生物多様性ふくおか戦略」策定 ●環境フェスティバルふくおか2012 ●「本市における環境影響評価制度のあり方について」環境審議会において答申 ●福岡市黄砂情報のメール配信開始 ●第6回福岡市環境行動賞表彰式・トークセッション ●黄砂・PM2.5モニターの募集開始
12月					●「福岡市環境影響評価条例」改正

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
2013年 2月 (平25)				●福岡市PM2.5 予測情報の提供 開始 ●大原メガソー ラー発電所発電 開始	
3月		●「福岡市事業系 ごみ資源化情報 発信サイト」開設 ●(家庭用)生ご み処理機等購入 費助成制度終了		●福岡市PM2.5 予測情報のメー ル配信開始	●「福岡市環境影 響評価条例施行 規則」改正 ●臨海・東部工場 でFIT制度による 売電を開始
4月	●環境エネルギー 政策部を部長 エネルギー政策 へ名称変更する とともに環境政 策部長の兼務解 除 ●環境政策課を 政策経営課へ名 称変更するとと もに広報啓発係 を総務課へ移管 し主査(自立経営 補佐)を新設 ●温暖化対策課 を環境エネルギー 政策部から環 境政策部へ移管 ●エネルギー政 策課主査(スマー トコミュニティ 推進)をスマー トコミュニティ係 へ変更 ●循環型社会計 画課廃棄物問題 調整係を廃止し、 不法投棄対策係 を産業廃棄物指 導課へ移管する とともに主査(業 務体制調整担当) を新設 ●家庭ごみ対策 課を収集管理課 へ名称変更する とともに業務第 1係、2係を管理 係、家庭系廃棄物 係へ名称変更し、 3R・美化推進 係、適正分別推進 係をそれぞれ循 環型社会計画課、 資源循環推進課 へ移管 ●事業系ごみ対 策課を資源循環	●事業系ごみ処 理手数料を改定 (処分経費11円 /kg)		●福岡市アスベ スト対策推進プ ラン策定	●「福岡市環境影 響評価条例施行 規則」改正 ●大気汚染防止 法の改正(平 26.6.1施行) ●「特定製品に係 るフロン類の回 収及び破壊の実 施の確保等に関 する法律」が改正 され、「フロン類 の使用の合理化 及び管理の適正 化に関する法律」 へ(平成27.4.1 施行)

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
6月	<p>推進課へ名称変更するとともに指導係を事業系廃棄物係として収集管理課へ移管</p> <p>●課長（し尿処理施設整備）を廃止し、主査（し尿処理施設整備）を施設課へ中部中継所管理・技術係を臨海工場へ移管</p> <p>●臨海工場所長のクリーンパーク東部所長兼務を解除するとともに主査（発電設備専任）を廃止</p>				
7月				●「福岡市環境基本計画（第三次）」策定について福岡市環境審議会に諮問	●「福岡市環境影響評価条例」改正
8月		●使用済小型電子機器回収事業本格実施開始			
9月					●「福岡市環境影響評価条例施行規則」改正
10月				●黄砂・PM2.5シンポジウム開催	●「福岡市環境影響評価技術指針」改正
12月				●環境フェスティバルふくおか2013	
				●福岡市PM2.5予測情報の午後の予測開始	
				●「福岡市PM2.5ダイヤル」提供開始	
2014年 3月 (平26)				●蒲田メガソーラー発電所発電開始	
4月	<p>●総務課広報啓発係を政策経営課へ移管</p> <p>●温暖化対策課主査（事業所省エネ推進担当）を事業所省エネ推進係へ変更</p> <p>●環境調整課生物多様性戦略推進係及び主査（野鳥公園整備）を廃止</p>	<p>●西区玄界島で有料指定袋導入</p> <p>●おむつ利用者へのごみ袋配付事業開始</p> <p>●「福岡市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例」を改正し、家庭ごみ及び資源物の持ち去り及び買い取り行為を禁止</p>	●し尿処理手数料改定		●施設部環境マネジメントシステムの自己適合宣言を実施

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●保健環境研究所を新設。所内に副所長、保健環境管理課を新設し、環境監理部から環境科学課、保健科学課を移管 ●工場整備課主査（南部工場解体）を新設 ●施設課主査（し尿処理施設整備）を廃止 ●各工場の管理係、技術係、運転係について施設係、技術係へ再編 ●臨海工場中部中継所管理・技術係を中部中継所へ変更 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業系ごみ処理手数料を改定（収集運搬経費147円/50L（定期収集）3,996円/m³（臨時収集）） ●（新）玄界島焼却場竣工 ●食品廃棄物に限定した一般廃棄物収集運搬許可制度開始 			
6月		<ul style="list-style-type: none"> ●（新）玄界島焼却場稼働開始 		<ul style="list-style-type: none"> ●第7回福岡市環境行動賞表彰式・トークセッション ●「福岡市環境・エネルギー戦略」策定 	
9月				<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市環境基本計画（第三次）」策定 	
10月				<ul style="list-style-type: none"> ●PM2.5・黄砂講演会開催 ●環境フェスティバルふくおか2014 	
2015年 3月 (平27)	<ul style="list-style-type: none"> ●環境事業所第3係を廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ●旧玄界島焼却場焼却機械等解体工事完了 ●南部工場ごみ受入停止 		<ul style="list-style-type: none"> ●福岡市自動車交通公害防止計画（第三次）の終了 	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●政策経営課を環境政策課へ名称変更するとともに主査（自立経営補佐）を廃止 ●工場整備課建設係を新設 ●南部工場技術係を廃止、工場長は工場整備課長が兼務 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業系ごみ処理手数料を改定（処分経費14円/kg） 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成32年度までの台数及び乗車人員配置計画（合理化）を実施 		
5月		<ul style="list-style-type: none"> ●西部（中田）埋立場の埋立期間の延長に関する 			

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
9月		協定を締結(当初の平成8年4月から平成28年3月まで(20年間)を、平成48年3月まで(40年間)に延長)			
10月	●南部工場施設係を廃止 ●工場整備課長の南部工場長兼務を解除 ●工場整備課主査(南部工場管理調整)を新設		●中部水処理センターへのし尿圧送終了 ●中部汚泥再生処理センター竣工 ●東部水処理センターへのし尿圧送終了	●「福岡市環境教育・学習計画(第三次)」策定 ●環境フェスティバルふくおか2015	
11月			●中部中継所を廃止 ●中部汚泥再生処理センターし尿処理開始		
12月		●福岡都市圏南部工場試運転に伴うごみの受入開始 ●福岡都市圏最終処分場試運転に伴う焼却灰の埋立開始			
2016年 2月(平28)		●クリーンパーク・東部余熱利用施設廃止			
3月		●福岡都市圏南部工場、福岡都市圏南部最終処分場竣工		●「風レンズ風車」の撤去(「みなと100年公園」1基及び「シーサイドもち海浜公園」3基)	
4月	●工場整備課主査(南部工場管理調整)を廃止 ●循環型社会計画課に資源化施設整備係を新設 ●臨海工場中部中継所を中部汚泥再生処理センターへ名称変更				
6月			●生活保護世帯手数料減免廃止	●第8回福岡市環境行動賞表彰式・トークセッション	
9月				●「博多湾環境保全計画(第二次)」策定 ●「福岡市環境配慮指針」改定	

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●環境事業所第2係を廃止し、第1係を業務係に名称変更 ●保健環境管理課を廃止し、環境科学課に移管するとともに、保健環境研究所副所長を廃止 				<ul style="list-style-type: none"> ●土壌汚染対策法の改正(第一段階・平成30.4.1施行)
5月		<ul style="list-style-type: none"> ●福岡市リサイクルベース稼働 			
6月				<ul style="list-style-type: none"> ●第9回福岡市環境行動賞表彰式 ●被災建築物のアスベスト調査に関して一般社団法人建築物石綿含有建材調査者協会と協定を締結 	
9月		<ul style="list-style-type: none"> ●LINEを利用した粗大ごみ収集申込み実証実験開始 			
10月				<ul style="list-style-type: none"> ●環境フェスティバルふくおか2018 	
2019年 2月 (平31)		<ul style="list-style-type: none"> ●緑のリサイクルセンター閉鎖 		<ul style="list-style-type: none"> ●「福岡市花粉飛散予測情報」提供開始 	
3月		<ul style="list-style-type: none"> ●福岡市災害廃棄物処理計画策定 			
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●環境政策課施設計画係を計画課に移管するとともに施設係に名称変更 ●循環型社会計画課を計画課に名称変更 ●計画課の主査(業務体制調整)を収集管理課へ移管 ●資源循環推進課を家庭ごみ減量推進課(名称変更)と事業系ごみ減量推進課(新設)に分課するとともに家庭ごみ減量推進課に3R推進係を新設 ●工場整備課に主査(環境対策)を新設 	<ul style="list-style-type: none"> ●許可収集業者の地域割にグループ制導入 	<ul style="list-style-type: none"> ●収集委託車両6台(定期収集分)となる 		<ul style="list-style-type: none"> ●土壌汚染対策法の改正(第二段階・平成31.4.1施行)

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
2019年 5月 (令和)	●施設課に主査 (国際協力・展 開)を新設	●LINEを利用し た粗大ごみ収集 申込み実装			●「食品ロスの削 減の推進に関す る法律」制定 (R1.10.1施行)
7月		●新循環のま ち・ふくおか基本 計画一部改定			
10月		●LINE Payによる 粗大ごみ処理手 数料納付実証実 験開始		●環境フェステ ィバルふくおか 2019	
11月		●遺品整理又は 引越時に発生す る家庭ごみの収 集運搬に限定し た許可制度創設		●蒲田第2メガ ソーラー発電所 発電開始	
12月	●部長(災害廃棄 物処理支援)を新 設し、循環型社会 推進部長が兼務 ●課長(災害廃棄 物処理支援)及び 主査(災害廃棄物 処理支援)を新設				
2020年 4月 (令和2)	●環境政策課に 主査(福岡方式普 及促進)を新設 ●環境・エネルギ ー対策課政策推 進係を企画調整 係へ名称変更 ●環境・エネルギ ー対策課に脱炭 素社会推進係を 新設 ●環境・エネルギ ー対策課温暖化 対策係を普及啓 発係へ名称変更 ●環境・エネルギ ー対策課主査(事 業所再エネ導入 促進)を市民・事 業者活動促進係 に変更 ●循環型社会推 進部長の部長(災 害廃棄物処理支 援)兼務を解除 ●部長(災害廃棄 物処理支援)及び 課長(災害廃棄物	●LINE Payによ る粗大ごみ処理 手数料納付実装			●施設部環境マ ネジメントシス テムを見直し、独 自の環境活動へ 移行 ●「福岡市環境影 響評価条例施行 規則」改正

年 月	機 構 関 係	ご み 関 係	し 尿 関 係	環 境 保 全 関 係	備 考
6月	処理支援)を廃止し、主査(災害廃棄物処理支援)を計画課へ移管 ●収集管理課主査(業務体制調整)を廃止 ●環境事業所を廃止	●九州市長会における災害時相互支援プラン改正により、九州市長会による災害廃棄物処理支援体制が発足			●大気汚染防止法の改正(令和3.4.1(一部:令和4.4.1)施行)
7月					●「福岡市環境影響評価技術指針」改正
10月		●事業系ごみ(一般廃棄物)の古紙の分別区分追加			
2021年 4月 (令和3)	●環境・エネルギー対策課市民・事業者活動促進係を事業推進係へ名称変更 ●環境保全課大気係を大気環境対策係へ名称変更 ●課長(西部工場再整備担当)を新設するとともに、工場整備課機械係、電気係、建築係、主査(環境対策)を移管				
6月					●「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」制定 ●地球温暖化対策の推進に関する法律の改正(令和3年6月2日)
10月	●課長(地域脱炭素推進担当)及び主査(地域脱炭素推進担当)を新設 ●環境・エネルギー対策課事業推進係を主査(事業推進担当)へ名称変更し、課長(地域脱炭素推進担当)へ移管				
11月		●自己搬入ごみ事前登録制度運用開始			

6 環境用語集



【アイドリングストップ】

自動車が走っていないときにエンジンをかけっぱなしにすること（＝アイドリング）をやめることです。不必要なアイドリングをやめれば、車の燃料が節約でき、その分排出ガスが少なくなるので、大気汚染や地球温暖化の防止に役立ちます。

【アオコ】

富栄養化した湖沼等で植物プランクトンが異常発生し、水面が緑色になる現象。死滅したプランクトンによる腐敗臭の発生、分解過程の酸素消費による酸欠により魚介類に被害を及ぼすことがあります。

【アオサ】

海域に生息する緑藻類の一種。近年、富栄養化した浅海域で大量に発生し、悪臭による生活環境上の問題となっている。一方、アオサは、りん、窒素を吸収するので、富栄養化の原因となる栄養塩類の除去に貢献しているといえます。

【青潮】

夏季から秋季にかけて強い風が吹くと、硫化水素臭を伴った海面が、青白く濁る現象を青潮と呼びます。夏季に成層が形成されたのちに、分解される以上の有機物が内湾の底層に供給されることで、硫化物を含んだ貧酸素水が発生することが起源となっています。青潮は陸から海へ強い風が吹くと、上層の水が沖側へ運ばれるため、これを補う形で下層の貧酸素水塊が浮泥といっしょにわき上がってできる水帯で、赤潮の場合と同様に魚介類が呼吸困難になって大量へい死することがあります。

【赤潮】

プランクトンの異常発生のために海水が変色する現象をいいます。原因となるプランクトンは鞭毛藻類、珪藻類等であり、はなはだしい場合は魚介類に被害を与えることもあります。

【悪臭物質】

特有のにおいをもっている化合物は40万種にも達するといわれていますが、悪臭を発生する物質を化学的にみると、窒素や硫黄を含む化合物のほか低級脂肪酸などがあげられます。

【アジェンダ21】

1992年（平成4年）6月ブラジルのリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」において採択された環境と開発の統合のための21世紀に向けた具体的な行動計画。前文及び(1)社会的・経済的側面(2)開発資源の保護と管理(3)主たるグループの役割の強化(4)実施手段の4部から構成されています。

【アースデー】

Earth Day（地球の日）
1970年（昭和45年）4月22日、公害防止や自然保護など環境保全をテーマに全米で「アースデー」と呼ばれる大規模なデモが行われました。この取り組みは、ウィスコンシン州選出の上院議員ゲイロード・ネルソンの発案でデニス・ヘイズら3人のハーバード大学院生がワシントンに事務所を開設したことに端を発しています。各団体の連帯を訴えた彼らの運動は大成功をおさめ、全米で環境保全に関する認識が確立される契機となりました。以後、毎年4月22日を「アースデー」と決め、世界統一行動日としています。

【アスベスト】

アスベスト(石綿)は、高い抗張力と柔軟性を持った繊維状の天然鉱物の総称であり、耐熱性、耐薬品性、防音性、電気絶縁性等にも優れた特質を持っていることから、貴重な工業材料として利用されてきました。しかし、長期間被ばくすることにより、石綿肺、肺がんや悪性中皮腫等の疾患が発生するといわれています。

【アセットマネジメント】

公共施設の管理水準を一定に維持するとともに、計画的な施設の整備、維持管理、大規模修繕などを実施することにより、施設を長寿命化し、コスト削減を実現するための資産管理手法を意味します。

【アマモ】

海の浅い砂地に生える海草。アマモ場は、魚介類の産卵・生育場所など水産増殖の基盤や沿岸生態系における物質循環・生物多様性の保全にとって重要であるが、全国的に減少傾向にあります。近年は、二酸化炭素を吸収・固定するブルーカーボン生態系としても活用されています。

【暗騒音（暗振動）】

ある場所において特定の音(振動)を対象とする場合に、対象の音(振動)以外でその場合に存在する騒音(振動)を、対象の音(振動)に対して暗騒音(暗振動)といいます。

【安定5品目】

廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず、がれき類の5品目のこと。

【硫黄酸化物】

二酸化硫黄(SO₂)などの硫黄酸化物(SO_x)は、石油や石炭などの化石燃料が燃える際に発生します。日本では、高度成長の時代に、工場のばい煙などに含まれる硫黄酸化物(SO_x)による大気汚染が進行し、大きな問題となりました。また、酸性雨の原因にもなります。現在では、さまざまな対策や規制の結果、その濃度は減少しています。

【1日許容摂取量】

人間が毎日一生涯摂取し続けても健康に何ら悪影響が出ない量を1日許容摂取量(A D I : Acceptable Daily Intake)といいます。A D Iは、動物実験での無作用量に安全係数を乗じて得られ、mg/kg/日で表されます。安全係数は、通常無作用量の100倍が採用されています。

【一酸化炭素】

CO。炭素または炭素化合物が不十分な酸素供給の下に燃焼するか、または炭酸ガスが赤熱した炭素と接触するとき生ずる無色、無臭の気体であり、生理上有毒です。血液中のヘモグロビンと結合しやすく、ヘモグロビンの酸素の運搬作用を阻害します。

【一酸化窒素】

NO。無色のガスで、空気中で酸化されて、直ちに赤褐色の二酸化窒素に変わります。一酸化窒素は活性が弱く、気道、肺を通じて血液に入り、ここではじめて赤血球と反応してヘモグロビンをメトヘモグロビンに変化させます。血液毒であると同時に、中枢神経にも作用して麻痺を起こします。

【一般細菌】

一般細菌とは、標準カンテン培地に増殖する好気性の細菌をさす。病原性がないものがほとんどで、汚染された水では明らかにその数が多い。一部の一般細菌には、塩素に対する抵抗力があるので、汚染の指標としています。地下水の中の一般細菌数はあまり変化しないので、急に増えた時は、汚染されたおそれがあるといえます。

【一般廃棄物】

日常生活に伴って発生するごみやし尿などのことをいいます。

【遺伝子組み換え】

他の生物の遺伝子の一部分をとり出し、単純な遺伝システムを持つウイルスなどの遺伝子の一部とおきかえて細菌や培養細胞に感染させることにより、細胞に新しい性質を持たせる技術です。

【遺伝子資源】

遺伝子は生物の遺伝をつかさどるもので、その実体は細胞中のDNA(デオキシリボ核酸)です。多くの動植物、微生物は、人類にとって食料や医薬品、衣料品等の原料として利用されています。地球上で現在、確認されている生物種は140万種程度ですが、未確認種を含めると500万種~1000万種と推定されています。そのなかには、人類にとって計り知れない未知の恩恵を与える遺伝子が存在する可能性があり、特に未確認の野生生物が数多く生息、成育している熱帯林の保護が強く叫ばれている理由のひとつにもなっています。

【雨水利用率】

雨水利用量を雨水集水量で除した値をいいます。

【上乘せ基準】

ばい煙または排出水の排出の規制に関して国で定める全国一律の排出基準または排水基準では、その地域の人の健康を保護しまたは生活環境を保全することが十分でない認められるとき、全国一律の基準にかえて適用するものとして都道府県が条例で定めたより厳しい排出基準または排水基準をいいます。

【栄養塩類】

生物がその生命を維持するために体外より摂取する塩類をいいます。生体を構成する主要元素のC、H、O、N、P等や微量元素のFe、Mn等のうち、C、H、O以外の主に塩類として摂取される物質をさします。水域の栄養塩類が増加し植物プランクトンが著しく増殖すると、水質の悪化をもたらします。

【エコクッキング】

「食材料を無駄なく使用する」「通常より少ない油を使用して作る」等の工夫により、家庭排水の汚れを少なくし、家庭ごみも少なくできる、環境への負荷が少ない料理法のことをいいます。

【エコショップ】

小売店、スーパー、コンビニエンスストアなどで、簡易包装の実行や空き缶・空き瓶の回収などを積極的に行う店のことです。

【エコタウン事業】

ゼロ・エミッション構想を推進し、先進的な環境調和型街づくりを行う事業です。具体的には、地方公共団体が推進計画(エコタウンプラン)を作成し承認を受けると、ハード面・ソフト面でそれぞれの地域の特性に応じて、総合的・多面的な支援を受けることができます。

【エコツーリズム】

エコロジー(生態学)に配慮した旅行で、21世紀型の観光ともいわれています。1998年に発足した「エコツーリズム推進協議会」によると、エコツーリズムの定義は、(1)自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かした観光を成立させること、(2)観光によってそれらの資源が損なわれないよう、適切な管理に基づく保護・保全を図ること、(3)地域資源の健全な存続による地域経済への波及効果を実現すること、とされています。

【エコドライブ】

省エネルギー、二酸化炭素や大気汚染物質の排出削減のための運転技術をさす概念。関係するさまざまな機関がドライバーに呼びかけています。主な内容は、アイドリングストップを励行し、経済速度の遵守、急発進や急加速、急ブレーキを控えること、適正なタイヤ空気圧の点検などがあげられます。

【エコビジネス】
環境に配慮した製品やサービスを提供する事業の総称です。公害防止技術、省資源・省エネルギー技術、廃棄物のリサイクル、エコマーク商品の開発、アメニティスペースの提供等、多岐の分野にわたってのあらたなビジネスニーズへの可能性が広がっています。
【エコマーク】
(公財)日本環境協会が実施する環境保全型商品推進事業のシンボルとして図案化されたもので、「わたしたちの手で地球を、環境を守ろう」との気持ちを表しています。特定フロンを使わないスプレーや再生紙使用の雑誌など環境に役立つものとして認定された商品に表示されます。
【エコロジー】
「生態学」と訳されています。一般に、生物集団とその環境との関連について研究する学問と解されていますが、エネルギーや物質の循環もその対象とされ、また最近では自然科学の分野のみならず、社会科学の分野や人文科学的分野からのアプローチも求められています。生物学の一分野としてはとらえきれない学問領域となっています。
【塩化水素 (HCl)】
刺激臭を有する無色の気体で、水にとかしたものが塩酸です。ガス状塩化水素は、粘膜を刺激し、結膜にも炎症を起こします。これは塩化ビニール樹脂の燃焼の際に多量に発生するもので、大気を汚染するだけでなく、焼却炉の劣化も著しいので大きな問題となっています。
【塩化物イオン】
わかりやすくいうと塩分のことです。人間の身体や食品の中にも含まれていて、特に海水に多く含まれています。井戸水の場合は急激な値の変動により、水質の変化を知る目安となります。井戸水に人畜のし尿等が混入すると、平常値よりもずっと多くの塩素イオンが検出されるので、このような場合には、その原因を直ちに調べる必要があります。
【塩素 (Cl₂)】
常温では緑黄色の気体で特有の強い刺激臭をもち、水にわずかに溶けます。容易に液化できるボンベまたは特殊タンクに入れて取り扱われ、化学、製薬、金属精錬、製紙、漂白等の工場のほか、上下水道での消毒等にも広く用いられています。
【塩素消毒】
塩素の酸化作用を利用して、有害な微生物などを死滅させる方法です。
【オゾン層】
地球を取り巻く大気の成層圏に存在する、オゾンを多く含む部分をさします。地表から10~50km上空の成層圏にあり、波長の短い有害な紫外線から地表の生物を守っています。近年、特定フロン等によるオゾン層の減少が観測され、波長の短い有害な紫外線による生物への影響が懸念されています。
【オゾンホール】
オゾン層が極端に薄くなったところをいいます。とくに北極・南極という地球の両極で、冬から早春にかけてオゾンの分解が進み、オゾンが極端に薄いオゾンホールが出現しています。
【汚濁負荷量】
河川水等を汚濁する物質の総量をいい、汚濁負荷量=水質×水量によって計算します。
【温室効果ガス】
温室効果をもたらす気体の総称で、二酸化炭素、メタン、フロン等が代表的な温室効果ガスです。温室効果とは、地表面から放射され宇宙へ逃げていく熱の一部を温室効果ガスが吸収し、地表面を温室の中のように暖める効果をいいます。
【海洋汚染】
富栄養化等による赤潮等の発生、水俣病に代表される重金属汚染、タンカー事故などによる原油流出、DDTやPCB等の有機塩素化合物等による水質汚濁、分解されにくいプラスチック等の廃棄物などの漂流による海洋生物への悪影響等、内海、外海を問わず地球規模で海が汚染されることです。
【化石燃料】
石炭、石油、天然ガス等の地中に埋蔵されている燃料の総称です。数百万年以上前の植物やプランクトンなどが地中に埋もれ、高熱、高圧等の影響を受けてできたといわれています。
【活性汚泥法】
生物を利用して汚水中のBOD等有機性汚濁物質等を除去する方法です。種々の好気性微生物(活性汚でい)が汚水中に含まれる有機物を無機化又はガス化することを利用しており、下水処理場等で一般的に用いられている汚水処理の方法です。
【活性炭処理】
粒状または粉末活性炭の吸着を利用して、汚水中の残留有機物質などを除去する方法です。

【合併処理浄化槽】
し尿と生活雑排水（台所、風呂、洗濯等に使用した水）を戸別にまとめて処理する浄化槽です。従来のし尿のみを処理する単独処理浄化槽に比べて、河川等公共用水域の汚濁を軽減する効果があります。
【カーボンオフセット】
事業活動で発生する温室効果ガスを、自分ではない別の場所・別の人が行う「温室効果ガス削減事業」の効果を得ることで、差し引きゼロにするという考え方です。
【環境影響評価（環境アセスメント）】
環境影響評価とは、事業の規模が大きく環境に著しい影響を及ぼすおそれのある事業の実施にあたり、事業者自らが事業に係る環境影響についての調査、予測及び評価を実施することを通じて、事業の環境の保全について適正な配慮がなされることを確保するための制度です。
【環境影響評価法】
環境影響評価法は事業に係る環境の保全について適正な配慮がなされることを確保し、健康で文化的な生活の確保に資することを目的とし、平成9年6月に制定されました。法改正後10年以上が経過し、環境影響評価が果たすべき役割や評価技術をめぐる状況の変化に対応するために平成23年4月に改正されました。
【環境NGO】
環境保護活動等を行う民間組織の総称です。NGOは、非政府組織の略称で民間公益団体とも呼ばれます。世界自然保護基金（WWF）、世界資源研究所（WRI）、国際自然保護連合（IUCN）、地球の友（FOE）、グリーンピース等や我が国においても緑の地球防衛基金、地球環境財団等多くの団体があります。
【環境ODA】
ODAとは、Official Development Assistance の略で「政府開発援助」と訳されています。開発途上国へ流れる公的資金のうち、OECD（経済協力開発機構）の開発援助委員会の定めた3要件（(1)政府ないし政府の実施機関によって供与される。(2)開発途上国の経済発展や福祉の向上に寄与する。(3)資金協力については無償部分が一定割合以上である。）を満たすものをODAとしており、無償資金協力、技術協力、国連諸機関・国際金融機関等への出資・拠出及び政府借款で構成されています。環境ODAは、このうち環境保全のための対策、事業の援助等を行うもので、わが国の経済力、技術力、経験等を供与することによって開発途上国の環境保全を図ろうとするものです。
【環境家計簿】
日常的な生活行動と環境とのかかわりをチェックし、より環境への負荷がかからない暮らし方に改善していくことをめざした暮らしの点検簿のことです。身近な生活行動一つひとつから地球環境の保全への視野を開くものとして、今後、普及することが期待されています。
【環境監視システム】
市内の大気環境測定局（16局）の自動測定機で測定したデータを電話回線を利用して送信し、環境監視センターで集中管理するシステムのことで、システムでは、大気環境を常時監視するほか集計処理や解析等も行っています。
【環境管理・監査制度】
事業者が環境の保全に関する方針、目標、体制の整備等に関する計画を定め、これを実行・記録し、その実施状況を評価・検証する一連の制度のことです。また、その評価・検討を環境監査といいます（企業の監査担当者による内部監査と監査法人等による外部監査）。
【環境基準】
人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい行政上の目標として、国が定めた具体的な数値基準のことをいいます。
【環境基本計画】
環境基本法第15条の規定に基づき定められたもので、第三次環境基本計画が平成18年4月に閣議で決定されました。テーマは、「環境・経済・社会の統合的向上」とし、2050年を見据えた超長期ビジョンの策定を提示、可能な限り定量的な目標・指標による進行管理、市民・企業など主体へのメッセージの明確化を示しております。
【環境基本法】
1993年（平成5年）に制定、施行された環境に関する分野について国の政策の基本的な方向を示した法律で、具体的には、基本理念を定め、国、地方公共団体、事業者及び国民の責務を明らかにするとともに、環境の保全に関する施策の基本となる事項を定めています。
【環境教育】
自然と人間活動のかかわりを取り上げ、生活の質を向上させるためには、環境の重要性を認識し、責任ある行動をする必要があるという考え方を、学校、家庭、企業などを通じ地域社会へ広げていく教育のことです。
【環境共生型住宅】
地球環境を保全する観点から、エネルギー・資源・廃棄物などの面で十分な配慮がなされ、周辺の環境と調和し、健康で快適に生活できるように工夫された住宅のことです。

【環境月間】
1972年（昭和47年）6月にスウェーデンのストックホルムで開催された国連人間環境会議において「人間環境の擁護、向上は人類の至上の目標である」として、「人間環境宣言」が採択され、環境問題が世界共通の重要な問題として認識されることとなりました。これを記念して、国連では6月5日を「世界環境デー」とし、毎年この日に国際的に活動を行うこととなりましたが、日本ではこの日を含む1ヵ月間を「環境月間」とし、環境問題について認識を新たにするための諸行事が行われています。
【環境指標】
人間をとりまく環境状態を表す様々な環境影響因子を定量的に示す物差しのことです。環境利用に当たっての影響を示すもの、環境に与える負荷を示すもの、環境の状態を表すもの等があります。
【環境情報】
地域の環境の特性を把握するために必要な情報のことです。最近では、環境をめぐる情勢の変化を反映して、大気汚染や水質汚濁などの公害に関する項目をデータ化したもの他に、生物や自然景観などの自然環境、人口の分布や土地利用の状況などの社会条件、みどりや水辺などの快適環境などの項目についても含むものが一般的であり、対象とする範囲が広がっています。
【環境審議会】
環境保全に関する施策の作成・実施のために広く学識経験者等に意見を求めるため、総理大臣、環境大臣、関係大臣の諮問機関として、環境省に中央環境審議会が置かれています。また、都道府県には都道府県環境審議会を、市町村には市町村環境審議会をそれぞれ置くことができます。
【環境騒音】
ある地点において、特定の音源がはっきりわかる騒音だけでなく、不特定多数の騒音が混じっている騒音をいいます。例えば、住宅地における遠方及び近くの自動車や工場の音、人の足音、話し声、楽器音などが一緒になっている音をいいます。
【環境の日】
1993年（平成5年）に公布・施行された環境基本法により、6月5日が「環境の日」とされました。この日は1972（昭和47）年の国連総会において決議された「世界環境デー」に当たります。「環境の日」は、事業者及び国民が広く環境の保全について関心と理解を深め、積極的に環境を保全する活動を行っていくことを目指して設けられました。
【環境配慮指針】
環境に影響を及ぼすと認められる開発行為の実施に当たっての環境の保全に関する事項、手続方法等を示した指針のことです。
【環境ホルモン(内分泌かく乱化学物質)】
「内分泌系に影響を及ぼすことにより、生体に障害や有害な影響を引き起こす外因性の化学物質」のことで、環境省により、ノニルフェノール、4-tert-ブチルフェノール、ビスフェノールA及びo,p'-DDTの4物質については、一般環境中の濃度でも魚類への内分泌かく乱作用が強く推察されています。
【環境容量】
一定地域において環境保全上許容できる汚染負荷量の総量を環境容量とといいます。
【規制基準】
工場等から排出又は排水する物質及び発生する騒音等についての限度を定めた基準であり、この数値は、人体に影響を及ぼす限界あるいは農作物などに影響を及ぼす限界などを考慮して定められ、具体的数値は各法令に定められています。
【嗅覚測定法】
悪臭の測定方法の一つで、人の嗅覚を用いて臭いの強さを判定する方法です。
【共生】
本来、生物学用語で共存する生物種間の相互作用に関する概念です。両者ともに、あるいは一方のみが利益をうける関係をさし、アリとアブラムシの関係がよく知られています。こうした関係を人間と環境との関係にあてはめ、人間は生態系の一部であり、人間に多大な恵みを与え、生存基盤でもある環境を保全していく重要な責務があるとの基本的認識に基づき、快適な環境を保全・創造していくために、環境とふれあうことによって環境に対する的確な認識を育み、環境に配慮した行動を行い、環境からの恵みを適切に守り育てていくことが重要である、という考えが「人と環境の共生する社会」づくりの根底となっています。
【協働】
市民、事業者、行政が対等の立場で連携し、お互いの信頼関係のもとに力を合わせ協力して環境にやさしいまちづくりを行うことです。
【近隣騒音】
一般に、騒音のうち工場・事業場、建設作業、自動車・航空機・鉄道等からの騒音以外の飲食店などの深夜営業店のカラオケの音、物売り等の拡声器の音、家庭からの楽器や電化製品の音やペットの鳴き声等が近隣騒音とされています。
【クライテリア】
判定条件のことで、ある汚染物質について、量と人や動植物等に対する影響の関係の情報を集大成したものです。

【グリーン購入ネットワーク】
わが国のグリーン購入の取組を促進するために1996年に設立された企業・行政・消費者の緩やかなネットワークで、啓発や情報収集・提供等の活動を行っています。
【グリーンコンシューマー】
環境に配慮した行動をする消費者をいいます。例えば、エコマークの付いた商品を購入したり、省エネルギー製品などを積極的に導入します。環境に配慮した製品が通常の製品より高価であっても、あえて購入するという環境保護意識の高い消費者です。
【グリーンツーリズム】
大規模開発型のリゾートではなく、農山村の自然と文化をありのままに生かした、農家民宿などによる、家族ぐるみの長期滞在型の旅行形態をいいます。
【グリーンマーク】
古紙の再生利用製品に対し、(公財)古紙再生促進センターがつけているマークのことです。
【下水の高度処理】
下水道の終末処理場等において、有機物を分解する現在の機能を一層高度化していくことのほか、水質汚濁の原因となる窒素やリンを除去する処理をいいます。
【健康項目】
人の健康の保護に関する環境基準項目で、カドミウム、鉛、六価クロムなどの水質汚濁物質の中でも特に有害性が強いものについて、27物質が指定されています。
【原生林】
原始林ともいいます。まったく人手のはいらない天然の林で、林学では、ふつう天然林と呼びます。文字通りの原始林は、この地球上にはないといつてよく、これに近いものはかなり残されています。
【現存植生図】
植生図のうち現存の植生を描いたものをいいます。我が国では、環境庁が5万分の1の現存植生図を整備しています。
【原単位】
一般的には、工場、事業場その他の発生源から排出される単位当たりの汚濁負荷量のこと、単位としては、工場などで製品または中間生産物の出荷額(量)、し尿、家庭排水などでは人口が普通使用されています。
【建築物環境配慮制度】
建築物が環境に与える負荷を低減し建築物のより良い環境品質と性能をより少ない環境負荷で実施することにより環境にやさしい快適で住みやすい都市の形成をめざす制度。福岡市では平成19年10月から「福岡市建築物環境配慮に関する指導要綱」に基づき市内の5,000㎡を超える建築物を増改築する場合、建築主に環境配慮の措置を記載した「建築物環境配慮計画書」を提出していただいています。
【県立自然公園】
すぐれた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図り、国民の保健、休養及び教化に資することを目的として、1957年(昭和32年)に公布された自然公園法の第41条に基づき、すぐれた自然の風景地であって都道府県が条例により区域を定めて指定するものです。
【公害】
「環境基本法」によると、公害とは「事業活動その他の人の活動にともなって生ずる相当範囲にわたる、(1)大気汚染、(2)水質汚濁(水質以外の水の状態又は水底の底質が悪化することを含む)、(3)土壌汚染、(4)騒音、(5)振動、(6)地盤の沈下(鉱物の掘採のための土地の掘さくによるものを除く)および(7)悪臭によって人の健康または生活環境にかかわる被害が生ずることをいう」と定義し、行政的に取り組む公害の対象を限定しています。この7公害を通常「典型7公害」と呼んでいます。
【公害対策基本法】
1967年(昭和42年)に制定され、昭和45年に改正された公害防止についての基本法です。公害の定義を示し、公害防止について事業者、国、地方公共団体及び住民はどのような責務を負うべきかを明らかにしました。しかし、その後わが国では大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済活動が定着することによって都市・生活型公害が深刻化する一方、二酸化炭素等の温室効果ガスによる地球温暖化や、オゾン層の破壊、海洋汚染、野生生物の種の減少など、人類の生存の基盤である地球環境が損なわれる事態となり、この公害対策基本法では対応しきれなくなったことから、1993年(平成5年)11月に「環境基本法」が公布・施行されることとなりました。
【公害病】
「公害病」の法律上の定義はありませんが、大気汚染または水質汚濁の影響による健康被害についての補償制度(公害健康被害の補償等に関する法律)では、一定の要件の下に、補償給付等を行う対象として、大気汚染に係る気管支ぜん息等呼吸器系疾患、水俣病、イタイイタイ病、慢性ヒ素中毒症が定められています。
【公害防止管理者】
「特定工場における公害防止組織の整備に関する法律」(昭和46年公布)に定められた特定工場において、公害の防止に関する業務のうち技術的事項を管理する者をさします。特定事業者はばい煙発生施設、汚水等排出施設、騒音発生施設、粉じん発生施設及び振動発生施設の区分ごとに、それぞれ異なる種類の公害防止管理者を選任しなければなりません。

【公害防止協定】
公害防止協定は、環境に少なからず影響を与えるおそれのある工場・事業所及び特に環境保全に留意する必要が認められる地域に立地する工場・事業所に対して法律の規制基準よりも厳しい基準等を設定し、事業者これらへの遵守を要請するものであり、地域環境を保全していく上で有効な手段です。
【公害防止計画】
公害が現に著しい地域、あるいは人口および産業の急速な集中等により公害が著しくなるおそれがある地域において、公害防止に関する施策を総合的、計画的に講ずることによって公害の防止を図ることを目的として設定されるものであり、「環境基本法」に基づく施策の重要な柱です。この計画の策定は、内閣総理大臣が関係都道府県知事に基本方針を示してその策定を指示し、その指示を受けた知事が計画を作成して内閣総理大臣の承認を受けるという手続によって行われます。
【光化学オキシダント】
窒素酸化物や炭化水素などが太陽光の紫外線の作用により、光化学反応を起こして生成されるオゾン等の酸化性物質の総称です。高濃度では目への刺激や呼吸器官への影響があるほか、植物にも生育阻害などをもたらします。発生には、日射・気温や風速などの気象条件の影響が大きく、影響範囲は市域内に限らず、周辺部にまで広範囲に及びます。
【降下ばいじん】
大気中の粒子状物質のうち、重力や雨によって地上にかなり早く降下するばいじんや粉じんのことをいいます。
【公共下水道】
主として市街地における下水を排除し、又は処理するために地方公共団体が管理する下水道で、終末処理場を有するもの、又は流域下水道に接続するものであり、かつ、汚水を排除すべき排水施設の相当部分が暗渠である構造のものをいいます。
【公共用水域】
水質汚濁防止法では「公共用水域とは、河川、湖沼、港湾、沿岸海域その他公共の用に供される水域及びこれに接続する公共溝渠、かんがい用水路その他公共の用に供される水路をいいます。ただし、下水道法で定めている公共下水道及び流域下水道であって、終末処理場を有しているもの、またこの流域下水道に接続している公共下水道は除く」と定義しています。したがって、一般にいわれる水域のほか、終末処理場を設定している下水道以外のすべての溝渠、水路が公共用水域に包含されます。
【黄砂】
東アジアの砂漠域や黄土地帯から強風により大気中に舞上がった黄砂粒子が浮遊しつつ降下する現象。
【合成洗剤】
洗剤には、やし油等の原料から作られる「石けん」と、鉱油や動植物油から合成して作られる「合成洗剤」の2種類があります。合成洗剤は、界面活性剤と助剤からなり、硬水でも使用できる等利便性があることから、衣料や食器等の洗浄に幅広く利用されています。近年、界面活性剤による皮膚障害等の安全性や、助剤に含まれるりん酸塩による閉鎖性水域での富栄養化が問題とされ、合成洗剤の低りん化、無りん化等の対策が進められています。
【合流式下水道】
雨水と汚水が合流して流れるようになっている下水道のことで、下水道整備の初期の頃に採られた方法です。
【国際協力機構】
JICA：Japan International Cooperation Agencyの略。開発途上国に対して主に政府間ベースの技術協力を行う機関として1974年（昭和49年）に設立されました。事業内容は、技術協力（専門家派遣、研修員受入、機材供与、開発調査等）、青年海外協力隊の派遣、無償資金協力促進事業、投融資などの開発協力事業、日本人の海外移住などです。
【国際自然保護連合】
IUCN：自然保護と天然資源の保全に関心をもつ各国政府機関、NGOなどの関係者の協力を図る目的で1948年に設立された国際団体で、本部はスイスにあります。国連機関やWWF（世界自然保護基金）などの援助、協力の下に、自然保護に関する情報交換、調査研究、啓発活動など幅広く行っています。
【国立公園・国定公園】
自然公園法に基づき、わが国を代表する自然の風景地を環境庁長官が区域を定めて指定するもの（国立公園：全国で28区域）、および国立公園に準ずるすぐれた自然の風景地を環境庁長官が関係都道府県の申出により、区域を定めて指定するもの（国定公園：全国55区域）をいいます。九州では、阿蘇くじゅう国立公園、雲仙天草国立公園、耶馬・日田・英彦山国定公園、九州中央山地国定公園が指定されています。
【国連環境計画】
UNEP：United Nations Environment Programme 1972年6月にストックホルムで開催された国連人間環境会議で採択された「人間環境宣言」および「人間国際行動計画」を実施に移すために、同年の第27回国連総会で設立された機関です。既存の国連諸機関が実施している環境に関する活動を総合的に調整するとともに、国連諸機関が着手していない環境問題に関して触媒的機能を果たして進めていくことを目的としています。
【コージェネレーション・システム】
内燃機関（エンジン、タービン）や燃料電池で発電するとともに、廃熱を給湯や冷暖房にも利用することによって熱効率の向上を図るシステムです。全体の熱効率は通常の発電の熱効率が40%以下なのに対して70~80%にまで高めることができます。

【こどもエコクラブ】
子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、地域の環境保全活動の環を広げることを目的に、幼児（3歳）から高校生までならだれでも参加できる環境活動のクラブです。
【ごみ発電】
可燃ごみは最終処分場での容積を減らすために焼却処分されてから埋め立てられますが、焼却時に発生する熱を利用して発電するシステムをごみ発電といいます。主として工場内の電力、冷暖房、給湯、温水プール等に使用されています。
【ごみ由来燃料】
RDF:Refuse Derived Fuel の訳で、一般にはごみ固形化燃料と呼ばれています。可燃ごみを破碎・乾燥・成形した固形燃料のことです。
【コンポスト化】
下水汚泥、ごみ、家畜ふん尿、木屑などの有機物を、微生物により発酵させ堆肥化し、肥料や土壌改良材として農業用に再生利用することをいいます。
【最終処分場】
一般廃棄物および産業廃棄物を埋立て処分するのに必要な場所及び施設・設備の総体を指します。産業廃棄物最終処分場には、安定型（廃プラスチック等）、管理型（汚でい等）、しゃ断型（有害物質を含む廃棄物）があります。
【再生可能エネルギー】
太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など、資源が枯渇せず繰り返し使え、発電時や熱利用時に地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど排出しないエネルギー。
【再生紙】
製紙原料に古紙を配合した紙のことです。急増する紙ごみの減量化や森林資源の保護のため、近年、企業や官庁におけるコピー紙や出版物への利用が増加しています。
【再生水】
下水処理場に集まった水を、トイレの流し水等の様々な用途で再利用できるようによみがえらせた水を「再生水」といいます。
【サウンドスケープ】
サウンドスケープとは、身の回りの様々な音を、別々の音としてとらえるのではなく、全体を一つの風景としてとらえることです。我々が、たくさんの音に囲まれて生活していることを自覚し、それぞれの音をどのように感じるか、なぜそのように感じるのか考えてみるのが、サウンドスケープの最も重要なポイントです。
【サーマルリサイクル（サーマルリカバリ）】
ごみ発電など熱やエネルギー源としての物質の再生利用。
【産業廃棄物】
事業所から発生する廃棄物のうち、金属くずやプラスチックくず、廃酸や汚泥等、法律・政令で指定されたものをいいます。
【酸性雨】
硫黄酸化物、窒素酸化物等の大気汚染物質が大気中で酸化され硫酸、硝酸等となって雨滴に取り込まれて生じた pH5.6 以下の酸性度の強い雨をいいます。 森林や植物、魚類等に大きな影響を及ぼすことから地球的規模の問題となっています。
【残留塩素】
水中に含まれる遊離塩素（主として次亜塩素酸）と結合残留塩素をいいます。
【市街化区域】
無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、都市計画区域を区分して定める区域で、すでに市街地を形成している区域及びおおむね 10 年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域のことをいいます。
【市街化調整区域】
無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、都市計画区域を区分して定める区域で、市街化を抑制すべき区域をいいます。
【自浄作用】
河川などが汚濁された場合、時間の経過にともなって、もとの清澄な水域にもどる現象をいい、微生物による酸化、還元、物理的な作用として沈澱、希釈拡散、化学的酸化作用が自浄作用の因子と考えられます。
【次世代自動車】
燃料電池自動車、電気自動車、天然ガス自動車、ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、クリーンディーゼル自動車等をはじめとした、大気汚染物質の排出が少ない（または、まったく排出しない）、燃費性能が優れているなどの環境負荷の低い自動車をいいます。
【自然環境保全地域】
高山性植生、亜高山性植生、優れた天然林等のうち、自然的社会的諸条件からみて、その自然環境を保全することが特に必要な地域として、自然環境保全法又は県自然環境保全条例に基づき指定した地域のことです。

【自然観察指導員】
日本自然保護協会が自治体と共催して研修会・講習会を開催し、養成してきたボランティアのことで、各地での自然観察会等の指導、説明にあたっています。
【自然公園】
優れた自然の風景、傑出した自然景観、野生のままの動植物相などを含む広大な自然地域を対象とし、これらの自然を保護し、人々の野外レクリエーション利用や教育の場として、「自然公園法」又は「県立自然公園条例」に基づき指定する地域のことです。自然公園には、国が指定する国立公園、国定公園のほか、県が指定する県立自然公園の3種類があります。
【自然林】
市域の本来の森林である人の手の加わっていないブナ林、アカガシ林、スダジイ林などをいいます。
【シミュレーション】
Simulation 模擬実験のこと。コンピュータを用いて複雑な問題をモデル化して解析する方法です。複雑な自然現象や経済現象などについてのモデルをつくり、種々の係数をあたえてその予測結果などを出します。
【車種規制】
自動車からの窒素酸化物排出量を抑制するため、排出量の多い車種の使用を制限する規制です。1992年（平成4年）6月に公布された「自動車から排出される窒素酸化物の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法」では、特定地域の貨物車・バス等を特定自動車とし、車両総重量に応じた特定自動車排出基準を設定、車検制度でその規制を担保することとしています。
【重金属】
軽金属に対する語で、比重4以上の金属（約60種）の総称です。重金属類は一般に体内に蓄積する傾向があり、程度の差はありますが有害なものが多くなっています。水質汚濁防止法では水銀、カドミウム、鉛、六価クロムなどが、大気汚染防止法では鉛、カドミウムが規制対象となっています。
【種の多様性】
地球上のあらゆる生物種の多様さを意味しており、(1)生物種の数が多いという「種間の多様性」(2)同じ種の中でもそれぞれの個体が有している遺伝形質が異なるという「種内の多様性（遺伝子の多様性）」および(3)これら生物とその生息環境からなる生態系が多様であるという「生態系の多様性」という3つのレベルの多様性を含んでいます。
【浄化槽】
し尿と生活排水を沈でん分解あるいは微生物の作用による腐敗又は酸化分解等の方法によって処理し、それを消毒し、放流する施設をさします。し尿のみを処理する単独処理浄化槽、し尿及び生活雑排水（厨房排水、洗たく排水等）を一緒に処理する合併処理浄化槽があります。
【植生】
ある地表を覆っている植物的共同体の総称です。その場のあらゆる環境圧に耐え、生き残って形成されている植物集団です。
【植生自然度】
自然は人為の影響を受ける度合いによって、自然性の高いものも低いものもあります。高山植物群落や極相林のように人間の手の加わっていないものを10及び9、緑のほとんどない住宅地や造成地を1とし、その中間に二次林、植林地、農耕地等があり、10段階で表示します。
【循環型社会】
大量消費・大量廃棄等と対置して使われ資源循環型社会ともいい、水や鉄、アルミ、プラスチック等の資源が何度も社会の内部を循環する、環境への負荷の少ない社会をいいます。
【自律分散型エネルギー社会】
地域で、再生可能エネルギー等の分散型エネルギーやエネルギー貯蔵システムを複数組み合わせ、ICT(情報通信技術)を用いてエネルギーの需要と供給のバランスを制御するエネルギーマネジメントシステムを有する社会のこと。分散型エネルギーとしては、太陽光や風力などのほか、排熱などの未利用エネルギーも含み、必要なエネルギー需要を「自律的」に満たすことができるシステムを備えている。ここでは、必ずしも外部からの系統電力を排除するものではない。
【白潮】
植物プランクトン的一种である円石藻の異常発生により、海水が白く変色する現象をいいます。直接魚介類を死亡させることはありませんが、底棲の動植物が日照不足により成長を阻害されたり、視界不良により素潜り漁ができなくなることがあります。
【新エネルギー】
「再生可能エネルギー」のうち、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量が少なく、エネルギー源の多様化に貢献するエネルギー。新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法（新エネ法）では、「技術的に実用段階に達しつつあるが、経済性の面での制約から普及が十分でないもので、非化石エネルギーの導入を図るために必要なもの」として、太陽光発電、風力発電、バイオマス発電、中小規模水力発電、地熱発電、太陽熱利用、バイオマス熱利用、雪氷熱利用、温度差熱利用、バイオマス燃料製造の10種類が指定されている。
【振動レベル】
振動の大きさの感じ方は、振幅、周波数などによって異なります。公害振動の大きさは、物理的に測定した加速度の大きさに、周波数による感覚補正を加味して、デシベルで表します。

【森林浴】
森林内の清浄な大気を浴びること。樹木から発散される“フィトンチッド”と呼ばれる芳香性物質の中のヒノキチオールは、抗菌効果があり健康にも良いといわれています。
【水域類型】
水質汚濁に係る環境基準のうち、生活環境の基準については河川、湖沼、海域別に利水目的に応じた水域を区分してA A、A、B、C、D、Eの6つの類型を設けています。pH、BOD等の項目について、それぞれの水域類型ごとに環境基準値を定め、各公共用水域に水域類型のあてはめを行うことにより、当該水域の環境基準値が具体的に示されます。
【水銀に関する水俣条約】
地球規模の水銀および水銀化合物による汚染や、それによって引き起こされる健康、および環境被害を防ぐため、水銀および水銀を使用した製品の製造と輸出入を規制する国際条約。2013年1月にジュネーブで行われた国連環境計画の政府間交渉委員会により、名称が「水銀に関する水俣条約」に決定され、同年10月、熊本市及び水俣市の準備会合を経て92か国（含むEU）が条約への署名を行いました。
【水質汚濁防止法】
1970年（昭和45年）に制定された法律で“工場及び事業場から公共用水域に排出される水の排出を規制すること等によって公共用水域の水質の汚濁の防止を図り、もって国民の健康を保護するとともに、生活環境を保全する”ことを目的としています。
【水生生物保全項目】
生活環境を構成する有用な水生生物及びその餌生物並びにそれらの生息又は生育環境の保全を目的として設定された項目で、2003年11月に「水生生物の保全に係る水質環境基準」が告示され、これまでに全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩の3物質に基準が設定されています。また、クロロホルム、フェノール、ホルムアルデヒド、4-tert-オクチルフェノール、アニリン、2、4-ジクロロフェノールの6物質については要監視項目として指針値が設定されています。
【ストックホルム条約（POPs条約）】
毒性が強く、難分解性、生物蓄積性、長距離移動性、人の健康又は環境への悪影響を有する化学物質（ダイオキシン類、PCB、DDT等10物質）から人の健康と環境を保護することを目的とし、製造・使用、輸出入の禁止や制限等を行う条約で、2001年5月、ストックホルムで採択されました。
【スマートコミュニティ】
一定規模のコミュニティの中で、再生可能エネルギーやコージェネレーション等の分散型エネルギーを用いつつ、ITや蓄電池等の技術を活用したエネルギーマネジメントシステムを通じて、分散型エネルギーシステムにおけるエネルギー需給を総合的に管理し、エネルギーの活用を最適化するとともに、高齢者の見守りなど他の生活支援サービスも取り込んだ新たな社会システムを構築したものの。
【生活環境項目】
環境基本法第16条に基づく水質汚濁に係る環境基準のうち、カドミウム、シアン等人の健康の保護に関する項目以外のもので、生活環境の保全に関する項目として、水素イオン濃度、BOD、COD、浮遊物質、溶存酸素量、大腸菌群数等が定められています。
【生活雑排水】
私たちが、日常の生活で使った水のうち、家庭等の厨房、浴室その他の施設（浄化槽を除く）から排出される汚水をいいます。
【生活騒音】
一般家庭の日常生活から発生する騒音のことであり、近隣騒音ともいいます。近年、都市の過密化やクーラー、ピアノ等の生活関連機器の普及に伴い問題となっています。
【生活排水】
炊事、洗濯、入浴等の人の日常生活に伴い排出される汚水及びし尿のことをいい、生活排水のうち、し尿を除いたものを「生活雑排水」といいます。公共用水域の水質の汚濁の主要な原因の一つとなっています。
【生態系】
ある地域に生息する生物群集と、水や炭素、日光などの無機的な条件の両方と、それらの関係を含むシステムのこと、エコシステムともいわれます。生物や物質の存在だけでなく、食う・食われるの関係や日光をめぐっての競争などの生物どうしの関わりや、生物が気温や降水量に影響を与えるなどの生物と環境の関わりなどをあわせていいます。
【成長の限界】
1972年にローマクラブが発表した報告書の表題で、人口増加や環境悪化などが続けば、100年以内に地球上の成長は限界に達すると警鐘を鳴らしました。また、同報告書は、地球の破局回避のためには成長から世界的な均衡へと移っていくことの必要性を訴えました。
【政府開発援助】
ODA。OECDの開発援助委員会（DAC）が使い始めた言葉で、先進国の政府が、発展途上国に直接か、あるいは発展途上国の開発を支援する国際機関に供与する援助をいいます。援助の条件は、無償あるいは有利な借款条件で行われます。ほとんどの場合、無償援助を主体にしていますが、第三世界の国々の自立をかえって妨げたりするケースもみられ、援助の在り方が問われ始めています。日本はアメリカと並んで世界最大の援助国となっています。

【生物指標】
例えば、水のきれいなところと汚れているところとでは、その程度に応じてそれぞれ異なった生物がすんでいます。このことを利用して、そこにすむ生物の種類から逆に水質を知ろうとするので生物指標といいます。物理化学的手法による水質分析がその水質を一時的に示すことに対して、生物指標は平均的な水質を知ることができ、誰にでもわかりやすくなじみやすいものです。
【生物多様性条約】
地球上の多様な生物をその生息・生育環境とともに保全し、生物資源の持続可能な利用を確保するとともに、遺伝資源の利用から生ずる利益を公平に分配することを目的とする国際的な枠組みを定めた条約です。わが国は1993年5月に批准し18番目の締約国となり、同年12月21日に公布されました。この条約を実現するため「アジェンダ21」という国際合意ができています。
【生物濃縮】
生物が外界から取り込んだ物質を体内に高濃度で蓄積する現象のことです。動物には餌にするものと餌にされるものがあり（食物連鎖）、蓄積性のある物質が食物連鎖によって生物濃縮され、生物はこのような濃縮によって必要なものを得ています。しかし現在は、人間の活動によって生じた有害物質が生物濃縮され、生態系に深刻な問題を引き起こしています。これまで、DDTが母乳や鳥類の脂肪中から高濃度で検出されたり、魚介類から有機水銀が検出されたり、また近年ダイオキシン類が川魚や人体から検出されており、生物濃縮が起こっていることが指摘されています。
【生物の多様性】
生態系の多様性、生物種の多様性、種内の遺伝子の多様性の3つをあわせて生物の多様性といいます。生態系の多様性とは、様々なタイプの生態系が存在するという一方で、他の2つの多様性の基盤として、その重要性が指摘されています。生物種の多様性とは、多くの種が存在するという一方で、環境の変動に対する安定性や、遺伝子資源としてその重要性が指摘されています。遺伝子の多様性とは、同種の生物であっても、遺伝子レベルで様々な変異があることで、環境の変動に対する安定性や、薬品開発や作物の品種改良等に役立つ遺伝子資源としてその重要性が指摘されています。
【世界自然保護基金】
WWF：Worldwide Fund for Natureの略。エジンバラ公フィリップ殿下を総裁としてスイスのグランに本部を置いています。わが国を含む世界26か国に国内委員会が設置されており、約470万人の支持者を持つ自然保護分野では世界最大の援助団体です。現在は森林及び森林地帯の保全、湿地の保全、種の多様性の維持確保の3点を最重点活動目標とし中南米、アフリカ、中国等で活動しています。
【ゼロ・エミッション】
産業活動によって発生する廃棄物などをリサイクルしたり、他の産業の原料として活用することによって、最終的に廃棄物の発生をゼロにすることです。循環型社会を目指す産業を中心とした中小工業団地の建設や建設廃材を対象とした建設リサイクル団地の設置等が検討されています。
【騒音レベル（A特性音圧レベル）】
音の強さのレベルである音圧レベルは、音の物理的な量をデシベル尺度で表したのですが、人の耳が感じる音の大きさは直接に結びつかないため、周波数による人の聞こえ方の違いを考慮して聴感補正した音圧レベルを騒音レベル（A特性音圧レベル）といいます。
【総量規制】
大気汚染、水質汚濁に係る従来の規制方式は工場等の排出ガスや排水に含まれる物質の濃度のみを対象としていましたが、一定の地域内の汚染（濁）物質の排出総量を環境保全上許容できる限度にとどめるため、工場等に対し汚染（濁）物質許容排出量を配分し、この量をもって規制する方法です。
【ダイオキシン類】
ダイオキシン類は、ものを燃やすと発生しやすい有機塩素化合物であり、ポリ塩化ジベンゾフラン、ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン及びコプラナーポリ塩化ビフェニルを総称してダイオキシン類と呼んでいます。動物実験の結果から、ダイオキシン類は発ガン性、生殖毒性、免疫毒性等を有するといわれています。
【大気汚染防止法】
1968年（昭和43年）制定された法律で、大気汚染に関して国民の健康を保護するとともに、生活環境を保全することを目的としています。
【代替フロン】
オゾン層を破壊する特定フロンの代替品のことです。1992年に開催されたモントリオール議定書第4回締約国会合で、先進国では1995年末で特定フロンが全廃され、代替品の開発と分解技術に関する研究が進められています。代替フロンとしてハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボンなどがありますが、これらは温室効果ガスの1つで地球温暖化係数が二酸化炭素の1万倍であることから、2020年には原則全廃が決められています。
【大腸菌群数】
ほとんどの種類の大腸菌は病原性はなく、人の腸内にも多く存在しており、ふんと共に排出されます。これらの検出検査は精度が高いので、赤痢菌等腸管系病原細菌による汚染の有無の間接的指標として利用されています。
【多自然川づくり】
河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うことをいいます。

【炭化水素】
CH。炭素と水素からなる有機化合物の総称です。炭素を骨格とし、酸素や窒素等を含む有機化合物を総称して炭化水素系物質といい、アルコール、エステル、アルデヒド等があります。
【地域冷暖房システム】
一か所または数か所の熱発生施設から一定地域内の建物群に冷温水などを供給してエネルギーを有効利用するシステムをいいます。環境保全に多くのメリットがあります。
【地球温暖化】
大気中に微量に存在する二酸化炭素などの温室効果ガスは、太陽光線は透過するが、地表面から宇宙へ熱として放射する赤外線の一部を吸収し、再び地表面に放射することにより、地球の温度のバランスを保つ働きをしています。しかし、温室効果ガスの濃度が増加すると、大気や地表にとどまる熱が増え、地球が暖まっていきます。
【地球環境問題】
地球環境問題とは、オゾン層の破壊、酸性雨、地球温暖化など、その被害・影響が国境を越えて及び、ひいては地球規模にまで広がっている問題と、開発途上国における熱帯林の減少や野生動物種の減少など、その解決のために先進国等による国際的な取り組みが必要とされる問題のことであり、地球的視野に立って取り組まれるべき環境問題です。
【地球サミット】
1992年（平成4年）6月、ブラジルのリオデジャネイロにおいて、持続可能な開発の実現のために環境と開発を統合することを目的として、「環境と開発に関する国連会議」（UNCED／地球サミット）が開催されました。地球サミットは、また、環境問題を初めて国際的な場で議論した1972年（昭和47年）の「国連人間環境会議」の20周年を記念するという意味もありました。この会議には、「地球サミット」の名のとおり、世界中の殆どの国（約180カ国）が参加し、約100カ国の元首・首脳に加え、約10,000人に及ぶ政府代表団が出席し史上空前の大会議となりました。また、この会議と平行して行われたさまざまなNGO（非政府組織）の会合には、わが国を含め世界中より、約24,000名の代表が参加したといわれています。地球サミットでは、人と国家の行動原則を定めた「環境と開発に関するリオ宣言」、そのための詳細な行動計画である「アジェンダ21」及び「森林に関する原則声明」を採択したほか、別途交渉が行われてきた「気候変動に関する国際連合枠組条約」、「生物の多様性に関する条約」についても、それぞれ150カ国以上が署名しました。
【窒素酸化物（NOx）】
一酸化窒素（NO）と二酸化窒素（NO ₂ ）が主なものです。これらは、石油、石炭の燃焼に伴って発生し、工場、ビル、自動車などから排出されます。窒素酸化物は、高温燃焼の過程でまずNOのかたちで生成され、これが大気中に放出されたあと酸素と結びついてNO ₂ となります。この反応はすぐには起こらないので、大気中にはNOとNO ₂ とが共存しています。
【地盤沈下】
地盤沈下は、いわゆる典型7公害の一つに数えられており、その原因は種々ありますが、鉱物の採掘のための土地の掘削によるものを除き（別途、鉱山保安法等により対処されている。）、地下水の過剰採取によるものです。地盤沈下は沈下現象の把握がしにくく、沈下がはじまると急速に進む可能性が大きく、いったん沈下すればほとんど回復しないとされています。
【鳥獣保護区】
野生鳥獣の保護・増殖を図るために指定される区域であり、この区域では保護施設を設け、特に鳥獣の保護繁殖を図る必要があるところを特別保護地区に指定し、野生鳥獣の生息に影響を及ぼす行為を規制します。鳥獣保護区には、環境大臣の指定する国指定鳥獣保護区と、都道府県知事の指定する県指定鳥獣保護区とがあります。
【底泥からの溶出】
博多湾では、底泥から溶け出す窒素やリンなどが水質汚濁の一因となっており、底泥を浚渫により取り除いたり砂で覆うことにより、これらの溶出を防ぐことができます。
【デシベル（dB）】
音響工学、振動規制等で用いられる単位である一定値を基準にしたレベル量です。即ち一定値をA ₀ 、測定値をAとしたとき次の式で表されます。 dB=10 log（A/A ₀ ）
【デポジット制度】
缶飲料等を販売するに当たって、現在わが国のビールビン等で行われているように、一定金額を預り金として上乗せして販売し、消費者が空き缶等を返却すると預り金が払い戻される方式です。
【電気自動車】
バッテリーに蓄えた電気でモーターを回転させて走る自動車のことです。排気ガスを出さず、騒音も少ないことから、地球に優しい自動車として普及が求められています。
【典型7公害】
1967年（昭和42年）制定された公害対策基本法では、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭を公害としており、これらを総称して典型7公害といいます。
【天然ガス自動車】
天然ガスを圧縮して積み込み、エンジンに吹き込んで燃やす自動車のことです。ガソリン車のエンジンがほぼそのまま使え、走行性能はガソリン車並みで黒煙を全く出さず、窒素酸化物や二酸化炭素の排出量も今までの車より少ない低公害車です。

【等価騒音レベル LAeq、T】
ある時間範囲Tについて、変動する騒音の騒音レベルをエネルギー的な平均値として表した値。単位はデシベル（dB）
【特定建設作業】
建設作業のうちでも、特に騒音・振動による生活環境の悪化をもたらすものとして法律で定められた作業の総称をいいます。
【特定工場】
「特定工場における公害防止組織の整備に関する法律」の適用を受ける特定工場は、(1)製造業、(物品の加工業を含む。)、(2)電気供給業、(3)ガス供給業、(4)熱供給業に属するもので、それぞれの関係法で規定される、ばい煙発生施設、汚水等排出施設、騒音発生施設、粉じん発生施設、又は振動発生施設を設置している工場を指します。
【特定施設】
工場や事業場に設置されている各種の施設のうち、生活環境の悪化をもたらすものとして法律や条例で届出が義務づけられている施設の総称をいいます。
【特定フロン】
1985年（昭和60年）3月、オゾン層の保護に関するウィーン条約が採択され、同条に対する「モントリオール議定書」が1987年9月に採択され、1989年1月に発効しました。この議定書ではフロン11、フロン12、フロン113、フロン114、フロン115の5種類が規制の対象となり、1998年までに1986年の消費量の50%に削減することが決まり、後に1989年5月に「ヘルシンキ宣言」で2000年までに全廃することが採択されました。この5種類のフロンを特定フロンと呼んでいます。
【特別緑地保全地区】
特別緑地保全地区は、都市の無秩序な拡大の防止に資する緑地、都市の歴史的・文化的価値を有する緑地、生物多様性の確保に配慮したまちづくりのための動植物の生息地又は生育地となる緑地等の保全を図ることを目的とする都市計画法第8条に規定される地域地区です。
【都市景観形成地区】
建築物の配置やデザイン、屋外空間の緑化、広告物の規格などについて、一定の基準を設け、それぞれの地区にふさわしい魅力ある都市景観をつくり育てていくため、都市景観条例に基づき指定された地域をいいます。
【都市生活型公害】
自動車の排ガスによる大気汚染、自動車等の騒音、生活雑排水等による中小河川の汚濁、地下水の過剰汲み上げ等による地盤沈下など都市の生活行動や産業活動が環境に過度の負荷をかけることによって発生する公害です。
【都市排熱】
都市活動に伴う発電、焼却、空調等から発生する熱のことです。こうした熱をヒートポンプ等で再利用することは、化石燃料の消費を抑え省エネに貢献するとともに都市のヒートアイランド化の防止や地球温暖化の原因となる二酸化炭素の発生削減にもつながるものです。
【土壌汚染】
土壌が有害物質により汚染され、その汚染された土壌を直接摂取したり、汚染された土壌から有害物質が溶け出した地下水を飲むこと等により人の健康に影響を及ぼすおそれがある状態。
【土壌汚染対策法】
平成14年法律第53号。土壌汚染対策の実施を図り、国民の健康を保護することを目的として、土壌の特定有害物質による汚染の状況の把握に関する措置及びその汚染による人の健康被害の防止に関する措置を定めています。
【ナショナルトラスト】
地域住民や国民が寄金を出し合い、すぐれた自然、身近な自然、さらには価値ある歴史的環境を保全しようとする活動のことです。1895年にイギリスの3人の市民の手で始められ、会員に基金を募って開発に伴う自然破壊から海岸線、森林、遺跡などを買い取り、国民共有の財産とするのが目的です。日本では北海道の知床100平方メートル運動や和歌山県の天神崎市民地主運動などがあります。
【ナノグラム（ng）】
重さの単位で、十億分の1グラムのことです。
【二氧化硫（SO₂）】
燃料中の硫黄（S）分が酸化燃焼されると発生します。無色刺激臭のある気体で粘膜炎、特に気道に対する刺激作用が重視されています。
【二酸化炭素（CO₂）】
無色、無臭の気体で加圧して固体化したものがドライアイスです。赤外線を吸収する温室効果ガスの一つであり、大気中の濃度の増加が温室効果を促進させる恐れがあるとして、化石燃料等の消費に伴う発生量の抑制、固定化技術の開発等が検討されています。
【二酸化窒素（NO₂）】
高濃度になると呼吸器官に悪影響を及ぼすほか、酸性雨や光化学オキシダントなどの原因物質となります。

【人間環境宣言】
1972年スウェーデンのストックホルムで開催された「人間環境会議」で採択された宣言で、「人間環境の保全と向上に関し、世界の人々を励まし、導くため共通の見解と原則が必要である」として人種差別排除、天然資源の適切な保護等26項目の原則を表明しました。
【熱帯林】
概ね南北回帰線にはさまれた地域に分布する森林で、熱帯多雨林、熱帯季節林、サバナ林に大別されます。地球の肺として酸素供給、二酸化炭素の固定化等地球規模での環境保全・調節機能を有するとともに、極めて多種多様な動植物を育む生態系でもあります。地球上の陸地面積の約6%にすぎませんが、地球上の生物種の少なくとも半分は熱帯林に成育・生息していると言われており、未知の遺伝子資源の宝庫でもあります。
【燃料電池】
水の電気分解と逆の工程で、天然ガス等から取り出した水素と空気中の酸素を電気化学的に反応させて水とともに電気を取り出すシステムです。排出ガスが極めてクリーンで発電効率も高く、発電の際に発生する廃熱が給湯・暖房などに利用できるため、地球温暖化防止や大都市における大気汚染対策として、都市部でのコージェネレーションシステムと組み合わせた利用が期待されています。
【燃料電池自動車】
水素と酸素を化学反応させて電気をつくる「燃料電池」を搭載し、燃料電池で発電した電気でモーターを回転させて走行する自動車です。走行時に排出するのは水蒸気だけで、有害物質を全く排出しません。
【ノーマイカーウィークデー】
普段使っている自動車の使用を見直して、交通量を削減しようとする取り組みで、福岡市では、平日全て（祝・祭日を除く）をノーマイカーウィークデーと定め、市民・事業者のみなさんに不要・不急の自動車の使用自粛等の呼びかけを行っています。
【ばい煙】
燃料その他の物の燃焼に伴い発生する硫酸化物、ばいじん及び有害物質の総称です。
【バイオテクノロジー】
バイオロジー（生物学）とテクノロジー（技術）を組み合わせた造語で生命工学と訳されています。味噌、醤油等の発酵・醸造技術等をオールドバイオテクノロジーと、遺伝子操作、細胞融合等をニューバイオテクノロジーと呼んでいます。
【バイオハザード】
遺伝子組み換えなどでつくり出した、本来、自然生態系に存在しない有害なバクテリア等が実験室から漏れて動植物に被害を及ぼすことです。防疫法が確立されていないことが多いため厳重な管理が必要です。
【バイオマス】
再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの。廃棄物系バイオマスとしては、廃棄される紙、家畜排せつ物、食品廃棄物、建設発生木材、黒液、下水汚泥などがある。主な活用方法としては、農業分野における飼肥料としての利用や汚泥のレンガ原料としての利用があるほか、燃焼して発電を行ったり、アルコール発酵、メタン発酵などによる燃焼化などのエネルギー利用などもある。
【廃棄物】
廃棄物とは、ごみ、粗大ごみ、燃えがら、汚でい、ふん尿、廃油、廃酸、廃アルカリ、動物の死体、その他の汚物、または不要物であって固形状もしくは液状のものをいいます。（ただし放射性物質及びこれによって汚染されたものを除く。）廃棄物は産業廃棄物と一般廃棄物に分かれ、産業廃棄物とは事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、法律・政令で指定されたものをいい、一般廃棄物とは産業廃棄物以外の廃棄物をいいます。
【排出基準】
大気汚染防止法で定められた排出基準は、個々の工場、事業場から排出される汚染物質の許容限度を定めたものですが、同じ趣旨のものを水質汚濁防止法では排出基準、騒音規制法、悪臭防止法では規制基準と表現しています。
【ばいじん】
大気中に浮遊する粒子状の物質のうち、燃焼に伴って発生するススなどのことです。ばいじんによる公害を防止するため、大気汚染防止法に基づいて排出基準が定められています。
【排水基準】
排水基準は、水質汚濁防止法、生活環境の保全等に関する条例及び上乗せ条例に規定されている工場または事業場からの排水の規制を行うための基準であり、カドミウムなどの有害物質やBODなどの生活環境項目ごとに定められています。
【ハイブリッド自動車】
複数の動力源（ガソリンと電気など）を有し、それぞれの動力の長所、短所を補完することにより省エネルギーや排出ガスの低公害化を目指した自動車のことです。
【パークアンドライド】
交通混雑緩和のため自動車を都市郊外の駐車場に駐車し（パーク）、鉄道、バス等の公共交通機関に乗り換え（ライド）、目的地まで移動する方法。

【バーゼル条約】
UNEPが1989年3月に採択した「有害廃棄物の越境移動及びその規制に関するバーゼル条約」のことです。有害廃棄物の越境移動の原則禁止、自国内処分原則、越境移動の際の事前通報義務、違法な越境移動の場合に廃棄物発生国が再輸入の措置をとること、開発途上国への技術協力などのための基金の設立などを主な内容としています。
【ハビタット】
生息場所と訳され、生物の個体あるいは個体群がすんでいる具体的な場所のことです。この生息場所は単に位置的場所としてではなく、対象としている個体あるいは個体群にとっての生活環境のことで、生息場所の構成要素には、物理的・化学的要因などの非生物的諸要因と、生活史・他種との関係などの生物的諸要因を含んでいます。一方、ビオトープは「生物圏あるいは生息場所（ハビタット）の最小の地理的単位—森林・草原・湿地・河川・池など—であり、適宜の境界で区切られ、生物相によって特徴づけられた一様な空間」とされます。ただし、両用語には様々な見解があり、同義として用いられている場合も多いようです。
【バルディーズ原則】
1989年3月にアラスカ沿岸で発生した大型タンカー「エクソン・バルディーズ号」の事故を教訓として、企業は環境保全に責任を負うべきであるとして1989年9月アメリカの環境保護団体CERESが発表しました。環境問題選任の取締役の設置、情報の公開等を10項目を内容としています。
【ビオトープ】
ドイツ語で「ビオ」は生物、「トープ」は場所を指し、ビオトープとは「野生生物の生息空間」を意味します。生態学的には生物の生息に必要な最小単位の空間のこととされています。
【ピコグラム（pg）】
重さの単位で、一兆分の1グラムのことです。
【微小粒子状物質（PM2.5）】
大気中に浮遊する粒子状物質であって、主に粒径が2.5μm（マイクロメートル：1mmの1,000分の1）以下の粒子をいう。PM2.5は非常に小さいため、肺の奥深くまで入りやすく、呼吸器・循環器系への影響が心配されています。
【ヒートアイランド現象】
都市活動におけるエネルギー消費の増大や緑地の減少により都心部の気温が上昇し、郊外に比べて高くなる現象をいいます。等温線を描くと都心部が島のようになることから、ヒートアイランド（熱の島）といわれます。
【風致地区】
都市内にある樹林地などの自然的景観を維持し、人と自然との調和のとれた環境をつくるため、都市計画法に基づき定められた地区をいいます。造成や建築などの制限があります。
【富栄養化】
閉鎖性の水域において、窒素、リン等を含む物質が流入し、藻類その他の水生生物が増殖繁茂することに伴い、その水質が累進的に悪化する現象をいいます。
【複合汚染】
通常各種の汚染物質による汚染が重複して生ずる環境汚染形態を指し、単一汚染という概念に対応するものです。例えば、ばいじんによる大気汚染と硫黄酸化物（SOx）や自動車排ガス（一酸化炭素、鉛等）による汚染とが重なりあっているような場合をいいます。
【ブナクラス】
冷温帯のブナやケヤキなど、冬になると落葉する樹木の大きな分類の単位をいいます。夏緑樹林帯ともいい、本市では脊振山山頂部で見られます。
【浮遊粉じん】
浮遊粉じんは極めて微細な粒子で、都市のそれは主として炭素分とタール分からできています。この粒子は非常に小さく、自分の重さでは落下しないで浮遊するため、風の少ないときは濃度を増し、風が強いと拡散されて濃度が低くなります。
【浮遊粒子状物質（SPM）】
浮遊粒子状物質は、比較的長時間大気中に浮遊している粒径10μm（マイクロメートル：1mmの1,000分の1）以下の粒子状物質のことで、砂ぼこり、自動車の排出ガス、工場からのばい煙等から成ります。人への影響として、気道や肺に沈着して呼吸機能を悪化させるといわれています。
【プランクトン】
水中に浮遊する微小な動植物を指します。プランクトンは魚貝類の餌として重要で、またその量的、質的变化は水質管理の基準として役立ちます。
【フリーマーケット】
公園や駐車場等を会場にして住民が不用な品物を持ち寄って、安い値段で販売することです。リサイクル運動の一つとしてゴミの減量化や資源の有効利用に役立てることを目的としており、近年、全国各地で開催されるようになりました。

【フロン】
炭化水素の水素を、塩素やフッ素で置き換えた多くの化学物質の総称で、正式にはクロロフルオロカーボン類といいますが、安価で安定しており安全な物質であるため、発泡剤、冷媒、洗浄剤等として広く使われていましたが、オゾン層を破壊することが分かり、世界的に製造が規制されることとなりました。
【閉鎖性水域】
博多湾のように、開口部の狭い水域のことで、水の交換が悪いため、有機物等が蓄積しやすく、水質が汚濁しやすくなっています。
【ペグマタイト】
石英、長石などの造岩鉱物の巨晶で構成された花崗岩をいいます。市域では長垂で見られます。
【ヘドロ】
流れの緩やかな河川、運河、港湾等の水底に通常存在する水分を非常に多く含んだ軟らかい泥のことで、パルプ工場廃液によるヘドロの堆積がその例です。
【放射性廃棄物】
原子力発電所や原子力燃料の精製、核燃料再処理工場などから発生する放射能を帯びた廃棄物のことです。
【ポストハーベスト】
収穫後農産物と訳されています。食料等の輸出に際し、輸送中にカビや害虫が発生することを防ぐために使用されるもので、使用される農産物のうちに発ガン性や催奇性のおそれがあるものが含まれていたため問題となっています。
【櫛石（ほばしらいし）】
木質部がけい酸でおきかえられたけい化木で、名島の櫛石は新生代の巨大な柱状の化石です。
【マイクログラム（μg）】
重さの単位で、百万分の1グラムのことです。
【ミティゲーション】
開発による環境への影響を極力減少させるとともに、開発によって損なわれる環境をその場所あるいは他の場所に復元又は創造することによって、環境への影響をできるだけ緩和しようとする考え方のことです。
【メガソーラー】
出力1,000キロワット（1メガワット）以上の大規模太陽光発電所。
【モーダルシフト】
輸送の手段を変えるという意味で、主として幹線貨物輸送をトラックから船舶、鉄道などの大量輸送機関へ転換し、省力・省エネ・低公害の貨物輸送を実現しようというものです。末端の輸送はトラックに依存せざるを得ないこと、シフトされる側の輸送機関の受け入れ能力など課題は多いものの、排出ガスや二酸化炭素の抑制や道路渋滞の解消のため、検討すべき有効な手段といえます。
【モントリオール議定書】
「オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書」の略で、1987年UNEPがモントリオールで会合を開き採択し1989年に発効したものです。規制対象物質の追加、規制スケジュールの前倒しなど、数回にわたって見直され、その結果、特定フロンなどは先進国では1995年末までに全廃されました。
【野生生物種の減少】
地球上には様々な野生生物の種が生息、生育していますが、国際自然保護連合（IUCN）によれば5,000種以上の動物が絶滅の危機にさらされているといわれています。その主な原因は人類の活動です。いったん絶滅した種を再び蘇らせることができない以上野生生物の種の減少を防止することは、将来の地球、人類自身のためにも極めて重要です。
【ヤブツバキクラス】
暖温帯のツバキ、シイ、カシなど常緑の葉を持つ樹木の大きな分類の単位をいいます。越冬のため、厚手の葉の表面はワックスで覆われ、照り映えて見えるので、照葉樹林ともいわれています。
【有害大気汚染物質】
大気中から低濃度ではあるが検出され、長期間に渡ってばく露することにより健康影響が生ずるおそれのある物質のこと。
【有害物質】
大気汚染防止法では、物の燃焼、合成、分解等に伴い発生する物質として、カドミウム及びその化合物、塩素及びその化合物等5項目が定められており、また、水質汚濁防止法では、人の健康に係る被害を生じるおそれがある物質としてカドミウム及びその化合物、シアン化合物等28項目が定められています。

【有機塩素系化合物】
塩素を含む有機化合物の総称ですが、環境面から問題となっているのは、機械の洗浄剤やドライクリーニング溶剤等として広く使われているトリクロロエチレンやテトラクロロエチレン等で、有害物質であり、難分解性であるため環境に蓄積しやすく、地下水の水質汚染物質として問題となっています。
【有機水銀】
メチル、エチルなどのアルキル基と水銀が結合している化合物のことです。かつては殺菌剤や種子消毒剤など農業に使用されていましたが、毒性が強いことから使用禁止されました。熊本県水俣で発生した水俣病は工場から排出されたメチル水銀が魚介類に蓄積され、これを住民が摂取したことが原因でした。アルキル水銀は厳しく規制されており、水質環境基準・排水基準・産業廃棄物の埋立・海洋投入判定基準はいずれも「検出されないこと」となっています。
【溶解性物質】
2mm目のふるいを通過した試料を孔径1μmのろ過材に通し、通過した試料を蒸発乾固したとき残る物質をいいます。
【要監視項目】
人の健康の保護に関連する物質ですが、公共用水域及び地下水における検出状況等からみて、現時点では直ちに環境基準健康項目とせず、引き続き知見の集積に努めるべきと判断される項目をいいます。
【容器包装リサイクル法】
正式には「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」といい、一般廃棄物の半分を占める容器包装ごみの減量化を図ってリサイクルを積極的に進めるため、1995年に制定され、1997年から施行されました。消費者が分別排出、市町村が分別収集、事業者がリサイクルをするというそれぞれの役割分担などが示されました。
【要請限度】
市長は、自動車からの騒音・振動レベルがこの限度を超えていることにより道路周辺の生活環境が著しく損なわれると認めるときは、都道府県公安委員会に対して、道路交通法の規定による措置をとるべきことを要請することとされ、また、必要があると認めるときは、当該道路の部分の構造の改善その他自動車騒音の大きさの減少に資する事項に関し、道路管理者に意見を述べることができるとされています。
【溶存酸素（DO）】
DOとはDissolved Oxygenの略で、水中に溶けている酸素量のことをいいます。
【用途地域】
都市レベルでの土地利用の基本的な枠組みであり、住居、商業、工業などの土地利用の適正な配置・密度構成による良好な市街地環境の形成や機能的な都市活動の確保等を目的として、建物の用途や容積率、建ぺい率、高さなどを規制・誘導するものです。用途地域には、住居系8種類、商業系2種類、工業系3種類の計13種類があります。
【ライフサイクルアセスメント（LCA）】
ある製品に関わる資源の採取から製造・使用・廃棄・輸送・再利用などすべての段階（製品の一生）を通して、投入資源あるいは排出環境負荷及びそれらによる地球や生態系への環境影響を定量的・客観的に評価する手法のことです。共通のLCAを確立するため1998年LCAの原則と枠組みを示すISO14040が発行されました。
【ラムサール条約】
正式には「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、1975年に発効しました。イランのラムサールで採択されたことからこう呼ばれます。特に水鳥に注目し、その生息地として国際的に重要な湿地及びその動植物の保全を進めることと、湿地の適正な利用を進めることを目的としています。日本は1980年に加入し、北海道の釧路湿原、クッチャロ湖、宮城県の伊豆沼・内沼などが登録されています。
【リサイクル】
環境汚染の防止、省資源、省エネルギーの推進、廃棄物（ごみ）の減少を図るために、資源として再利用できる廃棄物を活用することをいいます。
【リスクアセスメント】
ある地域に住む人々がその地域で環境中に放出される様々な化学物質にさらされることによって起こるかもしれない健康影響の種類とその可能性を数量的に予測することです。複数の化学物質による汚染が、人の健康に与える危険性を客観的な数値として算定できるという点で優れていますが、正確な予測を行うためには多数の化学物質すべてについて毒性、環境への放出量、環境中での移動、人への摂取経路が分かっている必要があります。
【リモートセンシング】
人工衛星や航空機から地球表面を調査することをさします。農業、林業、土地利用、地下水源、水質源、防災、水産、環境保全など広範囲な分野にわたって重要な役割を果たしています。リモートセンシングの本来の意味は、直接手をふれないで、離れたところから物体を識別したり、その状態を調べたりすることです。
【流域下水道】
2つ以上の市町村からの下水を受け、処理するための下水道で終末処理場と幹線管渠から成ります。事業主体は原則として都道府県です。

【リユース】
再使用。副産物、廃棄物を原型に保ったままで使用するもの。
【緑地協定区域】
緑ゆたかなまちづくりを行うため、住民相互の合意により、緑の保全や緑化に関する協定を締結した区域です。
【緑地保全林地区】
市街化区域及びその周辺で良好な自然環境を形成している貴重な樹林地を保全することを目的として、福岡市緑地保全と緑化推進に関する条例に基づき、保全が必要な 300㎡以上の樹林地に対して、一定期間指定される地区のことです。
【類型指定】
水質汚濁及び騒音の環境基準については、国において類型別に基準値が示され、これに基づき都道府県が河川等の状況、騒音に係る場所の都市計画地域等を勘案し、具体的に地域にあてはめ、指定していくことをいいます。
【レッド・データ・ブック】
RDB：Red Data Bookの略。絶滅のおそれのある野生動植物の種に関する報告書のことです。名称はIUCN（国際自然保護連合）が初めて発行したものの表紙に赤い紙が使われていたことによります。我が国では、動物について環境庁が平成3年に「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」を発行しています。植物は平成元年に、日本自然保護協会と世界自然保護基金日本委員会から「我が国における保護上重要な植物種の現状」が発行され、また水生生物については水産庁が1994年、1995年に「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（Ⅰ）、（Ⅱ）」としてとりまとめています。チョウ類については鱗翅学会が1993年に「日本産蝶類の衰亡と保護」としてまとめています。
【ローカルアジェンダ 21】
地方公共団体が自らアジェンダ 21を実施するための地域の行動計画で、「持続的開発の実現」「市民等の参加」「具体的行動計画」の3要素が特に重要とされています。
【ローマクラブ】
1970年にローマで結成された民間組織で、科学者、経営学者、教育者、経営者などによって構成されています。主に食料、人口、産業など人類全体に係わる問題について地球の破局回避の道を探ることを目的としています。1972年に「成長の限界」という報告書を発表しました。
【ワークショップ】
行政担当者と専門家だけでなく、住民自身が地域の直面している問題点を診断し、プランの提案を行うような活動の場。シンポジウム・討論会・座談会といった形式で計画づくりの中に取り入れられています。
【ワシントン条約】
正式には「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約」といい、1975年に発効しました。野生動植物の国際取引を輸出国と輸入国が協力して規制することにより、絶滅のおそれのある野生動植物の保護を図ることを目的としています。日本では、1980年に加入し、1987年に「絶滅のおそれのある野生動植物の譲渡の規制に関する法律」を施行しました。

【2%除外値】
二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質について、環境基準値と比較して大気質の程度を判断する場合に用いられる数値で、年間の日平均値の全データを、その値の大きいものから順に並べ、 $0.02 \times n$ （ n は日平均値のデータ数）番目までのデータを除外した後の一番大きい値のことです。
【3R】
Reduce（リデュース＝ごみを出さない）Reuse（リユース＝ごみを再使用する）Recycle（リサイクル＝ごみを再利用する）の略称。廃棄物をできるだけ出さない社会をつくるための基本的な考え方。
【75%値】
BOD及びCODについて、環境基準値と比較して水質の程度を判断する場合に用いられる数値で、年間の日間平均値の全データを、その値の小さいものから順に並べ、 $0.75 \times n$ （ n は日間平均値のデータ数）番目のデータ値のことです。
【98%値】
二酸化窒素について、環境基準値と比較して大気質の程度を判断する場合に用いられる数値で、年間の日平均値の全データを、その値の小さいものから順に並べ、 $0.98 \times n$ （ n は日平均値のデータ数）番目のデータ値のことです。



【BOD(生物化学的酸素要求量)】

バクテリアが一定時間内(通常は、20℃で5日間)に水中の有機物を酸化し、分解して浄化するのに消費される酸素の量をmg/Lで表した量のことです。消費される酸素量が多いということは、水中の有機物量が多いことを意味し、汚濁度が高いといえます。普通、河川に魚がすむことができるのはBOD5mg/L程度以下といわれており、これが10mg/L以上になると河川は悪臭を放つようになります。

【COD(化学的酸素要求量)】

水中に含まれる有機物が酸化剤によって酸化されるとき、消費された酸化剤の量をそれに相当する酸素の量で表現したものです。CODの量は主として水中に含まれる有機物の量を表します。CODは海域・湖沼での汚濁の指標として用いられています。

【EMS(イーエムエス)】

ICT(情報通信技術)を用いてエネルギーの需要と供給のバランスを制御する仕組み。EMSは、エネルギー消費の「見える化」による省エネ行動の推進や、電力需要のピーク時における蓄電池の電力使用によるピークカットなどが可能です。なお、家庭においては、HEMS(Home Energy Management System:ヘムス)、マンションにおいては、MEMS(Mansion Energy Management System:メムス)、ビルにおいては、BEMS(Building Energy Management System:ベムス)と呼ばれています。

【GIS】

Geographic Information Systemの略で地理情報システムと訳され、紙の地図によって管理されていた様々な情報を、コンピュータでデータベース化することにより、検索・表示・解析を簡単に行えるようにしたシステムのことをいいます。

【ISO】

国際標準化機構の略称で、1947年に設立された世界共通の規格、基準などの設定を行う民間組織。ISO14000シリーズはISOが定めた企業等の環境管理システムの規格です。

【L_{den}】

L_{den}とは時間帯補正等価騒音レベルのことで、航空機に伴う飛行騒音や地上騒音を時間帯によって重み付けし、1日の航空機騒音レベルを評価した指標であり、単位はデシベルで表します。平成25年4月よりWECPNL(加重等価平均感覚騒音レベル)に代わって航空機騒音を評価する指標として用いられています。

【NGO】

Non Governmental Organizationの略。政府や国連の機関ではなく、非営利の立場から国際活動を行っている民間団体で、国際的な組織から草の根レベルのものまで様々なものがあります。

【Nm³】

Nはノルマル(ノーマル)と読み、0℃、1気圧の標準状態を表すもので、主として排出ガス量等を表す場合に用いられます。1Nm³とは、標準状態(0℃、1気圧)に換算した1m³のガス量を表します。

【NPO】

Non Profit Organizationの略。環境、保健・医療、福祉、まちづくり、災害援助、国際協力などの幅広い分野で活動する、ボランティア団体をはじめとする民間の非営利組織のことです。これら団体の多くは法人格をもたない任意団体として活動していたため、銀行口座の開設や事務所の使用、不動産の登記などの法律行為を団体名で行うことができないなど、様々な不都合が生じていました。そこで、これら団体が法人格を取得する道を開き、その活動の健全な発達を促進し、公益の増進に寄与することを目的として、1998年(平成10年)に特定非営利活動促進法(NPO法)が制定されました。

【pH】

Potential Hydrogenの略。溶液中の水素イオンの濃度をいいます。溶液1L中の水素イオンのグラム当量数で表し、一般には $pH = -\log[H^+]$ として定義されます。pH=7で中性、pH<7で酸性、pH>7でアルカリ性であり、特殊な例(温泉など)を除いて河川水等の表流水は中性付近、海水は弱アルカリ性のpH値を示します。

【PM2.5】

微小粒子状物質を参照

【ppm】

parts per millionの略で、100万分の1を1ppmといい、濃度を表す単位として使用されます。水の場合は、1kg(約1L)中のミリグラム数、1ton(約1m³となる)中のグラム数を表わし、大気の場合は1m³中1cm³のガス容量を表わします。

【SS】

SSとはSuspended Solid(懸濁物質)の略称で、水中に浮遊している物質の量のことをいい、一定量の水をろ紙でこし、乾燥してその重量を測ります。数値(mg/L)が大きい程、その水の濁りが多いことを示します。